

公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第237集

高槻市

# 萩之庄南遺跡

主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事用進入路工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013年3月

公益財団法人 大阪府文化財センター





1. 11-1-2-1区 第2遺構面全景 (北から)



公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 第237集

高槻市

# 萩之庄南遺跡

主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事用進入路工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

公益財団法人 大阪府文化財センター



# 序 文

萩之庄南遺跡は、大阪府高槻市に位置する遺跡です。平成 22 年度に行われた試掘調査で、弥生時代から古墳時代の大溝や土坑が発見されたことから、新たに周知されました。周辺ではまだこの頃の遺跡が発見されていないことから、注目を集めています。

萩之庄南遺跡を含む高槻市の南東部は、北摂山地から淀川、河内平野を一望する地であること、また京都と大阪を結ぶ交通の要所として、早くから栄えてきました。萩之庄南遺跡の西を流れる一級河川檜尾川の対岸には、弥生時代の環濠集落として名高い安満遺跡が存在します。多量の弥生土器や木製品の出土は、安満遺跡が西から伝わった弥生文化をいち早く取り入れ、大きく発展した先駆的な集落であったことを示しています。

また古墳時代から古代には、高槻丘陵の斜面地において、古墳群や窯跡が数多く築かれました。特に、萩之庄南遺跡の北にある萩之庄瓦窯跡、北東に隣接する梶原瓦窯跡では、当時の最先端建築である寺院の屋根を飾るための瓦が、数多く焼かれました。そしてその瓦は、幹線道路である西国街道や淀川水系を利用して、奈良の都へ運ばれました。西国街道や淀川を通じた水上交通は、都と西国を結ぶ幹線として古代より人々の往来を支えてきましたが、この地域の繁栄と流通を促す手段としても、大いに活用されています。

現在、この地域には名神高速道路、J R 東海道本線、阪急電鉄京都線、国道 171 号等の主要幹線が近接して併走し、交通の要所としてその重要性を増しています。さらに、現在進められている新名神高速道路（愛称：畿央まほろばハイウェイ）が加わることにより、その流れがますます加速しようとしています。今回の調査原因である高槻東道路建設に関わる一連の事業も、この地域に新たなアクセスと情報発信を生み出す一助となることが期待されるところです。遺跡の発掘調査によって得られた新たな知見が、地域のさらなる発展に寄与することを願ってやみません。

最後に、調査にあたってご助力、ご協力をいただきました関係諸機関・地元関係者各位、また埋蔵文化財の調査に対してご理解とご教示をいただきました地域のみなさまに、深く謝意を表します。

これからも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月

公益財団法人 大阪府文化財センター  
理 事 長 田 邊 征 夫

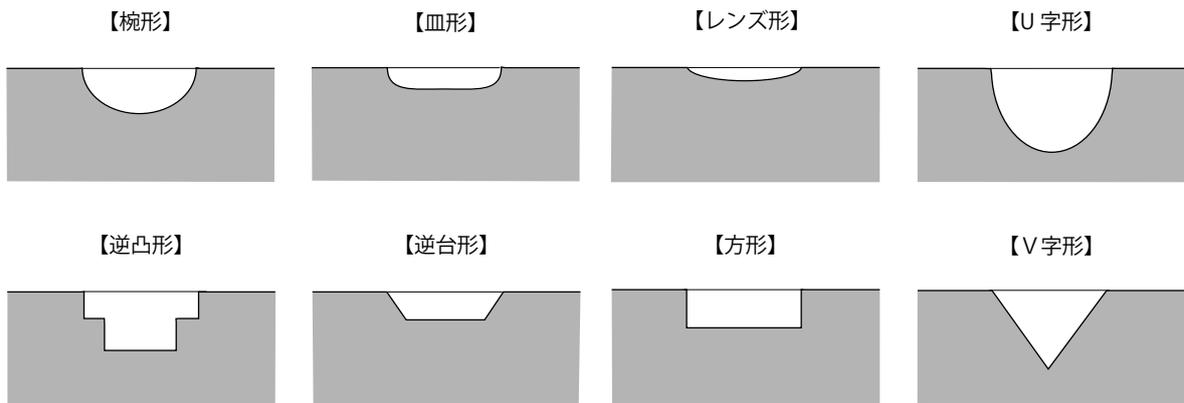


# 例 言

1. 本書は、萩之庄南遺跡（調査名：萩之庄南遺跡 11－1）の発掘調査報告書である。調査地は、大阪府高槻市萩之庄2丁目地内に所在する。
2. この調査は、大阪府土地整備部が計画実施する「主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事用進入路工事」に先立つものである。公益財団法人 大阪府文化財センターは、平成23年12月1日に大阪府との委託契約を締結し、平成24年1月5日から同年6月29日まで現地調査を行った。その後、整理作業を平成24年7月1日から同年12月31日まで行い、平成25年3月の本書刊行を以って完了した。
3. 調査および整理作業は以下の体制で実施した。
  - 〔平成23年度〕 調査課長 江浦 洋、調整グループ長 岡本茂史、調査グループ長 岡戸哲紀、主幹（兼新名神総括） 金光正裕、副主査 黒須亜希子、専門調査員 松本吉弘
  - 〔平成24年度〕 調査部長 江浦 洋、調整課長 岡本茂史、調査課長 岡戸哲紀、主幹（兼新名神第一総括） 金光正裕、副主査 廣瀬時習、黒須亜希子、専門調査員 松本吉弘、片山彰一〔写真〕
4. 木製品樹種同定作業、同保存処理作業、金属器保存処理作業については、調査課主査 山口誠治、同専門調査員 倉賀野健が行った。
5. 調査の実施にあたっては、大阪府茨木土木事務所新名神関連事業建設事業所、大阪府教育委員会、高槻市教育委員会、高槻市萩之庄自治会、のご指導、ご協力を賜った。
6. 本書の執筆および編集は、黒須亜希子が行った。
8. 本調査に関わる遺物、写真、図面、データ等は、すべて「萩之庄南遺跡 11－1」の調査名称を冠し、当センターにおいて保管している。広く利用されることを希望する。

# 凡 例

1. 挿図の縮尺は、各図内にスケールバーを掲げ、縮尺率を明示した。  
遺構図および断面図の使用単位尺は、mを基準とした。基準高は、東京湾平均海水面（T.P.）を使用した。また、遺物図の使用単位縮尺は、cmを基準とした。記述もこれに倣った。
2. 遺構平面図の使用測地系は、「世界測地系（測地成果 2000）」であり、これに準拠した平面直角座標系第VI系を使用した。単位はすべてmで表記した。
3. 遺構平面図に付した方位針は座標北を基準とし、磁北は西に $6^{\circ} 18'$ 、真北は東に $0^{\circ} 12'$  振る。
4. 土層や土器胎土の色調については、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』33版（2010.10）農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用して識別した。本書図中での記載順序は、記号・土色名・土質名の順である。
5. 本書で用いた調査区名は、『遺跡調査基本マニュアル』財団法人大阪府文化財センター 2010.12に準拠し、調査番号「11 - 1」の後に調査区名を続けた形（11 - 1 - 1区、11 - 1 - 2区…）である。ただし、調査時はさらに調査区を細分して作業を行った。
6. 遺構番号は基本的に現地調査において付番したものを踏襲した。現地調査では、遺構の種類に関係なく調査区ごとに1から通し番号を配し、遺構の種類の前にアラビア数字の番号を付けて「1溝」のように表記した。本書ではこの番号に、1桁の調査区名を冠して標記した。  
例) 11 - 1 - 1区検出の1溝 ……………101溝  
11 - 1 - 3区検出の10井戸 ……………310井戸
7. 遺構平面図における「⊥」マークは、断面観察を行った地点を指す。観察方向は、断面図に記載された方位（N = 北・S = 南・E = 東・W = 西）によって判断されたい。
8. 遺構の断面形状については、「椀形」「皿形」など、任意の呼称で記述している。凡例は下図に示すとおりである。



9. 遺物番号は挿図及び図版ごとに付番した。このため本文中で挿図を指す場合は、「第 50 図 15」、写真図版を指す場合は「図版 38-1」等と表記した。
10. 遺物実測図における黒塗りやアミカケ範囲は、陶磁器になされた絵付けや文字の書き込み、漆皮膜、炭化物の付着、木製品の炭化部位などを示す。その詳細は、解説文中において記述した。
12. 本書文中において引用した文献は、【引用・参考文献】として、文末に列挙した。

# 目 次

卷頭図版	
序 文	
例 言	
凡 例	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第2章 調査の方法	3
第1節 調査区の設定	3
第2節 調査の方法	5
第3章 調査地周辺の環境	8
第1節 調査地周辺の地理と地形	8
第2節 調査地周辺の遺跡と調査成果	9
第4章 調査成果	12
第1節 基本層序	12
第2節 11-1-1区の遺構と遺物	29
第3節 11-1-2区の遺構と遺物	48
第4節 11-1-3区・11-1-4区の遺構と遺物	74
第5章 総括	89
引用文献・URL	
参考文献	
遺物観察表	
写真図版	
抄 録	
奥 付	

# 挿 図 目 次

第 1 図	調査地位置図	1
第 2 図	調査区配置図	3
第 3 図	地区割模式図	4
第 4 図	調査区地区割図	5
第 5 図	調査地周辺の旧地形	8
第 6 図	周辺の遺跡分布図	11
第 7 図	基本層序模式図	13
第 8 図	調査区壁断面図 (1)	15・16
第 9 図	調査区壁断面図 (2)	17・18
第 10 図	調査区壁断面図 (3)	19・20
第 11 図	調査区壁断面図 (4)	21・22
第 12 図	調査区壁断面図 (5)	23・24
第 13 図	調査区壁断面図 (6)	25・26
第 14 図	調査区壁断面図 (7)	27・28
第 15 図	11-1-1 区 第 1 遺構面 全体図	29
第 16 図	11-1-1 区 第 1 遺構面 遺構平面断面図	30
第 17 図	11-1-1 区 第 1 層・第 2 層・103 井戸 出土遺物実測図	30
第 18 図	11-1-1 区 第 2 遺構面 全体図	31
第 19 図	11-1-1 区 第 2 遺構面 遺構平面断面図	32
第 20 図	11-1-1 区 第 3 遺構面 全体図	33
第 21 図	11-1-1 区 第 3 遺構面 遺構平面断面図	34
第 22 図	11-1-1 区 第 3-1 層・第 3-2 層 出土遺物実測図	35
第 23 図	11-1-1 区 第 4 遺構面 全体図	36
第 24 図	11-1-1 区 第 4 遺構面 遺構平面断面図	37
第 25 図	11-1-1 区 第 4 遺構面 104 土坑 出土遺物実測図	38
第 26 図	11-1-1 区 第 5 遺構面 全体図	39
第 27 図	11-1-1 区 第 4-1 層・第 4-2 層 出土遺物実測図 (1)	40
第 28 図	11-1-1 区 第 4-1 層・第 4-2 層 出土遺物実測図 (2)	41
第 29 図	11-1-1 区 第 6 遺構面 全体図	42
第 30 図	11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (1)	43
第 31 図	11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (2)	45
第 32 図	11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (3)	46
第 33 図	11-1-1 区 第 6 遺構面遺構内 出土遺物実測図	47
第 34 図	11-1-2 区 第 1 遺構面 全体図	48
第 35 図	11-1-2 区 第 1 層～第 3 層 出土遺物実測図	49

第 36 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 全体図	50
第 37 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物 1 遺構平面図	52
第 38 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物 1 遺構断面図	53
第 39 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 掘立柱建物 1 遺構平面断面図	54
第 40 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 周溝 1 遺構平面断面図	55
第 41 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 周溝 2 遺構平面断面図	56
第 42 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物 1・周溝 1 出土遺物実測図	57
第 43 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 遺構平面図	58
第 44 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 202 溝・203 溝 遺構断面図	59
第 45 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 204 溝～206 溝・212～214 溝 遺構断面図	60
第 46 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 206 溝 遺構平面断面図	61
第 47 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 202 溝・203 溝 出土遺物実測図	63
第 48 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 203 溝 (下層) 出土遺物実測図	63
第 49 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 204 溝 出土遺物実測図	64
第 50 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 206 溝 出土遺物実測図	65
第 51 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 遺構平面断面図 (1)	67
第 52 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物下層遺構平面図	68
第 53 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物下層遺構断面図	69
第 54 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 竪穴建物下層遺構平面断面図	71
第 55 図	11-1-2 区	第 2 遺構面 遺構平面断面図 (2)	73
第 56 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 1 遺構面 全体図	74
第 57 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 1 遺構面 遺構平面断面図 (1)	75
第 58 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 1 遺構面 遺構平面断面図 (2)	76
第 59 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 1 遺構面 遺構平面断面図 (3)	77
第 60 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 2 遺構面 全体図	78
第 61 図	11-1-3 区	第 1 遺構面 302 井戸・303 井戸・第 2 層 出土遺物実測図	79
第 62 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 3 遺構面 全体図	80
第 63 図	11-1-3 区	第 3 遺構面 遺構平面断面図	81
第 64 図	11-1-3 区・11-1-4 区	第 4 遺構面 全体図	82
第 65 図	11-1-3 区	第 4 遺構面 遺構平面断面図 (1)	83
第 66 図	11-1-3 区	第 4 遺構面 遺構平面断面図 (2)	84
第 67 図	11-1-3 区	第 2 層・第 1～4 遺構面遺構内 出土遺物実測図	85
第 68 図	11-1-3 区	第 6 遺構面 遺構平面断面図	86
第 69 図	11-1-3 区	第 6 遺構面 遺構平面断面図	87
第 70 図	弥生時代後期～古墳時代初頭 遺構面合成図		90
第 71 図	古墳時代初頭～前期 遺構面合成図		91

# 表 目 次

表 1	遺物観察表（土器）	95
表 2	遺物観察表（金属製品・銭貨）	98
表 3	遺物観察表（木製品）	99
表 4	遺物観察表（石器・石製品）	100

## 挿入写真目次

写真 1	現地公開開催状況	2
写真 2	人力掘削作業状況	6
写真 3	遺構掘削作業状況	6
写真 4	現地測量作業状況	6
写真 5	遺構断面実測状況	6
写真 6	壁断面実測状況	7
写真 7	遺構写真撮影状況	7
写真 8	遺物注記作業状況	7
写真 9	遺物実測作業状況	7
写真 10	デジタルトレース作業状況	7
写真 11	挿図トレース作業状況	7

## 写真図版目次

巻頭図版	1. 11-1-2-1区	第2遺構面全景（北から）
図版 1	遺構 1. 11-1-1-1区	第1遺構面全景（東から）
	2. 11-1-1-1区	第4遺構面全景（西から）
図版 2	遺構 1. 11-1-1-1区	第6遺構面全景（東から）
	2. 11-1-1-1区	第4遺構面 104 土坑（西から）
	3. 11-1-1-1区	第6遺構面 115 溝（西から）
	4. 11-1-1-1区	第6遺構面 113 土坑（北から）
	5. 11-1-1-1区	第6遺構面 110 土坑（西から）
図版 3	遺構 1. 11-1-1-2区	第2遺構面全景（西から）
	2. 11-1-1-2区	第4遺構面全景（西から）

- 図版4 遺構 1. 11-1-1-2区 第3遺構面鋤溝(東から)  
 2. 11-1-1-2区 第5遺構面水田(南西から)  
 3. 11-1-1-2区 第5遺構面水田(南東から)  
 4. 11-1-1-2区 下層確認トレンチ①179畦(南西から)  
 5. 11-1-1-2区 第5遺構面全景(南西から)
- 図版5 遺構 1. 11-1-1-3区 第1遺構面全景(南から)  
 2. 11-1-1-3区 第3遺構面全景(北から)
- 図版6 遺構 1. 11-1-1-3区 第3-2遺構面全景(南から)  
 2. 11-1-1-3区 第4遺構面全景(南から)  
 3. 11-1-1-3区 第6遺構面全景(北から)  
 4. 11-1-1-3区 第6遺構面124溝(北東から)
- 図版7 遺構 1. 11-1-2-1区 第2遺構面全景(北から)  
 2. 11-1-2-1区 第2遺構面周溝1(南東から)  
 3. 11-1-2-1区 第2遺構面周溝2(北東から)  
 4. 11-1-2-1区 第2遺構面207溝(北西から)  
 5. 11-1-2-1区 第2遺構面204溝(北西から)  
 6. 11-1-2-1区 第2遺構面203溝 木器出土状況  
 7. 11-1-2-1区 第2遺構面204溝 鉄鏃出土状況
- 図版8 遺構 1. 11-1-2-1区 第2遺構面206溝(北東から)  
 2. 11-1-2-1区 第2-2遺構面全景(北から)
- 図版9 遺構 1. 11-1-2-2区北半部 第1遺構面全景(南から)  
 2. 11-1-2-2区北半部 第2遺構面全景(南から)
- 図版10 遺構 1. 11-1-2-2区北半部 第2遺構面下層遺構全景(南から)  
 2. 11-1-2-2区南半部 第1遺構面全景(南東から)
- 図版11 遺構 1. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面竪穴建物1(北から)  
 2. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面竪穴建物1(南東から)  
 3. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面222土坑(北西から)  
 4. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面下層遺構(北から)  
 5. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面222土坑 砥石出土状況
- 図版12 遺構 1. 11-1-3区 第1遺構面全景(北から)  
 2. 11-1-3区 第2遺構面全景(北から)
- 図版13 遺構 1. 11-1-3区 第3遺構面全景(北から)  
 2. 11-1-3区南端部 第3遺構面全景(南西から)
- 図版14 遺構 1. 11-1-3区南端部 第4遺構面全景(南西から)  
 2. 11-1-3区南端部 第6遺構面全景(南西から)
- 図版15 遺構 1. 11-1-4区 第1遺構面全景(東から)  
 2. 11-1-4区 第2遺構面全景(東から)  
 3. 11-1-4区 第2遺構面足跡検出状況(西から)

4. 11-1-4区 第3遺構面全景（北西から）  
 5. 11-1-4区 第4遺構面全景（北東から）
- 図版 16 遺物 1. 11-1-1区 第1層・第2層出土  
 2. 11-1-1区 第3層出土
- 図版 17 遺物 1. 11-1-1区 第3層出土  
 2. 11-1-1区 第4-1層・第4-2層出土
- 図版 18 遺物 1. 11-1-1区 第6遺構面遺構内出土  
 2. 11-1-2区 第1層～第4層出土
- 図版 19 遺物 1. 11-1-2-2区 第2遺構面 222 土坑出土  
 2. 11-1-2-1区 第2遺構面 202 溝・203 溝出土  
 3. 11-1-2-1区 第2遺構面 204 溝出土
- 図版 20 遺物 1. 11-1-2-1区 第2遺構面 206 溝出土  
 2. 11-1-2-1区 第2遺構面 206 溝出土  
 3. 11-1-1-1区 第4層出土
- 図版 21 遺物 1. 11-1-2-1区 第2遺構面遺構内出土  
 2. 11-1-3区 第1層・第2層出土
- 図版 22 遺物 1. 11-1-1-2区 第4-1層出土  
 2. 11-1-1区 第4-1層・11-1-3区 第2層・  
 11-1-3区 第1遺構面～第4遺構面遺構内出土  
 3. 11-1-1-2区 第4-2層出土
- 図版 23 遺物 1. 11-1-1-2区 第4-2層出土  
 2. 11-1-1-1区 第4遺構面 104 土坑出土  
 3. 11-1-2-1区 第2遺構面 203 溝出土
- 図版 24 遺物 1. 11-1-2-1区 第2遺構面 203 溝出土

# 第1章 調査に至る経緯と経過

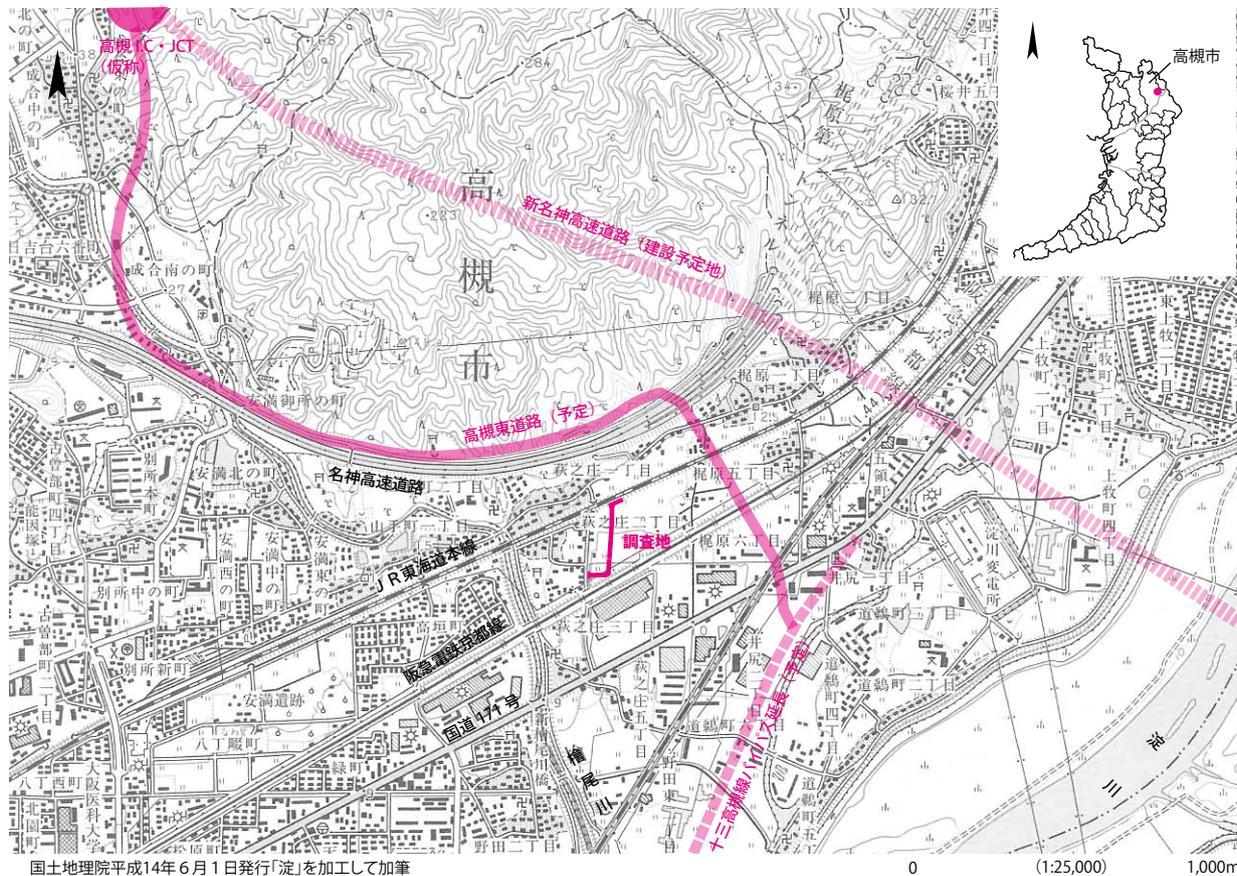
## 第1節 調査に至る経緯

萩之庄南遺跡は、高槻市萩之庄2丁目を中心として広がる遺跡である。平成22年11月～23年1月に実施された確認調査において大溝や土坑等の遺構と須恵器、土師器、瓦器など、古代から中世までの遺物がまとまって出土したことから、同年3月に新規発見の遺跡として周知された。

萩之庄南遺跡は、一級河川檜尾川の東岸に位置するが、その対岸には弥生時代の環濠集落として著名な安満遺跡が立地する。安満遺跡は、既往の調査において二～三重の環濠や水田区画が検出されたこと、また多量の土器や木製品が出土したことから、拠点的な大規模集落と考えられており、平成5年には国史跡に指定された遺跡である。また北側には、北摂山地の末端にあたる高槻丘陵の斜面地上において、古墳群や窯跡が数多く発見されている。

さらに、京都と下関を結ぶ幹線道路であった西国街道がその裾野を通っており、古来より宿場町として栄えてきた。現在も、遺跡の南北には名神高速道路、JR東海道本線、阪急電鉄京都線、国道171号等の主要幹線が近接して併走しており、この地域が交通の要所であった名残をとどめている。

これらの歴史的経緯から、今回の発掘調査では試掘調査時に検出された古代遺構面のほか、弥生時代にさかのぼる遺構面の発見が期待された。調査の結果、弥生時代後期の集落跡が新たに発見され、耳目を集めることとなった。



第1図 調査地位位置図

## 第2節 調査の経過

**調査の原因** 今回の発掘調査は、主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事中の進入路工事に伴うものである。高槻東道路は、新名神高速道路（高槻以西区間）の開通にあわせ、高槻ジャンクション・インターチェンジ（仮称）へのアクセス機能向上と、幹線道路の渋滞緩和、地域の活性化を目指す路線として、現在、大阪府及び高槻市による計画・整備が進められている。計画路線長は約3.3km、新たな淀川右岸の幹線道路として期待される都市計画道路十三高槻線と国道171号の合流地付近を起点として北上し、高槻市梶原地区を通過、阪急電鉄京都線、JR東海道本線、名神高速道路を越えて新名神高速道路入口へ連絡する。

この大規模工事に先駆けて、梶原地区とその西に位置する萩之庄地区では、道路建設のための工事中の進入路を建設することとなった。これは後に市道として恒久的に供用することを想定したもので、道路幅8.0m、両側面にコンクリート擁壁と排水溝を備え、路面にはアスファルト舗装を施す構造をとる。しかし当該地域は、弥生時代の遺跡として著名な安満遺跡や、古代からの幹線道路である西国街道に近接することから、埋蔵文化財の有無を見極める試掘調査を実施することとなった。

**試掘調査結果** 平成22年11月、大阪府教育委員会及び当センターは、大阪府茨木土木事務所より委嘱を受け、当該地域における試掘調査を実施した。調査対象地は、高槻市萩之庄1丁目・2丁目を含む阪急電鉄京都線の北側から高槻市道67号（西国街道）に接する地点まで、南北約300m、東西約250mに及ぶ。この間に、一辺4.0～4.5mの規模を測るトレンチを計14箇所設定し、土層の状況にあわせて地表面以下0.5～1.2mの深度まで掘削を行った。

その結果、対象地の南半部（萩之庄地区を横断するJR東海道本線より南の範囲）において、溝、土坑、杭跡等を伴う遺構面を検出した。一方、北半部（JR東海道本線より北の範囲）では、弥生時代から平安時代までの包含層を確認したが、湿地状の粘土堆積が多く、明確な遺構の発見には及ばなかった。このため大阪府教育委員会は、本調査が必要な範囲をJR東海道本線より以南の区域と判断し、その面積を確定した。また高槻市により、当該地域は「萩之庄南遺跡」として新規登録され、周知されることとなった（平成23年3月）。

**本調査の開始と経過** 現地調査は平成24年1月5日から着手し、同年6月29日に完了した。当初計画では、調査地を4分割し、南から順次掘削を進め、さらに追って道路工事に着手する予定であったが、調査時期が周辺水田の取水時期と重なること、その取水に先駆けて水路の改修工事を行う必要性があったことなどから、工程は前後した（次章詳述）。

なお今回の調査に関しては、成果を公開するよう、地元自治会より要請を受けていた。このため、平成24年5月12日に現地公開を開催し、来場者に調査成果を解説した。当日は、地域住民をはじめとする計173名の参加者があった（写真1）。



写真1 現地公開開催状況

## 第2章 調査の方法

### 第1節 調査区の設定

**調査区の設定** 今回の調査範囲は道路用地であるため、幅8m、長さ300m程度を測る細長い形状を呈する(第2図)。調査区は、市道及び工程上の都合から、大きく4つに分割した。

萩之庄地区を南北に通る高槻市道萩之庄中央線より東へ入り、鍵形に北上して市道萩之庄202号線までの範囲を11-1-1区、さらに北上して市道201号線までの範囲を11-1-2区、さらに北上し、JR東海道本線にぶつかる手前までの範囲を11-1-3区、JR線に沿って北東方向に曲がる残りの範囲を11-1-4区とした。

当初、調査は11-1-1区から、11-1-2区、11-1-3区、11-1-4区の順に進める工程を計画した。しかし、農繁期を控えることから、水田に隣接する11-1-2区、11-1-3区の調査を早々に進めるため、調査区を分割して開口し、複数の調査区の作業を平行して進めることとした。

なお、農繁期に先駆けて、市道に沿って流れる農業用基幹水路を改修する必要が生じたため、その影響を受ける範囲をさらに細分し、先行して調査を行った箇所がある。

このため最終的には、11-1-1区は計4箇所、11-1-2区は計3箇所に分割して、発掘調査を実



第2図 調査区配置図

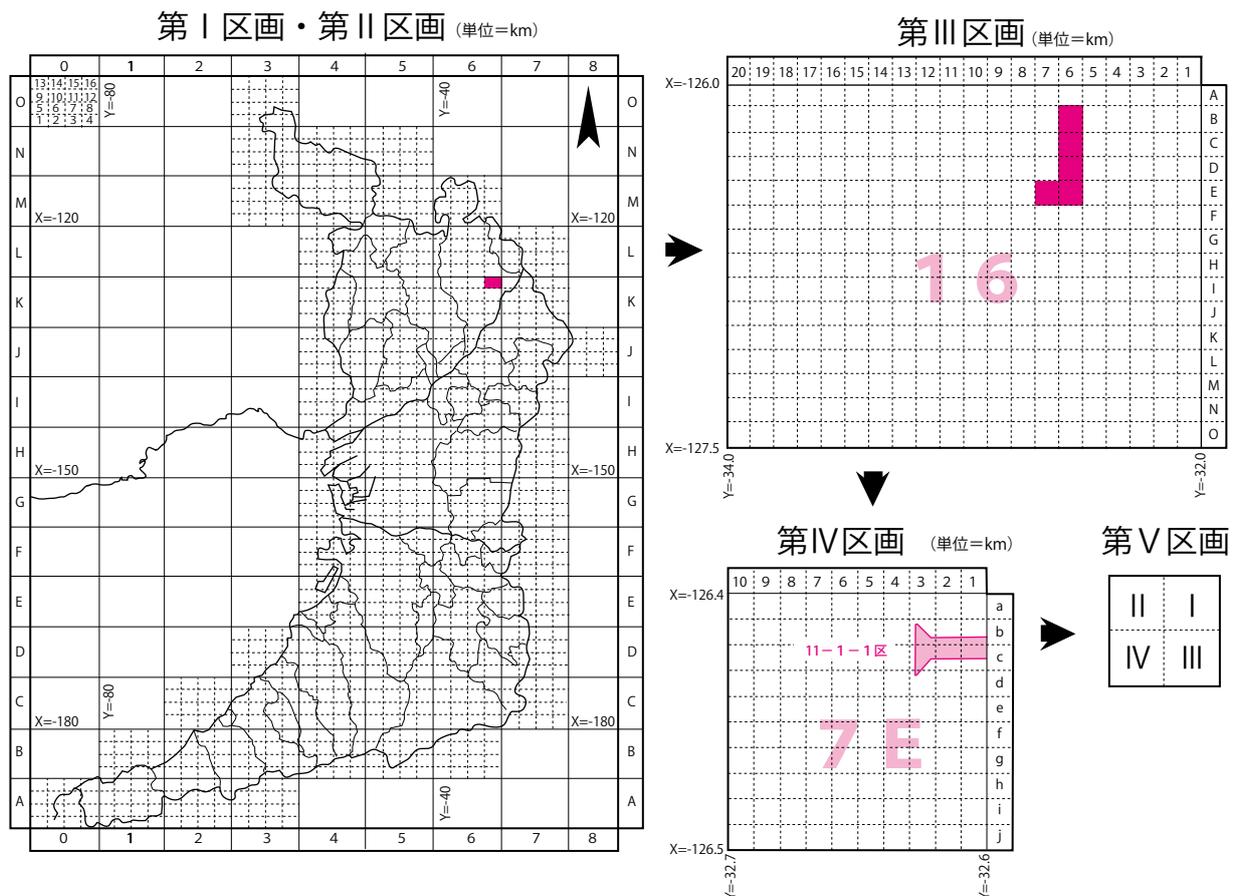
施した。

**調査工程** 11-1-1区では、市道萩之庄中央線の東側を流れる農業用水路より30mの範囲を11-1-1-1区として設定し、先行着手した。同時に、11-1-2区の北半部を開口し、掘削を始めたところ、予想以上に遺構が良好に残存することが判明した。このため、11-1-2区の遺構面を検出した段階で一時保存し、遺構が連続すると考えられる11-1-3区の調査に着手した。

一方、水路改修工事を終えた11-1-1区では、11-1-1-1区に続く範囲を11-1-1-2区として掘削作業を進めたが、地域住民より市道202号線の南北両脇を流れる水路の改修を急ぐ要望が出されたため、これに接する11-1-1-3区の北端部（長さ2m）と、11-1-2-2区の南半部（長さ10m）も、同時に開口して調査を行った。

その後、11-1-2-1区と11-1-3区において検出した主要遺構面の精査が完了した段階で、両調査区を対象とした現地公開を開催した。続いて、残る11-1-1-3区、11-1-2-2区北半部の調査に着手した。最後に11-1-4区の調査を行い、現地における一連の作業工程を完了した。

**調査区の地区割方法** 現地調査では、調査区を平面直角座標系第Ⅵ系（世界測地系）に基づく地区割を用いて分割し、検出遺構や出土遺物の管理に用いた。各調査区ともに人力掘削の開始と平行して、XY座標点および水準点を設置し、これを測量基準点として一辺10mの座標グリッドを設定した（第3図参照）。



第 3 図 地区割模式図

設定されたグリッドでは、第Ⅰ区画から徐々に細分された第Ⅴ区画までを定めている。第Ⅰ区画とは、大阪府の南西端 X=-192,000 m、Y=-88,000 mの交点を基準として、南北6 km、東西8 kmの面積で府域を62分割した区画をいう。このうちの1区画をさらに南北1.5km、東西2.0kmの範囲で各々4分割し、計16区画としたもののひとつを第Ⅱ区画とする。さらにこの第Ⅱ区画を南北に15分割、東西に20分割した一辺100 mの範囲を第Ⅲ区画とし、これを東西、南北ともに10分割した一辺10mの範囲を第Ⅳ区画とする。第Ⅴ区画は、第Ⅳ区画を5m単位で分割した区画である。

今回の調査地は、第Ⅰ区画が「K6」にあたる。第Ⅱ区画は、「16」に該当する。第Ⅲ区画は、「B6」「C6」「D6」「E6」「E7」であり、第Ⅳ区画はそれぞれ分割した区画名称が該当する（第4図）。

なお今回の調査では、第Ⅳ区画までを使用し、第Ⅴ区画は適用していない。

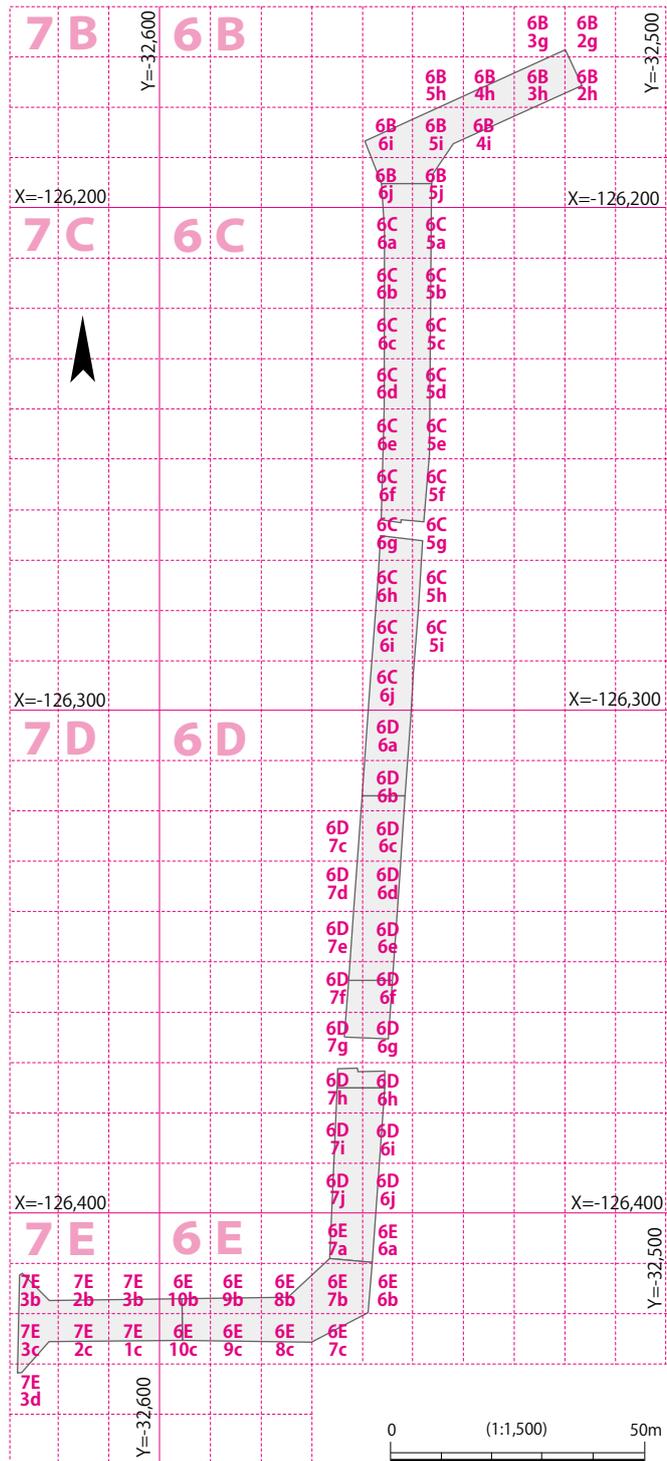
出土遺物は、このグリッドごとに第Ⅲ区画・第Ⅳ区画および出土遺構や層位、遺構面などを記入したラベルとともに取り上げ、登録番号を付した。また、検出遺構の実測図作成時には、グリッド名を明記した。

## 第2節 調査の方法

各調査区における発掘調査は、以下の方法で行った。

**機械掘削** 調査区範囲の確定及び現地盤高測量後、近現代盛土及び近世耕作土をバックホウの後進掘削によって取り除いた。確認調査坑を含む攪乱土も、同時に除去した。

**人力掘削** 続く人力掘削では、層序ごとに掘削を進め、層相の変化ごとに遺構面の検出に努めた。今回の調査で確認された地層は、計9層を数える。掘削作業にはショベルやジョレン、ツルハシ等を用い、土砂の排出には主としてベルトコンベアを利用した（写真2）。なお遺物の出土に際しては、ヘラや小型ショベル等を用いて、慎重に取り上げ作業を行った（写真3）。



第4図 調査区地区区割図

掘削中に出土した遺物は、グリッドごとに取り上げ、取り上げ番号（登録番号）を付して管理を行った。残存状況が良好な遺物や特異な遺物については、出土状況写真撮影と出土状況図作成の後に取り上げた。また、木製品など脆弱な遺物の現地保管には、水分補給を行い、劣化の防止に努めた。

作業中、地表に溜まった湧水や雨水は、ポンプを用いて汲み取り、沈砂槽を介して場外へと排出した。ただし、水田への取水時期中は、場内での自然排水とした。

**現地記録作業** 今回の調査では、調査区により、4～8面の遺構面を検出した。これらは平板測量を行い、平面図を作成した。また、レベル値を測定し、地形の変化を記録した（写真4）。検出した遺構は半裁またはベルトを残して掘削し、断面を実測し、記録写真を撮影した（写真5）。各調査区の壁面は、地形及び残存状況を考慮して精査し、断面図を作成した（写真6）。

なお、検出した遺構面のうち、主要な遺構面では、高所作業車や足場上より写真撮影を行った（写真7）。また特に重要な遺構面では、ヘリコプターからの航空測量を実施した。測量図は50分の1スケールの平面図として納品された。

**大阪府教育委員会の立会** 現地調査は、重要な遺構面の検出時と、すべての掘削作業を完了した段階で大阪府教育委員会の立会を受けた。

**基礎整理作業** 出土遺物は、登録、洗浄、注記までの基礎的な整理作業を現地に設置した監督員詰所内で行い、その後は調査事務所において、報告書作成に関わる業務を行った。出土遺物のうち、土器には



写真2 人力掘削作業状況



写真3 遺構掘削作業状況



写真4 現地測量作業状況



写真5 遺構断面実測状況

遺跡名＋調査番号＋登録番号を直接注記した（写真8）。その他の遺物には、個別にラベルを付し、管理を行った。注記を終えた遺物は接合復元し、重要なものや残存状態が良好なものを選択して実測し、報告書に掲載した（写真9）。本書に掲載した挿図には、デジタルトレースを行ったものと、ロットリングで手書きトレースしたものがある（写真10・11）。

整理作業は、以上の工程を終えた後、本報告書の執筆・編集を行い、その刊行をもって完了した。



写真6 壁断面実測状況



写真7 遺構写真撮影状況



写真8 遺物注記作業状況



写真9 遺物実測作業状況



写真10 デジタルトレース作業状況



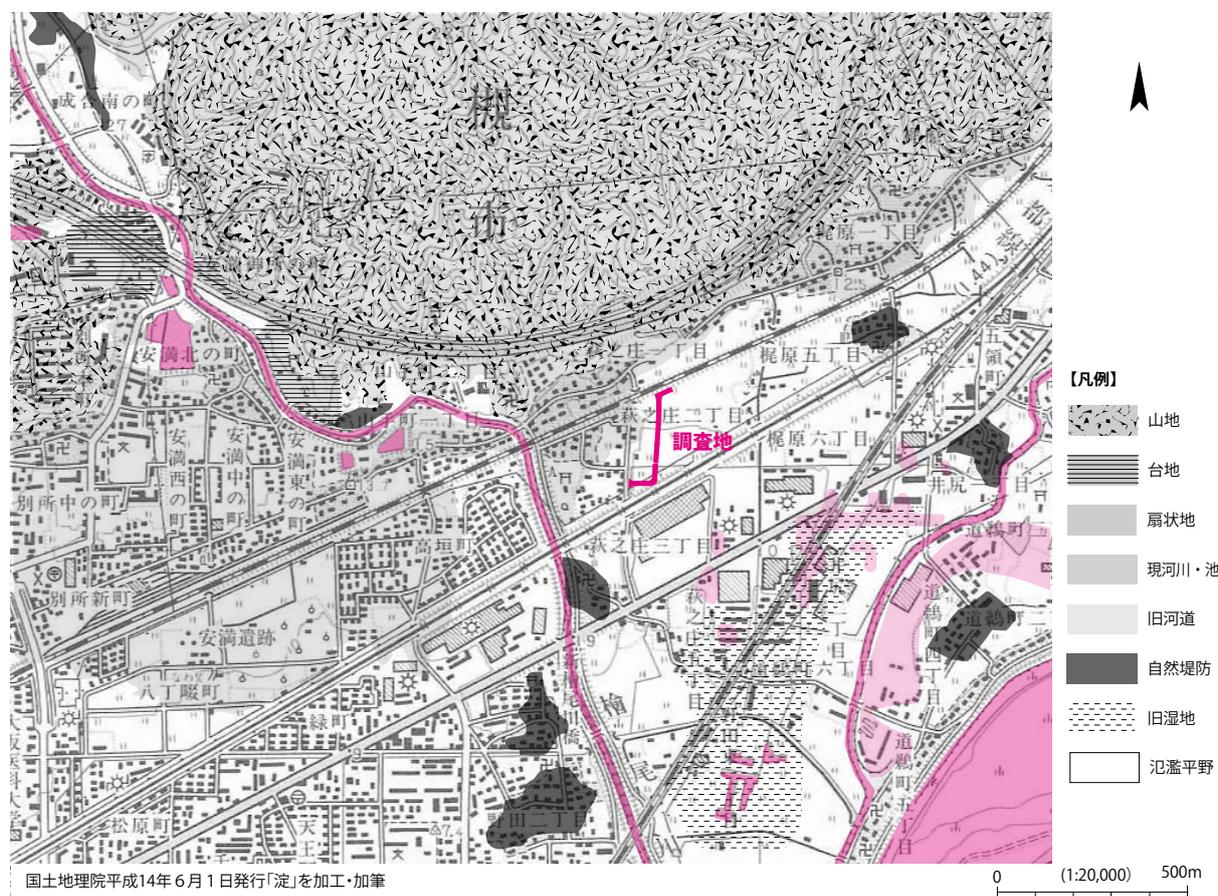
写真11 挿図トレース作業状況

# 第3章 調査地周辺の環境

## 第1節 調査地周辺の地理と地形

調査地の北には北摂山地が横臥し、南西には淀川が流走する。このため北が高く、なだらかに南へ下がる景観を呈する。旧来の集落は、山地から流れ出る小河川によって形成された扇状地と自然堤防上に営まれており、低地には水田と工業地帯が広がっている。調査地は扇状地縁辺に近い水田地帯の中にあり、周辺の耕作地は、北西から南東方向へ階段状に下がるように整えられている。もっとも、この整然とした風景は近現代の圃場整備によるものであり、原地形は旧檜尾川とこれに伴う支流、小河川が錯綜する起伏に富んだ地形であったと考えられる。

現在、調査地西を流れる檜尾川は、北摂山地を縫うように流れ出た後、山地の裾をめぐるように東行し、調査区西側付近で屈曲して南下する。しかし、扇状地の広がりや点在する自然堤防、等高線の入り具合からは、旧来の檜尾川は屈曲せず、そのまま南や南東方向へ流れていたことが類推できる。安満遺跡の調査では、弥生時代の集落が前期から後期にかけて段階的に東へ移動することがわかっているが、この原因のひとつが檜尾川の側方移動にあると考察されている。京都大学農場事務所付近において発見された弥生時代前期の集落は、前期末に起こったと見られる洪水砂層に覆われている。また、その東の果樹園一帯では、弥生時代中期後半まで断続的な砂層の重積があることから、旧檜尾川がこの付近を流れていた可能性が高い。



第5図 調査地周辺の旧地形

一方、今回の萩之庄南遺跡の調査では、調査区南端に設定した 11-1-1 区において、北西から南東へ流れる古代の河川を検出した。これを地形図に重ねてみると、その水流の起点は檜尾川の屈曲部付近であり、流れ行く先は調査地の南東に位置する旧湿地帯及び旧河道が広がる低地である。この河川の埋土には、大小さまざまな礫のほか、古代の遺物が一定量含まれていることから、相当の勢いで当時の集落あるいはその近辺を流走したと思われる。

おそらく旧檜尾川は、分流と側方移動を繰り返しながら周辺の土地に多大な影響を及ぼしてきたと思われる。その動きに合わせて微高地や湿地が形成されたことにより、人々は居住域や生産域の移動を余儀なくされたのであろう。このことは、萩之庄南遺跡の成り立ちにも大きく関連する。

なお、現在の檜尾川は堤防で流路が固定されている。天井川化が顕著であり、農業用水への利用も檜尾川の東岸地域では行われていない。萩之庄地区、梶原地区の水田への給水は、すべてポンプアップにより、淀川から水を吸い上げ、これを用水路に流し入れる手法がとられている。このため、両地区内には、大規模な用水路が縦横に設けられている。

## 第 2 節 調査地周辺の遺跡と調査成果

上述のとおり、丘陵と平野の変化点にあたるこの地域では、安満遺跡をはじめとして多くの遺跡が発見されている。以下、時代ごとに記述する（第 6 図参照）。

**縄文時代・弥生時代** 萩之庄南遺跡より西へ 300 m 隔てた地点に広がる安満遺跡は、昭和 41 年に実施された京都大学附属農場内の建物建設に伴い発見された縄文時代晩期～中世の遺跡である。弥生時代前期には、遺跡のほぼ中央部に集落があり、これを囲む環濠や水田遺構、用水路、堰が設けられていた。また、農耕土木具を含む多量の木製品が出土したことから、安満遺跡は、周辺地域に先駆けて稲作を開始した弥生集落として一躍著名となった。出土遺物は、土器、木器ともに当該時期における東摂津地域の指標となっている。

弥生時代中期前半になると、旧檜尾川の移動により、集落は東西へそれぞれ分散する。住宅地開発に伴って実施された遺跡東方の調査では、50 基を超える方形周溝墓が二群に分かれて形成されたことが確認されている。また中期後半には、遺跡西方にも墓域が形成された。

同じころ、安満遺跡の北方に位置する紅茸山南遺跡では、溝や土坑を有する小規模な集落が営まれている。安満新池改修に伴う調査時に集落が確認されており、在地産の弥生土器や石包丁などが検出された。弥生時代後期になると、その北方に大型高地性集落である紅茸山遺跡が出現することから、安満遺跡と紅茸山南遺跡とをつなぐ過渡的な集落として捉えられる。安満遺跡という巨大な集落が解体され、周辺地域に拡散したことが窺える。

このほか、萩之庄南遺跡より北西へ 500 m 隔てた丘陵地斜面に位置する萩之庄遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物が確認されている。

**古墳時代** 前述の萩之庄遺跡内では、古墳時代前期の古墳 2 基（1 号墳・2 号墳）が確認されている。1 号墳は竪穴式石室の内部に粘土床と割竹形木棺をもつ。付近の斜面や攪乱坑からは、銅鏡片、碧玉製石釧、車輪石等の出土が確認されている。また、1 号墳より南西 400 m の地点で発見された安満宮山古墳は、中国魏の年号である「青龍三年（= 235 年）」銘をもつ方格規矩神獸鏡と三角縁神獸鏡 5 面が

共伴したことで、一躍話題となった。淀川から河内平野をのぞむ丘陵地斜面に墓域を定めた当時の傾向をうかがうことができる。

なお、古墳時代前期の集落は、萩之庄南遺跡より東へ900 m隔てた上牧遺跡やその北に位置する梶原南遺跡で確認されているが、上記古墳の被葬者との関係は明らかではない。

やがて古墳時代後期になると、丘陵斜面から裾部の範囲に群集墳が築かれるようになる。萩之庄南遺跡より北西600 mの距離に位置する安満山古墳群は、標高100～200 mの丘陵斜面上に40数基の横穴式石室をもつ円墳を有する。丘陵地の麓に位置する磐手杜古墳群では、現在3基の古墳が確認されており、うち1基の石室から銀環1個と埴輪片、鉄器片等が出土した。萩之庄南遺跡の北東に位置する梶原古墳群では、これまでに25基の古墳が調査され、横穴式石室を主体部とする円墳群であったことが報告されている。このうち、二上山産出の凝灰岩製家形石棺を有するD-1号墳からは双葉剣菱形杏葉が、B-1号墳からは轡や三累環式柄頭、鉄刀等の馬具や鉄製品が豊富に出土している。これら副葬品の多様さから、古墳群の被葬者は、広域物流に携わる淀川水運を担う一族との関連が推測されている。

なお、これら古墳群の造営母体となる大規模集落は確認されていないが、梶原古墳群では丘陵裾部付近にあたる南側エリアで竪穴建物や掘立柱建物がまとまって検出されていることから、丘陵斜面に古墳を造り、その麓の平野部に集落を営んでいた可能性が高い。

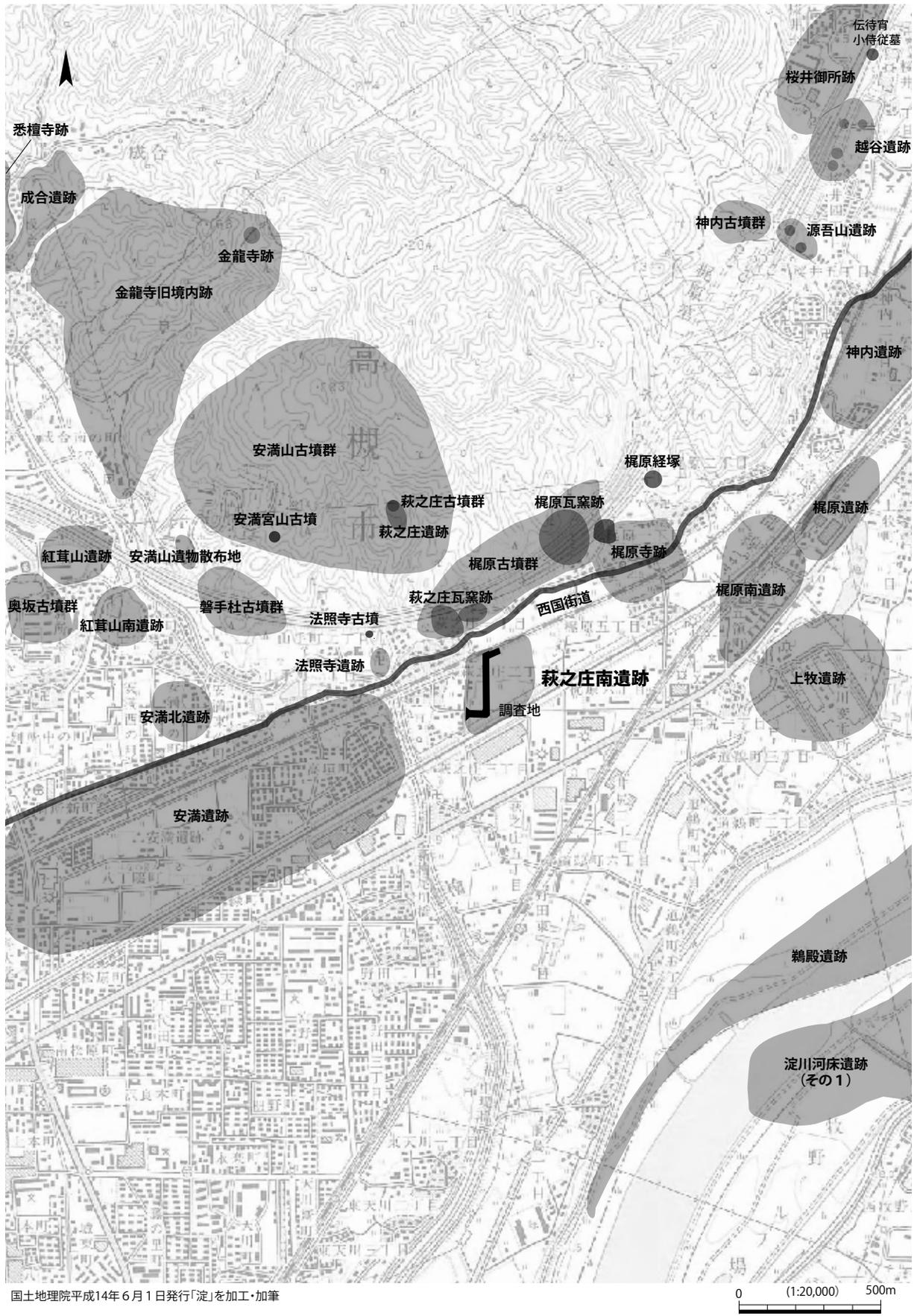
**古代** 萩之庄南遺跡の北東500 mの地点には、7世紀中葉から8世紀中葉に位置づけられる梶原寺跡と梶原瓦窯跡が存在する。ともに名神高速道路建設に先立つ調査によって発見された遺跡である。梶原寺は正倉院文書にも記述が見られる古代寺院であり、梶原1丁目に所在する畠山神社境内付近が跡地に比定されてきた。昭和52年に隣接する私立保育所の建設に伴う調査で、僧坊と目される2間×7間の規模をもつ掘立柱建物が検出されたことから、その蓋然性が高まっている。また、梶原寺の西に接する梶原瓦窯跡では、7世紀中葉の地下式窯窯3基、半地下式窯窯1基、8世紀前半のロストル式平窯1基が検出されている。正倉院文書には、東大寺から梶原瓦窯に対して、瓦を納入することを命じる記述がある。瓦は、淀川から木津川を通じて奈良の都へ運ばれたと考えられている。

なお、郡家川西遺跡の調査成果から、この頃にはすでに萩之庄南遺跡、安満遺跡の北側を古代山陽道が通っていたことが復元されている。梶原寺も幹線道路に近い交通至便地に建立されたと推測される。

このほか、萩之庄南遺跡より東へ900 mの位置にある上牧遺跡では、奈良時代から平安時代の掘立柱建物群を有する集落が検出されている。平安時代には安満に勅旨田223歩が開かれたことが文献に記されており、平野部においても集落が形成されはじめたことが窺える。

**中世** 水田耕作を生業とする中世集落の発展が顕著となる時代である。上述した「安満勅旨田」は、中世「安満ノ庄」へと展開する。安満遺跡、上牧遺跡では、13世紀～15世紀の集落跡が確認されており、これを裏付けている。中世「萩ノ庄」の成立時期は明らかではないが、戦国末期の『攝津国絵図』には「萩庄村」が見えることから、中世後期にはすでに村落が形成されていたと推測される。周辺では、摂関家や皇室、寺院により精力的な開発が進められたが、これらを実際に指揮したのは、芥河氏、真上氏、氷室氏等、在地の武士集団であった。萩之庄地区も同様に、在地氏族の手により開発の経緯を辿ったのであろう。なお、隣接する安満ノ庄は、法輪寺、仁和寺、金龍寺免田となり、芥河氏が地頭を務めている。

以上のように、萩之庄南遺跡の周辺は、各時代の在地有力者層の動向を知る手がかりが数多く残されている地域である。高槻市及び旧攝津国東部の歴史的状況を考察する上で、きわめて興味深い地域であるといえる。



第 6 図 周辺の遺跡分布図

## 第4章 調査成果

### 第1節 基本層序

今回の調査では、弥生時代後期から中世までの包含層を確認した（図7参照）。確認した土層は、調査区ごとに5～9層を数える。

調査区の現地表面レベルは、丘陵に近い11-1-3区が高く（T.P.+8.5m程度）、南に位置する11-1-1区に向かって緩やかに下がる（T.P.+7.8m程度）。しかしこれは圃場整備の造作によるところが大きく、原地形は微高地にあたる11-1-2区から南北方向へ下がる起伏の激しい景観を呈していたことが、調査により明らかとなった。

微高地の南限は11-1-1-3区にあり、ここから南へは急峻に落ち込む。旧檜尾川の水流が崖面を削り込んでおり、土壌は硬質で礫を多く含む。一方、微高地の北側にあたる11-1-3区北半部から11-1-4区の範囲では、四方を丘陵や微高地に囲まれるため早い段階から後背湿地が発達し、土壌は下位に向かうほど軟質となる。微高地にあたる11-1-2区では総じて堆積層が薄く、低地にあたる11-1-1区と湿地である11-1-3区南半部と11-1-4区では厚く、層数も多い。

なお、今回の調査では各調査区ごとに層番号を付したが、整理作業の段階でこれを改め、対応すると考えられる層序には、すべての調査区を通して同一の層番号を付した。また現地では、層名の上面において検出した遺構面に同番号を付して関連付けたが、これも整理段階で改めた。各層と本書において報告するの遺構面の対応は、第8図～第14図の調査区壁断面図に記載した。

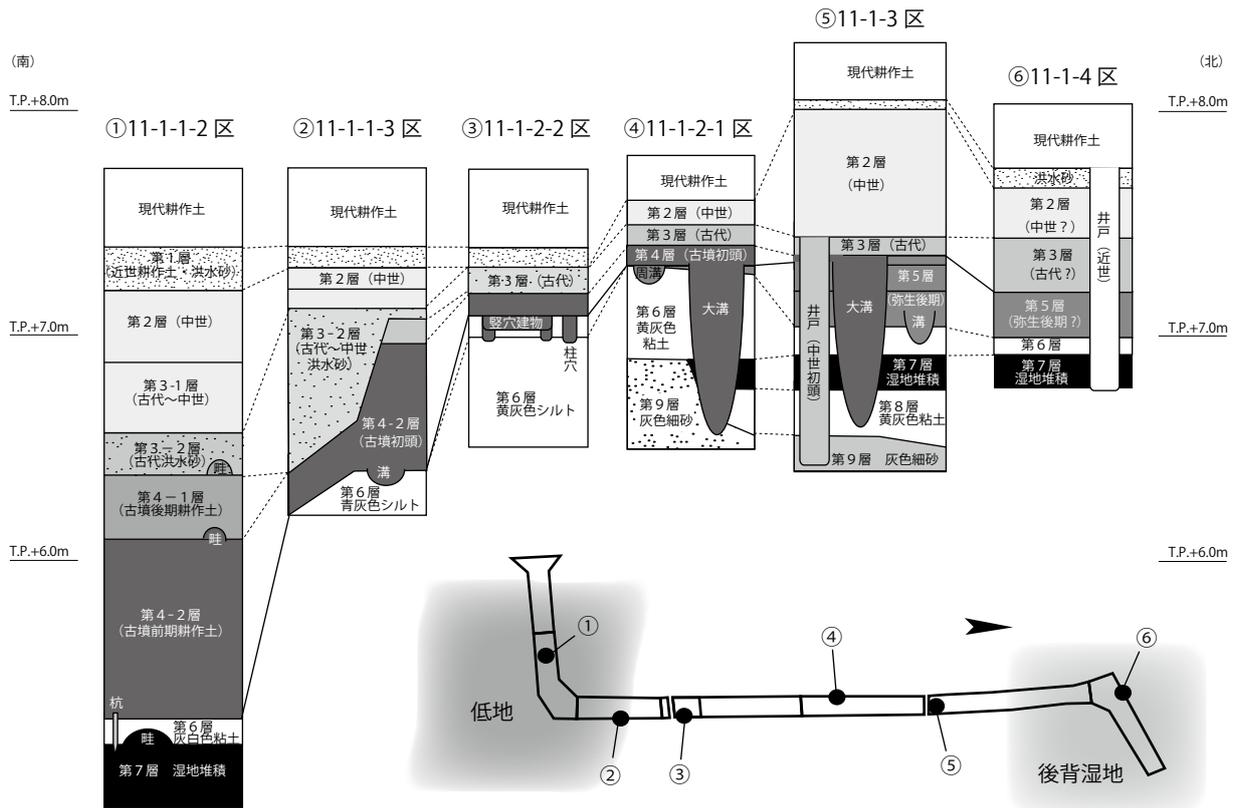
以下、整合した層序ごとに記述する。

**第1層（中世末～近世包含層）** 礫混じり黄褐色粗砂を主体とする洪水砂（近世）と、黄褐色細砂混じりシルトを主体とする耕作土から成る。微高地のうち、もっとも高い11-1-2-1区では、削平され、遺構埋土としてのみ残存する。

低地である11-1-1区では、近世洪水砂と灰オリーブ色粗砂混じりシルトを主体とする耕作土を主体とする。洪水砂の流れ込みは数次にわたるため、耕作土と互層を成す箇所がある。この層の上面からは、方形土坑が多く掘り込まれている。この方形土坑は、低地もしくは微高地の軟質土壌部にのみ設けられていること、また埋土が礫を多く含む砂層であることから、悪水を抜くための設備であると考えられる。層内からは、須恵器、土師器、備前焼や唐津焼などの陶磁器類が出土した。また方形土坑内からは、銅銭（寛永通宝）が1点出土した。このため、方形土坑の掘削は17世紀を遡らないものであり、第1層の下限時期は近世以後であることがわかる。

11-1-3区北半部、11-1-4区では、マンガンを多く含む黄褐色粘土質シルトを主体とする整地層と、洪水砂が中近世包含層に相当する。11-1-3区北端部では、この層を除去した段階で、井戸を計5基検出した。層内からは、平瓦、土師器、瓦質土器が出土した。

**第2層（中世包含層）** 微高地では、暗灰黄色微砂混じり粘土質シルトを主体とする。耕作土と推測されるが残存状態が悪く、出土遺物は寡少である。低地への斜面にあたる11-1-2-2区では、削平されて残存しない。低地である11-1-1区では、黄褐色粗砂まじり粘土質シルトを主体とする。攪拌痕跡が顕著に認められる耕作土である。層内からは須恵器、土師器が出土したが、出土量は寡少であ



第 7 図 基本層序模式図

る。上面からは、畦畔や杭列を伴う水路の掘り込みがある。

11-1-3区と11-1-4区では、灰白色粘土を主体とする耕作土である。特に11-1-3区では厚く堆積する。上面には足跡や鋤溝が多く残る。層内から土師器、須恵器、瓦器が出土した。

**第3層（古代～中世前期包含層）** 灰オリーブ色砂質シルトを主体とする上層（第3-1層）と、暗青灰色礫混じりシルトを主体とする下層（第3-2層）に大別できる。低地から微高地への変化点である11-1-1区西端、11-1-3区北半部、11-1-2-2区では上下層が混在するが、もっとも低い11-1-1-2区から11-1-3区南半部では明確に分かれている。

第3-1層は古代末～中世前期の耕作土で、微高地から低地に向かい徐々に層厚を増す。第3-2層は古代の流路堆積で、径2cm未満の礫を多く含む砂層である。上述のとおり、11-1-1-3区ではこの土砂の侵食により、微高地から低地へ続く傾斜面が崖状にえぐられている。北西～東南方向に広がることから、檜尾川上流から東南部の低地へ向かい、相当の勢いをもって流れ出たものと推測される。

低地では、第3-1層から土師器、須恵器、瓦器が、第3-2層からは8世紀を主体とする須恵器、土師器が出土した。

微高地では、第3-1層と第3-2層を明確に分層できないが、層の下位に砂礫を含むことから、旧河道の水流が広い範囲にわたっていたことを想像させる。層内からは、8世紀～9世紀の須恵器や土師器が一定量出土した。少量ではあるが、黒色土器も含まれている。11-1-3区南半部では、この層の上位から摂津C型と呼称される羽釜（10世紀）の破片が出土した。また、この層の上面から掘り込まれた井戸の埋土から、瓦器椀（12世紀）が出土した。このため、この層の上限年代は8世紀、下限年代は12世紀頃に求められる。

11-1-4区では、上層と同じく灰白色粘土を主体とする耕作土層が、第3層に相当する。上層よりやや暗色で鉄分の沈着が顕著である。層内からは、土師器、須恵器が出土した。

**第4層（弥生時代後期～古墳時代包含層）** 第4層は、低地では大きく上下に分層される。上層である第4-1層は、植物遺体を含む暗オリーブ灰色砂質シルト層で、耕作土と考えられる軟質土壌である。少量ながら須恵器（6世紀）や木製品を含むため、古墳時代後期包含層として認識される。その下に堆積する第4-2層は、オリーブ黒色粘土を主体とする弥生時代後期～古墳時代初頭の包含層で、層内には、弥生後期土器と庄内式土器を一定量含む。

一方、微高地上には、古墳時代後期包含層である第4-1層は存在せず、弥生時代後期～古墳時代前期包含層として堆積する。黒褐色粗砂混じり粘土質シルト層を主体とし、主要遺構面の直上に広く堆積する。11-1-2-2区では黒色味が薄れ、やや軟質となるが層厚は増し、そのまま低地の第4-2層に連続する。11-1-3区では、徐々に層厚を減じ、遺構埋土のみの残存となる。微高地上では、この層の除去面において、大溝や周溝、掘立柱建物、竪穴建物等を有する集落跡を検出した。

11-1-3区北半部、11-1-4区には、第4層は存在せず、対応する層も認められない。

**第5層（遺構面基盤層・弥生時代後期包含層）** 微高地では、黄灰色微砂混じり粘土を主体とする上層と、黒褐色細砂混じり粘土を主体とする中層・下層に識別できるが、その境界は不明瞭である。上層は、弥生時代後期～古墳時代初頭遺構面の基盤層として機能したと考えられる。また、上層と中層の間に礫が流入する箇所があり、不明瞭ではあるが遺構面が介在する。層内からは、弥生時代後期の土器片が少量出土している。

11-1-3区北半部では、徐々に褐色味が失せ、灰色～灰オリーブ色粘土の堆積へと変化する。11-1-3区北半部・11-1-4区では、遺物の出土は確認できていない。11-1-1区では、対応する層は存在しない。

**第6層（遺構面基盤層・地山）** 灰オリーブ微砂混じり粘土を主体とする。微高地では厚く堆積するが、低地へ向かい徐々に薄くなる。11-1-2-1区では、酸化と鉄分の沈着により、他より黄色味が強い。11-1-3区南半部では、弥生時代後期遺構面の基盤層として機能する。11-1-4区の南西部では、オリーブ黒色粘土ブロックとにぶい黄褐色シルトブロックの混合層として存在するが、やがて消滅し、北壁・東壁では確認することができない。層内から遺物の出土は確認できていない。

低地の11-1-1区では、灰白色粘土を主体とする。上面において杭列、落込みを検出した。

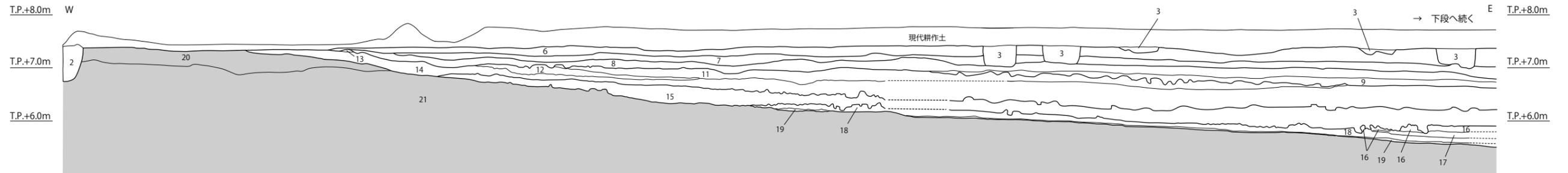
**第7層（湿地状堆積・地山）** 11-1-1区では、黒色粘土と灰色粘土の互層または黒色粘土として存在する。非常に軟質で、上面は地震による変形が顕著に認められる。層内から遺物の出土は確認できていない。下層確認トレンチを設定して掘削を試みたが、層は厚く、底面を確認することはできなかった。

微高地では、11-1-2-1区北端部から11-1-3区にかけて認められる。黒色微砂混じり粘土を主体とし、部分的に微砂の流入と植物遺体の集積が認められる。11-1-4区ではさらに層厚を増すと思われるが、掘削には及んでいない。

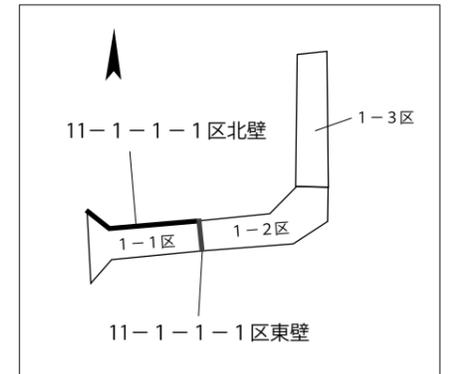
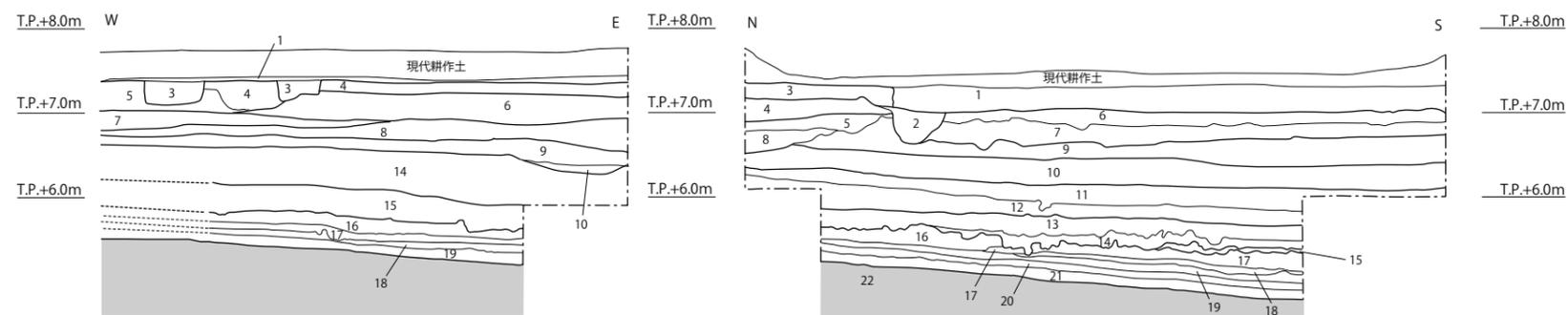
**第8層（地山）** 黄灰色～灰色粗砂混じり粘土を主体とする。しまりが良く、硬質で、径1cm未満の礫を含む。植物茎根に由来するオリーブ黒色粘土が網ノ目状に入り込む。層内から遺物の出土は確認できていない。

**第9層（地山）** 均質でしまりの良い灰色細砂である。11-1-2-1区で高く、南北へ向かって緩やかに下がることから微高地の形成層であると考えられる。遺物の出土は確認できていない。

【11-1-1-1区北壁】



【11-1-1-1区東壁】



【10-1-1-1区北壁】

- 1) 2.5Y4/1 黄灰色 砂質シルト 径5cm未満の礫入る (近現代洪水砂)
- 2) 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり粘土 径5cm未満の礫入る (近現代水路)
- 3) 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト～極細砂 径5cm未満の礫入る (近現代土坑)
- 4) 7.5YR7/1 明褐色 砂質シルト混じり細砂 (第1層：中近世包含層)  
7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック20%程度入る 炭化粒入る
- 5) 10YR7/2 にぶい黄褐色 粘土質シルト (第1層：中近世包含層)  
7.5YR6/8 橙色 粘土質シルト30%程度入る 炭化粒入る
- 6) 7.5YR6/6 橙色 シルト混じり中～粗砂 (第2層：中世包含層)  
10YR8/2 灰白色 シルトブロック30%程度入る
- 7) 7.5YR6/8 橙色 砂質シルト混じり細～極細砂 (第2層：中世包含層)  
10YR7/2 にぶい黄褐色 砂質シルトブロック30%程度入る  
10YR3/3 暗褐色 砂質シルトブロック30%程度入る マンガン粒入る
- 8) 7.5YR6/8 橙色 砂質シルト～中～細砂 (第3-1層：中世包含層)  
10YR7/2 にぶい黄褐色 砂質シルトブロック30%程度入る  
10YR3/3 暗褐色 砂質シルトブロック10%程度入る マンガン粒入る
- 9) 10YR5/2 灰黄褐色 粗砂混じり粘土質シルト (第3-2層：古代流路堆積)
- 10) 7.5YR6/8 橙色 砂質シルト 径4cm未満の礫多量入る (第3-2層：古代流路堆積)
- 11) 7.5YR4/6 褐色 シルト質粘土  
N6/0 灰色 シルト質粘土30%程度入る (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 12) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト (第4-1層：古墳時代後期包含層)  
7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック30%程度入る やや軟質 径0.5cm未満の礫少量入る
- 13) 10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト (第4-1層：古墳時代後期包含層)  
10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック30%程度入る
- 14) 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルトブロック20%程度入る 柱状鉄斑沈着  
10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック20%程度入る  
10YR2/2 黒褐色 粘土質シルトブロック20%程度入る 柱状鉄斑沈着
- 15) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック20%程度入る やや軟質 (第4-2層：古墳時代前期包含層)

- 16) 7.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 (第7層：湿地状堆積)  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック30%程度入る やや軟質
- 17) 7.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 (第7層：湿地状堆積)  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る 軟質
- 18) 2.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 (第7層：湿地状堆積)  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック10%程度入る 軟質
- 19) 5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 炭化粒少量入る 植物遺体水平方向に入る 軟質
- 20) 2.5Y8/2 灰白色 粘土質シルト マンガン粒少量入る しまり良い (第8層：地山)
- 21) 10YR5/1 褐灰色 粗砂混じりシルト 径0.3cm未満の礫少量入る しまり良い (第8層：地山)

【10-1-1-1区東壁】

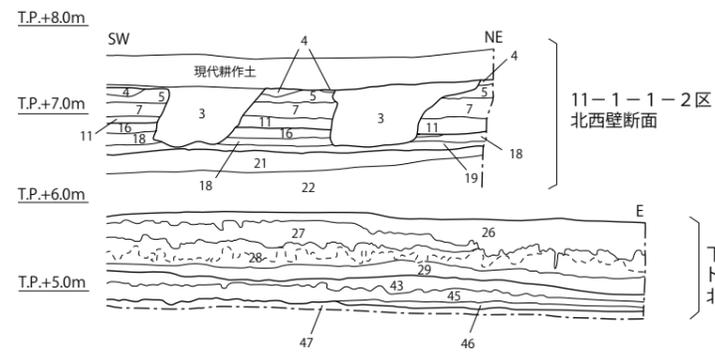
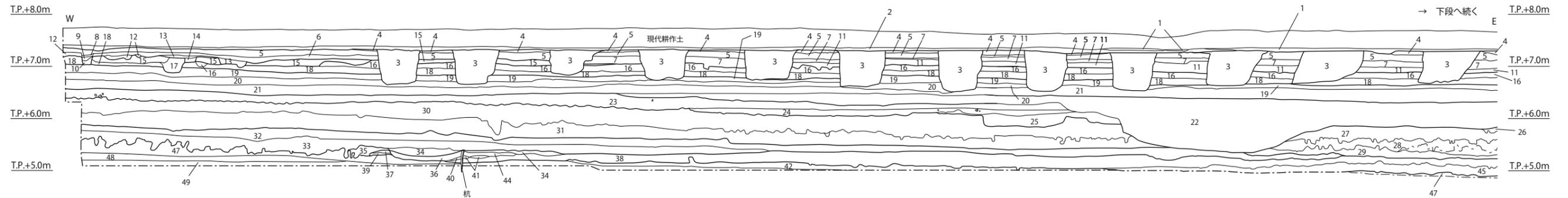
- 1) 5G7/1 明緑灰色 中～極細砂混じりシルト  
7.5YR6/8 橙色 中～極細砂混じりシルト30%程度入る 径2cm未満の礫少量入る
- 2) 7.5YR3/3 暗褐色 中～極細砂混じりシルト30%程度入る (近世耕作土)
- 3) N6/0 灰色 砂質シルト混じり細～極細砂  
5G7/1 明緑灰色 シルト質粘土ブロック10%程度入る (遺構埋土)
- 4) 7.5YR7/1 明褐色 砂質シルト混じり細砂 (第1層：中近世包含層)  
7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック20%程度入る 炭化物入る
- 5) 10YR7/2 にぶい黄褐色 粘土質シルト (第2層：中世包含層)  
7.5YR6/8 褐色 粘土質シルト30%程度入る 炭化粒入る
- 6) N6/0 灰色 粘土質シルト混じり極細砂 径1cm未満の礫少量入る (第2層：中世包含層)
- 7) 5G6/1 緑灰色 粘土質シルト混じり極細砂  
N6/0 灰色 砂質シルト混じり極細砂50%程度入る (第2層：中世包含層)
- 8) 10YR7/2 にぶい黄褐色 細～中砂混じり粘土質シルト (第3-1層：中世前期包含層)  
7.5YR6/8 褐色 粘土質シルトブロック20%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る
- 9) 5G6/1 緑灰色 粘土質シルト混じり極細砂 (第3-1層：中世前期包含層)
- 10) 5G6/1 緑灰色 礫混じり粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る (第3-2層：古代流路堆積)

- 11) 7.5YR4/1 褐灰色 微砂混じり粘土質シルト  
7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る やや軟質 (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 12) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト  
7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック30%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る やや軟質 (第4-1層：古墳時代後期包含層)  
7.5Y2/1 暗灰黄色 粘土ブロック40%程度入る 軟質 (第6層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 13) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック20%程度入る やや軟質 (第4-2層：古墳時代前期包含層)
- 14) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る やや軟質 (第4-2層：古墳時代包含層)
- 15) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫微量入る  
2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土ブロック40%程度入る 軟質 (第6層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 16) 7.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 (第7層：湿地状堆積)
- 17) 7.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック30%程度入る やや軟質 (第7層：湿地状堆積)
- 18) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土 下層ブロック30%程度入る 炭化物入る 軟質 (第7層：湿地状堆積)
- 19) 7.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る 軟質 (第7層：湿地状堆積)
- 20) 2.5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック10%程度入る 軟質 (第7層：湿地状堆積)
- 21) 5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 炭化物少量入る 植物遺体水平方向に入る 軟質 (第7層：湿地状堆積)
- 22) 10Y4/1 灰色 粘土 上位に上層が筋状に入る 軟質 (第8層：地山)

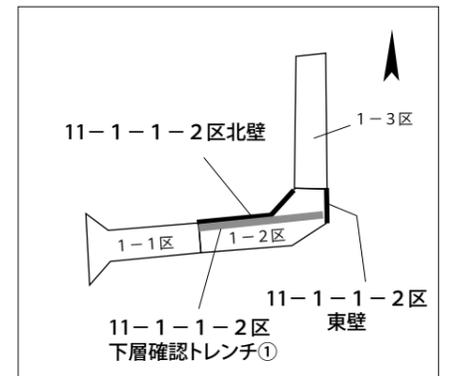
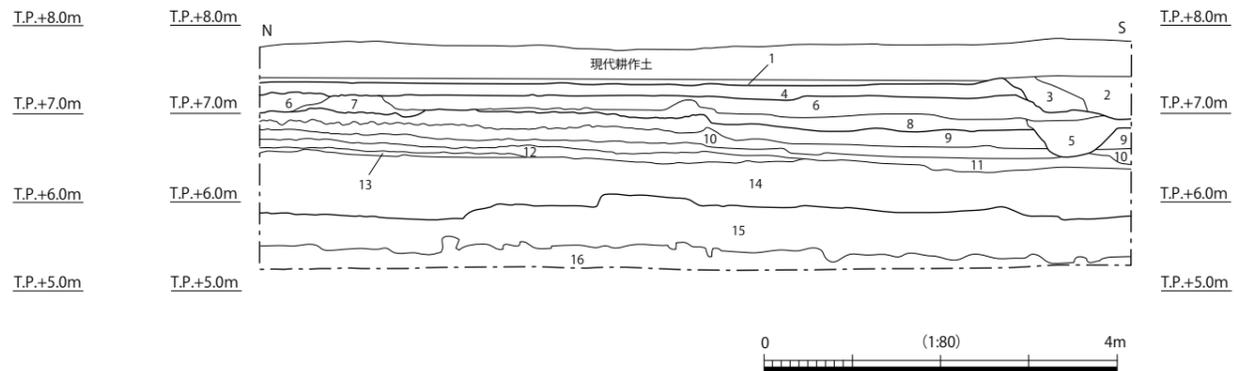
第8図 調査区壁断面図(1)



【11-1-1-2区北壁】



【11-1-1-2区東壁】



【10-1-1-2区北壁～北西壁】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じりシルト ややしり悪い (現代耕作土)
- 2) 5Y5/2 灰オリーブ色 粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る やや軟質 ややしり悪い 柱状鉄斑沈着 (現代耕作土床土)
- 3) 2.5Y4/2 暗灰黄色 礫～粗砂 径5cm未満の礫多量入る 鉄分沈着
- 4) 2.5Y6/2 灰黄色 細砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る マンガン粒少量入る ややしり悪い (第1層：中近世包含層)
- 5) 5YR6/3 にぶい橙色 微砂～シルト マンガン粒少量入る しり悪い 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルトブロック 20%程度入る
- 6) 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルト 上位にマンガン粒入る 柱状鉄斑沈着 (第1層：中近世包含層)
- 7) 5Y4/2 灰オリーブ色 粗砂混じりシルト 柱状鉄斑沈着 やや軟質 径0.5cm未満の礫少量入る (第2層：中世包含層)
- 8) 5Y4/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルト しり悪い (中近世遺構埋土)
- 9) 2.5Y5/2 暗灰黄色 粗砂混じり粘土質シルト しり悪い (中近世遺構埋土)
- 10) 2.5Y4/2 暗灰黄色 粗砂混じりシルト 植物遺体少量入る (中近世遺構埋土)
- 11) 5Y4/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る 5Y4/1 灰色 シルトブロック 10%程度入る マンガン粒入る 柱状鉄斑沈着 やや軟質 しり悪い (第3-1層：中世包含層)
- 12) 2.5Y5/2 暗灰黄色 粗砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 植物遺体少量入る しり悪い (第1層：中近世包含層)
- 13) 5Y6/3 オリーブ黄色 微砂混じりシルト 径0.3cm未満の礫少量入る 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂ブロック 10%程度入る (中近世遺構埋土) 5Y5/2 灰オリーブ色 細砂ブロック 10%程度入る やや軟質 しり悪い
- 14) 5Y5/2 灰オリーブ色 細砂混じりシルト やや軟質 しり悪い 5Y3/1 オリーブ黒色 シルトブロック 40%程度入る (中近世遺構埋土)
- 15) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト しり悪い (第2層：中世包含層) 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂ブロック 10%程度入る やや軟質
- 16) 5Y4/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルト しり悪い 柱状鉄斑沈着 5Y5/1 灰色 シルトブロック 20%程度入る (第3-1層：中世前期包含層)
- 17) 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂混じりシルト 径0.5cm未満の礫入る やや軟質
- 18) 2.5Y5/3 黄褐色 シルト 柱状鉄斑沈着 径0.5cm未満の礫少量入る 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルトブロック 20%程度入る

- 19) 2.5Y5/3 黄褐色 粗砂混じり粘土質シルト 柱状鉄斑沈着 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土質シルトブロック 30%程度入る やや軟質 しり悪い (第3-1層：中世前期包含層)
- 20) 5Y5/2 灰オリーブ色 砂質シルト 径0.5cm未満の礫少量入る 柱状鉄斑沈着 やや軟質 炭化粒・マンガン粒入る (第3-1層：中世前期包含層)
- 21) 5Y4/2 灰オリーブ色 粗砂混じりシルト しり悪い 径1cm未満の礫少量入る (第3-1層：中世前期包含層)
- 22) 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト 同色粘土ブロック 30%程度入る 径3cm未満の礫多量入る しり悪い (第3-2層：古代流路堆積)
- 23) 5BG4/1 暗青灰色 粗砂混じりシルト～粗砂 下に細砂の沈殿あり 径2cm未満の礫多量入る しり悪い (第3-2層：古代流路堆積)
- 24) 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 細砂～シルト 径2cm未満の礫少量入る
- 25) 10Y5/1 灰色 細砂～微砂 同色シルトブロック 20%程度入る 径0.5cm未満の礫少量入る (第3-2層：古代流路堆積)
- 26) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 細砂～微砂混じり粘土質シルト 植物遺体・炭化粒少量入る (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 27) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 細砂～微砂混じり粘土質シルト 植物遺体・炭化粒少量入る (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 28) 7.5Y3/2-5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 植物遺体多く入る 下層が黒色化 上層から攪乱うける (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 29) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 軟質 ややしる 植物遺体入る (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 30) 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色 シルト 同色粘土・微砂ブロック 10%入る 軟質 炭化粒入る (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 31) 7.5Y4/1 灰色 微砂混じり粘土 植物遺体・炭化粒少量入る 5Y4/1 灰色 粘土ブロック 30%程度入る ややしる 軟質 (第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 32) 2.5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 径0.3cm未満の礫少量入る 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 20%程度入る 植物遺体・カルシウム・コバルト入る (第4-2層：古墳時代前期包含層)

- 33) 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり粘土 径0.3cm未満の礫微量入る 5Y2/1 黒色 粘土 マーブル状に混じる やや軟質 しり悪い (第4-2層：古墳時代前期包含層)
- 34) 7.5Y4/1 灰色 粗砂～粗砂混じり粘土の互層 軟質 しり悪い
- 35) 5Y4/1 灰色 細砂混じり粘土 下層マーブル状に混じる
- 36) 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 軟質
- 37) 7.5Y2/1 黒色 粘土 上層マーブル状に混じりこむ 炭化物微量入る 軟質 しり悪い
- 38) 5Y2/1 黒色粘土ブロックと 5Y6/1 灰色粘土ブロックと 5Y4/1 灰色粘土ブロックの混合層
- 39) 5Y6/1 灰色 粘土 粗砂～粗砂混じり粘土ブロック 20%程度入る 軟質
- 40) 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 カルシウム塊入る ややしる 軟質
- 41) 5Y4/1 灰色 粘土 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土マーブル状に混じる しり悪い
- 42) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 しり悪い (第7層：湿地状堆積)
- 43) 5Y4/1 灰色 粘土 5Y2/1-6/1 黒色～灰色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質
- 44) 5Y6/1 灰色 粘土 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土ブロック 20%程度入る 軟質
- 45) 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土カルシウム塊入る 軟質 弥生土器出土
- 46) 5Y4/1 灰色 粘土 下層とマーブル状に混じる (第7層：湿地状堆積)
- 47) 7.5Y2/1 黒色 粘土 炭化物微量入る (第7層：湿地状堆積)
- 48) 5Y4/1 灰色粘土 7.5Y2/1 黒色粘土ブロック 10%程度入る (第7層：湿地状堆積) 5Y6/1 灰色粘土ブロック 10%程度入る 軟質
- 49) 5Y2/1 黒色 粘土植物遺体多量入る 軟質 (第7層：湿地状堆積)

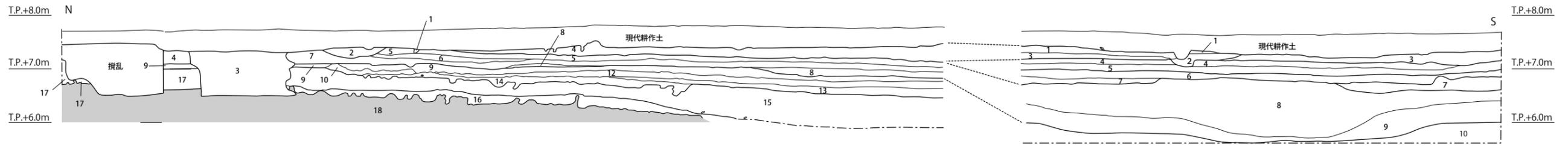
【10-1-1-2区東壁】

- 1) 2.5Y6/2 灰黄色 微砂混じりシルト (現代耕作土)
- 2) 10YR5/6 黄褐色 粗砂 径2cm未満の礫多量入る しり悪い 鉄分沈着 (第1層：中近世包含層) 暗オリーブ灰色 微砂と 緑灰色 粘土の互層 植物遺体少量入る 軟質 しり悪い (第1層：中近世包含層) 灰オリーブ色 微砂混じりシルト しり悪い 5Y5/1 灰色 シルトブロック 20%入る (第2層：中世包含層) 5) 5GY4/1 暗オリーブ灰色 微砂混じりシルト 径0.5cmの礫・炭化粒少量入る やや軟質 しり悪い 6) 7.5Y5/3 - 2.5GY4/1 灰オリーブ色～暗オリーブ灰色 細砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る (第2層：中世包含層) 7) 2.5Y5/3 黄褐色 シルト 径1cm未満の礫少量入る しりやや悪い (中世水田畦畔) 8) 10Y4/1 灰色 微砂混じりシルト 径0.5cm未満の礫微量入る 10Y5/1 灰色 シルトブロック 20%程度入る しり悪い やや軟質 柱状鉄斑沈着 (第2層：中世包含層) 9) 10Y4/1 灰色 細砂混じり粘土質シルト ややしる 径1cm未満の礫少量入る (第3-1層 中世前期包含層) 10) 10GY5/1 緑灰色 細砂混じり粘土質シルト 柱状鉄斑沈着 やや軟質 径1cm未満の礫少量入る ややしる (第3-1層 中世前期包含層) 11) 5GY4/1 暗オリーブ灰色 微砂混じり粘土質シルト ややしる 径1cm未満の礫少量入る やや軟質 柱状鉄斑沈着 (第3-1層 中世前期包含層) 12) 10Y4/1 灰色 微砂混じりシルト 径1cmの礫微量入る ややしる 柱状鉄斑沈着 (第3-1層 中世前期包含層) やや粘性強い (第3-1層 中世前期包含層) 13) 上層に近似 暗緑灰色 粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫多量入る しり悪い (第3-2層 古代流路堆積) 14) 7.5GY4/1 灰色 微砂～粘土質シルト 灰色 細砂の流入あり (第4-1層：古墳時代後期包含層) 15) 7.5Y4/1 7.5Y4/1 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト 軟質 (第4-1層：古墳時代後期包含層)

第9図 調査区壁断面図(2)



【11-1-1-3区東壁】



【10-1-1-3区東壁北半部】

- 1) 5Y4/1 灰色 細砂 上位に同色粘土ブロック10%程度入る しまり悪い
- 2) 2.5Y4/1 黄灰色 細砂 上位に同色粘土ブロック30%入る しまり悪い(近現代洪水砂)
- 3) 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂混じり粘土質シルト 径3cm未満の礫多量入る しまり悪い  
マンガン粒入る 鉄分沈着(近世～近代土埋土)
- 4) 2.5Y7/2 灰黄色 粘土質シルト混じり中～細砂 径2～3cmの礫少量入る マンガン粒含む  
(第1層：中近世包含層)
- 5) 7.5YR3/3 暗褐色 極粗砂～粗砂 径1cm未満の礫入る(第3-2層：古代流路堆積)
- 6) 7.5YR3/2 黒褐色 極粗砂～粗砂 径0.3cm未満の礫入る(第3-2層：古代流路堆積)
- 7) 2.5Y7/3 浅黄色 粘土質シルト混じり粗～中砂 径1cm未満の礫入る(第3-2層：古代流路堆積)
- 8) 2.5Y7/2 灰黄色 粗砂～中砂と 7.5YR7/8 黄褐色 細砂～極細砂の互層  
同色粘土質シルト筋状に入る(第3-2層：古代流路堆積)
- 9) 2.5YR6/1 赤灰色 粘土質シルト混じり中～極細砂 しまり非常に悪い  
(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 10) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 細砂～シルト 炭化粒入る 柱状鉄斑沈着(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 11) 2.5Y6/1 黄灰色 粘土質シルト混じり極細砂(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 12) 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る やや軟質  
(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 13) 5Y5/1 灰色 極粗砂～粗砂混じりシルト 固くしまる 径1cm未満の礫少量入る  
マンガン粒入る 柱状鉄斑沈着 やや軟質(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 14) 5B6/1 青灰色 極粗砂～粗砂混じり粘土質シルト しまり悪い(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 15) N5/0 灰色 粘土混じり極細砂 やや軟質(第4-2層：古墳時代前期包含層)

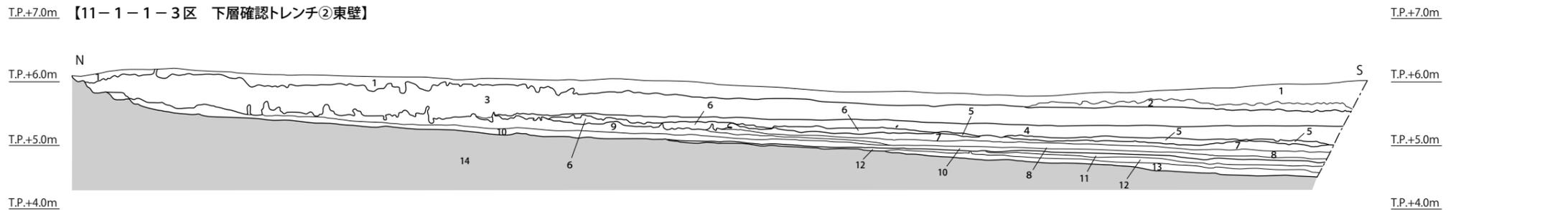
- 16) N5/0 灰色 粘土
- 5B7/1 明青灰色 粘土質シルト20%程度入る(第6層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 17) 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂混粘土 軟質 しまり良い 下位に地山ブロック10%程度入る  
(第4-2層：古墳時代前期包含層)
- 18) N7/0-5B7/1 灰白色～明青灰色 粘土質シルト 径3cm未満の礫少量入る しまり良い(地山)

【10-1-1-3区東壁南半部】

- 1) 2.5Y7/1 灰白色 シルト混じり極細砂～粗砂
- 7.5YR6/6 橙色 シルト混じり粗～中砂ブロック50%程度入る 径3cm未満の礫入る 管状鉄斑沈着 炭化粒入る  
(第1層：中近世包含層)
- 2) 5Y4/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルト
- 5Y5/1 灰色 シルトブロック10%程度入る 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い やや軟質(溝埋土)
- 3) 2.5Y7/1 灰白色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
- 7.5YR6/6 橙色 砂質シルトブロック35%程度入る 鉄分沈着
- N6/0 灰色 粘土ブロック5%程度入る しまり悪い(第1層：中近世包含層)
- 4) 2.5Y7/1 灰白色 中砂～細砂
- 7.5YR6/6 橙色 砂質シルトブロック40%程度入る しまり悪い(第2層：中世包含層)
- 5) 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト
- 2.5Y7/1 灰白色 中砂～細砂混じり粘土質シルト40%程度入る 径2cm未満の礫少量入る 管状鉄斑沈着  
(第2層：中世包含層)
- 6) 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂混じりシルト マンガン粒少量入る 径3cm未満の礫少量入る
- N7/0 灰白色 砂質シルト50%程度入る しまり悪い(第3-1層：中世前期包含層)

- 7) N7/0 灰白色 細砂混じり粘土質シルト 鉄分沈着 しまり悪い
- 7.5YR5/6 明褐色 細砂混じり粘土質シルト50%程度入る 径3cm未満の礫入る(第3-1層：中世前期包含層)
- 8) 5Y7/2 灰白色 細砂～極細砂混じりシルト 径3cm未満の礫多量入る しまり悪い
- 5Y6/1 灰色 細砂ブロック10%程度入る(第3-2層：古代流路堆積)
- 9) 10BG7/1 明青灰色 粘土質シルト混じり細砂～極細砂 乾痕あり 径3cm未満の礫多量入る  
(第3-2層：古代流路堆積)
- 10) 5Y5/1 灰色 極粗砂～粗砂混じりシルト 固くしまる 径1cm未満の礫少量入る マンガン粒入る  
管状鉄斑沈着 やや軟質(第4-1層：古墳時代後期包含層)

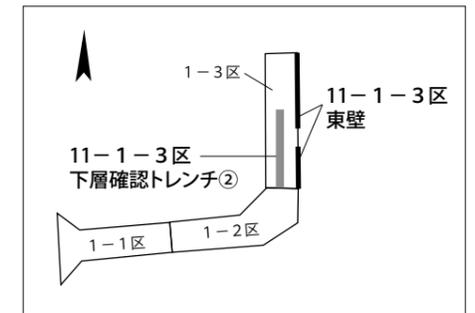
【11-1-1-3区 下層確認トレンチ②東壁】



【10-1-1-3区トレンチ東壁】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり粘土質シルト しまり悪い 軟質  
(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 2) 7.5Y3/2-5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 植物遺体多く入る(第4-1層：古墳時代後期包含層)
- 3) 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂混じり粘土～粘土質シルト
- 2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック10%程度入る  
植物遺体微量入る コハルト粒入る 軟質(第4-2層：古墳時代前期包含層)
- 4) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土
- 2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック10%程度入る 非常に軟質(第4-2層：古墳時代前期包含層)
- 5) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土(第6層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 2.5Y6/1 黄灰色 粘土ブロック40%程度入る
- 2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック10%程度入る 軟質
- 6) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土(第6層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 5Y4/1 灰色 粘土ブロック5%程度入る
- 2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック10%程度入る 軟質 ややしまる

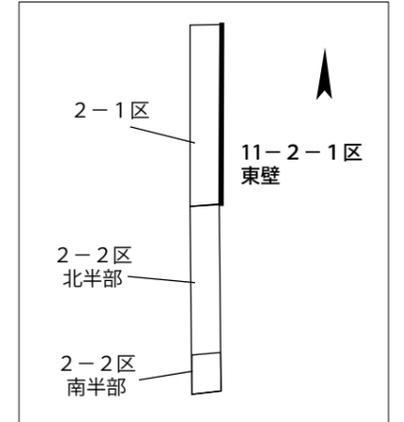
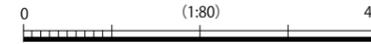
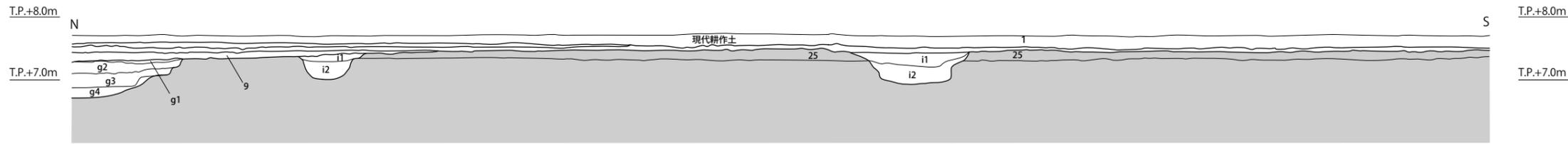
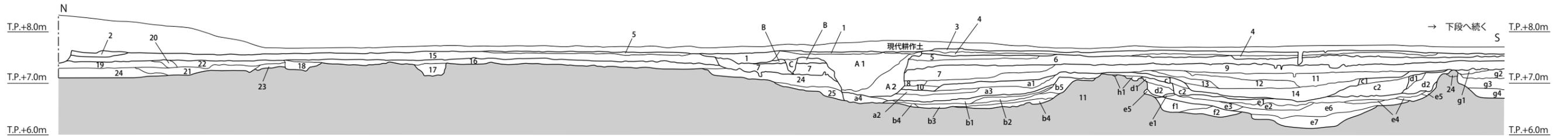
- 7) 5Y2/1 黒色 粘土(第7層：湿地状堆積)
- 5Y4/1 灰色 粘土ブロック10%程度入る 非常に軟質
- 8) 7.5Y2/1 黒色 粘土 径0.3cm未満の礫微量入る(第7層：湿地状堆積)
- 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る 非常に軟質
- 9) 2.5Y2/1 黒色 粘土(第7層：湿地状堆積)
- 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る 軟質
- 10) 5Y2/1 黒色 粘土 下層ブロック10%入る 軟質 下位に向かって淡色化(第7層：湿地状堆積)
- 11) 7.5Y2/1 黒色 粘土 植物遺体微量入る(第7層：湿地状堆積)
- 12) 5Y2/1 黒色 粘土 植物板少量入る 軟質(第7層：湿地状堆積)
- 13) 10YR1.7/1 黒色 粘土 炭・植物多量入る 下位に向かって淡色化 非常に軟質(第7層：湿地状堆積)
- 14) N7/0-5B7/1 灰白色～明青灰色 粘土質シルト 径3cm未満の礫少量入る しまり良い(地山)



第10図 調査区壁断面図(3)



【11-2-1区東壁】



【10-1-2-1区東壁】

- 1) 10YR7/6 明黄褐色 細砂～シルト (近現代洪水砂)
- 2) 10YR7/6 明黄褐色 砂質シルト  
10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト混じり粗砂 筋状に入る (第1層：中近世包含層)
- 3) 2.5Y4/6 オリーブ褐色 粘土質シルト マンガン粒・炭化粒入る 管状斑鉄沈着入 径1cm未満の礫少量入る (第2層：中近世包含層)
- 4) 2.5Y5/4 黄褐色 シルトブロックと  
2.5Y4/1 黄灰色 シルトブロックの混合層 やや軟質 鉄分沈着 径2cm未満の礫少量入る (第1層：中近世包含層)
- 5) 2.5Y6/2 灰黄色 粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い  
鉄分沈着 マンガン粒入る (第3層：古代包含層)
- 6) 10YR5/1 褐灰色 粗砂混じりシルト 径2cm未満の礫少量入る ややしまり悪い 管状斑鉄沈着 (第3層：古代包含層)
- 7) 10YR3/3 暗褐色 細砂混じり粘土質シルト  
7.5YR4/4 褐色 シルトブロック5%程度入る 鉄斑沈着 炭化粒・マンガン粒入る 黄色礫少量入る やや軟質 ややしまり悪い (第4層：古墳時代前期包含層)
- 8) 10YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト ややしまり悪い (第4層：古墳時代前期包含層)  
10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトブロック10%程度入る 炭化粒入る 管状斑鉄沈着 やや軟質
- 9) 10YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト ややしまり悪い (第4層：古墳時代前期包含層)  
10YR4/6 褐色 シルトブロック30%程度入る 炭化粒・マンガン入る やや軟質
- 10) 10YR3/2 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト やや軟質 炭化粒多量入る ややしまり悪い (第4層：古墳時代前期包含層)
- 11) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 管状斑鉄沈着 黄色礫微量入る  
7.5YR4/1 褐灰色 シルトブロック40%程度入る やや軟質 ややしまり悪い 炭化粒・マンガン粒少量入る (第3層：古墳時代前期包含層)
- 12) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 上層に比べて軟質  
7.5YR4/1 褐灰色 シルトブロック30%入る 炭化粒多量入る (第4層：古墳時代前期包含層)
- 13) 7.5YR4/3 褐色 シルト 炭化粒・マンガン粒少量入る 黄色粒微量入る  
10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック30%程度入る 軟質 しまり悪い (第4層：古墳時代前期包含層)
- 14) 10Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト マンガン・炭化粒少量入る 管状斑鉄沈着  
5Y6/1 灰色 粘土ブロック5%程度入る 黄色礫微量入る (第4層：古墳時代前期包含層)
- 15) 10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト 径0.2cm未満礫入る  
10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 網目状に入る (第5層：古墳時代前期遺構面基盤層)
- 16) 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 径3cm未満の礫入る  
2.5Y7/4 浅黄色 砂質シルトブロック20%程度入る (第5層：弥生時代後期包含層)
- 17) 10YR4/2 灰黄褐色 細砂混じり粘土質シルト ややしまる マンガン粒少量入る (遺構埋土)
- 18) 2.5Y5/1 黄灰色 砂質シルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い (遺構埋土)

- 19) 10YR6/4 にぶい黄褐色 砂質シルト 細～極細砂多量入る  
10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック30%程度入る (第5層：弥生時代後期包含層)
- 20) 7.5YR5/6 明褐色 極細砂～粗砂
- 21) 10YR5/4 にぶい黄褐色 粗砂混じり粘土質シルト 径2cm未満の礫多量入る (遺構埋土)
- 22) 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 径3cm未満の礫少量入る
- 23) 上層に近似 ややしまり悪い
- 24) 7.5YR5/6 明褐色 細砂～極細砂混じり粘土質シルト (第5層下層：弥生時代後期包含層)  
10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 網目状に入る 植物系痕による攪乱あり
- 25) 5Y6/1 灰色 微砂混じり粘土質シルト 管状斑鉄沈着 マンガン粒入る  
2.5Y5/1 黄灰色 粘土ブロック20%程度入る 植物系痕による攪乱あり (第5層：弥生時代後期包含層)

【遺構埋土】

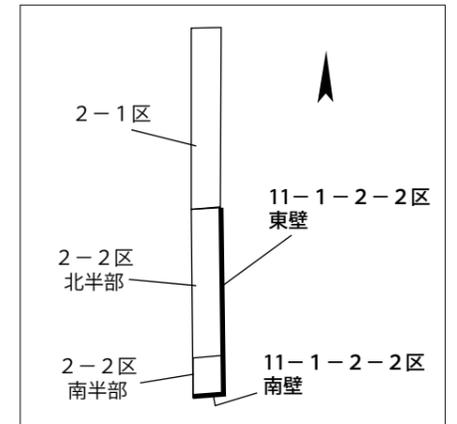
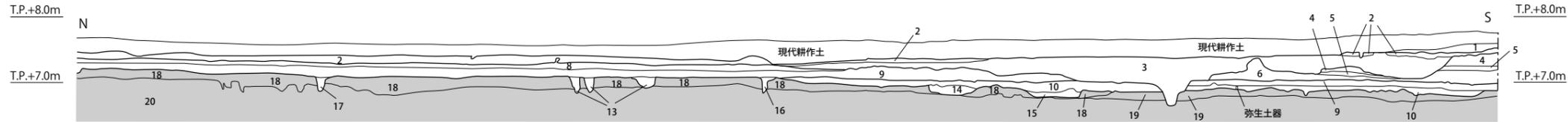
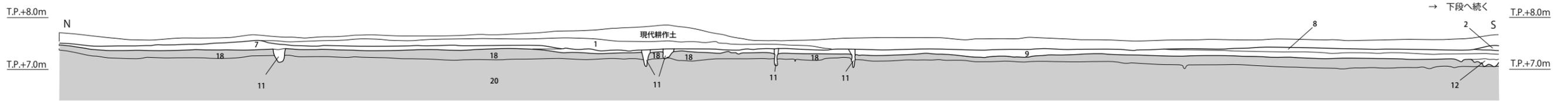
- A1) 2.5Y5/3 黄褐色 微砂混じりシルトブロック マンガン粒多量入る  
2.5Y6/3 にぶい黄色 粘土質シルトの混合層 径5cm未満の礫多量入る (近現代土坑)
- A2) 2.5Y5/1 黄灰色 細砂 径2cm未満の礫多量入る しまり悪い  
2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック10%程度入る (近現代土坑)
- B) 7.5YR4/4 褐色 礫混じりシルト 径2cm未満の礫多量入る 鉄分沈着 (近現代溝)
- C) 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂ブロックと  
2.5Y4/4 オリーブ褐色 粘土質シルトブロックの混合層 (近現代溝)
- a1) 10YR4/1 褐灰色 細砂混じり粘土質シルト 炭化粒上位に多量入る  
10YR4/4 褐色 シルトブロック10%程度入る 管状斑鉄僅かに沈着 マンガン粒少量入る  
10YR3/4 暗褐色 細砂混シルトブロック20%入る やや軟質 ややしまり悪い (202溝)
- a2) 10YR4/1 褐灰色 上層に近似 より軟質 炭化粒の含有量少ない (202溝)
- a3) 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る 炭化粒少量入る 黄色粒微量入る (202溝)
- a4) 2.5Y4/1 黄灰色 粗砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る  
2.5Y5/1 黄灰色 粘土ブロック30%程度入る 炭田粒・マンガン粒少量入る 管状斑鉄沈着 (202溝)
- b1) 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る 軟質 管状斑鉄少量沈着 (202溝)
- b2) 2.5Y3/2 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト  
5G4/1 暗緑灰色 微砂ブロック微量入る (202溝)
- b3) 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る  
5G4/1 暗緑灰色 粘土ブロック少量入る 木片入る 軟質 (202溝)
- b4) 2.5Y3/2 黒褐色 粗砂混じり粘土質シルト 径1cm未満の礫少量入る  
5Y6/1 灰色 微砂混じり粘土質シルトブロック10%程度入る (202溝)
- b5) 7.5YR4/4 褐色 シルト  
10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック30%程度入る やや軟質 (202溝)

- c1) 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり粘土質シルト 軟質 しまり悪い 黄色礫微量入る (206溝)  
5YR3/3 暗赤褐色 細砂混じり粘土質シルトブロック5%程度入る 炭化粒・マンガン多量入る
- c2) 上層に近似 さらに軟質 径0.5cmの礫少量入る 黄色粒少量含む しまり悪い (206溝)
- d1) 10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂混じり粘土質シルト  
10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック10%程度入る マンガン粒入る (206溝)
- d2) 10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂混じり粘土質シルト  
10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック30%程度入る マンガン粒入る 地山ブロック10%程度入る (206溝)
- e1) 2.5Y4/1 黄灰色 微砂混じり粘土 径1cm未満の礫多量入る  
2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂ブロック30%程度入る 土器片出土 軟質 しまり悪い (206溝)
- e2) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト～粘土 緑色粒少量入る  
2.5Y3/1 黒褐色 粗砂ブロック30%入る 軟質 しまり悪い (206溝)
- e3) 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂混シルト 軟質 しまり悪い  
2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック10%程度入る 径0.5cm未満の礫微量入る (206溝)
- e4) 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂と 2.5Y4/1 黄灰色 粘土の互層 径0.5cm未満の礫下位に入る 黄色礫少量入る やや軟質 ややしまり悪い (206溝)
- e5) 2.5Y3/2 黒褐色 粘土  
2.5Y4/1 黄灰色 粗砂の流入あり 地山ブロック10%程度入る (206溝)
- e6) 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘土質シルト 径2cm未満の礫多量入る しまり悪い  
5YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土ブロック10%程度入る (206溝)
- e7) 5YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土 軟質 植物遺体多量入る 径1cm未満の礫少量入る (206溝)
- f1) 2.5Y4/1-4/2 黄灰色～暗灰黄色 細砂～粗砂 (206溝)
- f2) 7.5Y3/1-2/1 オリーブ黒褐色～黒色 微砂～シルトと細砂の互層 植物遺体多量入る 径1cmの礫少量入る (206溝)
- g1) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 管状斑鉄沈着 ややしまり悪い 炭化粒少量入る (216溝)
- g2) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 上層に比べて軟質  
7.5YR4/1 褐灰色 シルトブロック30%入る 炭化粒多量入る (216溝)
- g3) 7.5YR4/3 褐色 シルト 炭化粒・マンガン粒少量入る 軟質 しまり悪い (216溝)
- g4) 10Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト マンガン粒・炭化粒少量入る 管状斑鉄沈着 (216溝)
- h) 2.5Y4/4 オリーブ褐色 粗砂混じり粘土 マンガン粒入る  
2.5Y5/1 黄灰色 粘土ブロック20%程度入る しまり良い (205溝)
- i1) 10YR2/2 黒褐色 粗砂混じり粘土質シルト  
10YR4/2 灰黄褐色 粘土ブロック10%程度入る しまり良い 軟質 (周溝2)
- i2) 10YR3/1 黒褐色 粗砂混じり粘土質シルト 管状斑鉄沈着  
10YR5/2 灰黄褐色 粘土ブロック10%程度入る ややしまる やや軟質 (周溝2)

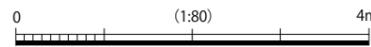
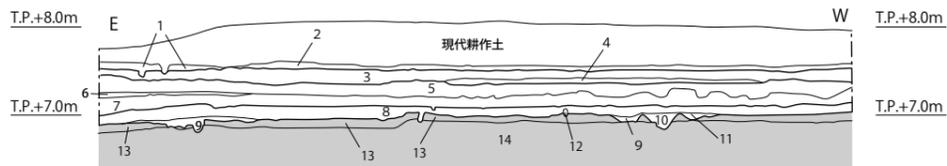
第 11 図 調査区壁断面図 (4)



【11-1-2-2区東壁】



【11-1-2-2区南壁】



【10-1-2-2区東壁】

- 1) 10YR5/1-5/3 褐灰色〜にぶい黄褐色 礫混じりシルト マンガン粒入る 管状斑鉄沈着  
しまり悪い 近代〜近世整地層 (近現代耕作土)
- 2) 10YR4/1 褐灰色 細砂混じり粘土質シルト マンガン粒入る 管状斑鉄沈着 ややしまる  
10YR4/2 灰黄褐色 シルトブロック5%程度入る やや軟質 (近代以後耕作土)
- 3) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 礫混じり粗砂〜シルト 径4cm未満の礫多量入る 鉄斑沈着  
しまり悪い (近代以後洪水砂)
- 4) 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂混じりシルト 径2cm未満の礫多量入る  
2.5Y5/1 黄灰色 微砂ブロック10%程度入る やや軟質 しまり良い  
(第2層: 古代流路堆積 10-1-1区の第3-2層に相当)
- 5) 2.5Y5/1 黄灰色 細砂混じりシルト 径2cm未満の礫多量入る ややしまり悪い
- 6) 5Y4/2 灰オリーブ色 細砂混じり粘土質シルト 管状斑鉄沈着 やや軟質  
炭化粒・マンガン粒入る しまり悪い
- 7) 10YR5/1 褐灰色 粗砂混じりシルト 径2cm未満の礫少量入る ややしまり悪い  
管状斑鉄沈着 (第3層: 古代包含層)
- 8) 10YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土  
10YR2/1 黒色 粘土ブロック5%程度入る 管状斑鉄沈着 (第3層: 古墳時代前期包含層)
- 9) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る  
2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック10%程度入る 管状斑鉄沈着 軟質 ややしまる  
(第4層: 古墳時代前期包含層)
- 10) 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 管状斑鉄沈着 やや軟質 ややしまる  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック30%程度入る (遺構埋土)
- 11) 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト混じり極細砂 マンガン粒入る  
10YR4/6 褐色 粘土質シルトブロック ややしまる (遺構埋土)
- 12) 2.5Y4/4 オリーブ褐色 粗砂混じり粘土質シルト マンガン粒入る 鉄分沈着  
2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック10%程度入る ややしまり悪い (遺構埋土)
- 13) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルトブロック10%程度入る  
2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック2%程度入る 炭化粒入る やや軟質 (遺構埋土)

- 14) 5Y4/1 灰色 粘土 しまり悪い  
5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土ブロック20%程度入る (遺構埋土)
- 15) 5Y4/1 灰色 粘土  
地山ブロック30%程度入る ややしまる 軟質 (遺構埋土)
- 16) 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり粘土 しまり悪い 管状斑鉄沈着 炭化粒入る  
2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック10%程度入る やや軟質 (遺構埋土)
- 17) 2.5Y4/4-5/4 オリーブ褐色〜黄褐色 細砂混じり粘土 よくしまる
- 18) 2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり粘土 やや軟質 しまり悪い 管状斑鉄沈着 炭化粒入る  
2.5Y2/1 黒色 粘土10%程度網の目状に入る (第6層: 地山)
- 19) 5Y4/1 灰色 粘土  
5Y5/1 灰色 粗砂混じり粘土30%程度網の目状に入る (第6層: 地山)
- 20) 2.5Y4/1 黄灰色 粘土  
2.5Y3/1 黒褐色 粘土30%程度網の目状に入る 軟質 よくしまる (第6層: 地山)

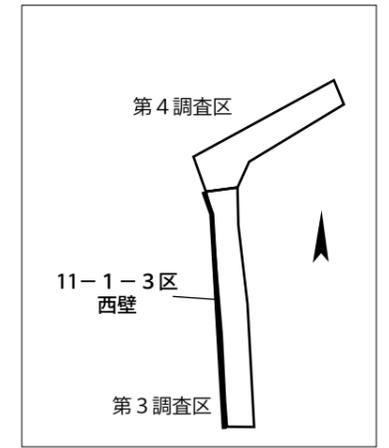
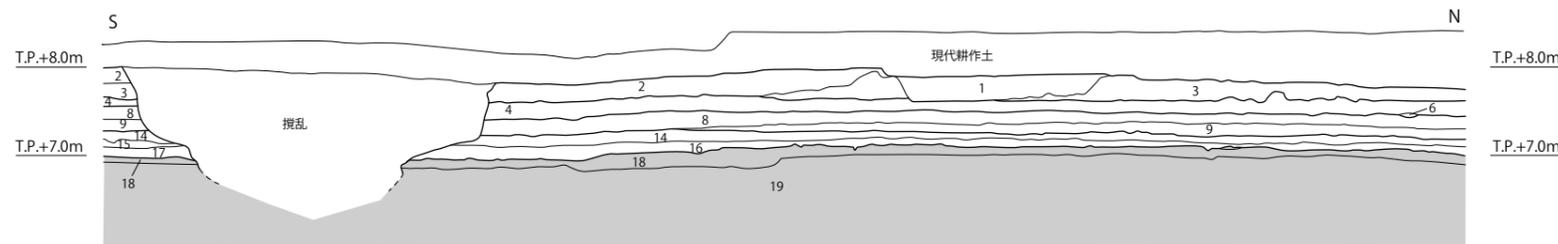
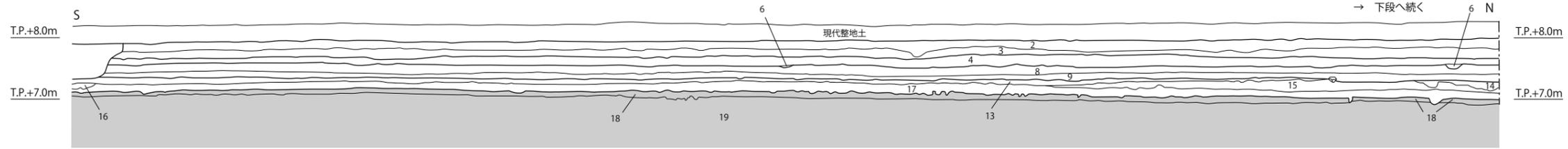
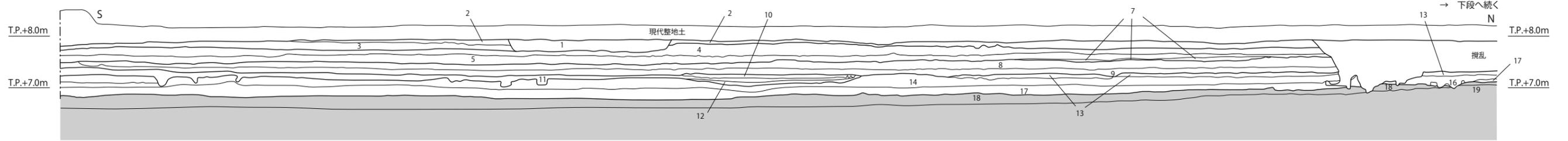
【10-1-2-2区南壁】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じりシルト 径1cm未満の礫少量入る しまり悪い  
やや軟質 (近現代耕作土)
- 2) 2.5Y5/4 黄褐色 粗砂混じり粘土質シルト 径2cm未満の礫微量入る  
鉄分沈着の為褐色化する部位あり (近現代耕作土)
- 3) 2.5Y5/3 黄褐色 細砂混じり砂質シルト 径1cm未満の礫少量入る やや軟質  
2.5Y5/1 黄灰色 微砂ブロック20%程度入る マンガン粒・炭化粒入る (第1層: 中近世包含層)
- 4) 2.5Y4/2 暗灰黄色 微砂混じり粘土質シルト 同色粗砂ブロック10%程度入る  
径1cm未満の礫少量入る やや軟質 (第1層: 中近世包含層)
- 5) 2.5Y4/2 暗灰黄色 細砂混じりシルト  
2.5Y5/1 灰色 微砂ブロック10%程度入る 2cm未満の礫多量入る やや軟 しまり良い  
(第3層: 古代流路堆積)
- 6) 2.5Y5/1 灰色 細砂混じりシルト 径2cm未満の礫多量入る ややしまり悪い
- 7) 5Y4/2 灰オリーブ色 細砂混じり粘土質シルト 上位に粗砂入る 管状斑鉄沈着  
炭化粒・マンガン粒入る しまり悪い やや軟質

第12図 調査区壁断面図(5)



【11-1-3区西壁】



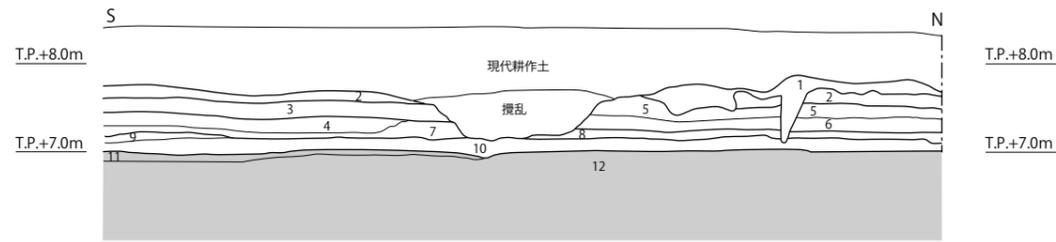
【10-1-3区西壁】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 2.5Y5/4 黄褐色 シルトブロックと<br/>2.5Y4/1 黄灰色 シルトブロックの混合層 やや軟質 鉄分沈着 径2cm未満の礫多量入る (近世以後土坑埋土)</p> <p>2) 2.5Y3/1 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト<br/>2.5Y4/1 黄灰色 シルトブロック30%程度網の目状に入る マンガン粒入る 鉄分沈着 軟質 しまりやや悪い (近現代耕作土)</p> <p>3) 2.5Y6/3 にぶい黄色 微~細砂 波状ラミナあり 管状斑鉄沈着 マンガン粒入る (近世以後洪水砂)</p> <p>4) 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土質シルト マンガン粒入る 鉄分沈着 ややしまる やや軟質 (第1層:中近世包含層)</p> <p>5) 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じり粘土質シルト 白色礫微量入る しまり悪い 径0.2cm未満の礫少量入る (第1層:中近世包含層)</p> <p>6) 2.5Y5/1 黄灰色 細砂混じりシルト 径0.5cm未満の礫少量入る しまり悪い<br/>2.5Y5/2 暗灰黄色 シルトブロック20%程度入る 管状斑鉄沈着 マンガン粒入る (遺構埋土)</p> <p>7) 10YR5/6 黄褐色 細砂~微砂混じりシルト~シルト 径0.5cm未満の礫多量入る 鉄分沈着 (第1層:中近世包含層)</p> <p>8) 5Y5/1 灰色 粘土 管状斑鉄沈着 マンガン粒入る しまり良い 軟質 (第3層:古代包含層)</p> <p>9) 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る 植物遺体入る 管状斑鉄沈着 下位に礫の流入あり (第3層:古代包含層)</p> <p>10) 7.5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じり粘土 しまり良い 管状斑鉄沈着<br/>7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック20%程度入る (遺構埋土)</p> <p>11) 10YR2/2 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト 径0.2cm未満の礫少量入る ややしまる (第4層:古墳時代前期包含層)</p> | <p>12) 10YR4/3 にぶい黄褐色 粗砂混じりシルト<br/>10YR5/2 灰黄褐色 シルトブロック10%程度入る ややしまり悪い やや軟質 (遺構埋土)</p> <p>13) 2.5Y4/1 黄灰色 微砂混じり粘土 マンガン粒入る 鉄分沈着 ややしまる やや軟質 (第5層:弥生時代後期包含層)</p> <p>14) 2.5Y4/1 黄灰色 微砂混じり粘土~粘土質シルト マンガン粒入る 管状斑鉄沈着 径0.3cm未満の礫少量入る ややしまる 軟質 (第5層:弥生時代後期包含層)</p> <p>15) 2.5Y3/1-3/2 黒褐色 細砂混じり粘土 ややしまる<br/>2.5Y4/1 黄灰色 シルトブロック30%程度網ノ目状に入る30% マンガン粒入る 鉄分沈着 軟質 (第5層:弥生時代後期包含層)</p> <p>16) 10YR4/2 灰黄褐色 礫混じり砂質シルト 径1cm未満の黄色礫多量入る ややしまる 鉄分僅かに沈着<br/>10YR4/2 灰黄褐色 シルトブロック10%程度入る (遺構埋土)</p> <p>17) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土~粘土質シルト しまり悪い やや軟質 (第5層:弥生時代後期包含層)</p> <p>18) 5Y5/1-5/3 灰色~灰オリーブ色 粗砂混じり粘土<br/>5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック10%程度入る 軟質 ややしまり良い (第6層:弥生時代後期遺構面基盤層)</p> <p>19) 5Y2/1 黒色 微砂混じり粘土 上位に管状斑鉄沈着 上層ブロック30%程度入る (第7層:湿地状堆積)</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第13図 調査区壁断面図(6)



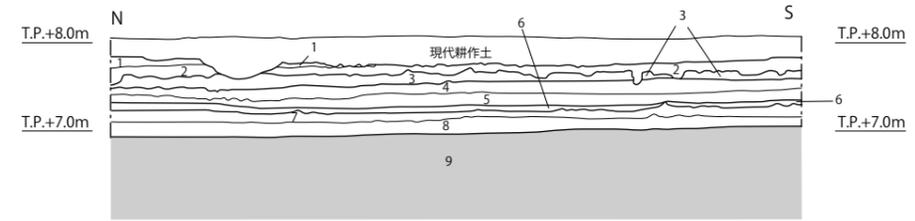
【11-1-4区西壁】



【11-1-4区西壁】

- 1) 2.5Y5/2 暗灰黄色 粘土質シルト マンガン粒入る 鉄分沈着 ややしまる やや軟質 (近世以後耕作土)
- 2) N7/0 灰白色 粘土質シルト混じり中砂～微砂 径0.2cm未満の礫少量入る 鉄分沈着 マンガン粒入る (近世以後洪水砂)
- 3) 5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じり粘土質シルト 白礫微量入る しまり悪い 径0.2cm未満の礫少量入る (近世以後整地層)
- 4) 5Y5/1 灰色 粘土 マンガン粒入る 鉄分沈着 しまり良い (第2層：中世包含層)
- 5) 5BG6/1 青灰色 粘土質シルト混じり極細砂 細砂多量入る 管状斑鉄沈着 (第2層：中世包含層)
- 6) 10BG6/1 青灰色 粘土混じり極細砂 管状斑鉄沈着 (第2層：中世包含層)
- 7) 10BG6/1 青灰色 粘土混じりシルト 極細砂微量入る 管状斑鉄沈着 (第2層：中世包含層)
- 8) 5B6/1 青灰色 粘土混じりシルト 極細砂微量入る 管状斑鉄沈着 軟質 (第3層：古代包含層)
- 9) 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 径0.5cm未満の礫少量入る 植物遺体入る管状斑鉄沈着 径0.5cm未満の礫下に少量入る (第5層：弥生時代後期相当層)
- 10) 2.5Y4/2 暗灰黄色 微砂混じり粘土 管状斑鉄沈着 (第5層：弥生時代後期相当層)
- 11) 5Y5/1-5/3 灰色～灰オリーブ色 粗砂混じり粘土
  - 7.5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土 ややしまる (第6層：弥生時代後期遺構面基盤層)
- 12) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 しまりやや強い (第7層：湿地状堆積)

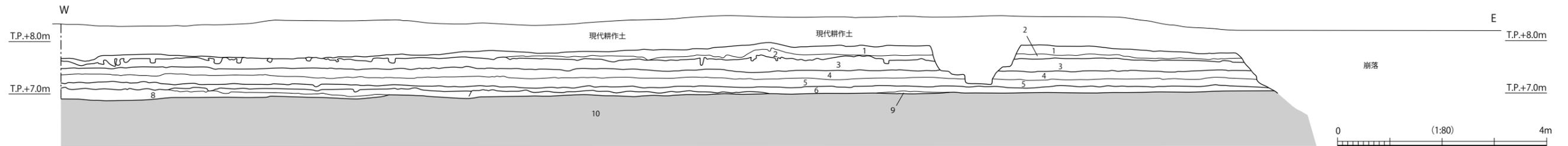
【11-1-4区東壁】



【11-1-4区東壁】

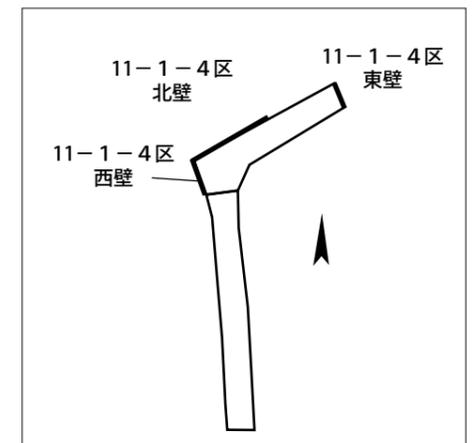
- 1) N7/0 灰白色 粘土質シルト混じり中砂 径0.2cm未満の礫入る 鉄分沈着 マンガン粒入る (近世以後洪水砂)
- 2) 10YR8/6 黄橙色 粘土質シルト混じり中～細砂
  - 10BG7/1 明青灰色 粘土質シルト混じり中砂10%程度入る マンガン粒入る やや軟質 (近世以後整地層)
- 3) N7/0 灰白色 粘土 マンガン粒入る
  - 10YR8/6 黄橙色 粘土質シルト混じり極細砂ブロック50%程度入る やや軟質 (第1層：中近世包含層)
- 4) N7/0 灰白色 粘土混じり極細砂 マンガン粒入る 管状斑鉄沈着 (第2層：中世包含層)
- 5) N7/0 灰白色 粘土混じり極細砂 マンガン粒入る 管状斑鉄多量沈着 (第2層：中世包含層)
- 6) 5Y7/1 灰白色 粘土混じり極細砂 固くしまる
  - 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルトブロック20%程度入る 管状斑鉄沈着 マンガン粒少量入る (第3層：古代相当層)
- 7) 5B7/1 明青灰色 粘土
  - 10Y5/1 灰色 粘土混じり極細砂5%程度入る 管状斑鉄沈着 (第5層：弥生時代後期相当層)
- 8) N6/0 灰色 粘土 管状斑鉄少量沈着 (第6層：弥生時代後期遺構面基盤層)
- 9) 5Y5/1-3/1 灰色～オリーブ黒色 粘土 しまりやや強い (第7層：湿地状堆積)

【11-1-4区北壁】



【11-1-4区北壁】

- 1) N7/0 灰白色 粘土質シルト混じり中砂～微砂 径0.2cm未満の礫少量入る 鉄分沈着 マンガン粒入る (近世以後洪水砂)
- 2) 5Y6/1 灰色 粘土質シルト混じり極細砂 軟質 (近世以後整地層)
- 3) 5B7/1 明青灰色 粘土質シルト 極細砂微量入る 管状斑鉄沈着 炭化物粒入る 非常に軟質 (第1層：中近世包含層)
- 4) 5B7/1 明青灰色 粘土混じり極細砂 管状斑鉄沈着 植物遺体入る よくしまる (第2層：中世包含層)
- 5) 5B6/1 青灰色 粘土 よくしまる (第2層：中世包含層)
- 6) N6/0 灰色 粘土 炭化物粒微量入る ややしまり悪い (第3層：古代相当層)
- 7) 5Y6/1 灰色 粘土
  - 5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック10%程度入る (第5層：弥生時代後期相当層)
- 8) 5Y4/1 灰色 粘土混じり極細砂
  - 5Y5/2 灰オリーブ色 粘土10%程度入る (第5層：弥生時代後期相当層)
- 9) 7.5YR5/6 明褐色 極粗砂～細砂 径2cm未満の礫入る (第5層：弥生時代後期相当層)
- 10) 5Y5/1-3/1 灰色～オリーブ黒色 粘土 しまりやや強い (第6層：湿地状堆積)



第14図 調査区壁断面図(7)



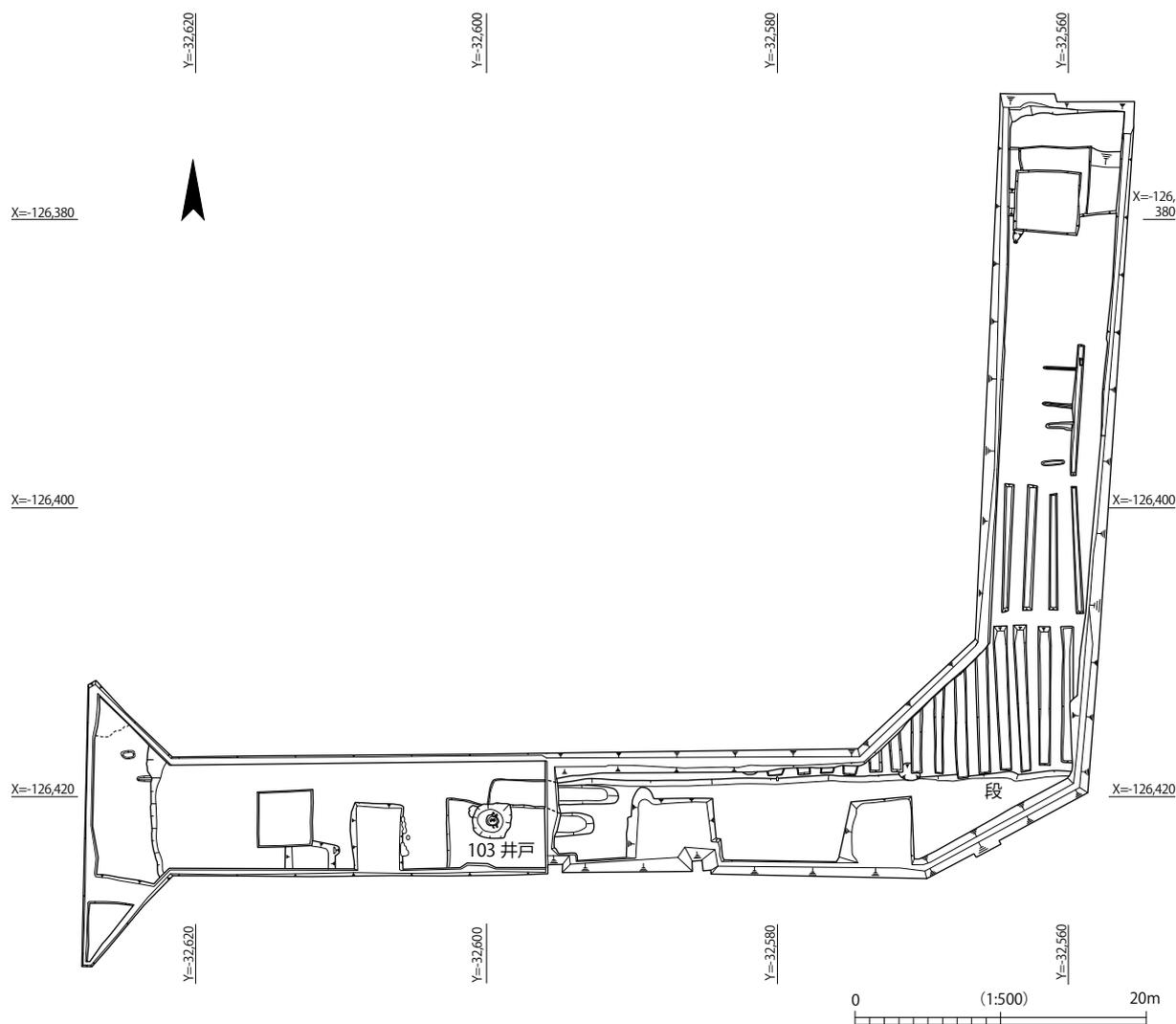
## 第2節 11-1-1区の遺構と遺物

**第1遺構面** 11-1-1区の第1遺構面は、第1層を除去して検出した遺構面である（第15図）。標高は、T.P.+6.8m～+7.5mを測る。段整形により調査区の南東部を0.3m程度下げる。これ以外は、ほぼ平坦である。11-1-1-1区西端の微高地では、この段階で地山が一部露出した。

第1遺構面では、鋤溝、井戸を伴う水田跡を検出した。遺構面を覆う第1層からは、古代～近世までの遺物が出土したが、近世の遺物は層上位または上面からの攪乱埋土に属するものが多く、遺構面付近では古代～中世の遺物が出土する割合が高い。このため、第1遺構面は中世以後の耕作地であると認識する。なお、第1層の上面から切り込む方形土坑からは、銭貨「寛永通宝」が出土した（第17図9）。

**103井戸** 11-1-1-1区中央東辺において検出した遺構である（第15・16図）。掘り方の平面形状は不定形、南北長2.2m、東西幅2.3mを測る。ほぼ中央に直径80cmを測る桶の側板を据えた井戸枠を設け、上位に人頭大の石を配している。ただしこの石は、後世に掘られた灌漑用土坑によって攪乱を受けるため、原位置を保つものではない。

掘り方の埋土はブロック土を多く含む混合層、井戸枠内部は粗砂が充填されている。桶枠を用いることから中世後半以後の遺構であると考えられるが、井戸枠内からの遺物が確認できていないため、詳細



第15図 11-1-1区 第1遺構面 全体図

な掘削年代は不明である。井戸枠の樹種はすべてスギ、墨書等は確認できなかった。

なお今回の調査では、井戸の掘り方埋土を遺構面より2m程度まで掘り下げたが、底面の確認には至っていない。掘り方埋土からは須恵器の長頸壺が1点出土した(第17図5・図版16-1-7)。

第17図5は小型品で、頸部外面に2条の沈線を付す。一部に自然釉の付着が認められる。古代の製品であり、遺構の時期とはそぐわないため、掘り方掘削時に下層から混入したものと考えられる。

**包含層出土遺物** 第1遺構面の直上層である第1層からは、須恵器甕・杯蓋、土師器皿(灯明皿を含む)・羽釜、黒色土器椀、瓦器椀、瓦質土器火鉢、灰釉陶器壺、瀬戸美濃焼猪口・面子(翁の顔を模したもの)、唐津焼鉢、備前焼播鉢、青磁壺の脚部、染付碗、平瓦の破片等が出土した(第17図)。

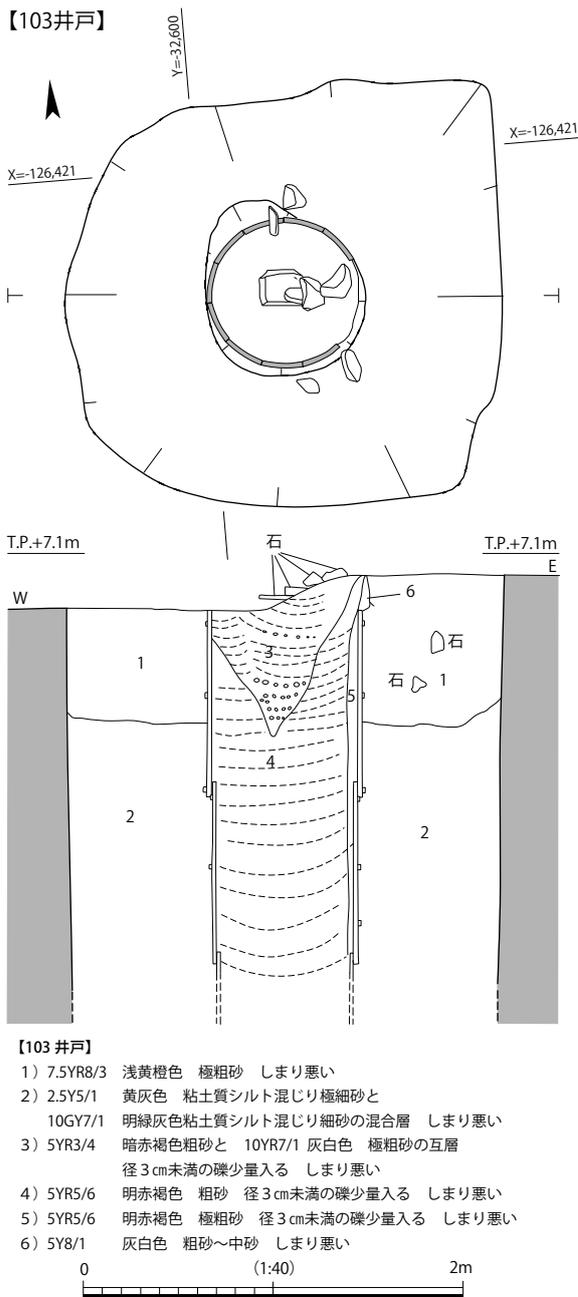
第17図1・2は染付碗の底部である。ともに見込み部に蛇ノ目釉剥が認められる。

第17図3は、青磁皿である。口縁端部に刻み目、口縁内面に蓮弁状の陰刻を施す。

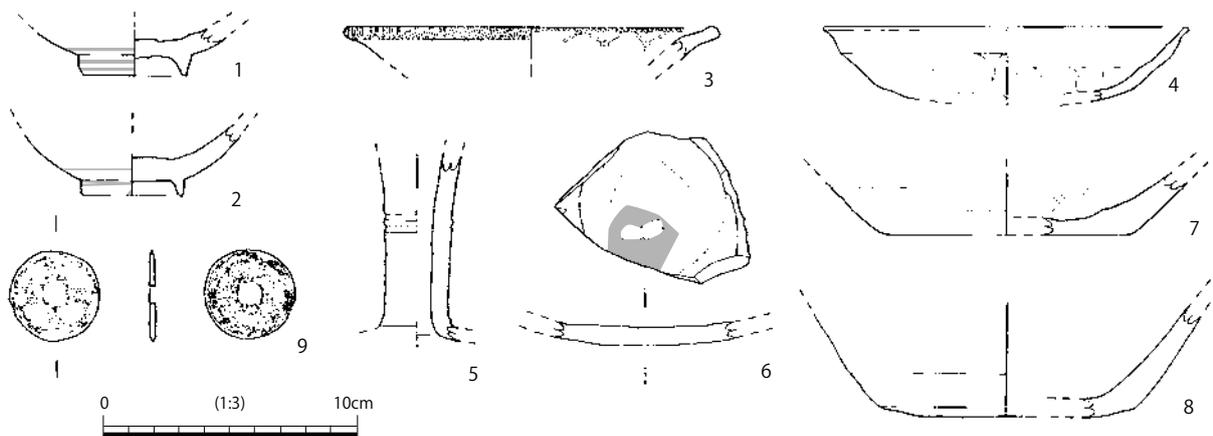
第17図4は、土師器皿である。器壁は薄い、焼成は堅緻である。口縁部に強い一段ナデを施すため端部が玉縁状に残る。器壁内面にはハケ状工具の痕跡が横方向に、また底部内面には指オサエが認められる。中世後期の製品である。

第17図6は、須恵器杯の底部で、内面に墨痕を残す。底部外面はヘラケズリ、内面は円を描くようにユビナデを施す。古墳時代～古代の製品か。

【103井戸】



第16図 11-1-1区 第1遺構面 遺構平面断面図



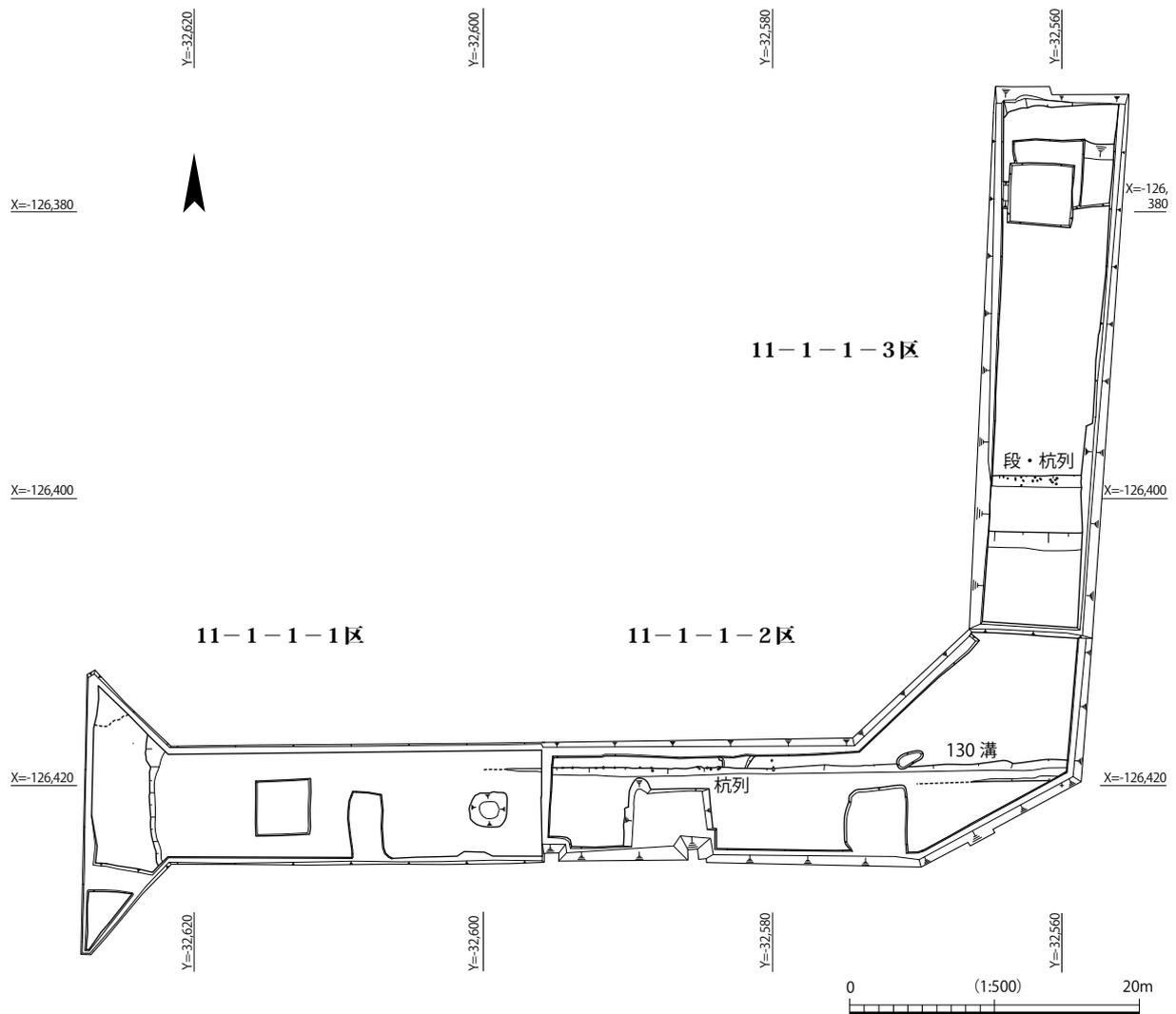
第17図7は、須恵器の杯もしくは椀の底部である。底部外面にヘラケズリを施す。古代の製品である。

第17図9の銭貨「寛永通宝」は「古寛永」の一類で、吉田銭（三河吉田で鑄造）・高田銭（越後高田で鑄造）に書体が似る。初鑄年は1637年（寛永十四年）である。

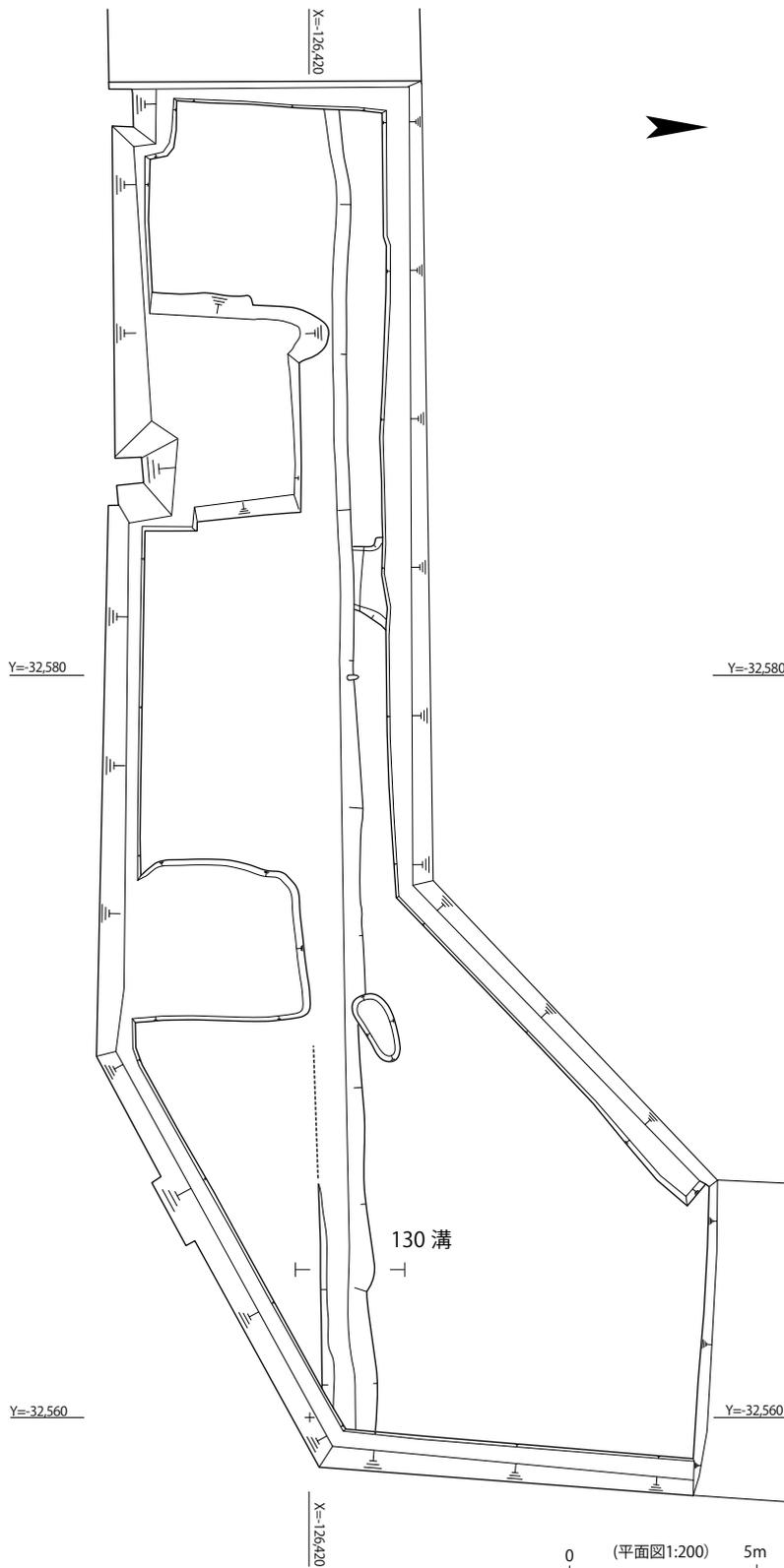
**第2遺構面** 中世後期包含層である第2層を除去して検出した遺構面である（第18図）。遺構面の標高はT.P.+6.8m～+7.5m、微高地斜面にあたる11-1-1-1区西端部と11-1-1-3区北端部では、遺構面のレベルは上面と変わらない。低地にあたる11-1-1-2区付近の落ち込みがやや顕著となる。

第2遺構面では、地盤高の変化点において、段や杭列、溝を検出した。遺構面を覆う第2層からの出土遺物は寡少であるが、概ね15世紀までの遺物を包含する。このため、第2遺構面の時期は、中世後期と推定される。

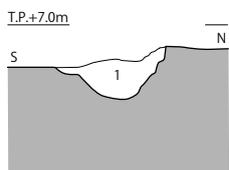
**130溝** 11-1-1-2区の中央を東西方向に通る溝である（第18図・第19図）。検出長は約40m、西端は11-1-1-1区に連続し、東端は調査区外へ続く。最大検出幅は1.5m、断面形状は不定形で壁面に凹凸がある。最大深度は0.5mを測る。埋土は暗オリーブ灰色を呈するシルトを主体とする。礫や微砂を含むが、流水の痕跡は希薄である。遺物の出土は確認できていない。11-1-1-2区東



第18図 11-1-1区 第2遺構面 全体図



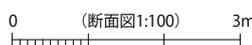
【130溝】



【130溝】

1) 5GY4/1

暗オリーブ灰色 微砂混じりシルト  
 径 0.5 cm未満の礫・炭化粒少量入る  
 やや軟質 しまり悪い



第 19 図 11-1-1 区 第 2 遺構面 遺構平面断面図

辺では明確な溝状遺構として残るものの、西側では南岸が削平を受けて、上端ラインが不明瞭となる。北岸と南岸では、0.2～0.3 m程度の比高差が認められる。

また、北岸の上端に沿って、杭の打ち込まれた箇所がある。北岸の上端は、上面では段が設けられていた位置と重なることから、同じく水田区画に伴う遺構であると考えられる。

**段・杭列** 11-1-1-3区では、東西方向に設けられた段と、これに沿って打ち込まれた杭列を検出した。斜面地を段及び土留め整形することにより、階段状に耕作地を形成した痕跡であると考えられる。

11-1-1-3区では、この段より上位の包含層は砂質度が高く、段下では粘性を増す。このため、段下では水田、段より上位では畑作等が行なわれていた蓋然性が高い。土地利用のあり方が異なっていた可能性がある。

**第 2 層出土遺物** 第 2 層からは、土師器皿、釜、須恵器杯・甕が出土した。第 17 図 8 は、須恵器鉢または甕の底部である。平底を備えるが、器壁の立ち上がりやや丸みを帯びる。器壁外面はケズリ、内面は斜め方向のユビナデを施す。古代の製品である。

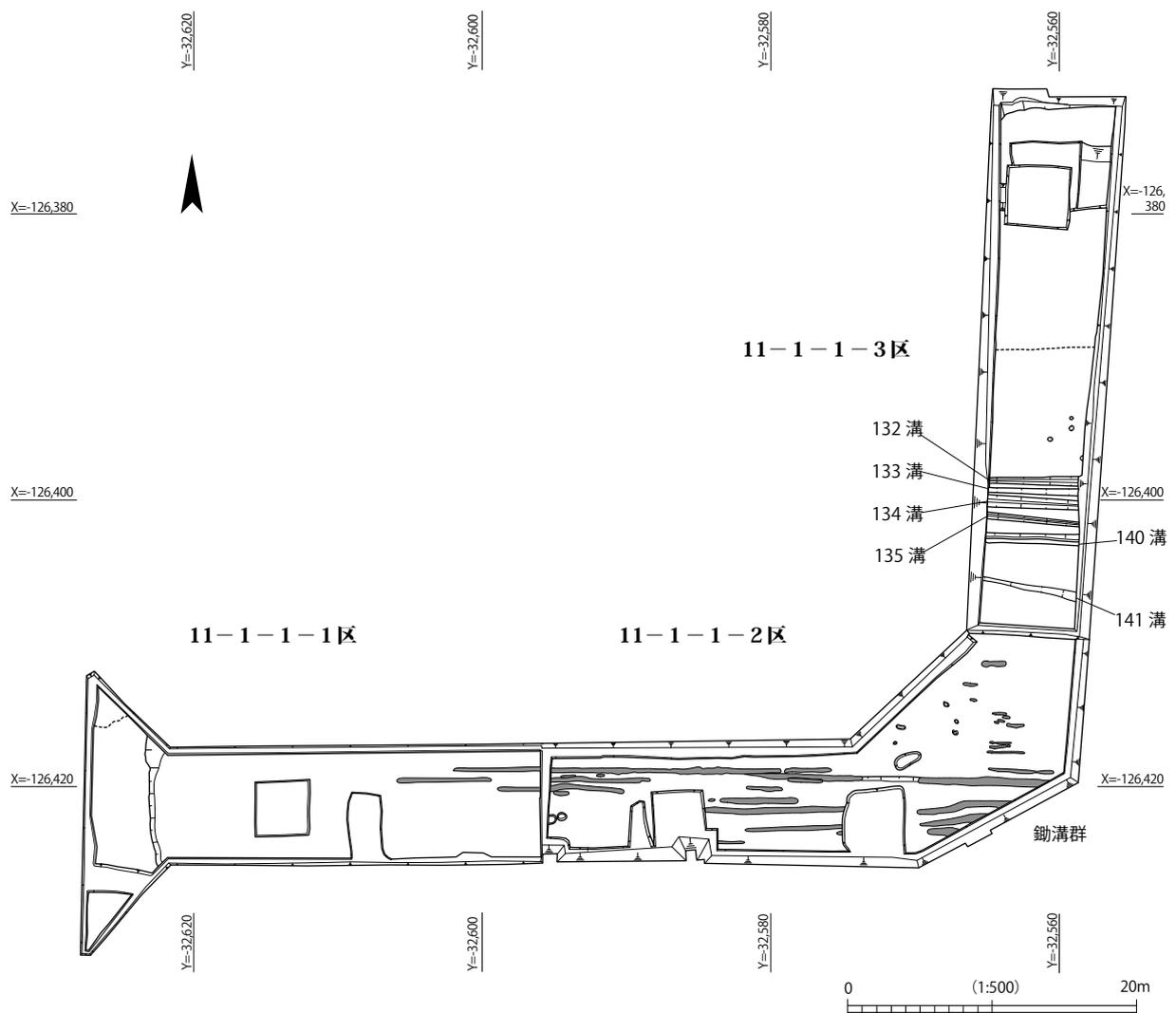
**第 3 遺構面** 第 3 層のうち、上層にあたる第 3-1 層を除去して検出した遺構面である（第 20 図）。標高は T.P.+6.4m～+7.5 m、上

面同様、北と西が高く、東南部である11-1-2区に向かって徐々に下がる。遺構面の基盤層は、地山である灰白色粘土質シルト、古墳時代包含層である褐色シルト質粘土（第4-1層）、古代洪水砂（第3-2層）と様々である。このうち、明確に当該期の遺構を判別できたのは、第3-2層の上面に限られる。

第3遺構面では、主に東西方向にのびる溝と鋤溝群、小ピットを検出した。第3-1層からは、弥生土器甕、須恵器杯、土師器皿・甕、黒色土器椀、瓦器椀が出土した。遺構面の時期は古代末～中世前半に位置づけられる。

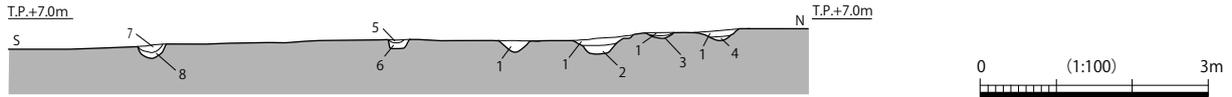
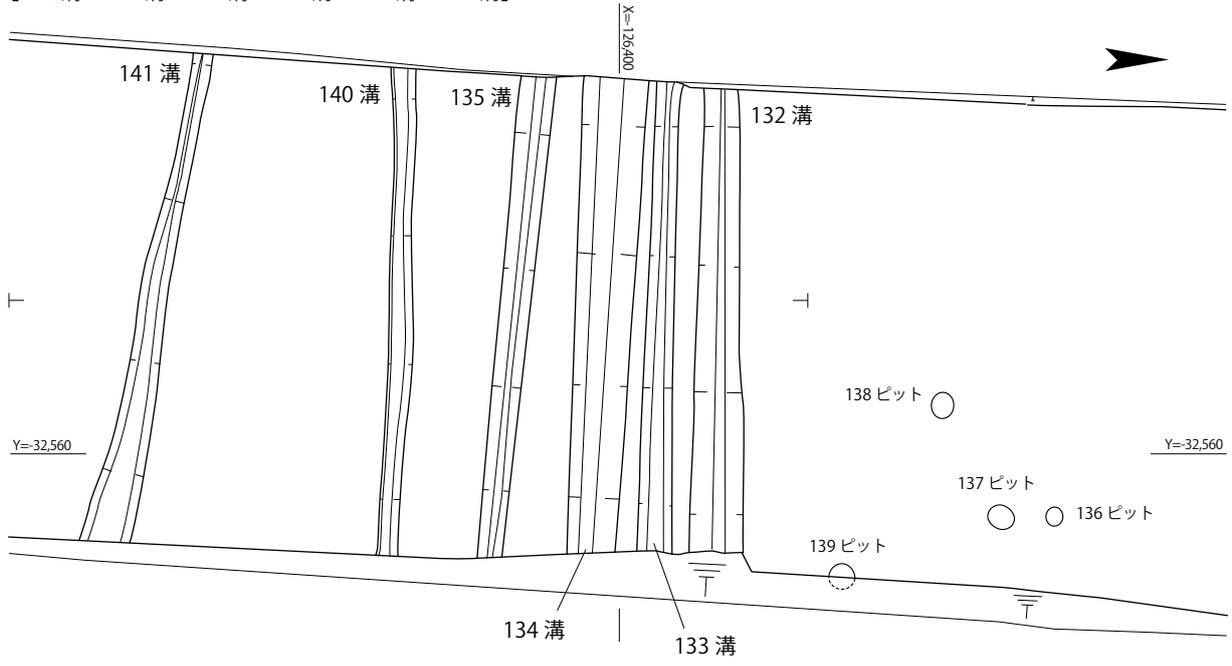
**132溝・133溝・134溝・135溝・140溝** 11-1-1-3区中央を東西方向に通る溝群である（第21図上段）。地形の変化点に位置しており、最も北に位置する132溝の北岸と、南に位置する140溝の南岸とは、0.2m程度の比高差がある。検出長は6.2～6.5m、すべて東西の調査区外へ続いている。

132溝は最大幅0.7m、最大深度0.15m、断面形状は椀形を呈する。133溝はやや浅く、最大幅0.45m、最大深度0.08m、断面形状は皿形を呈する。134溝は最も大型で、最大幅0.85m、最大深度0.2m、断面形状は部分的に段をもつため、逆凸形または逆台形を呈する。135溝は、他の溝とはやや方向軸を違えている。最大幅は0.45m、最大深度は0.15m、断面形状は椀形を呈する。140溝は最大幅0.3m、最大深度0.1m、断面形状は逆台形を呈する。



第20図 11-1-1区 第3遺構面 全体図

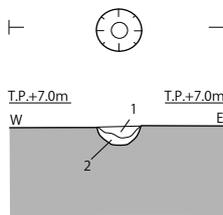
【132 溝・133 溝・134 溝・135 溝・140 溝・141 溝】



【132 溝・133 溝・134 溝・135 溝・140 溝・141 溝】

- |                                                 |                                                     |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1) N7/0 灰白色 細砂シルト混じり細砂～極細砂                      | 5) 10YR8/1 灰白色 細砂～極細砂混じりシルト<br>径 0.5 cm未満の礫入る       |
| 2) N6/0 灰色 中砂～細砂混じり粘土質シルト<br>径 3 cm未満の礫入る しまり悪い | 6) 10YR5/2 灰黄褐色 中砂～細砂混じりシルト<br>マンガン粒入る 径 3 cm未満の礫入る |
| 3) 7.5YR5/4 にぶい褐色 細砂～極細砂混じり粘土質シルト<br>しまり悪い      | 7) 5BG6/1 青灰色 細砂～極細砂混じりシルト しまり悪い                    |
| 4) N6/0 灰色 細砂～極細砂混じり粘土質シルト しまり悪い                | 8) 5BG6/1 青灰色 細砂～極細砂混じりシルト 軟質                       |

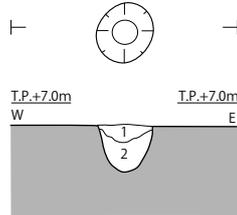
【136 ピット】



【136 ピット】

- 1) 10YR6/4 にぶい黄褐色  
細砂～極細砂  
径 0.5 cm未満の礫入る  
マンガン粒入る  
しまり悪い
- 2) 10YR6/2 灰黄褐色  
細砂～極細砂混じりシルト  
マンガン粒入る  
しまり悪い

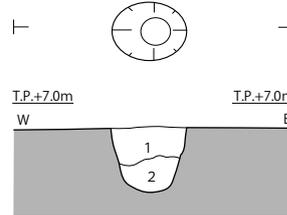
【137 ピット】



【137 ピット】

- 1) 10YR6/4 にぶい黄褐色  
細砂～極細砂  
径 0.5 cm未満の礫入る  
マンガン粒入る  
しまり悪い
- 2) 10YR6/2 灰黄褐色  
細砂～極細砂混じりシルト  
マンガン粒入る  
しまり悪い

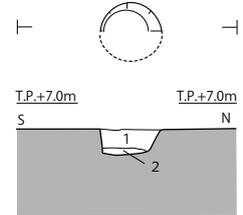
【138 ピット】



【138 ピット】

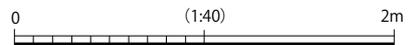
- 1) 10YR6/4 にぶい黄褐色  
中砂～細砂混じり粘土質シルト  
しまり悪い
- 2) N4/0 灰色  
中砂～細砂混じり粘土質シルト  
しまり非常に悪い

【139 ピット】



【139 ピット】

- 1) 7.5YR6/6 褐色  
細砂～極細砂  
径 0.5 cm未満の礫入る  
マンガン粒入る  
しまり悪い
- 2) 2.5YR6/1 黄灰色  
細砂～極細砂混じり  
粘土質シルト  
しまり弱い



第 21 図 11-1-1 区 第 3 遺構面 遺構平面断面図

これらの溝は、それぞれ埋土に差があることから、同時期に並存したとは考えにくい。地形の変化点に位置することから、耕作地の北岸を限る区画溝もしくは用水路として機能するものが、状況によって、ほぼ同じ場所に掘り直されたものではないかと捉えている。遺構内からは、須恵器壺、土師器甕の破片が出土した。

**141 溝** 11-1-1-3区南端部において検出した遺構である（第21図上段）。検出長は6.6m、最大幅0.6m、最大深度は0.18mを測る。方位西に対して10～12度北へ振った方向軸をもつ。断面形状は、調査区西端部では細くて深い楕円形を呈するが、東へ向かって広く浅く変化する。埋土は北に位置する他の溝群とは異なり、軟質である。性格は不明であるが、水田として利用されたと考えられる11-1-2区に近いので、耕作に伴う遺構である可能性が高い。遺物の出土は確認できなかった。

**136ピット・137ピット・138ピット・139ピット** 11-1-1-3区北半部において検出したピット群である（第21図下段）。すべて明確な掘り方をもつが、建物としての復元はできていない。

136ピットは直径0.23m、最大深度0.1mを測る浅い楕円形を呈する。遺物の出土はない。

137ピットは0.28～0.32mを測る楕円形の平面形状を呈する。最大深度は0.25m、断面形状はU字形を呈する。遺物の出土は確認できていない。

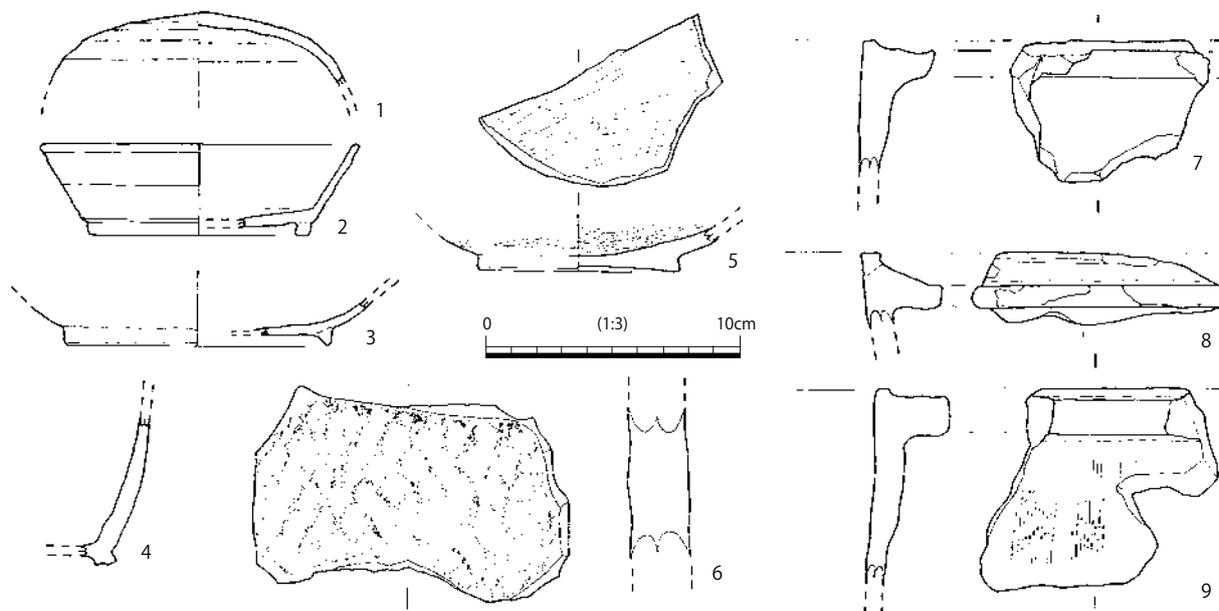
138ピットは、東西に長い楕円形を呈しており、最大径は0.38mを測る。最大深度は0.35m、断面形状は上位が開くU字形を呈する。遺物の出土は確認できていない。

139ピットは側溝掘削により東半部を欠損する。平面形状は、直径0.32mを測る円形に復元できる。最大深度は0.13m、断面形状は崩れた逆台形を呈する。埋土からは、土師器甕、黒色土器碗の底部、瓦器碗（楕葉型）の破片が出土した。

**第3-1層出土遺物** 第22図3は、土師器の杯である。摩滅のため調整は不明瞭である。底部に断面三角形の貼り付け高台をもつ。古代の製品である。

第22図6は、平瓦の一部である。上表面に斜め格子状の押し型圧痕が認められる。土師質で焼成は甘い。中世の製品である。

第22図7・9は、土師器羽釜の口縁から鏝にかけての部位である。口縁部の立ち上がりはともに短い。



第22図 11-1-1区 第3-1層・第3-2層 出土遺物実測図

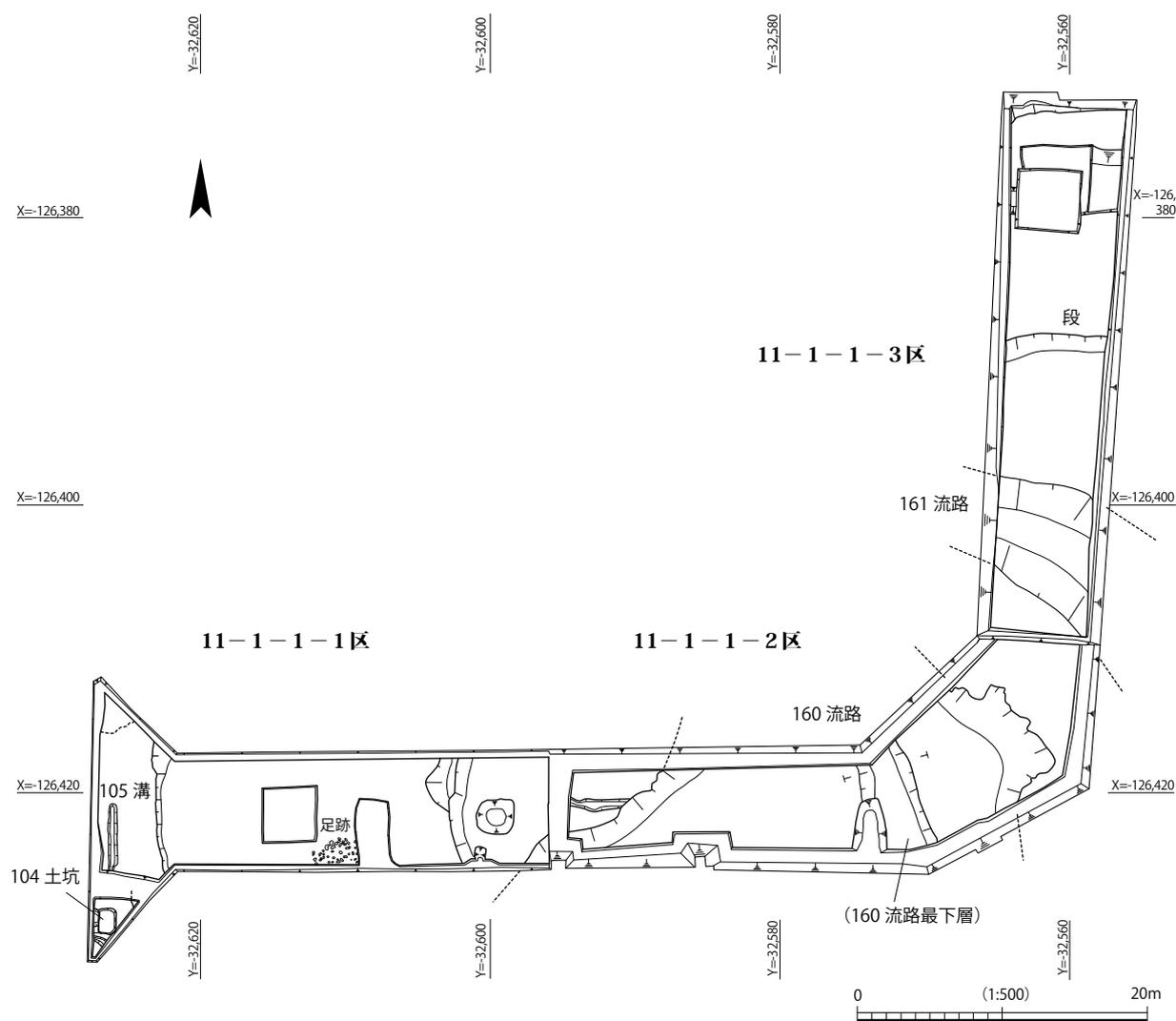
摂津C類と呼ばれる製品である。7は鏝の端部を上方へつまみ上げて尖らせる。摩滅のため調整は不明瞭である。9は、断面方形で厚い鏝をもつ。体部の外面には、縦方向のハケ調整を施す。内面の一部に黒色化が認められる。ともに、10世紀～11世紀の製品である。

**第4遺構面** 古代洪水砂である第3-2層を除去した段階で検出した遺構面である(第23図)。微高地である11-1-1-1区西端部及び、11-1-1-3区北端部の標高は変化しないが、流路の本筋にあたる11-1-1-2区では中央部が大きく落ち込む。

第4遺構面では、微高地斜面において土坑と溝を、低地において流路の跡を検出した。微高地の地盤は硬質であるが、流路へ近づくにつれて徐々に軟質となる。このため、土砂の流入以前から、付近の低地は湿地化が進んでいたと見られる。11-1-1-1区では、ヒトの足跡の集積を確認した。

第4遺構面を覆う第3-2層は、基本的に流路堆積とオーバーフローした砂礫層である。層内からの出土遺物は著しく摩滅を受けるものが多い。出土遺物は概ね10世紀を下限年代とすることから、遺構面の形成時期は、古代末期～中世初頭頃と推定される。

**104土坑** 11-1-1-1区西南端部で検出した遺構である(第24図)。平面形状は、南北長1.8m、



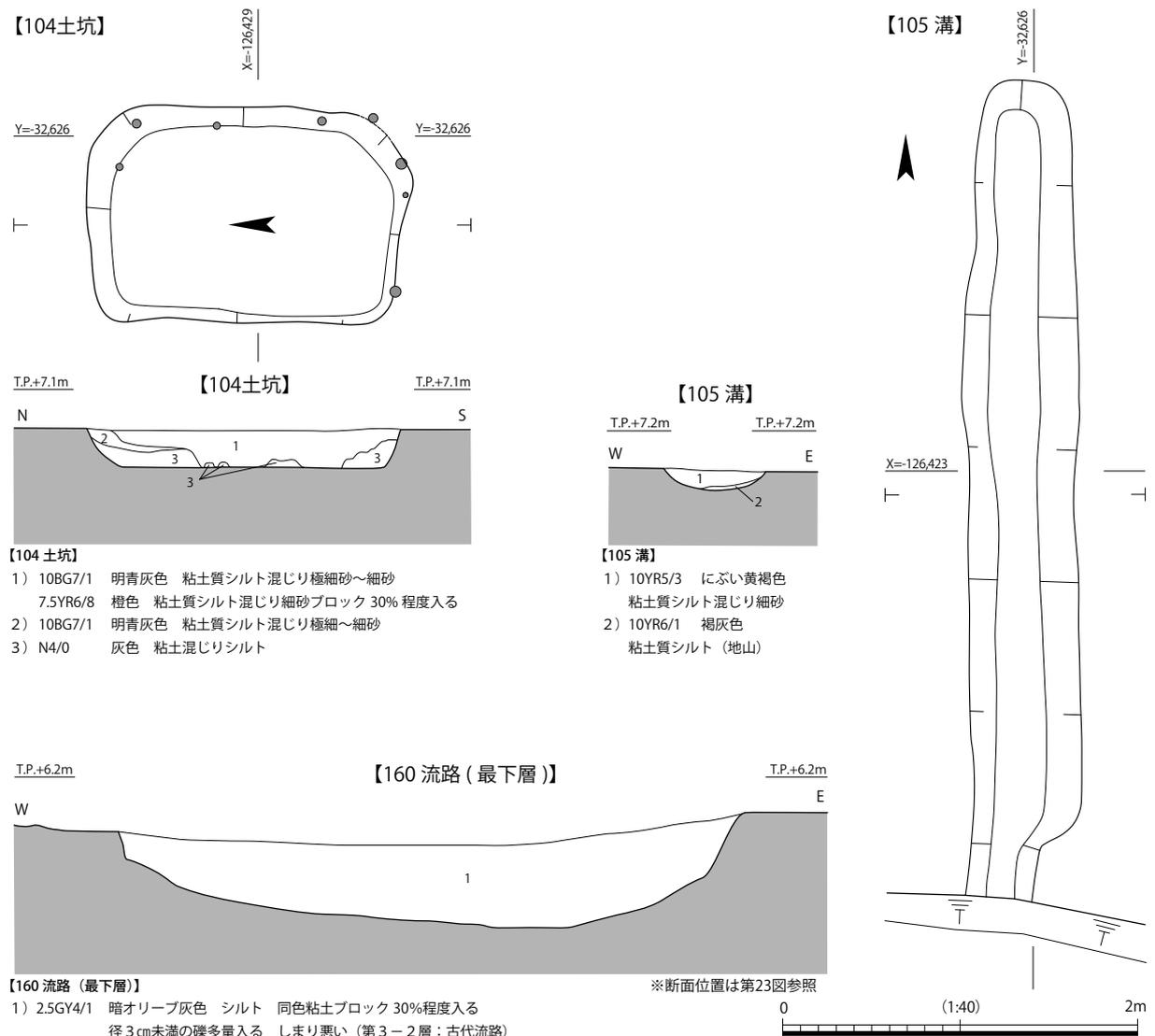
第23図 11-1-1区 第4遺構面 全体図

東西幅 1.2 m を測るやや崩れた隅丸方形を呈する。最大深度は 0.2 m、断面形状は角の丸い逆台形である。東辺から南辺にかけて、計 8 本の杭の打設痕跡があり、うち 4 本の杭は残存する（第 25 図）。杭の尖端部には 4～6 方向より切込みを入れる。上端はすべて劣化により損失する。用材はすべてマツである。

遺構内からの出土遺物は、漆器碗の破片 1 点に留まる。碗の用材はカツラで、黒漆が塗付されている。埋土や出土遺物の状況からは井戸や水溜めとは考えにくい。遺構の性格は不明である。

**105 溝** 同じく 11-1-1-1 区西端部において検出した遺構である（第 24 図）。南北方向に主軸をもつ溝で、検出長 4.6 m、最大幅 0.68 m を測る。断面形状は皿形を呈する。底面の傾斜は、周辺のレベルと同様、北が高く、南に向かって徐々に下がる。排水を目的としたものか。埋土からは、土師器甕の破片が出土した。

**160 流路** 11-1-1-2 区の中央を北西から東南方向へ流れる河川を 160 流路と付番し、そのうち最も深く地盤を削りこむ範囲を 160 流路最下層とした（第 24 図）。最下層は、調査区内の最も低い箇所を通り、調査区外へと続く。160 流路の川幅は 20～30 m 程度、最下層の最大幅は 3.5 m を測る。埋土は計 3 cm 未満の角礫を多量に含む粗砂層で、8～10 世紀の遺物を一定量含む。底面の随所に凹凸がある。遺構面直上に微砂の薄層が堆積する箇所が部分的に認められる。



第 24 図 11-1-1 区 第 4 遺構面 遺構平面断面図

**161 流路** 11-1-1-3区の南半部を北西-南東方向に通る流路である。やや湾曲しながら調査区外へ続く。川幅は6~8m程度を測る。埋土は、160流路と同じく礫混じり粗砂を主体とする。断面形状は不定形、北岸より南岸のほうが深く抉られている。埋土からは、古代の遺物が出土した。

**第3-2層出土遺物** 第4遺構面を覆う第3-2層からは、弥生土器甕、土師器甕・高杯・杯・羽釜、黒色土器碗、須恵器甕、白磁碗、モモの種等が出土した(第22図・図版16-2・17-1)。

第22図1は、須恵器杯蓋の一部である。胎土が粗く、一辺2mm未満の白色角礫を一定量含む。外面はケズリ、内面は同心円状タタキの後、ユビナデでこれを擦り消す。7世紀前半の製品である。160流路西岸斜面付近より、遺構面の精査時に出土した。

第22図2は須恵器杯身である。底部外面に断面方形の高台を有する。口径に比して器高が低いタイプである。8世紀の製品である。

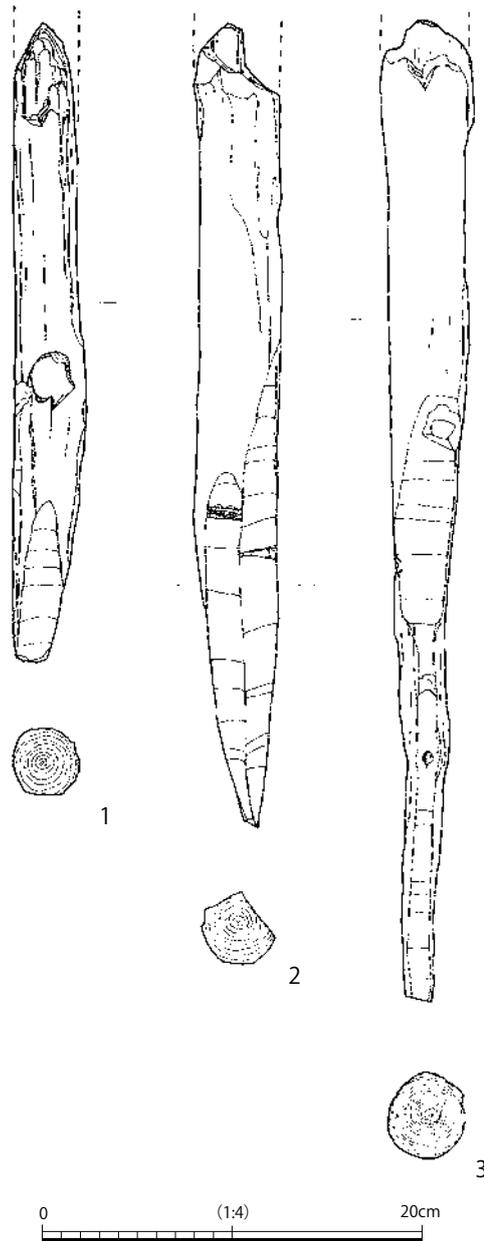
第22図4は、須恵器壺の底部破片である。高台は扁平で低く、器壁より外側へはみ出す。器壁はやや丸みを帯びて立ち上がる。器高の低い短頸壺の一部であろう。外面は摩滅が著しい。8世紀の製品である。

第22図5は、施釉陶器の碗か。釉色は不透明で濃い灰色を呈する。底部外面は平底で回転ヘラケズリを施し、一部に工具の搔痕を残す。体部外面はケズリ、内面は多方向のミガキを施す。全体的なフォルムや胎土は、古段階の緑釉陶器等に似る。11-1-1-2区において、遺構面精査時に出土した。

第22図8は、土師器羽釜の口縁から鏝にかけての部位である。口縁の立ち上がりが短い摂津C類の製品で、鏝の上面を下方へナデて整形する。胴部はやや膨らむ形状をもつ。10世紀の製品である。

**第5遺構面** 第5遺構面は、第4-1層を除去して検出した遺構面である(第26図)。遺構面の標高は、T.P.+6.8m~+7.5mを測る。低地にあたる調査区中央部はさらに低く落ち込み、地盤は軟質となる。微高地へと続く斜面では、上層流路の削り込みによる凹凸が顕著に残る。遺構面の基盤層である第4-2層は低地部分にのみ堆積するため、第5遺構面の検出範囲は、11-1-2区と11-1-3区南端部に限られている。遺構面では、畦畔やヒトの足跡を伴う水田を検出した。

第5遺構面の年代は、これを覆う第4-1層内から出土した遺物が極端に少なく、その多くが下層か



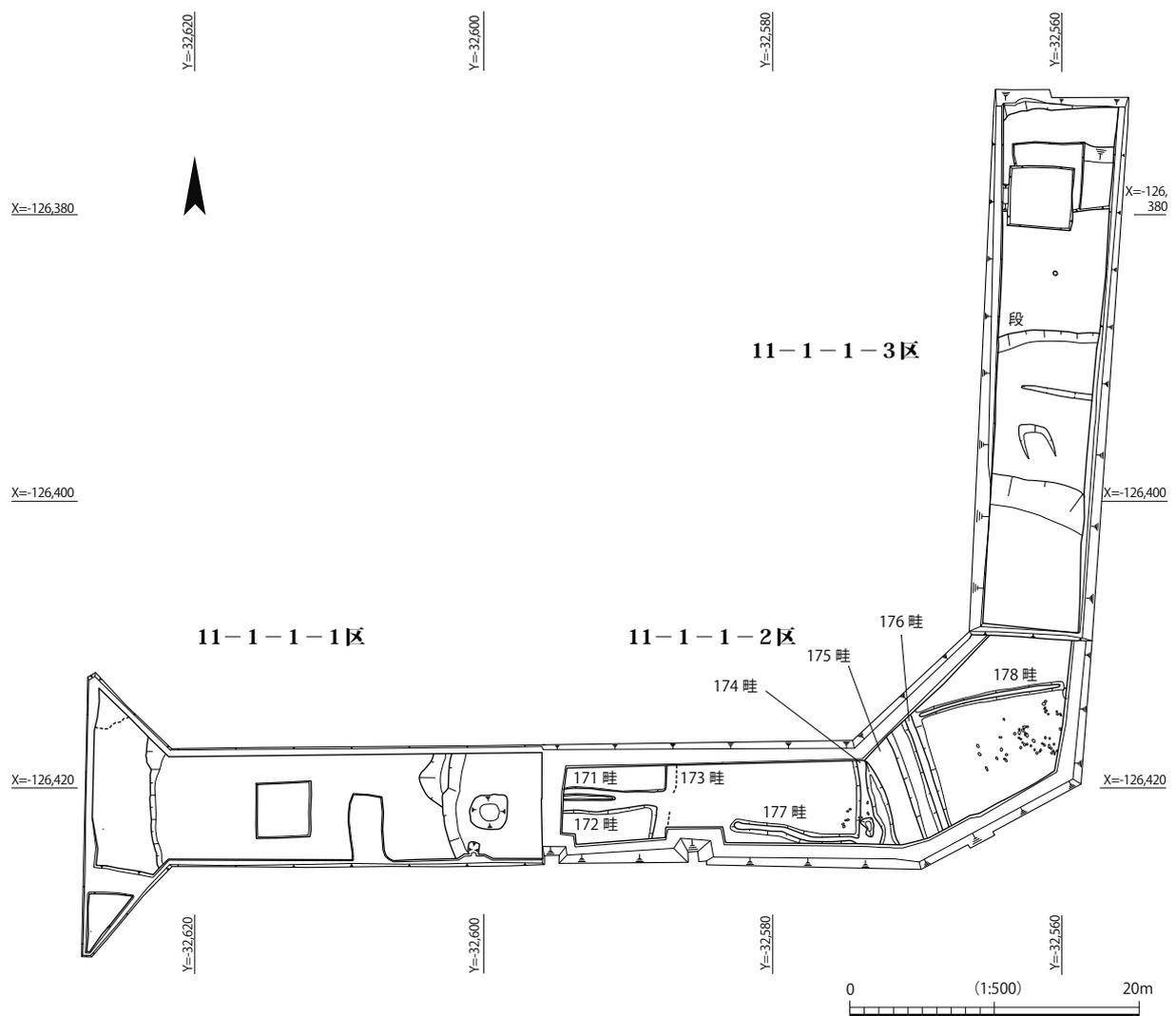
第25図 11-1-1-3区 第4遺構面  
104土坑 出土遺物実測図

らの混じり込みであるため、明確に決定付けることが難しい。上下層との比較では、古墳時代前期以後、古代（8世紀）以前という、長い時間幅となる。しかし、詳細な形式は不明ながら第4-1層の下位に須恵器杯の小片が含まれていたこと、また6世紀が出現期と考えられている木製下駄が層上位より出土したことから、その形成時期は古墳時代後期以後に下がると推察する。このため、第5遺構面は、古墳時代後期に営まれた水田跡である可能性が高い。

**171～178 畦** 検出した畦畔は、大小あわせて8本である。このうち、11-1-1-2区西端部に位置する3本（171～173畦）は、削平によって畦の起伏は残存せず、段状に形跡を残すのみである。最も低い11-1-1-2区中央に設けられた畦群（174～178畦）は残存が比較的良好で、特に基軸となる大畦には明瞭な高まりを認めることができる。

大畦（174～176畦）は、北北西-南南東を基軸とし、東西へ小畦を伸ばす。175畦が最も大型で、幅2.0～2.5mを測る。176畦とほぼ平行して調査区外へと続く。西側にある174畦は、幅に大小があり、調査区北端で175畦と連続する様相をみせる。付近ではヒトの足跡を確認した。

小畦の177畦は、174畦から派生して、蛇行しながら西へのびる。178畦は176畦から垂直に東へのび、調査区の東端付近で途切れる。畦幅は0.3～0.5m程度である。この178畦の埋土は、基盤層である灰色粘土層に加えて微砂ブロックが含まれている。同質の微砂は周辺に残る足跡にも充填されて



第26図 11-1-1区 第5遺構面 全体図

いることから、この水田が一時洪水にあったこと、またその後も水田を継続させるために、畦が作られたことが窺える。

**第4-1層・第4-2層出土遺物** 上述のとおり、遺構面を覆う第4-1層内には、下層である第4-2層に由来すると思われる弥生土器や古墳時代前期の遺物が混在する。第4-2層が存在しない11-1-1区微高地斜面ではこれが顕著で、下位遺構面（第6遺構面＝弥生時代後期～古墳時代初頭）の直上層に相当する。ここでは、第4-1層と第4-2層の遺物をあわせて報告する。

第27図1は、弥生土器の脚部である。台付甕や台付鉢の一部ではないかと考えられる。外面調整は摩滅のため不明、上部内面には工具痕が僅かに残る。胎土は粗く、径2mm未満の白色～灰白色砂礫が多量に入る。弥生時代後期後半の製品か。

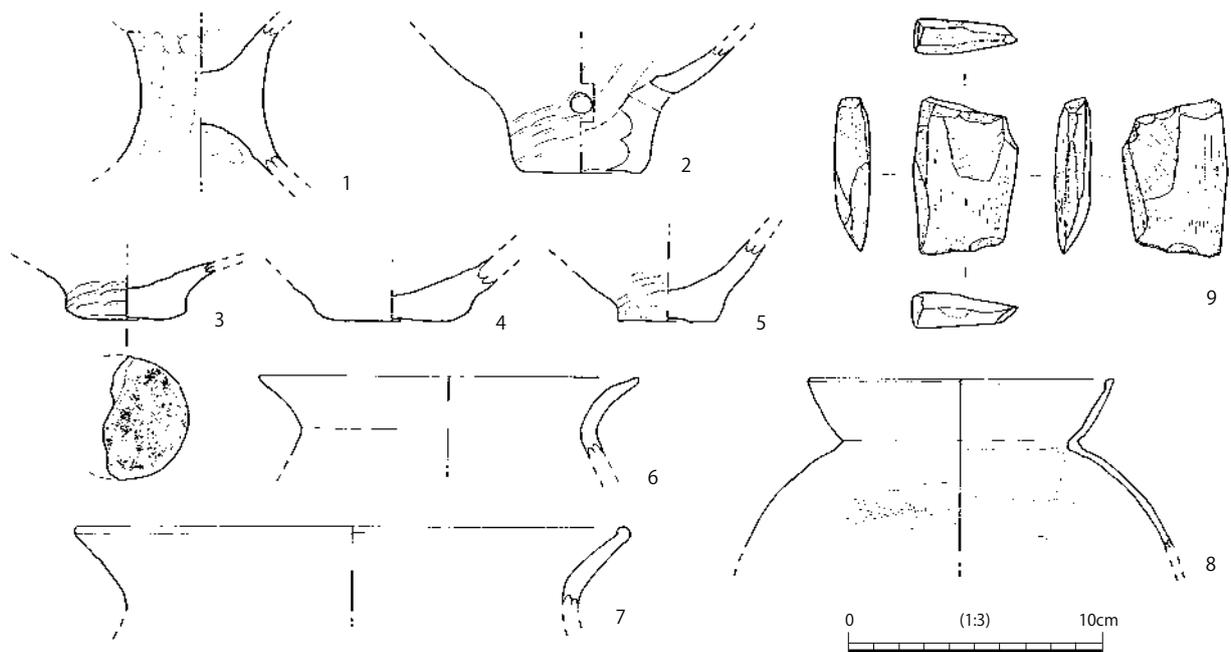
第27図2は、弥生土器の鉢として図示したが、底部付近に焼成前穿孔があることから、蓋である可能性も考えられる。外面調整右上がりのタタキが残る。底部内面の胎土に絞り痕跡が認められる。弥生時代後期後半の製品である。

第27図3～5は、弥生土器甕の底部である。3の底部外面には木の葉の圧痕が残る。4・5は底部外面中央がやや窪む。5は、外面に細かい右上がりタタキが施されている。弥生時代後期後半の製品である。第27図6～8は、土師器甕の口縁部である。6は摩滅が著しい。口縁端部を僅かに上方へつまみ上げて成形する。7・8は布留式甕で、口縁端部を内側へ折り曲げて玉縁状に作る。8は、体部外面に横方向のハケ目を残す。焼成は堅緻、胎土は褐色味を帯びる。古墳時代前期の製品である。

第27図9は、扁平片刃石斧の一部である。側面と刃先の一部を欠損する。基部に対し、刃先ラインは斜めに作られる。表裏面とも丁寧に研磨が施されている。石材は砂岩である。

第28図1は、付木である。先端部に焦痕が残る。もう一方の先端部が曲線状に加工されていることから曲物等の板状品を割り裂いて、再利用したものと考えられる。用材はヒノキである。

第28図2は、下駄の一部である。歯と台を削り出す一木下駄の左足である。右半部と踵より後方を折損する。台上面には足裏の圧痕が残る。前眼（鼻緒を通す前方の孔）の先方に著しい摩滅が認められ

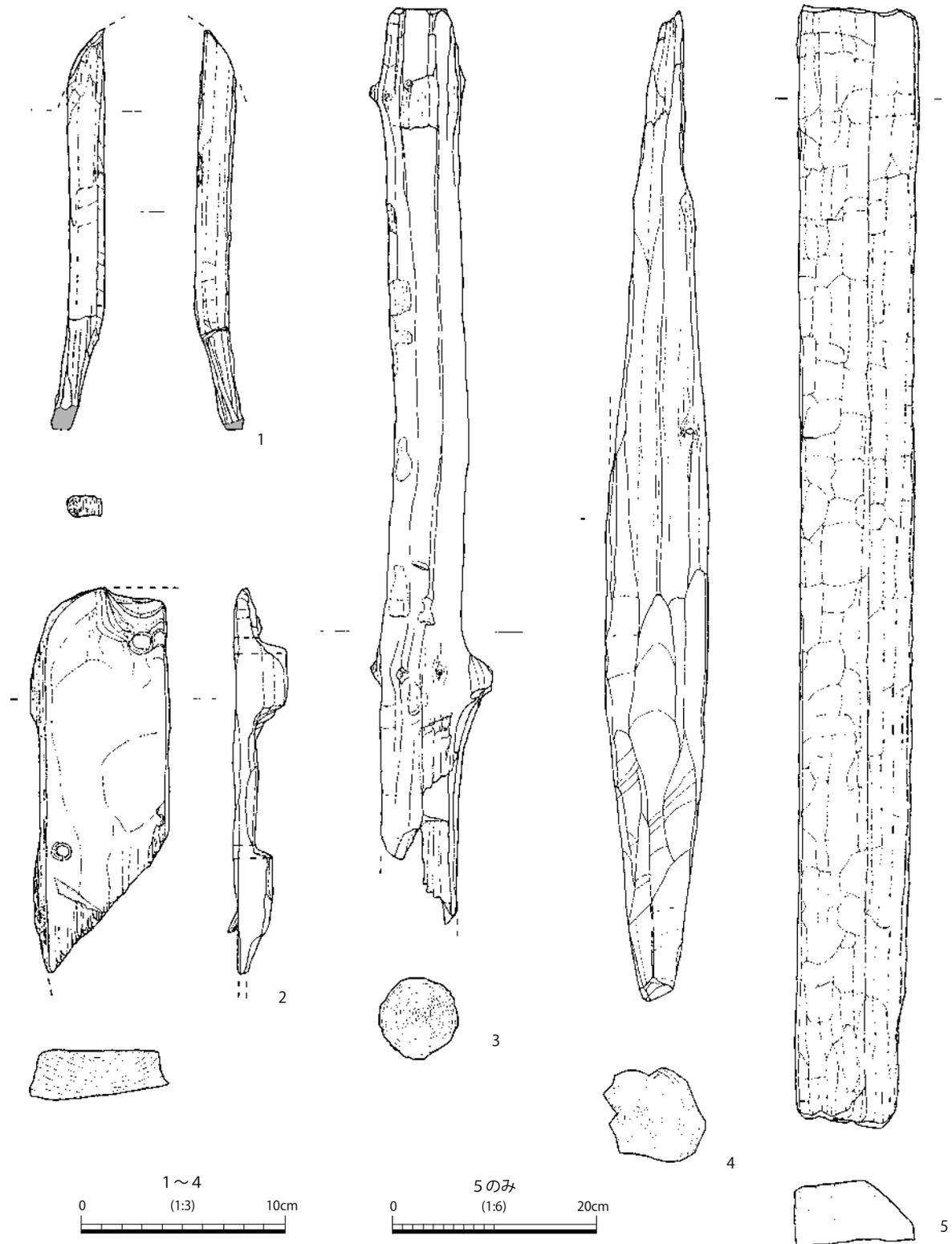


第27図 11-1-1区 第4-1層・第4-2層 出土遺物実測図(1)

る。後眼は後歯の前面にあり、歯の一部を削って設けられている。後歯の方が前歯より摩滅が顕著である。用材はスギである。11-1-1-2区の水田耕作土層より出土した。

第28図3は、分割材である。枝葉を払い、樹皮を除いた樹幹の先端を切断している。根元は折損のため、加工痕は確認できない。11-1-1-3区、第6遺構面直上より出土した。用材はカヤである。

**第6遺構面** 第6遺構面は、第4-2層を除去して検出した遺構面である（第29図）。標高は、T.P.+4.9



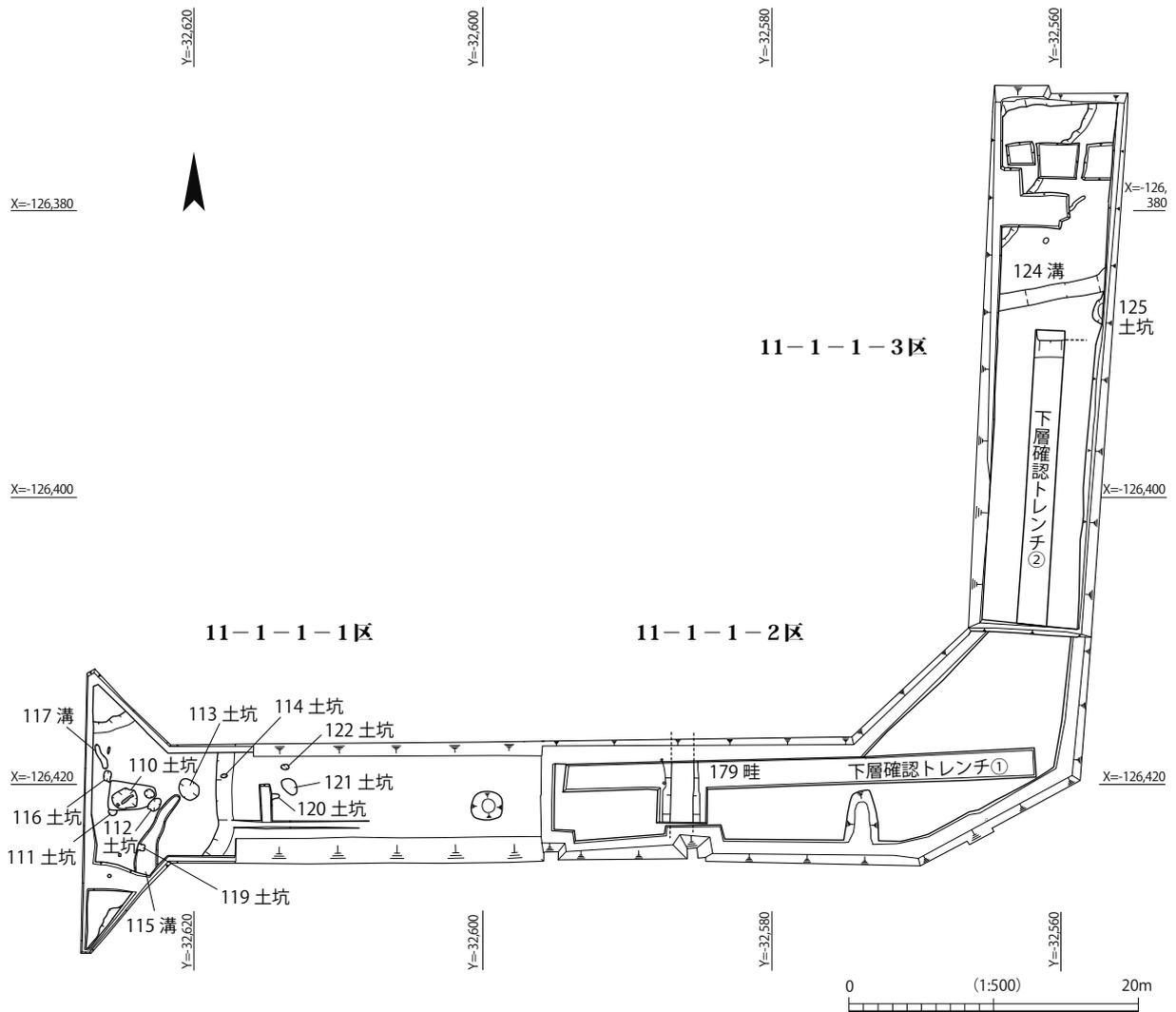
第28図 11-1-1区 第4-1層・第4-2層 出土遺物実測図(2)

m～+7.4 m、微高地から低地に向かう落ち込みはさらに傾斜を増し、その比高差は 2.5 mに及ぶ。微高地上では灰白色粘土質シルトを呈する地山上面、低地では湿地堆積である黒色粘土層（第6層）の上面が遺構面に相当する。微高地上では、土坑や溝を備える集落跡を検出した。

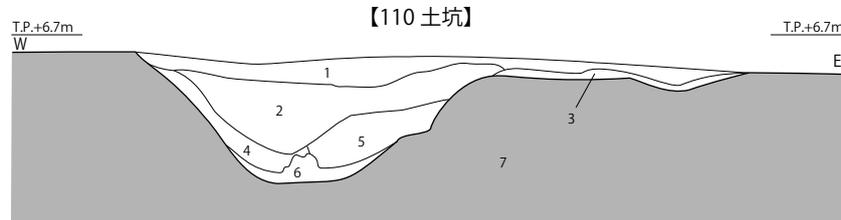
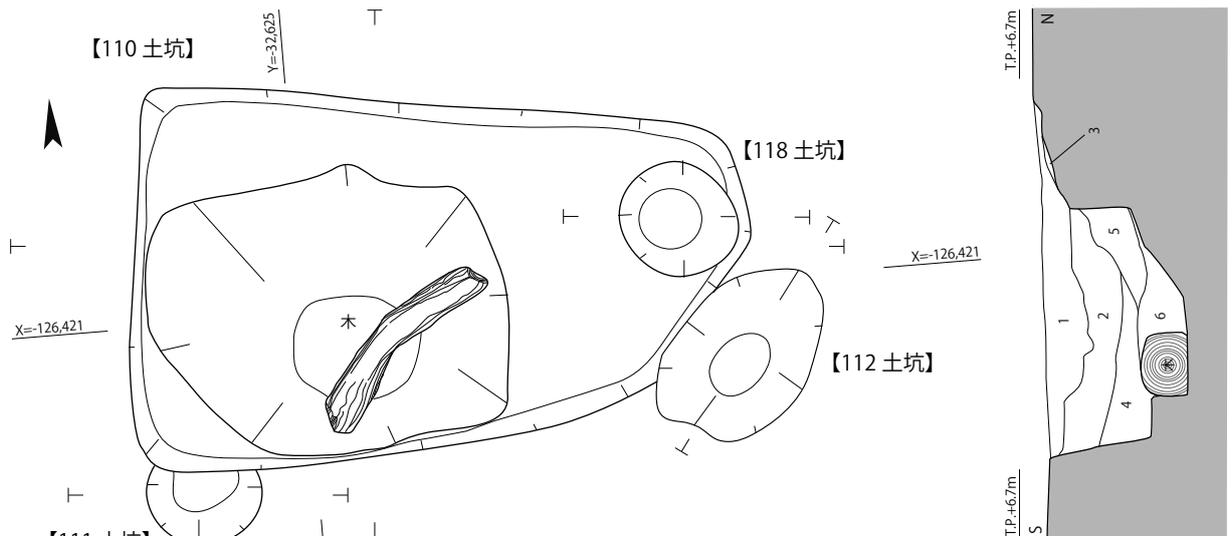
現地調査では、最初に着手した 11-1-1-1 区掘削の際、低地には湿地帯が広がること、また遺構が希薄であることが確認されたため、標高が低い 11-1-1-2 区及び 11-1-1-3 区南半部では、幅 2 m のトレンチ調査を行い、遺構の有無を再確認することとした（下層確認トレンチ①②）。その結果、杭列を伴う畦が検出され、当該時期に水田が営まれていた可能性が示された。

第 4-2 層からは、弥生土器（後期後半）、土師器（庄内式）、木製品等が出土した。これにより当遺構面の時期は弥生時代後期後半～古墳時代初頭と考えられる。ただし遺構埋土から出土した遺物を見ると、11-1-1-1 区ではそのほとんどが弥生土器であるのに対し、11-1-1-3 区では確実に土師器の破片を伴うなど、地点によって僅かではあるが型式差を認めることができる。

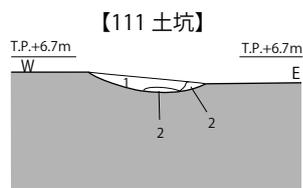
**110 土坑** 11-1-1-1 区微高地において検出した土坑である（第 30 図）。検出時は、南北長 2.5 m、東西幅 3.2 m を測る不定形土坑と認識したが、後に直径 1.5～1.9 m を測る楕円形土坑が下層に掘り込まれていることが判明した（110 土坑下層）。この下層遺構の最大深度は 0.65 m、断面形状は壁の一部に段をもつ挿鉢状を呈する。埋土は軟質、上位には直上層である第 4-1 層があり、下位には粘土質



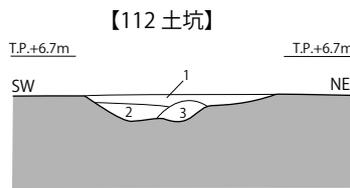
第 29 図 11-1-1 区 第6遺構面 全体図



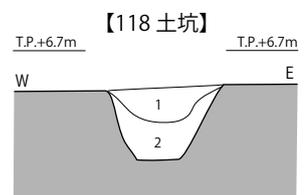
- 【110 土坑】**
- 1) 10YR2/1 黒色 粘土質シルト  
マンガン粒入る (第4-1層)
  - 2) 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト～  
極細砂 炭化物入る
  - 3) 2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト  
粗砂～中砂混じる
  - 4) N4/0 灰色 シルト質粘土～細砂  
N7/0 灰白色 シルト質粘土ブロック入る
  - 5) 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト  
混じり極粗砂～粗砂
  - 6) N5/0 灰色 シルト質粘土
  - 7) 5B7/1 明青灰色 中砂～細砂混じり  
粘土質シルト  
10YR7/4 にぶい黄橙色 粗砂～中砂  
混じりシルトブロック入る (地山)



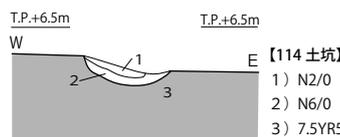
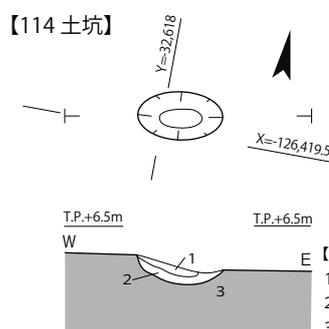
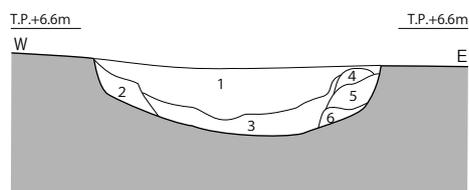
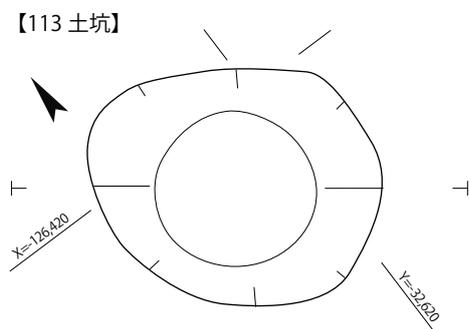
- 【111 土坑】**
- 1) 2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルトに  
N7/0 灰白色 粘土質シルトブロック入る
  - 2) N7/0 灰白色 粘土質シルトに  
2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルトブロック入る



- 【112 土坑】**
- 1) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト混じり極粗砂
  - 2) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト混じり中砂～粗砂
  - 3) 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂～中砂混じり粘土質シルト  
N8/0 灰白色 粘土質シルト混じり中砂～細砂



- 【118 土坑】**
- 1) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト混じり  
極粗砂 マンガン粒入る
  - 2) 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂～中砂混じり  
粘土質シルト  
N8/0 灰白色 粘土質シルト混じり  
中～細砂ブロック入る



- 【114 土坑】**
- 1) N2/0 黒色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
  - 2) N6/0 灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
  - 3) 7.5YR5/6 明褐色 粗砂～極粗砂混じり粘土質シルト

- 【113 土坑】**
- 1) 2.5Y2/1 黒色 シルト質粘土混じり細砂 炭入る
  - 2) 2.5Y7/1 灰白色 粘土 2.5Y2/1 黒色 シルト質粘土ブロック入る
  - 3) 2.5Y2/1 黒色 シルト質粘土 植物遺体入る
  - 4) 2.5Y7/2 灰黄色 粗砂～極粗砂
  - 5) 2.5Y7/1 灰白色 粘土 2.5Y2/1 黒色 シルト質粘土ブロック入る
  - 6) 2.5Y2/1 黒色 シルト質粘土混じり粗砂～中砂



第 30 図 11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (1)

シルトと砂層が混じりあうように堆積する。底面付近からは、径 30 cm を測る分割材が横位置で出土した。樹木の主幹を上下で裁断した状態の分割材で、樹皮は付着したままの状態である。用材はコナラ属である。埋土上層からは土師器甕と弥生土器甕・壺が（第 33 図 1・2・5）、下層からは、弥生土器甕・壺底部の破片が出土した（第 33 図 3・6）。

第 33 図 1 は土師器甕の口縁部である。器壁全体が摩滅するものの、口縁端部を内側へ折り曲げる造作は確認できる。古墳時代前期の製品である。遺構上層からの出土であるため、第 4 - 1 層に帰属するか。

第 33 図 2・3 は弥生土器甕の底部である。2 は平底、3 は底面中央を僅かに窪ませる。ともに摩滅が著しい。2 は外面に右上がりのタタキを施す。

第 33 図 5・6 は、壺の底部である。5 は円柱状の底部から胴部へ向かって大きく広がる。6 は大型品で、平底の底部から斜め上方へ播鉢状に立ち上がる体部を有する。同一個体と見られる体部の破片には、ヘラナデ後ヘラミガキを施した調整痕跡が残る。

**111 土坑** 110 土坑の南側に接する遺構である（第 30 図）。直径 0.6 m、北辺を 110 土坑上層に切られる。最大深度 0.1 m、断面形状は浅いレンズ形である。遺構の性格は不明である。遺物は出土していない。

**112 土坑** 110 土坑の南東辺に接する遺構である（第 30 図）。北東 - 南西方向に長く崩れた楕円形を呈する。長径 1.0 m、短径 0.7 m を測る。最大深度は 0.15 m、底面には凹凸が目立つ。110 土坑上層とは切り合い関係にある。遺構の性格は不明である。遺物の出土は確認できなかった。

**113 土坑** 110 土坑の東側、微高地斜面の下手に位置する遺構である（第 30 図）。平面形状は崩れた楕円形で、径は 1.25 ~ 1.55 m を測る。最大深度は 0.36 m、断面形状はいびつな皿形を呈する。埋土のうち上層は第 4 - 1 層の落ち込み、下層は粘土と砂層から成る。遺構の性格は不明であるが、埋土が 110 土坑と近似することから、同様の利用がなされたか。上層からは土師器甕の小片が、下層からは弥生土器の破片が数点出土した（第 33 図 4）。

第 33 図 4 は、弥生土器甕の底部である。外面調整は右上がりのタタキ、内面は摩滅のため調整不明である。胎土には、灰白色 ~ 白色を呈する角礫の混和が目立つ。弥生時代後期の製品である。

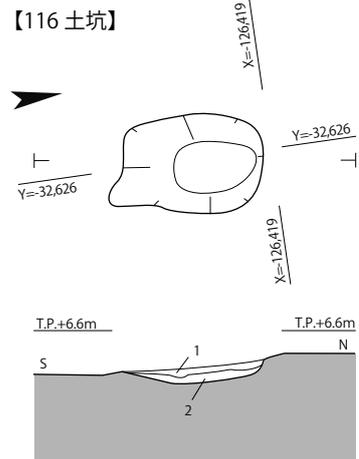
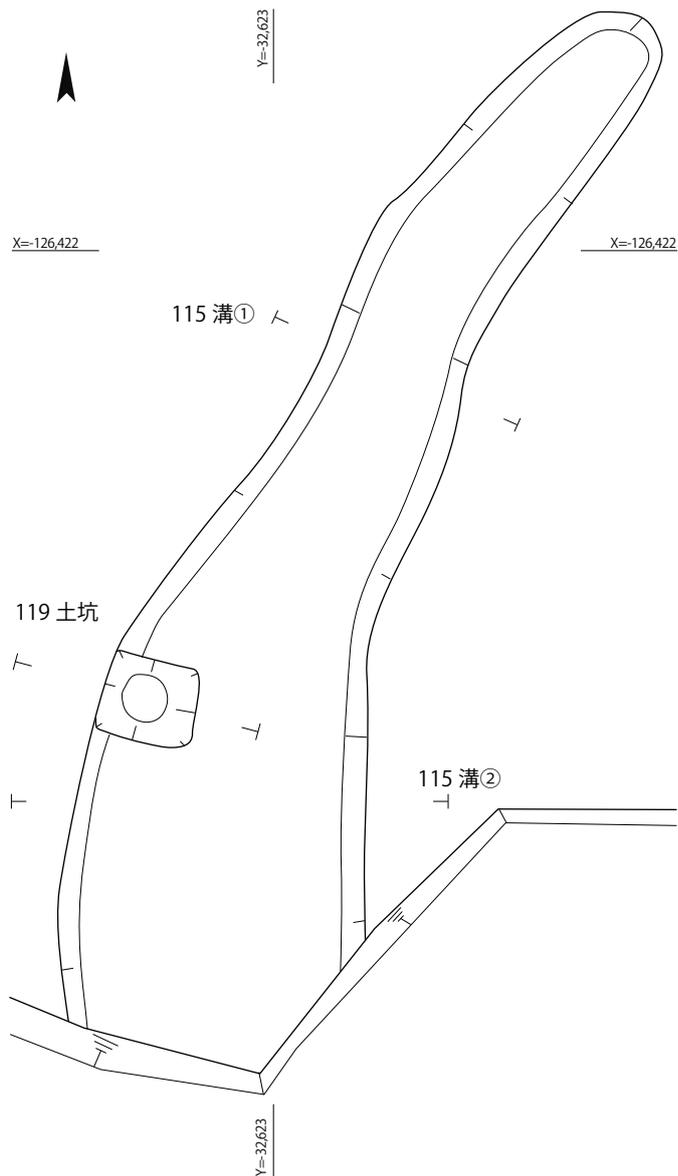
**114 土坑** 113 土坑の東側において検出した遺構である（第 30 図）。平面形状は東西に長い楕円形、長径 0.45 m、短径 0.25 m を測る。最大深度は 0.1 m、断面形状は浅い皿形を呈する。遺構の性格は不明、遺物の出土はなかった。

**115 溝** 11 - 1 - 1 - 1 区微高地の南辺において検出した溝状遺構である（第 31 図）。検出長は 6.0 m 程度、最大幅は 1.6 m、最大深度は 0.1 m を測る。断面形状は、浅い皿形を呈する。底面は北に高く、南へ向かって徐々に下がる。調査区中央付近では、北東 - 南西方向を主軸とするが、湾曲して南へのび、調査区外へと続く。排水を目的とした遺構か。埋土からは、弥生土器の破片が数点出土した（第 33 図 7）。

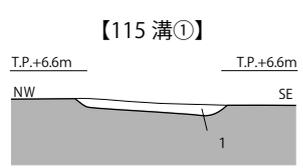
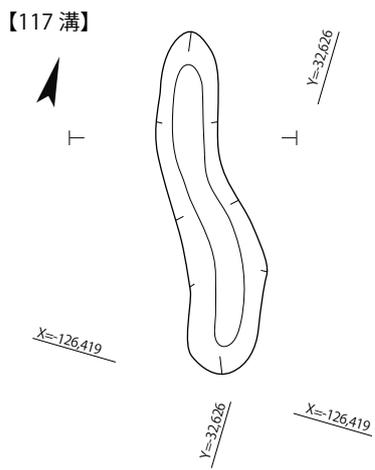
第 33 図 7 は、弥生土器甕の底部である。底部外面は、中央に窪みをもつドーナツ状である。外面調整は右上がりのタタキ、内面は摩滅を受けており、工具の痕跡が僅かに留める。弥生時代後期後半の製品である。

**116 土坑** 110 土坑の北辺に接する遺構である（第 31 図）。平面形状は不定形、南北にやや長く、最大長 0.74 m、最大幅 0.5 m を測る。最大深度は 0.08 m、断面形状は浅い皿形を呈する。遺構面の地盤が高い位置にあるため上面からの削平を受けたと見られる。遺構の性格は不明である。遺物の出土は確認できていない。

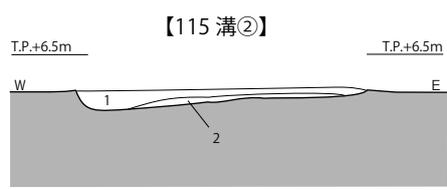
**117 溝** 116 土坑の北側に位置する溝状遺構である（第 31 図）。同じく微高地上にあり、残存状態は悪い。



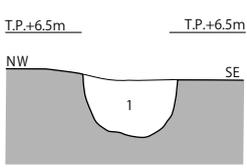
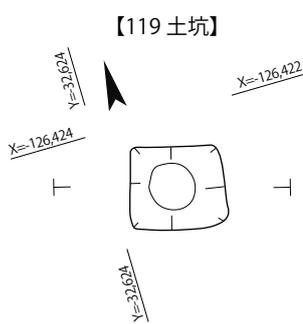
- 【116 土坑】**
- 2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト  
N7/0 灰白色 粘土質シルトブロック入る
  - 2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト混じり中砂  
N7/0 灰白色 粘土質シルト混じり中砂  
ブロック入る



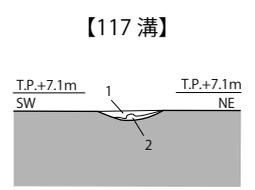
- 【115 溝①】**
- 10YR4/1 褐灰色  
粘土質シルト混じり中砂～細砂



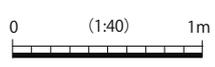
- 【115 溝②】**
- 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト混じり中～細砂
  - 5B7/1 明青灰色 中砂～細砂



- 【119 土坑】**
- 10YR4/1 褐灰色  
粘土質シルト混じり中砂～細砂



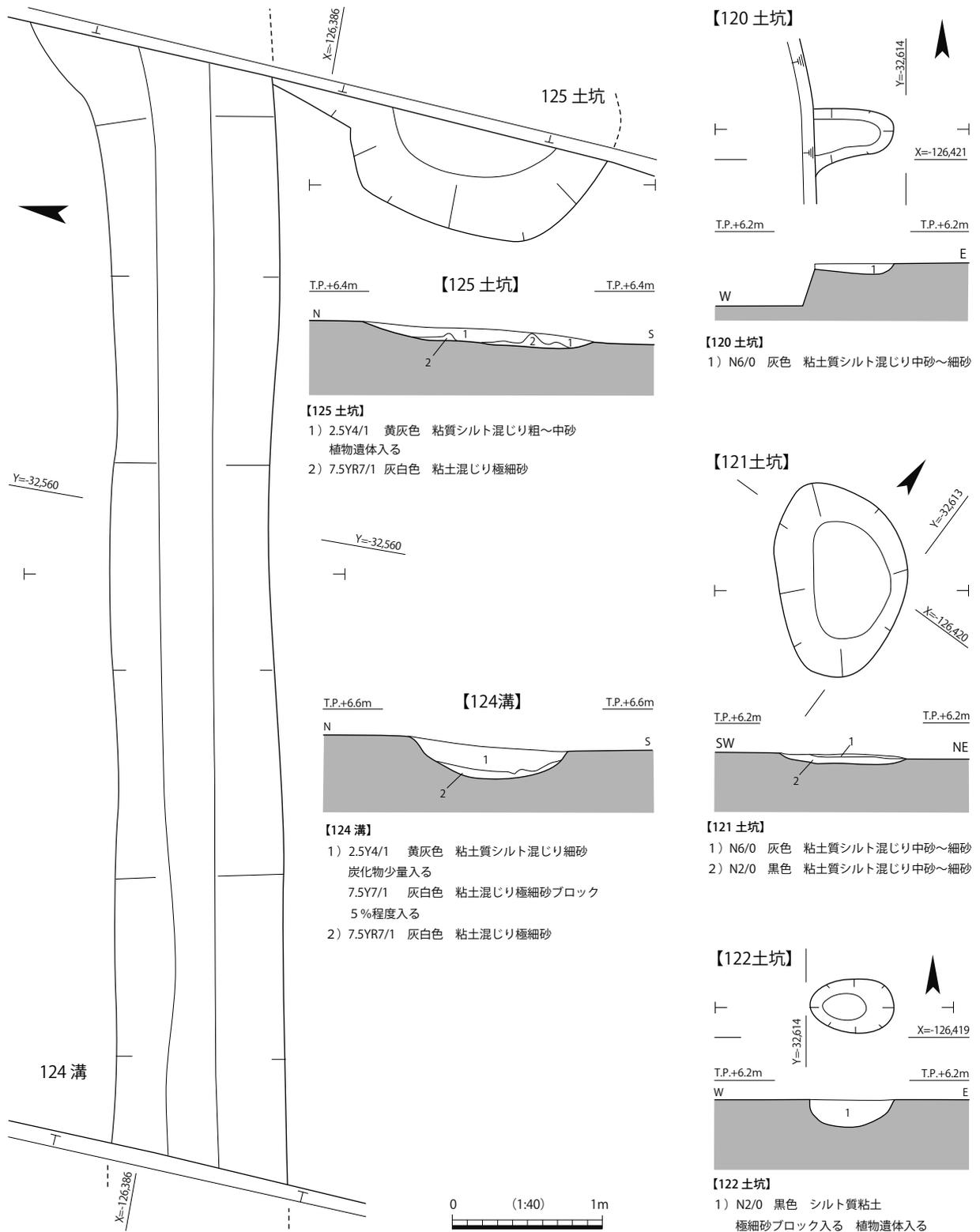
- 【117 溝】**
- 10YR2/2 黒褐色  
粘土質シルト マンガン粒入る
  - N7/0 灰白色 粘土質シルト



第 31 図 11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (2)

検出長は 1.84 m、最大幅は 0.42 mを測る。最大深度は 0.05 m、断面形状はレンズ形を呈する。北西—南東方向に S 字を描いてのびている。遺構の性格は不明である。

**118 土坑** 110 土坑の東に位置する遺構である（第 30 図）。110 土坑同様、上層を除去した段階で検出した。平面形状は径 0.6 ~ 0.7 mを測る円形を呈する。最大深度は 0.38 m、断面形状は逆台形に近く深みをもつ。埋土から遺物の出土は確認できていない。



第 32 図 11-1-1 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図 (3)

**119 土坑** 115 溝の下位において検出した遺構である（第 31 図）。平面形状は一辺 0.45 ～ 0.52 m を測る隅丸方形で、断面形状はやや崩れた椀形を呈する。最大深度は 0.3 m を測る。遺物の出土は確認できていない。

**120 土坑** 11-1-1-1 区中央付近、微高地からさがる斜面において検出した土坑である（第 32 図）。平面形状は東西に長い楕円形で、西辺を攪乱によって失う。検出長 0.52 m、最大幅 0.45 m を測る。最大深度が 0.08 m、断面形状は浅い皿形を呈する。埋土から遺物の出土は確認できていない。

**121 土坑** 120 土坑の北側に位置する土坑である（第 32 図）。平面形状はやや歪んだ楕円形、最大長 1.3m、最大幅 0.85 m を測る。最大深度は 0.06 m、断面形状はレンズ形を呈する。遺物の出土は確認できていない。

**122 土坑** 121 土坑の北側に位置する遺構である（第 32 図）。東西に長い楕円形を呈しており、長径 0.55 m、短径 0.35 m を測る。最大深度は 0.18 m、断面形状は椀形を呈する。遺物の出土はなかった。

**124 溝** 11-1-1-3 区のほぼ中央に位置する溝状遺構である（第 32 図）。検出長 7.4 m、最大幅は 1.2 m、それぞれ調査区外へ直線的に続く。主軸は東北東-西南西方向にあり、方位西に対して北へ 10 度振る。最大深度は 0.2 m、断面形状は椀形を呈する。底面は平滑、レベルは調査区西端で T.P.+6.14 m、東端で T.P.+6.02 m を測り、西から東へ向かって徐々に下がる。埋土は炭化物を含む粘土質シルト～細砂を主体とする。顕著な流水痕跡は認められない。

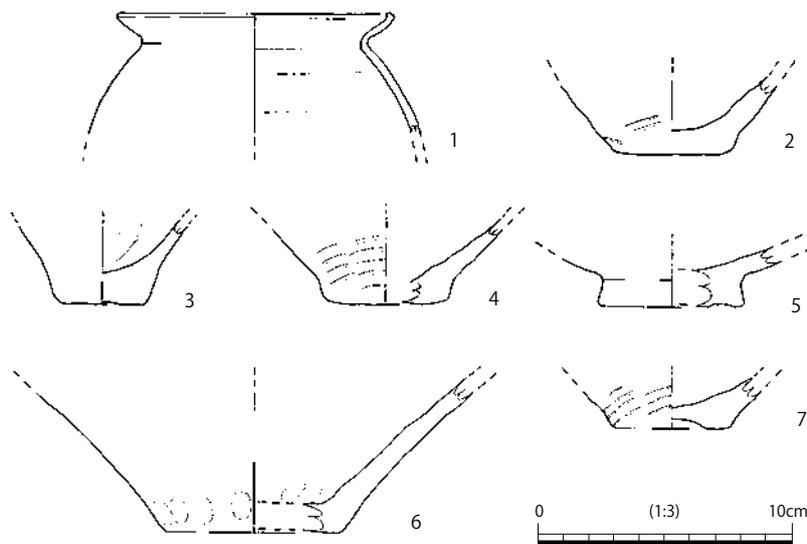
この溝は、北から南へ下がる傾斜には沿わず、等高線に平行してのびている。このため排水施設とは考えにくい。微高地上に営まれた居住域と水田との区画溝であった可能性が高い。埋土からは、土師器壺、小型器台（庄内式？）の小片が出土した。古墳時代初頭の遺構である。

**125 土坑** 11-1-1-3 区の微高地斜面において検出した遺構である（第 32 図）。調査区東壁にかかるため、検出したのは西端の一部に限られる。検出最大長は 2.3 m、最大幅は 0.7 m を測る。124 溝とは切り合い関係にあり、125 土坑の方が古い。最大深度は 0.1 m、断面形状は皿形を呈する。深度は浅いものの、掘り方は明確に認めることができる。遺構の性格は不明であるが、他遺構よりも植物遺体を多く含む点が特徴的である。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

**179 畦** 下層確認トレンチ①において検出した南北方向にのびる畦である（第 29 図）。最大幅は 1.8

～ 2.5 m を測る。盛土の残存は僅かであるが、西側に杭の打設が認められる（第 28 図 4）。杭の用材はスギである。

また、畦盛土の西側より、角材が 1 点、横位置で出土した（第 28 図 5）。断面形状は不均衡な五角形、両端（図の上下面）は切断される。表裏面、側面はともに手斧による加工が丁寧に施されている。何かの未成品である可能性が高い。用材はスギである。



第 33 図 11-1-1 区 第 6 遺構面遺構内 出土遺物実測図

### 第3節 11-1-2区の遺構と遺物

11-1-2区は、微高地上に設定した調査区である。地山レベルが最も高いのは中央部から北部の範囲で、南へ向かって徐々に下がる。包含層は残存範囲が限られており、南半部と北端部のみに認められる。

このため現地調査では、鍵層となる古墳時代前期包含層(第4層)上面を第1遺構面、下面を第2遺構面として認識し、それぞれに検出した遺構の埋土及び出土遺物から遺構の時期を確定した。

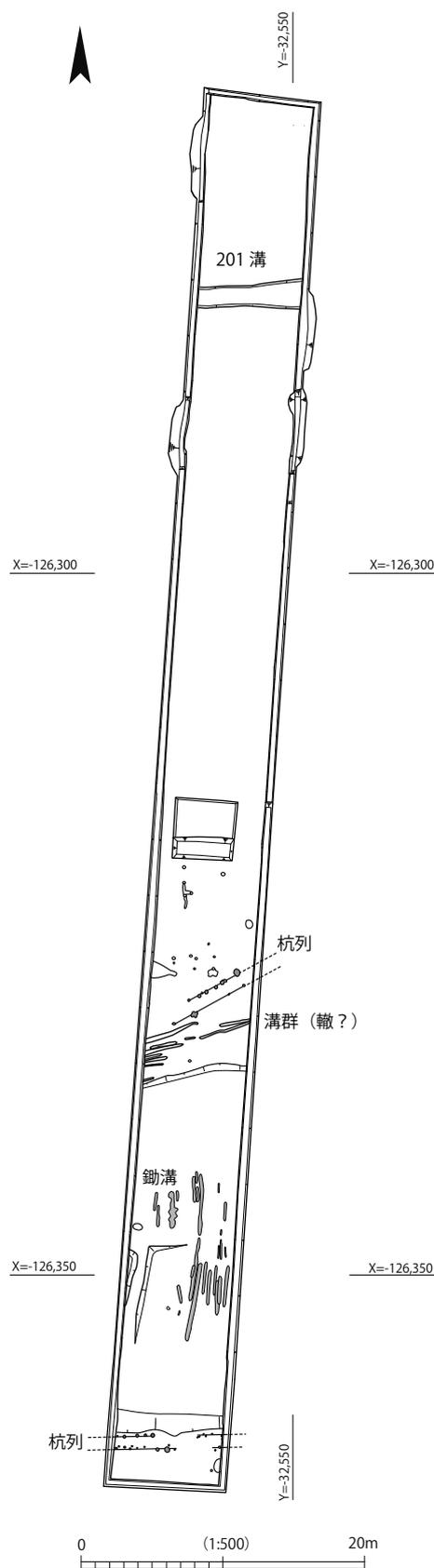
**第1遺構面** 中世末～近世の堆積層及び洪水砂と見られる第1層、中世対応層である第2層、古代～中世初頭包含層である第3層を除去して検出した遺構面である(第34図)。遺構面の検出レベルは、T.P.+7.1m～+7.5mを測る。

最も地山レベルが高い中央部では、すでに第6層(弥生時代後期遺構面基盤層=地山)が露出する。北端部では、弥生時代後期包含層である第5層が広がる。低地斜面にあたる南端部では、中世層及び古代洪水砂層が一定の層厚で残存していたが、近現代の攪乱が大きく、遺構の残存状態は悪い。

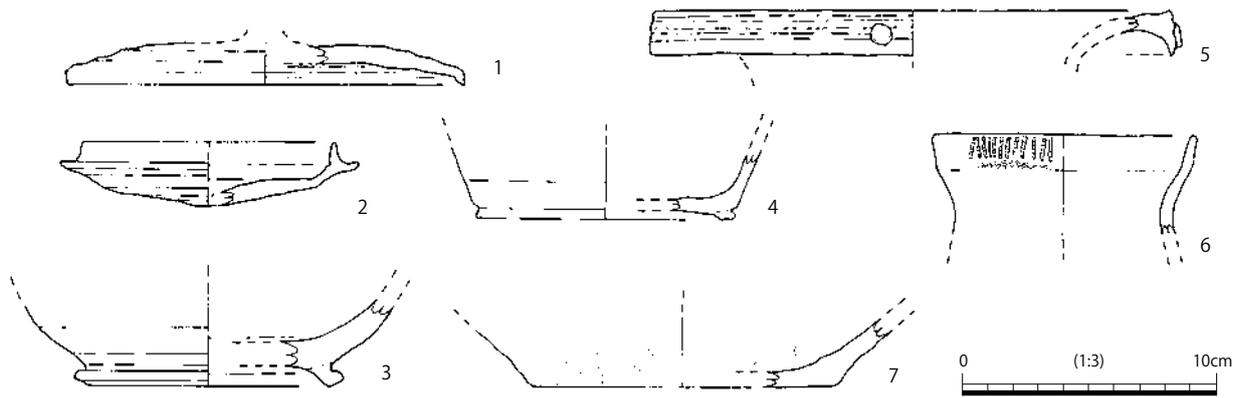
第1遺構面では、溝、杭列、鋤溝等を検出した。遺構面を覆う第1層～第3層からは、弥生土器、土師器、須恵器、平瓦、染付、サヌカイト剥片等、弥生時代後期から近世までの遺物が出土した(第35図)。

**201溝** 11-1-2区北半部において検出した遺構である。調査区を東西方向に横断し、それぞれ調査区外へ続く。検出長は7.2m、検出幅は1.5m～2.2mを測る。断面形状は浅い皿形、最大深度は0.1mを測る。埋土は褐色礫混じりシルトを主体とし、径2cm未満の礫を多量に含む。一部に鉄分の沈着が認められる。底面は凹凸があり、西から東へ向かって徐々に下がる。埋土に礫が含まれることから、一定量の水流通があったことを窺わせる。その土質は11-1-1区で検出した古代流路堆積に近似する。埋土からは須恵器杯蓋、土師器甕の小片が出土した。古代(7世紀)の遺構と考えられる。

**溝群(轍?)** 11-1-2区南半部において検出した遺構である。幅0.1m未満の小溝が北東-南西方向に、複数条のびる。最大深度は深浅があり、0.05mから0.2mを測るものまで様々である。断面形状はU字形または半円形に近い。



第34図 11-1-2区  
第1遺構面全体図



第 35 図 11-1-2 区 第 1 層～第 3 層 出土遺物実測図

埋土は中世後期以後の堆積層と見られる、オリーブ褐色を呈する礫混じり粗砂を主体とする。

地形の変化点にあり、その方向性は等高線に沿うこと、すぐ北側に、同方向にのびる杭列が存在することから、土地の区画に関わるものか。断面形状からは鋤溝とは考えにくいいため、荷車等の轍跡である可能性も考えられる。埋土から遺物の出土は確認できていないため、詳細な時期は不明である。

**第 1 層～第 3 層出土遺物** 11-1-2 区の第 1 層からは、須恵器杯身、土師器甕、染付の小片が出土した。第 2 層からは、弥生土器壺、土師器甕・皿、須恵器杯身・杯蓋・甕、平瓦が出土した。第 3 層からは、弥生土器壺、土師器甕、須恵器杯身・杯蓋・壺底部、黒色土器碗の破片が出土した（第 35 図）。

第 35 図 1 は、須恵器杯蓋である。縁部のみ出土で、摘部は残存しない。調整は内外面ともにナデ、縁の一部に自然釉が付着する。8 世紀前半の製品である。第 2 層より出土した。

第 35 図 2 は、須恵器の杯身である。焼き歪みが著しく、底部は丸みを損なう。調整は内面がナデ、外面はナデ後ケズリを施す。底部外面には、焼成時の融着痕跡と見られる粘土塊の付着がある。7 世紀前半の製品である。第 2 層～第 3 層から出土した。

第 35 図 3 は、須恵器壺の底部である。丸味を帯びて立ち上がる体部を有する。高台は外方に張り出す。調整は、内外面ともにナデ、底部内面と高台上位にはオリーブ緑色を呈する自然釉が付着する。底部外面の高台内には、粉状の圧痕が灰色の筋として、複数存在する。製作時に付着したものが焼成時に燃焼し、焦痕として残ったものか。8 世紀の製品である。第 3 層より出土した。

第 35 図 4 は、須恵器杯身の一部である。断面方形の低い高台を有する。調整は、内外面ともにナデ、底部と高台の接着点にヘラ工具を差し込み、なでつけた痕跡が残る。8 世紀の製品である。第 2 層より出土した。

第 35 図 5 は、弥生土器壺の口縁部である。端部に粘土帯を加えて垂下させ、幅 1.8 cm 程度の端面を作る。端面には 2 条の凹線と円形浮文が付されている。摩滅が著しい。弥生時代後期の製品である。第 2 層より出土した。

第 35 図 6 は、弥生土器壺の口縁部である。頸部よりやや外反しながら立ち上がる口縁は、途中で僅かに内屈し、さらに外方へ開く。口縁部外面には細かい 2 条の波状文と縦方向の列点文が施されている。摩滅が著しい。弥生時代中期後半の製品である。第 2 層より出土した。

第 35 図 7 は、弥生土器壺の底部である。平底から、大きく開く体部を有する。内外面ともに摩滅が著しく調整不明であるが、一部に指頭圧痕が残る。弥生時代の製品である。第 3 層より出土した。

**第2遺構面** 第4層を除去した段階で検出した遺構面である(第36図)。11-1-2区中央部では、地山である第6層上面、わずかに下がる調査区北半部では弥生時代後期包含層である第5層の上面にあたる。標高は、T.P.+7.0 m～+7.5 mを測る。

遺構面を部分的に覆う第4層は、古墳時代初頭の包含層である。ただし、遺構内の出土遺物を詳細に見ると、弥生土器(後期後半)のみが出土する遺構、弥生土器を主体としながら僅かに土師器(庄内式)を含む遺構、土師器(布留式)を含む遺構などがあり、僅かであるが時期差が認められる。このため、当遺構面は、弥生時代後期～古墳時代初頭遺構面として位置づけておく。

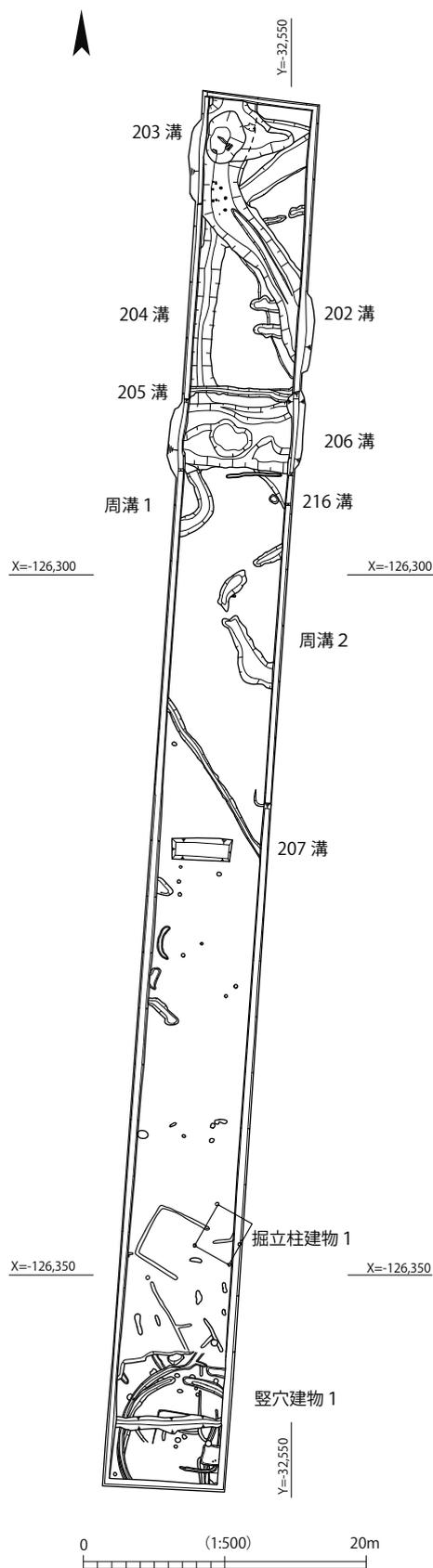
第2遺構面では、竪穴建物、掘立柱建物、溝、周溝、ピット、土坑を検出した。集落跡と考えられる。

**竪穴建物1** 11-1-2区南端部において検出した遺構である(第37図)。方形にめぐる壁溝と柱穴2基、これらを取りまく円形の周溝から成る。壁溝と周溝は複数存在しており、それぞれに切り合いが認められることから、ほぼ同じ位置での建て替え(拡張)が行われたと考えられる。

遺構面は、北西が高く、南東へ向かって緩やかに下がる。このため、周溝、壁溝ともに北半部が削平を受ける。床面の残存は確認できていない。なお、周溝の北辺が途切れることから、建物の入口は北面にあったこと、また調査区南東部で検出した遺構埋土に炭化物が含まれる割合が高いことから、火元は建物の南辺に設置されていた可能性が高いことが推測される。

**221溝** 竪穴建物の周囲をめぐる溝である(第37図・38図)。221a溝と221b溝は切り合い関係にあり、221a溝の方が新しい。ともに周溝全体の4分の1程度の検出で、それぞれ南辺は調査区外へと続く。最大幅は0.55 m、最大深度は0.18 mを測る。削平のため北辺は浅く、南辺の方が深く残る。断面形状は、楕形ないし半円形を呈するが、底面には凹凸が認められる。埋土は、オリーブ黒色を呈する粗砂まじり粘土を主体とする上層と、炭化物を含む灰色粘土の下層に大別できる。上層は包含層である第4層、下層は本来の埋土である。

221a溝は、北端部で枝分かれし、北東方向(221溝c)と、東へのびる。後者は、その東に位置する230溝と一連の遺構になると考えられる。



第36図 11-1-2区  
第2遺構面全体図

221 a 溝及び 230 溝を連続させると、その外縁直径は、10.0 m 程度に復元できる。周溝を備える竪穴建物は、弥生時代後期～古墳時代に検出例があり、壁溝と周溝の間に盛土をもつ例（八尾市八尾南遺跡）、周溝を二重にめぐらせる例（寝屋川市讚良郡条里遺跡）等が知られている。221 周溝は、壁溝までの間隔が狭いことから、盛土を備えていた可能性は低い。

底面のレベルは、最も高い北辺部で T.P.+7.03 m、最も低い調査区南端で T.P.+6.91 m を測る。周溝には排水機能が備わっていたと推定されているが、斜面地に位置するこの竪穴建物でも、その機能は同様であると考えられる。221 溝は微高地（北）から流れ込む水を、南へ流す設備であったと推測される。埋土からは、土師器壺（庄内式）、高杯脚部が出土した。

221b 溝は、221a 溝の下位において検出した周溝で、復元直径（外縁）は 9.0 m 程度、221a 溝より 1 m 程度小型である。11-1-2 区南端部では 221a 溝と重なるが、その内縁に沿って弧を描き、北辺で途切れる。最大深度は 0.21 m、一部に二段掘り状の底面があるため、断面形状は丸みのある逆凸形を呈する。埋土は、221 溝 a と近似するが、底部付近に炭化物が集積する傾向にある。埋土から遺物の出土は確認はできていない。

**222 土坑** 遺構面検出時に、最も早い段階で確認した遺構である（第 37 図・第 38 図）。壁溝である 224 溝の上位にあることから、建物の終末段階で形成されたと考えられる。平面形状は隅丸方形に似た不定形、東端は調査区外へと続く。南北長 1.3 m、検出東西幅 1.1 m を測る。最大深度は 0.08 m と浅いが、掘り方は明確である。断面形状は皿形を呈する。埋土は、包含層である第 4 層を主体とする。遺構内からは、弥生土器高杯と砥石が 1 点出土した（第 42 図）。

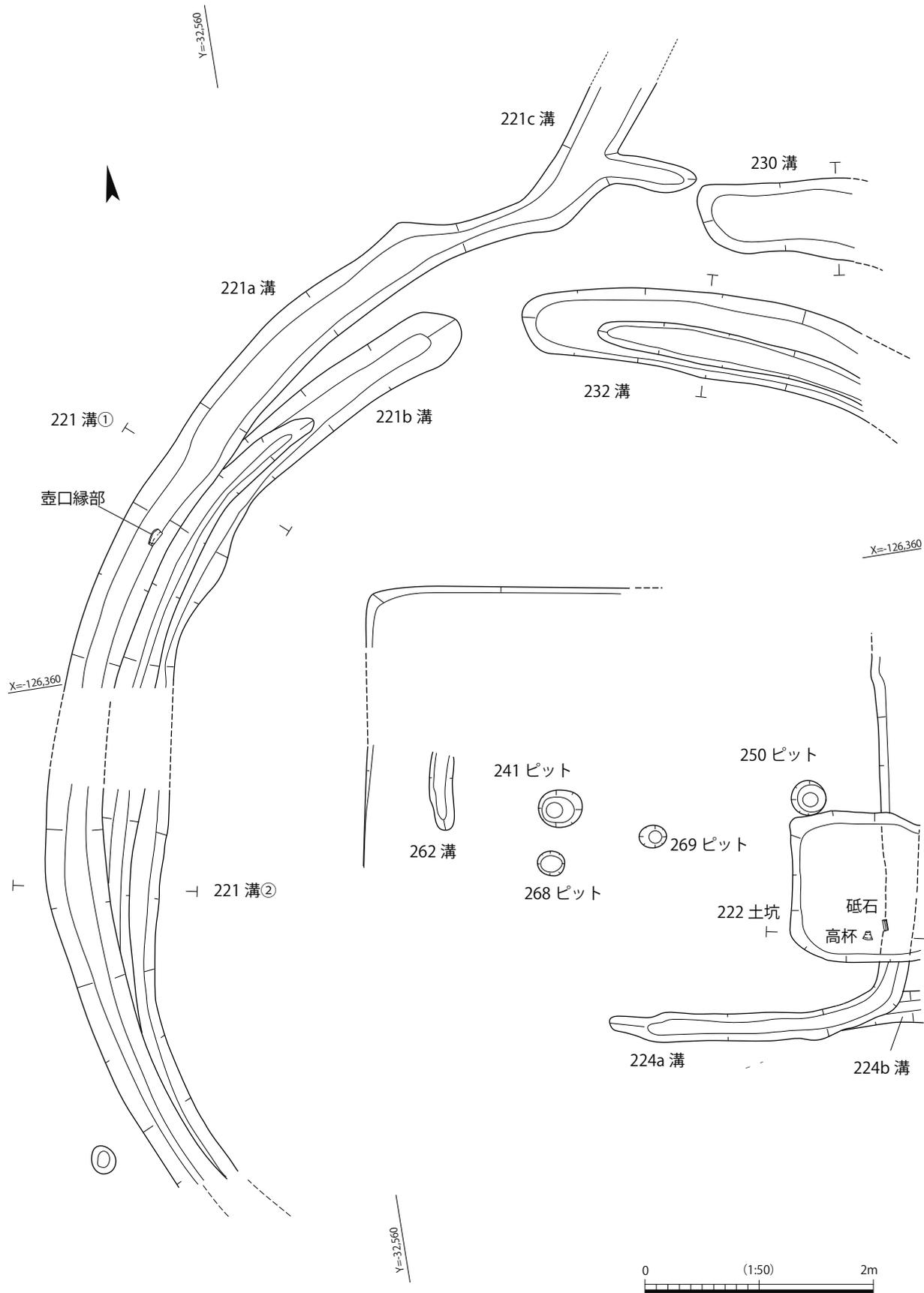
第 42 図 1 は、弥生土器高杯の脚部から裾にかけての部位である。脚部は中実、内面に絞り目が残る。なだらかに開く裾部への変化点には、円孔を 4 点設ける。外面は摩滅が著しい。弥生時代後期後半の製品である。

第 42 図 3 は、粘板岩製の砥石である。外面は灰色～オリーブ灰色を呈する。短側面の一部を欠損するが、長側面及び表裏面は完存する。表裏面には明瞭な刃形のほか、細かい擦痕が縦方向に残されている。短側面（図下面）には刃の切っ先を研磨したと見られる線刻が、複数条認められる。金属器のうち、特に刃先が長い製品を研いだ際に刻まれたものであろう。石肌が細かく滑らかであるため、仕上げ砥石または研ぎ直し用の砥石であったと推測される。柱状を呈しており、それほど使用が進んでいるようには見えないことから、廃棄物とは考えにくい。

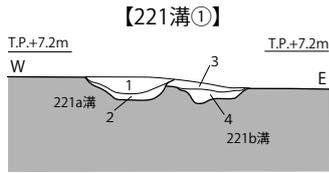
**224 溝** 竪穴建物の壁溝のうち、南東コーナーにあたる部分である（第 37 図・第 38 図）。検出長は、南東角より北へ約 3.0 m、西へ約 2.5 m を測る。最大幅は 0.25 m、最大深度は 0.12 m、断面形状は浅い椀形を呈する。埋土は灰色粘土を主体とし、オリーブ黒色粘土ブロックと炭化物を含む。遺物の出土は確認できていない。

224 溝と対応する壁溝の北西コーナーは、削平によって遺構面が損なわれており、僅かな段としてその形骸を残す。この段までをあわせた壁溝外縁の規模は、南北長 4.0 m、東西幅 4.8 m 程度である。また、その内側に短く残る 225 溝を壁溝の西辺に仮定すると、東西幅は 4.2 m 程度となる。いずれにしても、一般的な竪穴建物よりも小規模である。

224 溝（壁溝）に対応する周溝は、その位置関係から上述した 221b 溝・232 溝と考えられる。このため、その上位に設けられた 221a 溝・230 溝の周溝は、建物を西側へ拡張することを目的として設けられた可能性が高い。

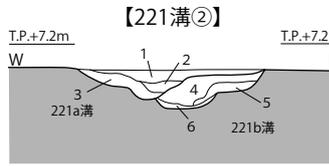


第 37 図 11-1-2 区 第 2 遺構面竪穴建物 1 遺構平面図



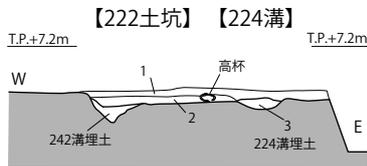
- 【221溝①】**
- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 粗粒微量入る 軟質  
しまりやや悪い 土器片・炭化物入る 鉄斑沈着 (221a 溝)
  - 2) 5Y4/1 灰色 粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 10%程度入る  
軟質 しまりやや悪い 炭化物少量入る (221a 溝)

- 3) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 5%程度入る 軟質  
しまり良い 炭化物少量入る (221b 溝)
- 4) 5Y4/1 灰色 粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 50%程度入る  
軟質 しまり良い 炭化物少量入る (221b 溝)

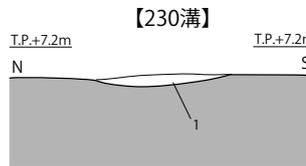


- 【221溝②】**
- 1) 5Y2/2 オリーブ黒色 粗砂混じり粘土～粘質シルト  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 5%程度入る 鉄分沈着  
径 0.3 cm未満の礫少量入る ややしまり悪い  
やや軟質 (221a 溝)
  - 2) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
2.5Y5/2 暗灰黄色 粗砂混じり粘土ブロック 30%程度入る  
炭化物・マンガン粒入る 鉄斑沈着  
しまりやや悪い やや軟質 (221a 溝)
  - 3) 2.5Y4/1 黄灰色 粘土  
2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック 20%程度入る 鉄斑沈着  
炭化物・マンガン粒入る やや軟質 ややしまる (221a 溝)

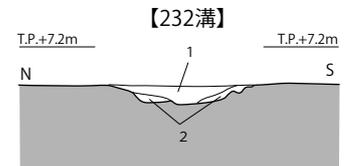
- 4) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
5Y2/1 黒色 粘土ブロック 10%程度入る  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 20%程度入る  
(221b 溝)
- 5) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質  
ややしまる (221b 溝)
- 6) 5Y2/1 黒色 粘土  
5Y6/2 灰オリーブ粘土質シルトブロック  
50%程度入る 炭化物粒入る 鉄分沈着  
ややしまり悪い (221b 溝)



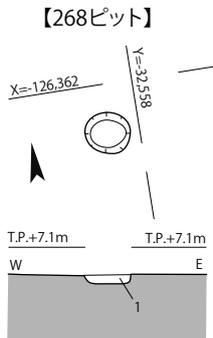
- 【222土坑】**
- 1) 2.5Y2/1 黒色 粗砂混じり粘土質シルト 鉄斑沈着  
しまりやや良い やや軟質 径 0.3 cm未満の礫少量入る 炭化物入る
  - 2) 5Y2/2 オリーブ黒色 粘土  
2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック 20%程度入る  
鉄斑沈着 しまり良い やや軟質
  - 3) 2.5Y4/1 黄灰色 粘土  
5Y2/2 オリーブ黒色 粘土ブロック 20%程度入る 鉄分  
しまりやや悪い やや軟質  
7.5Y5/1 灰色 粘土ブロック 10%程度入る 鉄分沈着  
炭化物少量入る しまりやや悪い やや軟質



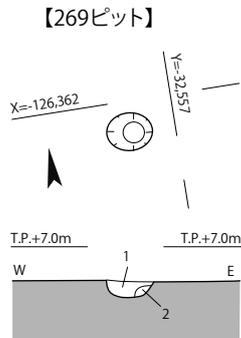
- 【230溝】**
- 1) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 40%程度入る  
鉄斑沈着 炭化物少量入る  
しまり良い やや軟質



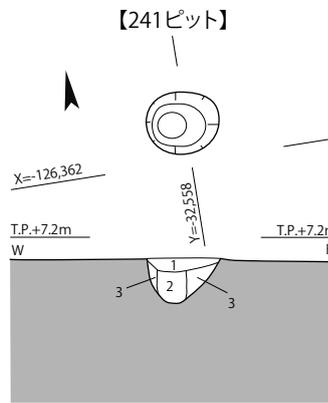
- 【232溝】**
- 1) 5Y3/2 オリーブ黒色 粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 40%程度入る  
鉄斑沈着 炭化物少量入る  
しまり良い やや軟質
  - 2) 5Y4/1 灰色 粘土 鉄斑沈着 しまり良い  
やや軟質



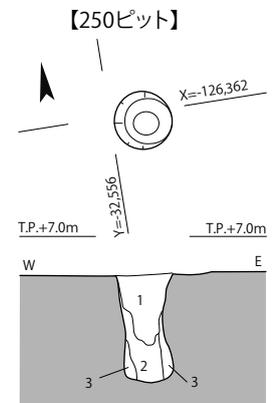
- 【268ピット】**
- 1) 5Y4/1 灰色 粘土  
5Y4/1 灰色 粗砂混じり  
粘土ブロック 10%程度入る  
5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土ブロック 10%程度入る  
鉄斑沈着



- 【269ピット】**
- 1) 5Y4/1 灰色 粘土  
5Y4/1 灰色 粗砂混じり  
粘土ブロック 10%程度入る  
5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土ブロック 10%程度入る  
鉄斑沈着
  - 2) 7.5Y4/1 灰色 粘土  
7.5Y4/2 灰オリーブ色  
粘土ブロック 30%程度入る  
しまり悪い 軟質



- 【249ピット】**
- 1) 7.5Y5/1 灰色 粘土  
7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック  
30%程度入る  
7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック  
10%程度入る 鉄斑沈着  
径 0.3 cm未満の礫微量入る やや軟質
  - 2) 7.5Y4/1 灰色 粘土  
7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック  
20%程度入る 鉄斑沈着  
7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
下に 20%程度堆積
  - 3) 7.5Y4/1 灰色 粘土  
7.5Y4/2 灰オリーブ色 粘土ブロック  
30%程度入る しまり悪い 軟質



- 【250ピット】**
- 1) 5Y4/1 灰色 細砂混じり  
粘土質シルト  
5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり  
粘土ブロック 40%程度入る  
しまり悪い 軟質
  - 2) 7.5GY5/1 緑灰色 粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土ブロック 20%程度入る  
しまり悪い 軟質
  - 3) 7.5Y4/1 灰色 粘土  
7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック  
10%程度入る しまり悪い 軟質



第 38 図 11-1-2 区 第 2 遺構面竪穴建物 1 遺構断面図

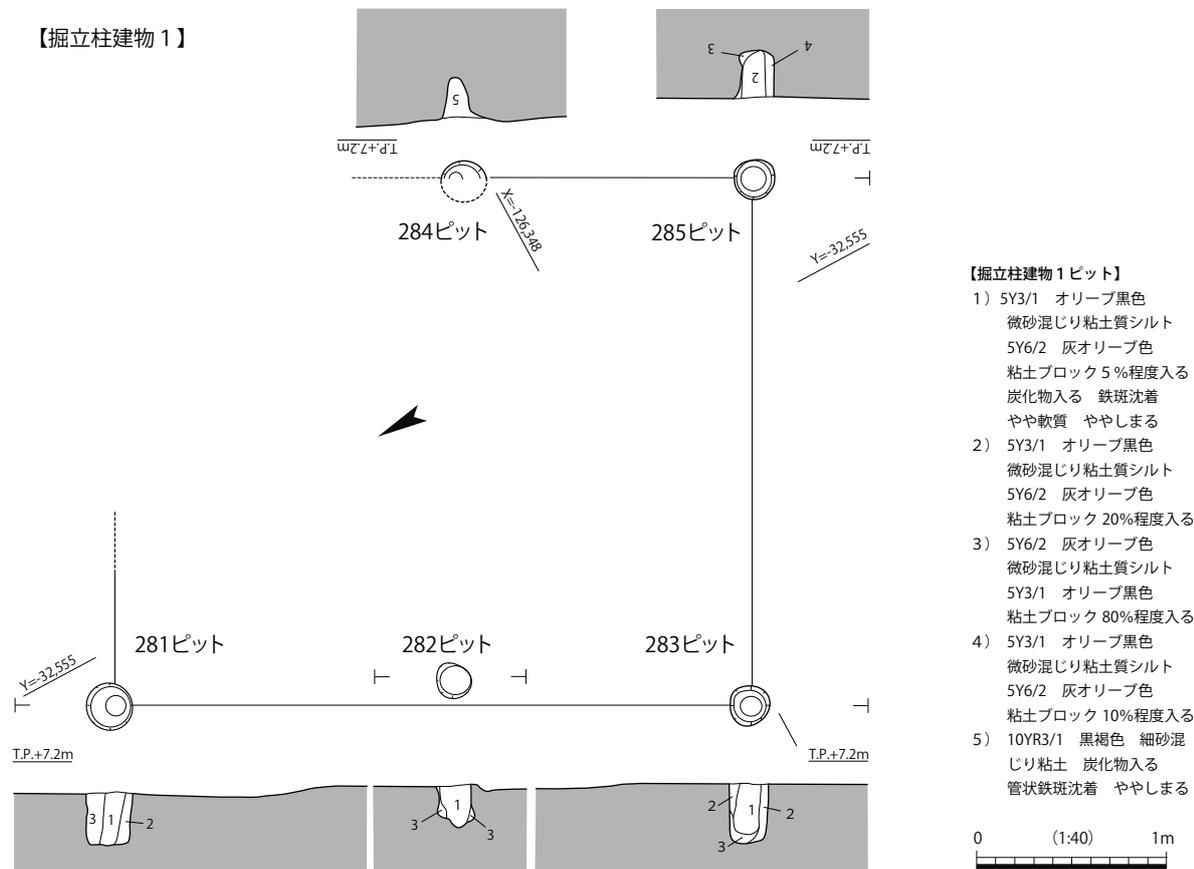
また、南東角の屈曲部分には、さらに東へのびる下位遺構が確認できる（224b 溝）。さらに下位には他の建物の壁溝と見られる遺構が存在する（242 溝）。このため周辺には、竪穴建物 1 以外にも、拡張や建て替えを行う建物が存在したと考えられる（後述）。

**230 溝** 周溝の一部と推測される溝である（第 37 図・38 図）。221a 溝に連続すると考えられる。僅かに弧を描きながら、調査区外へと続く。検出長は 1.3 m、最大幅は 0.7 m を測る。最大深度は 0.06 m、断面形状は薄いレンズ形を呈する。埋土から遺物の出土は確認できていない。

**232 溝** 周溝の一部と推測される溝である（第 38 図）。221b 溝に連続すると考えられる。検出長 3.0 m、最大幅は 0.75 m を測る。最大深度は 0.1 m、221b 溝と同じく断面形状は丸みのある逆凸形を呈する。埋土も同じく、第 4 層を主体とする上層と、灰色粘土を主体とする下層から成る。埋土から遺物の出土は確認できていない。

**241 ピット** 竪穴建物の中央部において検出した遺構である（第 37 図・38 図）。東に位置する 250 ピットと並んで建物の支柱穴になると考えられる。平面形状は東西に長い楕円形、長径 0.38 m、短径 0.32 m を測る。断面形状はやや歪な半円形、最大深度は 0.25 m を測る。埋土はブロック土を多く含む灰色粘土を主体とする。断面観察では、柱痕跡と見られる土色変化が直径 0.14 m の規模で認められる。遺物の出土は確認できなかった。

**250 ピット** 241 ピットと同じく、竪穴建物 1 の支柱穴となる遺構である。平面形状は、直径 0.3 m を測る円形である。最大深度は 0.58 m と深く、底面付近がやや広がる。柱痕跡と見られる土色変化は、直径 0.16 ~ 0.18 m の太さで認められる。埋土はブロック土を含む灰色粘土を主体とする。遺物の出土は確認できていない。



第 39 図 11-1-2 区 第 2 遺構面掘立柱建物 1 遺構平面断面図

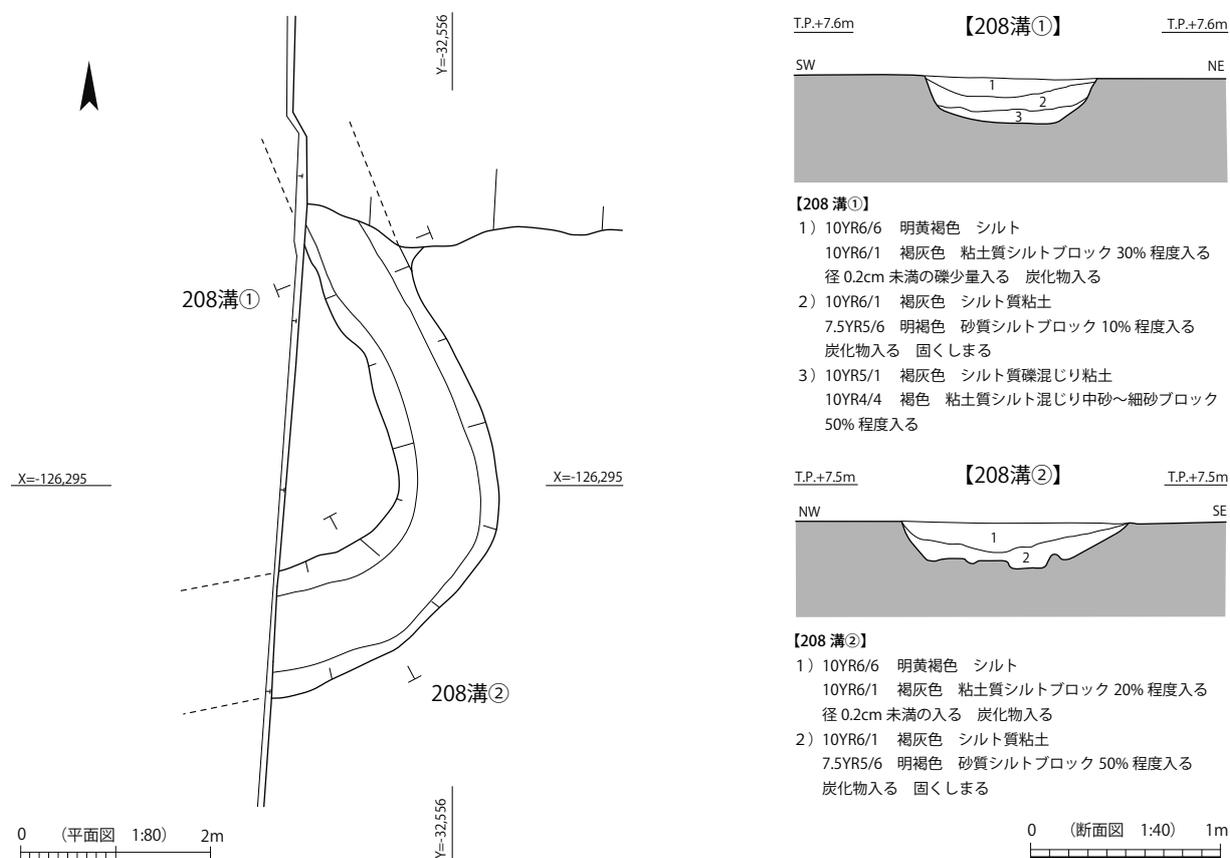
**掘立柱建物 1** 11-1-2区南半部に位置する遺構である。検出した柱穴は5点、うち1点(284ピット)は調査区壁断面において確認したものである。一部が調査区外へと続いており、2間×1間以上の規模をもつ建物として復元できる。建物の主軸は、方位北に対して東へ28度振る。建物の規模は北東-南西長が3.34 m、北西-南東幅が2.8 m以上を測るため、建物面積は9.35 m<sup>2</sup>以上となる。北東-南西方向の柱間距離は1.67 mを測る。個々の柱穴は、平面規模は小さいものの深度は深く、明瞭な掘り方をもつ。また柱痕跡も認識できるものが多い。埋土や他の遺構との切り合い関係から、最も新しい段階の遺構といえる。

**281ピット** 最も北に位置する隅柱の柱穴である。平面形状は直径0.25 mを測る円形、最大深度は0.28 mを測る。断面形状は隅丸方形を呈する。柱痕跡は直径0.1 m程度の規模で、やや南西寄りに認められる。埋土から、土師器甕の底部小片が出土した。

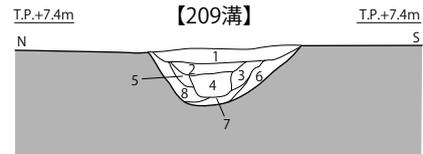
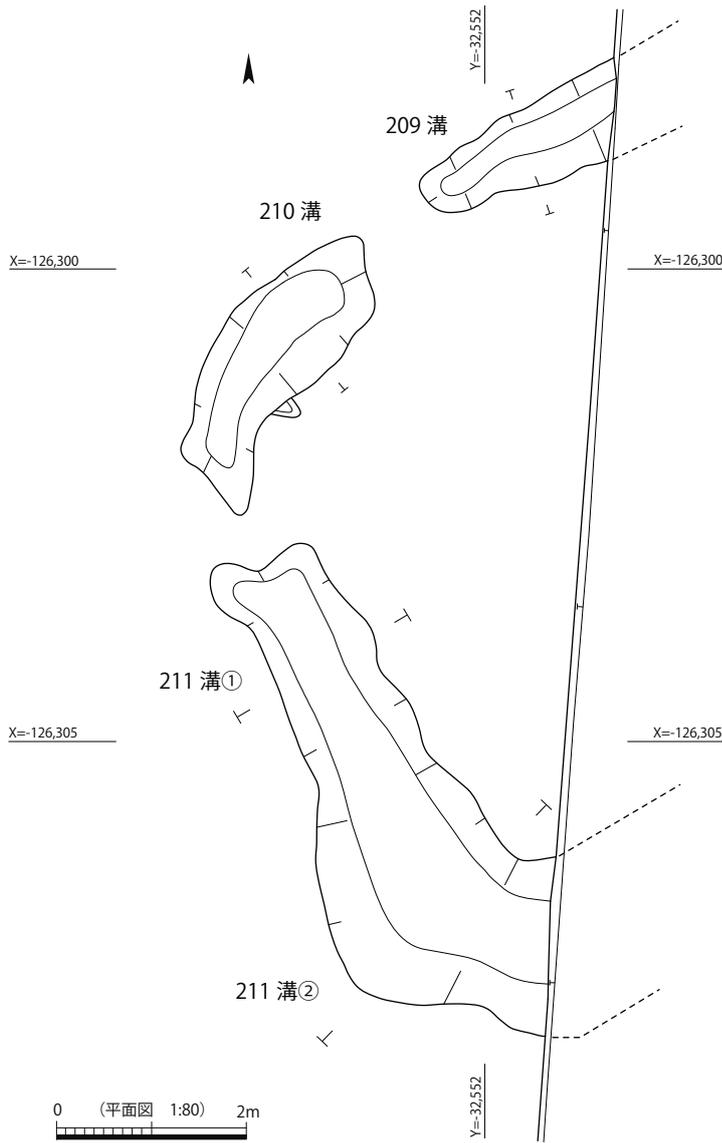
**282ピット** 281ピットの南西に位置する側柱の柱穴である。隅柱をつなぐラインよりやや内側に位置する。平面形状は、径0.18 m~0.2 mを測る歪な円形を呈する。最大深度は0.22 mを測る。断面形状は不定形、底部付近の壁面が抉るように掘削されている。柱痕跡は直径0.16 m程度の規模で認められる。遺物の出土はなかった。

**283ピット** 建物の西隅柱の柱穴である。平面形状は直径0.22 mを測る円形、最大深度は0.32 mを測る。断面形状は縦に長い隅丸方形を呈する。柱痕跡は直径0.1 m程度の規模で、ほぼ中央に認められる。遺物の出土は確認できていない。

**284ピット** 調査区東壁面において検出した遺構である。平面形状は、直径0.2 m程度の円形と推測される。確認できた最大深度は0.2 mを測る。断面形状は深いU字形を呈する。遺構の中心は、復元柱

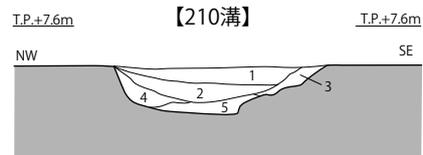


第 40 図 11-1-2区 第2遺構面周溝1 遺構平面断面図



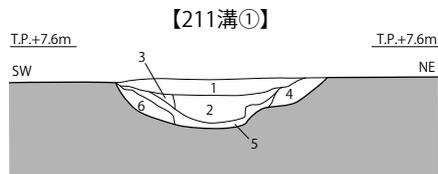
【209溝】

- 1) 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト混じり極細砂  
10YR6/2 灰黄褐色 シルトブロック 20% 程度入る
- 2) 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト混じり細砂  
10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト混じり細砂ブロック 30% 程度入る
- 3) 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト混じり細砂  
10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト混じり細砂ブロック 50% 程度入る 炭化物入る
- 4) 2.5Y6/1 黄灰色 シルト質粘土混じり中砂
- 5) 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト混じり中砂～細砂 炭化物入る
- 6) 2.5Y7/4 浅黄色 シルト質粘土混じり細砂  
2.5Y6/1 黄灰色 シルト質粘土ブロック 10% 程度入る
- 7) 2.5Y5/4 黄褐色 シルト質粘土混じり細砂～中砂
- 8) 2.5Y6/1 黄灰色 粘土  
2.5Y8/4 淡黄色 シルト質粘土ブロック 50% 程度入る



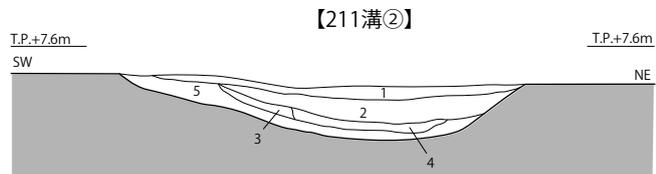
【210溝】

- 1) 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト混じり粗砂  
10YR6/1 褐灰色 粘土質シルトブロック 10% 程度入る マンガン粒入る
- 2) 10YR5/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 炭化物入る  
10YR6/1 褐灰色 粘土ブロック 10% 程度入る
- 3) 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト混じり中～細砂  
10YR6/1 褐灰色 粘土ブロック 20% 程度入る
- 4) 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト混じり中砂 固くしまる  
2.5Y8/4 淡黄色 粘土質シルトブロック 10% 程度入る
- 5) 2.5Y6/1 黄灰色 シルト質粘土  
2.5Y8/4 淡黄色 粘土質シルトブロック 20% 程度入る



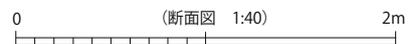
【211溝①】

- 1) 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト混じり極細砂  
10YR6/2 灰黄褐色 シルトブロック 20% 程度入る
- 2) 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト混じり極細砂～細砂  
10YR6/2 灰黄褐色 シルトブロック 20% 程度入る  
7.5YR7/8 黄褐色 シルトブロック 20% 程度入る
- 3) 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土質シルト  
10YR6/2 灰黄褐色 シルトブロック 40% 程度入る
- 4) 10YR6/8 明黄褐色 砂質シルト混じり中砂～細砂
- 5) 10YR6/8 明黄褐色 粘土質シルト混じり極細砂と  
10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト混じり極細砂ブロック 40% 程度入る
- 6) 10YR7/8 黄褐色 シルト質粘土  
10YR6/1 褐灰色 シルト質粘土ブロック 20% 程度入る



【211溝②】

- 1) 7.5YR6/6 橙色 シルト混じり極細砂  
10YR6/1 褐灰色 シルトブロック 40% 程度入る 炭化物入る
- 2) 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト混じり極細砂～細砂 マンガン粒入る
- 3) 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土  
10YR6/2 灰黄褐色 シルトブロック 50% 程度入る
- 4) 10YR6/4 にぶい黄褐色 シルト質粘土  
10YR5/1 褐灰色 粘土質シルトブロック 20% 程度入る
- 5) 10YR7/6 明黄褐色 粘土質シルト  
10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト 10% 程度網目状に入る



第 41 図 11-1-2 区 第 2 遺構面周溝 2 遺構平面断面図

列よりやや内側によることから、282ピット同様、側柱であった可能性がある。柱痕跡は直径0.1 m程度の規模で認められる。遺物の出土はなかった。

**285ピット** 最も南の地点において検出した柱穴である。平面形状は直径0.22 mを測る円形、最大深度は0.24 mを測る。断面形状は不定形、壁面の一部を広く抉る。柱痕跡は直径0.12 m程度の規模で、ほぼ中央に認められる。遺物の出土は確認できていない。

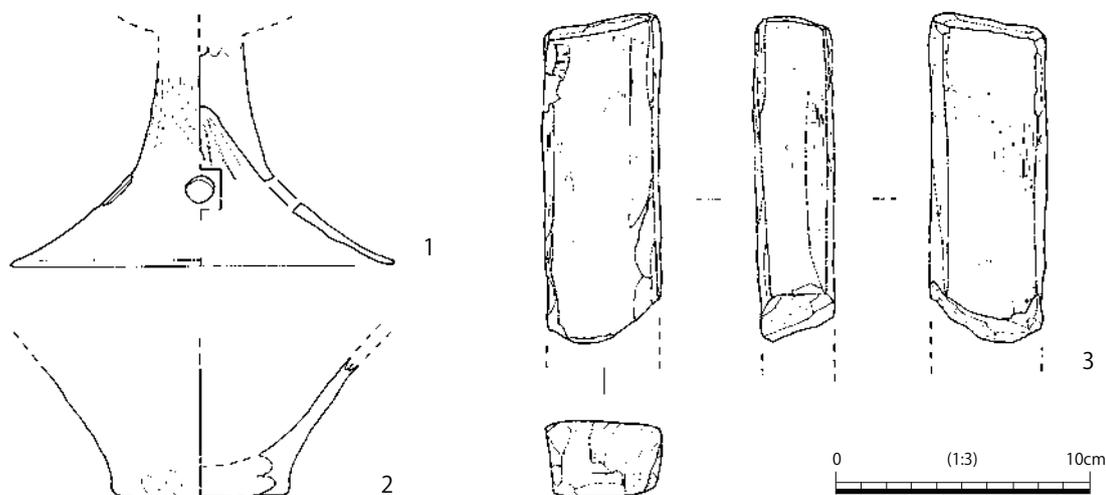
**周溝1 (208溝)** 11-1-2区北半部の西辺において検出した遺構である(第40図)。鍵形に曲がる溝であるが、そのコーナーは丸みを持って湾曲する。検出長は2.8 m程度、最大幅は0.62 mを測る。断面形状は深い皿形に似るが、底面には凹凸が認められる。最大深度は0.24 mを測る。底面レベルは、T.P.+7.01～7.03 m、勾配はほとんど認められない。埋土は明黄褐色シルト、または褐灰色シルトを主体としており、直上包含層である第4層ブロックは含まない。206大溝とは切り合い関係にあり、208溝の方が古い。南に位置する209溝・210溝・211溝のように、方形にめぐると推測されることから、周溝墓の可能性が考えられる遺構である。埋土からは弥生時代後期の土器が出土した(第42図)。

第42図2は、弥生土器甕もしくは壺の底部である。平底から斜め上方に開く器形を有する。摩滅が著しく調整は不明である。内面の一部に黒色化が認められる。

**周溝2 (209溝・210溝・211溝)** 調査区北半部東辺において検出した遺構である(第41図)。3つの溝状遺構であるが、元はひとつの溝が方形にめぐっていたものと解釈される。復元できる想定規模は、溝の外縁で一辺8.4 m、内縁で一辺5.6 m程度である。周溝1と同じく周溝墓の可能性が考えられる。北半部にあたる210溝や209溝の西端部は削平を受けるため、南半部に比べて遺構の残存状況は悪い。

209溝は、検出長2.3 m、最大幅0.9 m、最大深度0.3 mを測る。断面形状は、左右非対称の椀形を呈する。遺構内は、南壁面よりも北壁面の立ち上がりが急である。直線的に南西-北東方向にのびた後、調査区外へ続く。底面レベルは、T.P.+6.86～+7.20 m、北東に向かって下がる。埋土は、褐灰色～黄灰色粘土質シルト混じり細砂を主体とする。流水痕跡は確認できない。遺構内から遺物の出土はない。

210溝は、検出長3.0 m、最大幅1.1 m、最大深度0.25 mを測る。断面形状は不定形、底面に凹凸が目立つ。209溝同様、南壁面に比べて北壁面の立ち上がりが急である。平面形状は、緩やかに湾曲して、周溝の北西コーナーを作る。底面レベルは、T.P.+7.08～+7.15 m、溝の両端がやや深い。埋土は209溝に近似する。遺構内から遺物の出土は確認できていない。



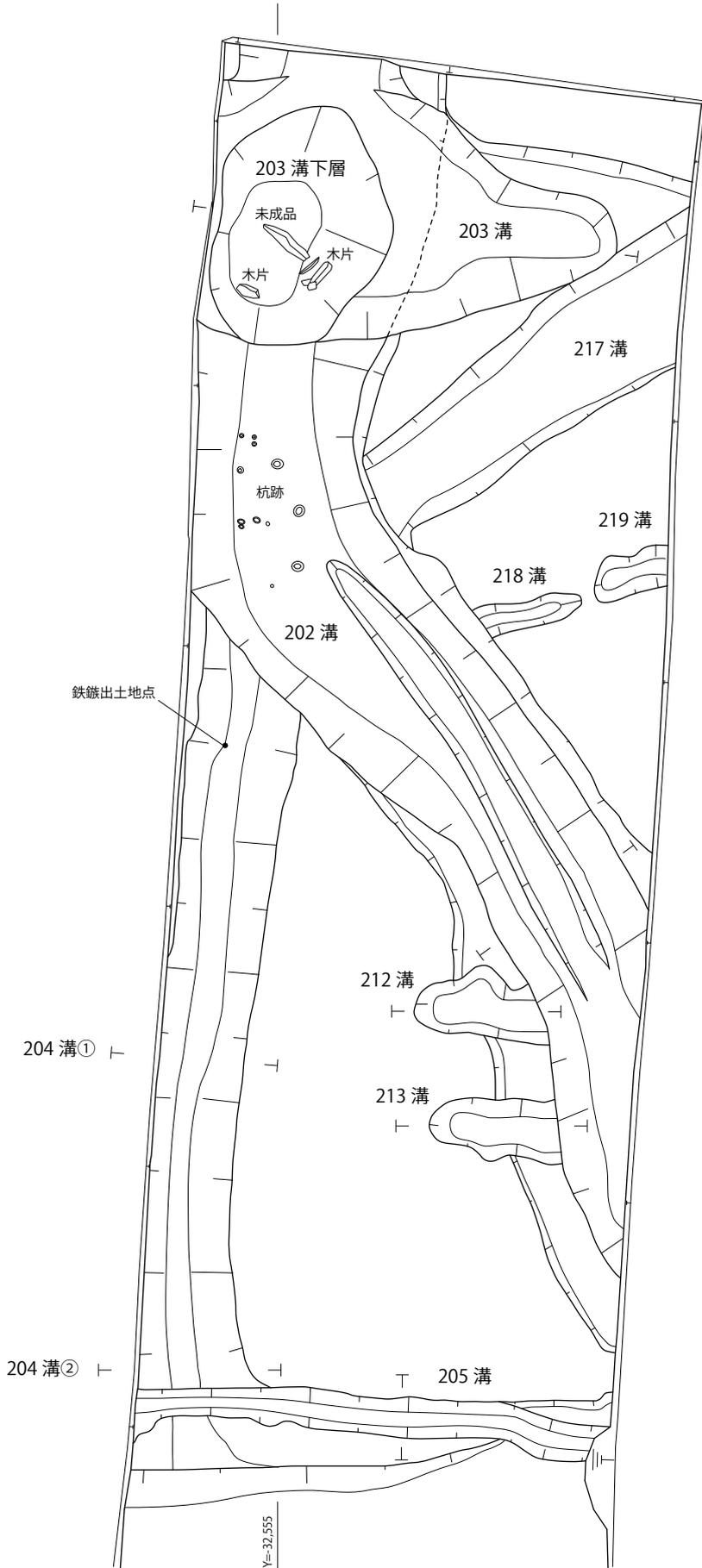
第42図 11-1-2区 第2遺構面竪穴建物1・周溝1 出土遺物実測図

X=126,270

X=126,270

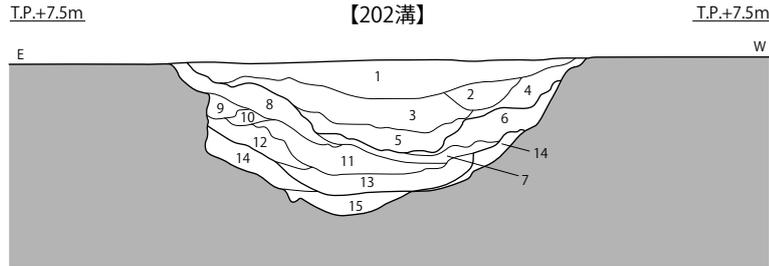
X=126,280

X=126,280



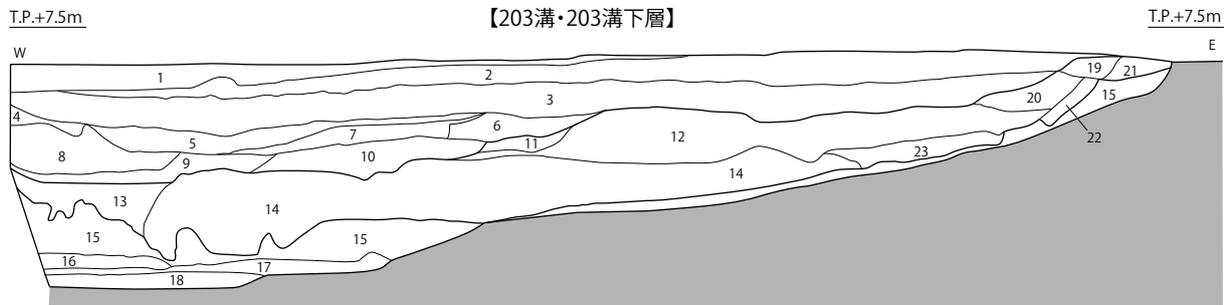
【202溝】

第 43 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 遺構平面図



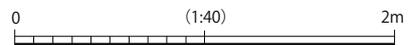
【202溝】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト やや軟質 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る ややしまり悪い<br/>2.5Y4/3 オリーブ褐色 微砂ブロック 20%程度入る</p> <p>2) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト 軟質 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る ややしまり悪い</p> <p>3) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト やや軟質 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る ややしまり悪い<br/>2.5Y4/3 オリーブ褐色 微砂ブロック 10%程度入る 炭化物微量入る</p> <p>4) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 微砂混じり粘土質シルト 軟質 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る ややしまり悪い<br/>10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂ブロック 40%程度入る 炭化物微量入る</p> <p>5) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト ややしまり悪い 炭化物多量に入る<br/>10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂ブロック 40%程度入る 軟質<br/>管状に鉄斑沈着マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る</p> <p>6) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト ややしまり悪い 炭化物多量に入る<br/>10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂ブロック 10%程度入る 軟質<br/>管状に鉄斑沈着 マンガン粒入る 径 1 cm未満の黄色礫少量入る</p> <p>7) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 軟質 管状鉄斑沈着<br/>径 1 cm未満の黄色礫少量入る しまり悪い 炭化物多量に入る</p> <p>8) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト<br/>10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂ブロック 20%程度入る 軟質<br/>管状鉄斑沈着 径 1 cm未満の黄色礫少量量に入る ややしまる</p> | <p>9) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 径 0.5 cm未満の礫少量入る<br/>2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土質シルトブロック 30%程度入る やや軟質<br/>管状鉄斑沈着 マンガン粒入る ややしまる</p> <p>10) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト<br/>10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂ブロック 20%程度入る 軟質 管状鉄斑沈着<br/>径 1 cm未満の黄色礫少量量に入る ややしまる</p> <p>11) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト やや軟質 炭化物多量に入る<br/>2.5Y3/2 黒褐色 微砂～細砂ブロック 30%程度筋状に入る 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 1 cm未満の礫多量に入る しまり悪い</p> <p>12) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト やや軟質 管状鉄斑沈着<br/>マンガン粒入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る ややしまる 炭化物多量に入る</p> <p>13) 5Y3/2 オリーブ黒色 細砂混粘土質シルト やや軟質 管状鉄斑沈着<br/>1 cm未満の礫多量に入る しまり悪い 炭化物多量に入る</p> <p>14) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト<br/>5Y5/2 灰オリーブ色 微砂混じりシルトブロック (地山) 10%程度入る<br/>やや軟質 管状鉄斑沈着 マンガン粒入る<br/>径 0.5 cm未満の礫少量量入る ややしまり悪い 炭化物多量に入る</p> <p>15) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土<br/>2.5GY3/1 暗オリーブ灰色 シルトブロック (地山) 30%程度筋状に入る<br/>非常に軟質 管状鉄斑沈着 ややしまる</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

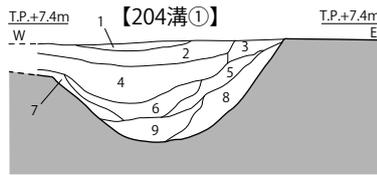


【203溝・203下層】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 7.5YR4/1 褐灰色 粘土質シルト混じり細砂<br/>7.5YR4/3 褐色 砂質シルトブロック 50%程度入る 径 0.2cm 未満の礫入る</p> <p>2) N5/0 灰色 粘土質シルト混じり極細砂 径 0.3cm 未満の礫少量入る<br/>7.5YR4/3 褐色 砂質シルトブロック 50%程度入る</p> <p>3) N5/0 灰色 粘土質シルト混じり極細砂<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 50%程度入る</p> <p>4) 10YR5/1 褐灰色 中砂～細砂混じりシルト質粘土<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 40%程度入る 炭化物入る</p> <p>5) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土</p> <p>6) 7.5YR6/6 橙色 砂質シルト<br/>10YR6/1 褐灰色 粘土質シルトブロック 30%程度入る 炭化物入る</p> <p>7) N5/0 灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルト 40%程度入る</p> <p>8) N5/0 灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂 径 2cm 未満の礫入る<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 30%程度入る</p> <p>9) 2.5Y5/1 黄灰色 粘土質シルト混じり極粗砂～粗砂 径 1 cm未満の礫入る<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 20%程度入る</p> | <p>10) 10YR6/8 明黄褐色 砂質シルト 径 0.5cm 未満の礫入る</p> <p>11) N6/0 灰色 微砂混じりシルト質粘土<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 20%程度入る</p> <p>12) 2.5Y6/1 黄灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂<br/>N7/0 灰白色 シルト質粘土ブロック 50%程度入る</p> <p>13) 2.5Y5/1 黄灰色 粘土質シルト混じり極粗砂～粗砂 炭化物入る</p> <p>14) 2.5Y6/1 黄灰色 粘土質シルト混じり粗砂～中砂 径 2 cm未満の礫入る</p> <p>15) N3/0 暗灰色 シルト質粘土</p> <p>16) 7.5Y5/1 灰色 シルト質粘土 極細砂ブロック多量入る</p> <p>17) 2.5Y7/1 灰白色 シルト質粘土 極細砂ブロック入る 粘性強い</p> <p>18) 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質粘土 極細砂ブロック入る 炭化物入る</p> <p>19) 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト 径 0.2cm 未満の礫少量入る</p> <p>20) 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 径 0.2cm 未満の礫少量量入る</p> <p>21) 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 細砂ブロック多量入る</p> <p>22) 10YR5/8 黄灰色 細砂混じり粘土質シルト</p> <p>23) 2.5Y4/1 黄灰色 微砂～細砂混じり粘土質シルト<br/>7.5YR5/6 明褐色 砂質シルトブロック 30%程度入る</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

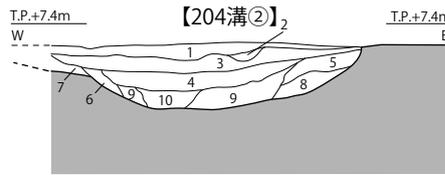


第 44 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 202 溝・203 溝 遺構断面図



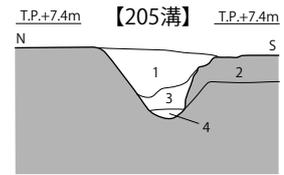
【204溝①】

- 1) 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト混じり細砂
- 10YR3/4 暗褐色 砂質シルトブロック 20% 程度入る
- 2) 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト混じり細砂
- 10YR3/4 暗褐色 砂質シルトブロック 20% 程度入る  
径 0.5cm 未満の礫入る
- 3) 10YR5/2 灰黄褐色 粘土質シルト
- 10YR3/4 暗褐色 砂質シルトブロック 50% 程度入る  
中砂～細砂筋状に入る
- 4) 2.5Y3/1 黒褐色 細砂混じりシルト質粘土
- 10YR5/8 黄褐色 砂質シルトブロック 20% 程度入る
- 5) 10YR6/1 褐灰色 シルト質粘土
- 10YR5/8 黄褐色 砂質シルトブロック 40% 程度入る
- 6) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土混じり粗砂
- 10YR5/8 黄褐色 砂質シルトブロック 50% 程度入る
- 7) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土混じり粗砂  
径 0.3cm 未満の礫入る
- 10YR5/8 黄褐色 砂質シルトブロック 50% 程度入る
- 8) 10YR4/6 褐色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
- 9) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粗砂～中砂
- 10YR5/8 黄褐色 シルト質粗砂～中砂ブロック  
20% 程度入る



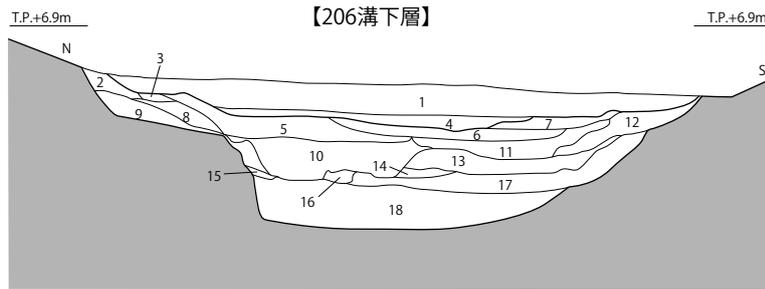
【204溝②】

- 1) 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト混じり細砂
- 10YR3/4 暗褐色 砂質シルトブロック 20% 程度入る  
径 0.5cm 未満の礫入る
- 2) 10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト混じり中砂
- 3) 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト～細砂
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 10% 程度網目状に入る
- 4) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土混じり細砂
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 10% 程度網目状に入る
- 5) 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 中砂～細砂の流入あり
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック 10% 程度入る
- 6) 10YR7/1 灰白色 シルト質粘土～極細砂
- 7.5YR5/4 にぶい褐色 砂質シルトブロック 20% 程度入る
- 7) 7.5YR6/6 橙色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック 20% 程度入る
- 8) 7.5YR6/6 橙色 粘土質シルト混じり中砂～細砂
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック 20% 程度入る
- 9) 7.5YR6/6 橙色 粘土質シルト～極細砂
- 10YR7/1 灰白色 粘土質シルトブロック 20% 程度入る
- 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルトブロック 30% 程度入る  
細砂～極細砂の流入あり
- 10) 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト 0.1cm 未満の礫少量入る
- 10YR7/1 灰白 粘土質シルトブロック 10% 程度入る



【205溝】

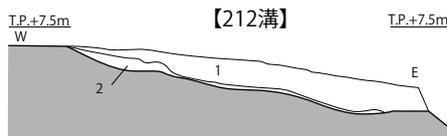
- 1) 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト  
マンガン粒入る
- 2) 7.5YR4/3 褐色 シルト質粘土  
粘性やや強い 炭化物入る
- 3) 7.5YR4/4 褐色 粘土質シルト  
混じり中砂～細砂



【206溝下層】

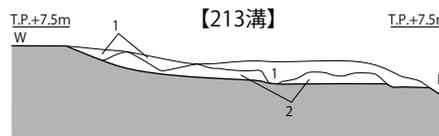
【206溝下層】

- 1) 10YR4/1 褐灰色 中砂～細砂混じり粘土質シルト 炭化物入る
- 2) 10YR5/1 褐灰色 粗砂～中砂混じり粘土質シルト
- 3) 10YR4/1 褐灰色 極細砂～粗砂混じり粘土質シルト  
径 2cm 未満の礫入る
- 4) 10YR4/1 褐灰色 シルト質粘土混じり細砂～極細砂 炭化物入る
- 5) 2.5Y5/1 黄灰色 中砂～細砂混じり粘土質シルト 炭化物入る
- 6) 2.5Y5/1 黄灰色 粘土質シルト混じり粗砂～中砂  
径 2cm 未満の礫多量に入る
- 7) 2.5Y5/1 黄灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂  
径 2cm 未満の礫入る
- 8) 10YR4/1 褐灰色 シルト混じり粘土 中砂～細砂ブロック入る 炭化物入る
- 9) 10YR4/1 褐灰色 礫混じり砂質シルト 径 2cm 未満の礫少量入る
- 10) N6/0 灰色 シルト質粘土～極細砂 炭化物入る 径 1cm 未満の礫入る
- 11) N5/0 灰色 細砂混じり粘土質シルト 径 1cm 未満の礫入る
- 12) N6/0 灰色 シルト質粘土～極細砂 径 1cm 未満の礫入る  
5BG7/1 明青灰色 シルト質粘土ブロック 20% 程度入る
- 13) 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質粘土混じり中砂～細砂 炭化物入る
- 14) 10YR6/1 褐灰色 シルト質粘土 粗砂～中砂ブロック多量入る
- 15) 10YR6/1 褐灰色 極細砂～細砂混じり粘土質シルト
- 16) 10BG7/1 明青灰色 砂質シルト 中砂～極細砂ブロック入る
- 17) N5/0 灰色 粘土質シルト混じり中砂～細砂 マンガン粒入る
- 5B7/1 明青灰色 粘土質シルト混じり極細砂ブロック 30% 程度入る
- 18) 2.5Y4/1 黄灰色 細砂～極細砂混じりシルト マンガン粒入る  
5B7/1 明青灰色 粘土質シルト混じり極細砂ブロック 20% 程度入る



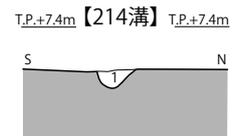
【212溝】

- 1) 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト混じり極細砂～細砂
- 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルトブロック 30% 程度入る
- 2) 10YR6/1 褐灰色 シルト質粘土混じり極細砂～細砂
- 7.5YR6/6 橙色 砂質シルト マンガン粒多量に入る



【213溝】

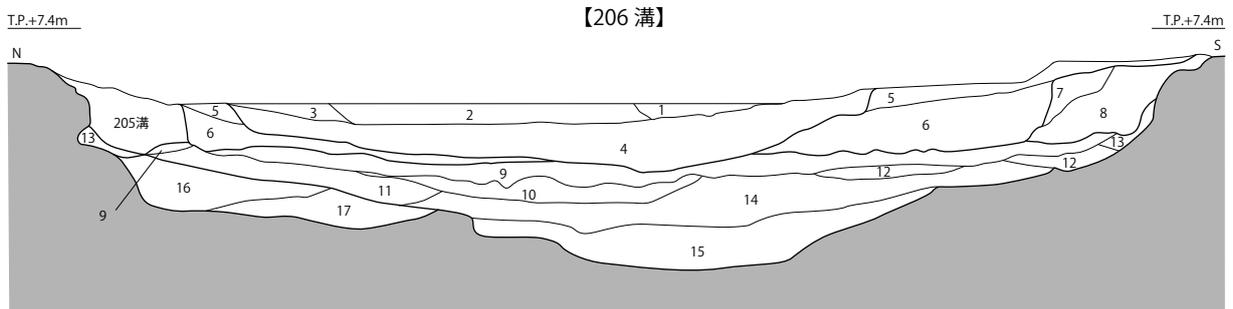
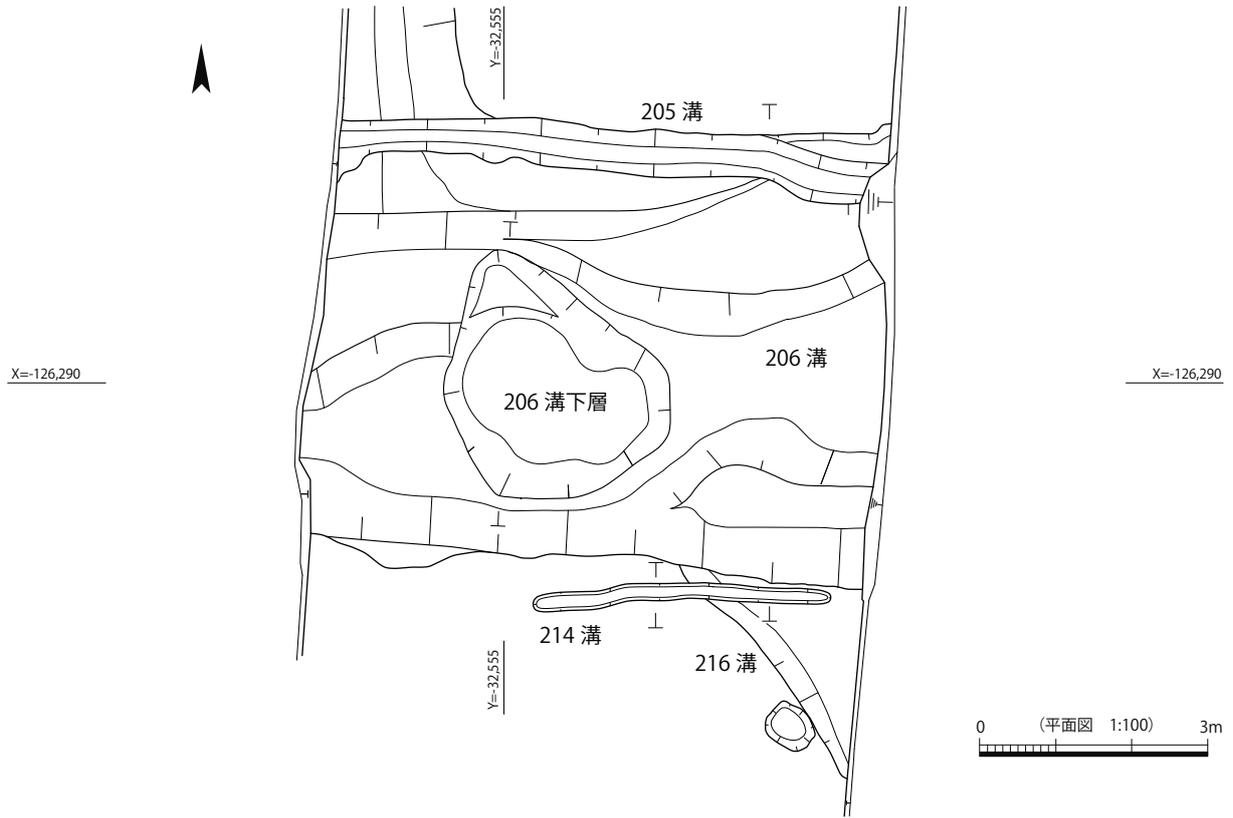
- 1) 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト混じり極細砂
- 2) 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト混じり極細砂



【214溝】

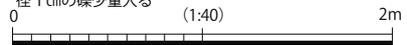
- 1) 10YR6/6 明黄褐色  
粘土質シルト混じり極細砂  
10YR6/1 褐灰色  
粘土質シルトブロック入る

第 45 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 204～206 溝・212～214 溝 遺構断面図



【206溝】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 管状鉄斑沈着 黄色礫微量入る<br/>7.5YR4/1 褐灰色 シルトブロック 40%程度入る やや軟質<br/>炭化物・マンガン粒少量入る (第3層)</p> <p>2) 7.5YR3/2 黒褐色 粗砂混じりシルト 上層に比べて軟質<br/>7.5YR4/1 褐灰色 シルトブロック 30%入る 炭化粒多量入る (第4層)</p> <p>3) 7.5YR4/3 褐色 シルト 炭化物・マンガン粒少量入る 黄色粒微量入る<br/>10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック 30%程度入る 軟質 しまり悪い (第4層)</p> <p>4) 10YR3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト マンガン・炭化粒少量入る<br/>5Y6/1 灰色 粘土ブロック 5%程度入る 黄色礫微量入る (第4層)</p> <p>5) 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり粘土質シルト 軟質 しまり悪い<br/>7.5YR3/3 暗褐色 細砂混じり粘土質シルトブロック 5%程度入る<br/>炭化物層入る マンガン粒多量入る 黄色礫微量入る</p> <p>6) 上層に近似 さらに軟質 径 0.5 cmの礫少量入る 黄色粒少量含む しまり悪い</p> <p>7) 10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂混じり粘土質シルト<br/>10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック 10%程度入る マンガン粒入る</p> <p>8) 10YR4/3 にぶい黄褐色 微砂混じり粘土質シルト<br/>10YR4/1 褐灰色 粘土ブロック 30%程度入る マンガン粒入る<br/>地山ブロック 10%程度入る</p> | <p>9) 2.5Y4/1 黄灰色 微砂混じり粘土 径 1 cm未満の礫多量入る 土器片出土<br/>2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂ブロック 30%程度入る 軟質 しまり悪い</p> <p>10) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土質シルト～粘土 緑色粒少量入る<br/>2.5Y3/1 黒褐色 粗砂ブロック 30%入る 軟質 しまり悪い</p> <p>11) 2.5Y3/1 黒褐色 粗砂混シルト 軟質 しまり悪い<br/>2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック 10%程度入る 径 0.5 cm未満の礫微量入る</p> <p>12) 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂と<br/>2.5Y4/1 黄灰色 粘土の互層 黄色礫少量入る<br/>径 0.5 cm未満の礫下位に入る やや軟質 ややしまり悪い</p> <p>13) 2.5Y3/2 黒褐色 粘土<br/>2.5Y4/1 黄灰色 粗砂の流入あり 地山ブロック 10%程度入る</p> <p>14) 2.5Y4/1-4/2 暗灰黄色 粘土質シルト 径 2 cm未満の礫多量入る しまり悪い<br/>5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり粘土ブロック 10%程度入る</p> <p>15) 5Y3/1 オリーブ黒色 細砂混じり粘土 軟質 植物遺体多量入る<br/>径 1 cm未満の礫少量入る</p> <p>16) 2.5Y4/1-4/2 黄灰色～暗灰黄色 細砂～粗砂</p> <p>17) 7.5Y3/1-2/1 オリーブ黒褐色～黒色 微砂～シルトと細砂の互層<br/>植物遺体多量入る 径 1 cmの礫少量入る</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



第 46 図 11-1-2区 第2遺構面 206溝 遺構平面断面図

211 溝は、検出長 5.6 m、最大幅 2.12 m、最大深度 0.3 mを測る。周溝西辺から屈曲し、南辺へ続くコーナー部分が最も幅広に残る。椀形から皿形、底面及び壁面に凹凸が認められる。底面レベルは、T.P.+7.02 ～ +7.32 m、コーナー部分が最も深い。埋土は、209 溝・210 溝に近似する。遺構内からは、弥生土器甕もしくは壺の破片が出土した。

**202 溝** 11-1-2-1 区において検出した遺構である（第 43 図・第 44 図）。調査区北西隅より南へのびた後、南東方向に蛇行して調査区東辺に至り、そのまま調査区外へと続く。203 溝、204 溝、212 溝、213 溝、218 溝、219 溝とは切り合い関係にある。

11-1-2 区での検出長は 20.0 m 余りであるが、連続する遺構（322 溝）が 11-1-3 区で確認されており、その総検出長は 40 m 程度になると見られる。最大幅は 3.0 m を測る。最大深度は 0.8 m、壁面に凹凸があるため断面形状は不定形である。斜めに下がる西壁面に対し、東壁面は階段状に落ち込む。埋土の堆積を見るかぎり、最低 1 回は掘り直しが行われたと推測される。

埋土は上・中・下層に大別できる。上層は包含層である第 4 層を主体とした堆積で、黒褐色砂混じり粘土質シルトを主体とする。既述のとおり、この層には古墳時代初頭の遺物が含まれている。中層は、オリーブ黒色粘土質シルトを主体とする軟質層で、部分的に黄色礫の流入がある。この黄色礫は、第 4 遺構面の基盤層である第 5 層に由来する。すなわち遺構面の機能時に、202 溝を徐々に埋没させた土砂と見てよいだろう。この層には、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の遺物が含まれている。下層はオリーブ黒色を呈する粘土層で、細かい地山ブロックが入る。202 溝下層（後述）の埋土もこれに相当する。非常に軟質で、水底の泥土を想像させる堆積土である。202 溝の底面レベルは調査区北端で T.P.+6.56 m、東辺で T.P.+6.38 m を測る。1 m あたり 1 cm 減程度の傾斜角度で、ごく緩やかに北から南東へ下がる。底面には、杭の打設痕跡や、さらに掘り込んだ小溝（202 溝下層）が認められる。

202 溝下層は、0.5 ～ 0.6 m 程度の幅をもつ掘り込みで検出長は 8.0 m に及ぶ。壁を直角に掘る箇所があることから、自然の流水痕跡とは考えにくい。水の流れを促すため大溝の底面を人為的に掘削した跡と考えてよいだろう。202 溝は、遺構面の高低差に準じて、標高の高い北から南へ下がること、また下層を掘り込むことから排水を目的として設けられた遺構である可能性が考えられる。しかし、11-1-3 区において検出した連続する 322 溝とあわせて考えると、その水流は緩やかで滞水することの方が多かったようである。202 溝内からは、弥生土器甕、土師器（庄内式）高杯・広口壺・二重口縁壺・甕が出土した（第 47 図）。

第 47 図 3 は、弥生土器の小型鉢または壺の底部である。底部外面は中央部が窪む。調整は、内外面ともにナデである。202 溝中層より出土した。

第 47 図 4 は、土師器高杯の脚部である。太く短い脚部から屈曲して裾部へ続く器形をもつ。裾部先端は欠損する。脚部は中空である。脚部から裾部への変化点には、焼成後に孔が 2 点穿たれている。外面調整は縦方向のミガキ、内面には横方向のナデと工具による粘土の掻き取りが認められる。古墳時代前期の製品である。202 溝上層より出土した。

**203 溝（土坑）** 11-1-2 区北端部において検出した遺構である（第 43 図・第 44 図）。202 溝を切る遺構で、その西壁面を貫いて調査区外へ続く。検出長は 6.1 m、最大幅は 4.3 m を測る。202 溝と交差する地点では、202 溝底面よりさらに掘り込まれた遺構（203 溝（下層））が存在する。203 溝下層の底面までを含めた最大深度は、1.2 m を測る。溝の始点から西に向かって急峻に落ち込む。

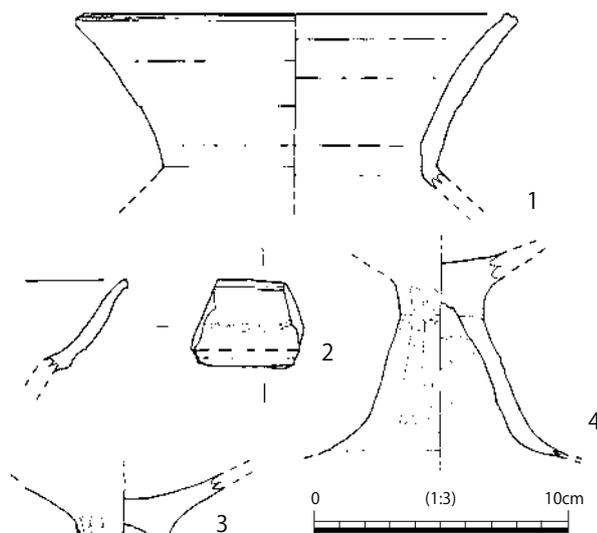
埋土は、202 溝と同じく上・中・下の 3 層に大別できる。上層は黒色味のある褐灰色粘土質シルト

～細砂を主体とする、第4層包含層である。中層は黄灰色粘土～粘土質シルトを主体とし、礫層の流入や混じり込みが顕著である。下層は灰色シルト質粘土を主体とする軟質層で、植物遺体を多く含む。遺構の平面形状は東西に長い溝状を呈するが、埋土に明確な流水痕跡は認められない。このため、周囲から徐々に土砂が流入して埋没したものと推測される。埋土からは、土師器壺・甕が出土した（第47図）。

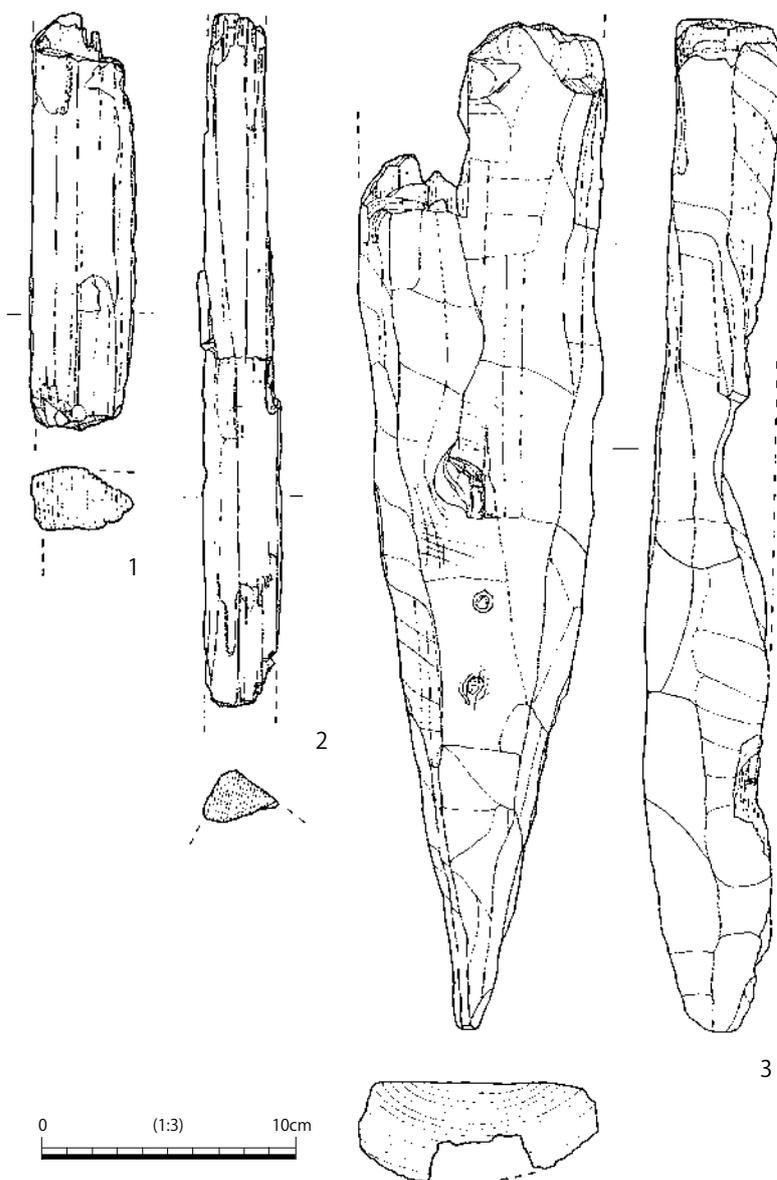
第47図1は、土師器広口壺の口縁部である。口縁が外反して開く直口壺で、調整は内外面ともに縦方向のハケ後横方向のナデを施す。口縁端部は丸みのある端面を作り、浅い凹線を一条付す。胎土には褐色・灰色・白色等を呈する様々な小礫を多数混和する。203溝中層より出土した。

第47図2は、二重口縁壺の口縁部である。やや内湾しながら立ち上がる口縁と、短く外反させる口縁端部をもつ。口縁下位には細い粘土帯が突帯状に貼り付けられている。口縁部外面には列点文が施されており、装飾壺であることがわかる。203溝中層より出土した。古墳時代前期の製品である。

203溝下層は、長径3.9m、短径2.7m程度を測る楕円形の掘り込みである。南北に長く、長軸は202溝の方向性に沿う。底面は遺構面の基盤層である第6層以下第8層までを貫き、砂層である第9層に達する（第7図基本層序参



第47図 11-1-2区 第2遺構面202溝・203溝 出土遺物実測図



第48図 11-1-2区 第2遺構面203溝（下層） 出土遺物実測図

照)。第9層は湧水層であるため遺構内は湿潤で、木質遺物の遺存度が高い。底面付近からは、木片のほか、加工材（未成品）、削片が複数出土した（第48図・図版23-3・図版24）。

第48図1・2は木片である。ともに角材の一部と見られる。1はヒノキ、2はスギを用材とする。第48図3は加工材である。厚さ6.2cmを測る板状品で、一端を鋭く削り出す。表裏面、側面に加工があり、節の部分には、刃物痕が顕著に残る。未成品の可能性が高いが、何を作る意図があったのかは判断できない。用材はミズキである。図版23-3は埋土から出土した細かい木片である。このうち23-3-5は、金属刃で木肌を削った際に出た削りかすと考えられる。用材は、すべてヒノキである。

203溝（下層）は、遺構内に湧水があること、また出土遺物に未成品や削片が含まれていることから、木製品生産に関わる遺構であると認識される。

**204溝** 11-1-2区西辺において検出した遺構である（第43図・第45図）。調査区枠に沿って南北にのびる。北端部は202溝、南端部は206溝に切られている。206溝付近では南東方向に曲がる様相があることから、206溝の南岸付近において検出した216溝に連続する可能性がある。

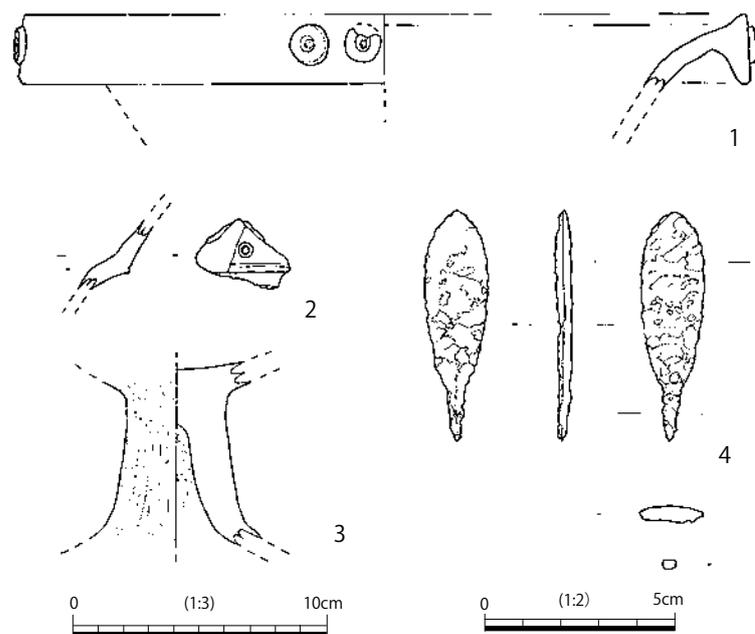
検出長は13.5m、最大幅は1.7m、最大深度は0.54mを測る。断面形状は、202溝に近い北辺ではU字形、206溝に近い南辺では浅い椀形を呈する。底面レベルは、北辺でT.P.+6.68m、南辺でT.P.+6.69mを測る。ほとんど傾斜は認められない。

遺構埋土は、202溝に接する部分とそれ以外とは差異がある。206溝に近い部分では、第4層を主体とする上層と礫混じりシルトを主体とする下層から成る。下層に入る礫は、202溝、203溝に比べて少量で、流水堆積はなく、網の目状に乾痕が入る。滞水した状態にありながら、徐々に埋没した状況が窺える。一方、202溝に接する付近では、礫混じりシルトを主体とする遺構埋土の上に、人頭大に切り出した地山ブロックが堆積する。その上から202溝が掘り込まれていることから、204溝の北端部を人為的に埋め戻した後に、204溝を設けたことがわかる。即ち、202溝は204溝を東側に付け替えた遺構であった蓋然性が高い。遺構内からは、弥生土器壺、土師器高杯・甕・鉄鏃が出土した（第49図）。弥生時代後期後半の遺構である。

第49図1は、弥生土器壺の口縁部である。口縁端部に粘土帯を貼り付けて肥厚垂下させ、幅広の端面を作る。端面には竹管文付円形浮文を2個一対で付す。残存する浮文は2箇所であるが、その間隔から、前後左右4箇所に配されていたことが想像できる。

胎土はやや粗く、砂礫の混和が目立つ。内面の一部に黒斑が認められる。弥生時代後期の製品である。埋土下層より出土した。

第49図2は、土師器二重口縁壺の小片である。口縁の段に当たる部分で、外面に竹管文が認められる。調整は、内外面ともにナデである。202溝と



第49図 11-1-2区 第2遺構面 204溝 出土遺物実測図

の接続部付近より出土した。弥生時代後期～古墳時代初頭の製品である。

第49図3は、土師器高杯の脚部である。短く太い脚柱から、屈曲して大きく開く裾部をもつ器形である。脚柱は中空、内面には絞り目が残る。外面調整は縦方向のミガキである。古墳時代初頭の製品である。埋土上層より出土した。

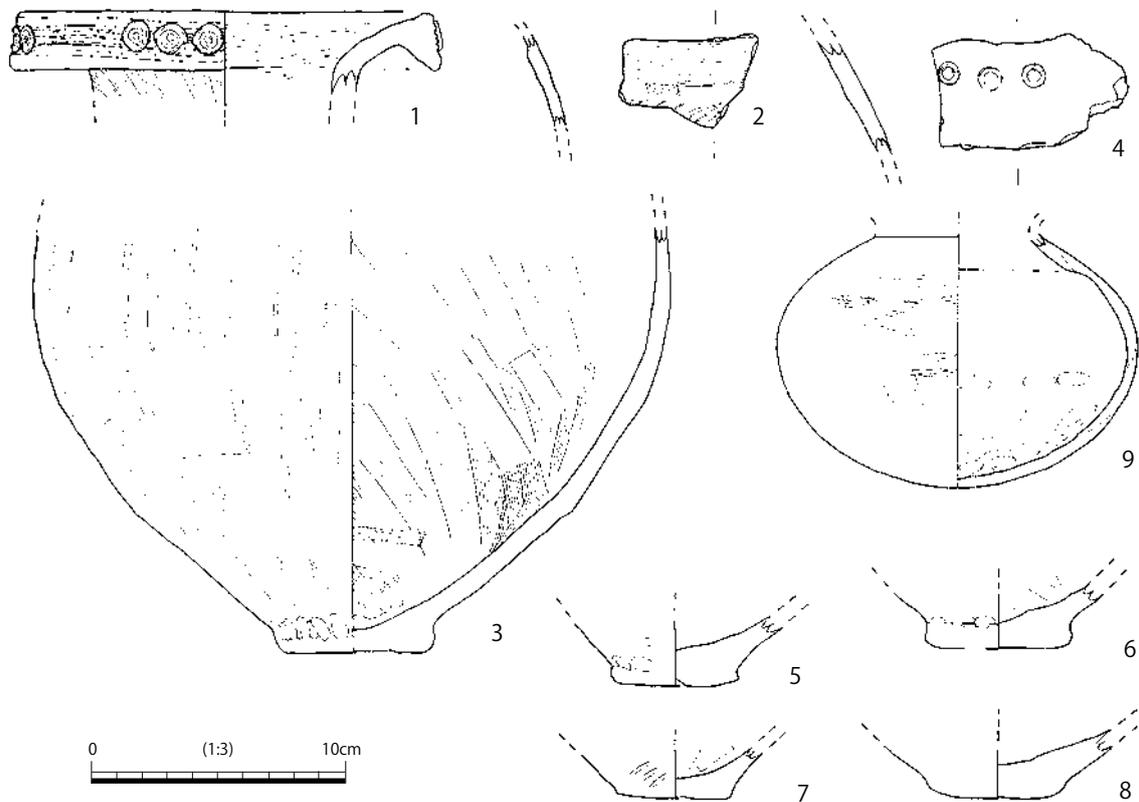
第49図4は、鉄鏃である。平面形状は木の葉状を呈しており、刃先に近い部位に最大幅をもつ。茎まで含んだ残存長は9.1cm、最大幅は2.5cmを測る。表裏面ともに錆ぶくれが進むため、凹凸が目立つ。類例は、弥生時代後期後半から古墳時代前半に見られる。202溝付近の埋土下層より出土した。共伴遺物から、弥生時代後期後半～古墳時代初頭の製品と推測される。

**205 溝** 11-1-2区の北半部において検出した遺構である(第43図・第45図)。206溝の上層を除去する段階で発見した溝状遺構で、調査区を横断して東西にのびる。調査区東辺ではやや南に湾曲し、調査区外へ続く。検出長は7.2m、最大幅は0.6mを測る。最大深度は0.35mを測る。底面レベルはT.P.+6.9m～+7.0m、西から東へ向かって緩やかに下がる。埋土は明褐色～褐色粘土質シルトを主体とする。埋土から、弥生土器甕の小片が出土した。遺構の性格は不明である。

**206 溝** 11-1-2-1区のほぼ中央を東西に横断する大溝である(第46図)。検出長は7.5m、最大幅は6.0mを測る。溝の中央部が最も低く、最大深度は0.9mを測る。遺構底面には、このレベルよりさらに下層へ掘り込む遺構があり(206溝下層)、これを含めた最大深度は1.7mに及ぶ。

遺構壁面は、段をもつ箇所と直接落ち込む箇所があり、一定ではない。底面レベルはT.P.+6.3m前後であり、検出範囲の中では傾斜を読み取ることができない。

遺構埋土は、第4層である黒褐色粘土質シルト層を主体とする上層と、遺構埋土である礫混じり粘土を主体とする中層、さらに地山ブロックの巻上げが顕著な下層に大別できる。上層の堆積が厚く、遺構



第50図 11-1-2区 第2遺構面 206溝 出土遺物実測図

の主軸に沿って大きく落ち込む。中層には、粗砂や礫の流入が筋状に認められることから、一定程度の流水があったことが窺える。埋土上層からは弥生土器甕・壺、土師器甕、中層からは弥生土器壺が出土した（第50図）。

第50図2は、弥生土器壺の小片である。肩にあたる部位で、外面調整は斜め方向のハケ後ナデ、内面はナデである。外面には8～9本を一带とする櫛描直線文、その下に斜め右上がりの列点文を刻む。弥生時代中期の製品である。埋土上層より出土した。

第50図3は、弥生土器壺の体部である。直径5～6cmを測る底面から外方へ大きく膨らむ胴部へ続く。外面調整は、タタキ後縦方向のミガキ、内面は斜め方向のハケ目を施す。内表面には剥離が認められる。弥生時代後期後半～古墳時代初頭の製品である。埋土中層より出土した。

第50図4は、弥生土器壺の肩にあたる部位である。摩滅が著しいものの、外面には横方向に付された竹管文が認められる。胎土が粗く、径5mm程度の礫を含む。弥生時代後期～古墳時代初頭の製品か。埋土上層より出土した。

第50図5～8は、弥生土器の甕である。すべて底部のみの残存である。5は、ドーナツ状の底面をもつ。中央部の窪みが深い。調整は、外面が右上がりのタタキ、内面は摩滅のため不明である。埋土上層より出土した。6は摩滅が顕著であるが、内面の一部にナデの痕跡が認められる。胎土が粗く、径8mm程度の礫を含む。内面は黒色化が顕著である。7は、底部外面中央を僅かに窪ませる。外面調整は斜め右上がりのタタキ、内面には工具のあたり痕が残る。埋土上層より出土した。8は、他に比べてさらに摩滅が顕著である。内外面ともに調整は判別できない。底部内面には黒色化したタール状の焦げ物質が付着する。埋土上層より出土した。

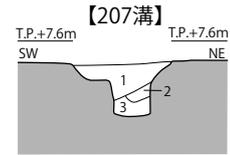
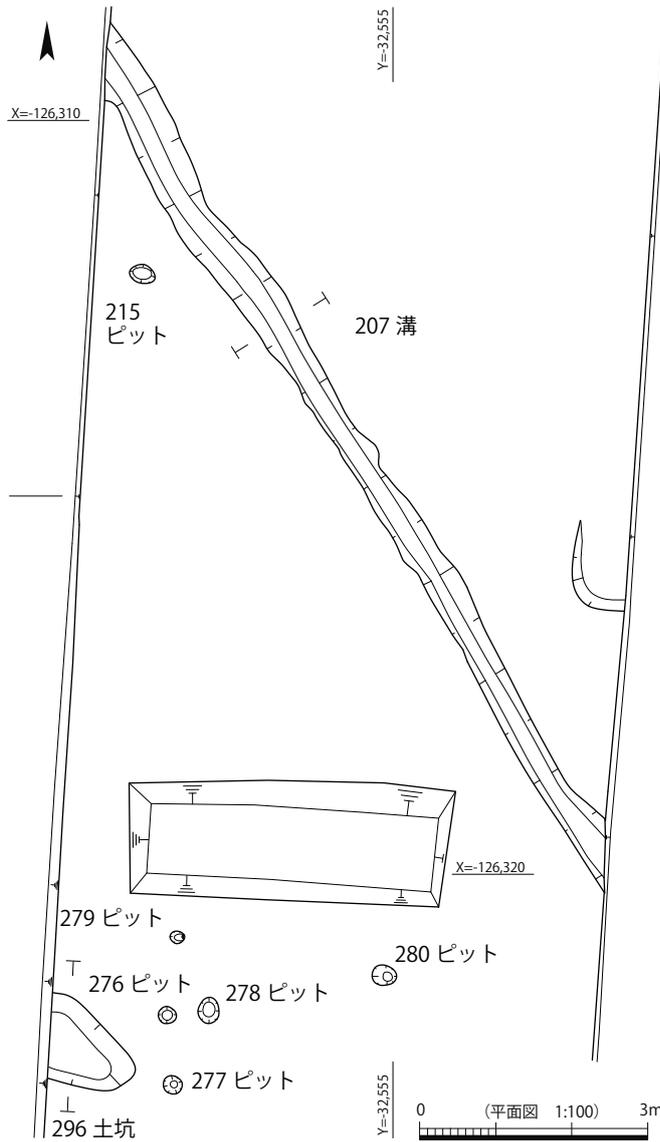
第50図9は、土師器直口壺または細頸壺の体部である。丸底で、広く張り出した胴部をもつ。摩滅が著しく、外面調整は横方向の細かいミガキが僅かに残る程度である。内面には横方向のナデと指頭圧痕が残る。古墳時代前期の製品である。

206溝下層は、長径3.0m、短径2.7m程度を測る不定形の掘り込みである（第45図・第46図）。最大深度は0.75mを測る。埋土は上位に206溝中層の落ち込みがあり、下位には地山ブロックを含む粘土層が堆積する。底面は第9層（砂層）を大きく掘り込むため、埋土には砂層ブロックと植物遺体の混じり込みが目立つ。206溝の中層がある程度埋没した段階で、206溝（下層）が掘削されたと考えられる。遺構内からは、弥生土器壺・甕が出土した（第50図）。

第50図1は、弥生土器壺の口縁部である。湾曲しながら外反する口縁端部を肥厚垂下させ、端面を作り出す。口縁端面にはハケ状工具で引いたと見られる沈線が5条あり、その上に竹管文付円形浮文を付す。円形浮文は3個一対である。残存するのは2箇所であるが、貼り付け角度から復元すると、本来は等間隔で計6箇所配されていたと考えられる。調整は、外面が縦方向のハケ後ナデ、内面は横方向のミガキが顕著に残る。胎土は精良、焼成も堅緻である。弥生時代後期の製品である。

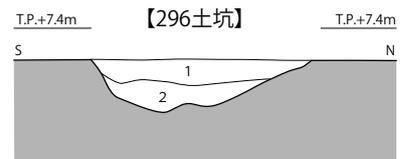
**207溝** 11-1-2区中央において検出した遺構である（第51図）。北西-南東方向に直線的にのび、双方とも調査区外へ続く。検出長12.5m、最大幅0.6mを測る。最大深度は0.28m、断面形状は逆凸形または細い方形を呈する。底面の状態は平底で平滑、底面レベルはT.P.+7.27m～+7.34mで、遺構面の傾斜に反して東が高く、西へ向かって徐々に下がる。埋土は、第4層である黒褐色細砂混じり粘土質シルトの下に、褐灰色シルト質粘土が堆積する。遺構内からの遺物出土は確認できていない。

207溝は、方位北に対し、32度西へ振った角度を主軸とする。この方向軸は、調査区北半部に位置



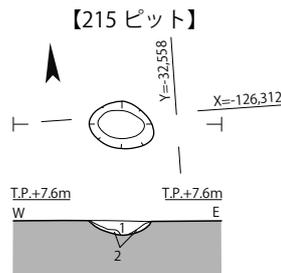
【207溝】

- 1) 10YR3/2 黒褐色 極細砂混じり粘土質シルト  
マンガン粒入る
- 2) 10YR4/6 褐色 粘土質シルト  
ややしまる マンガン粒入る
- 3) 10YR5/1 褐灰色 シルト質粘土  
10YR8/4 浅黄橙色 極細砂混じり粘土質シルト  
細砂ブロック入る



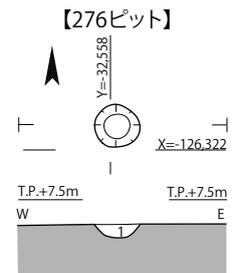
【296土坑】

- 1) 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト混じり細砂
- 2) 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト混じり細砂  
マンガン粒入る  
10YR5/1 褐灰色 粘土質シルトブロック  
5%程度入る



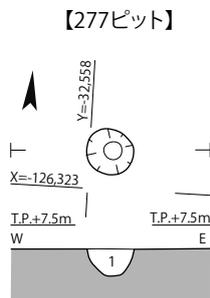
【215ピット】

- 1) 10YR5/1 褐灰色 極細砂混じり粘土質シルト  
マンガン粒入る
- 2) 10YR6/6 明黄褐色 シルト質粘土  
マンガン粒入る



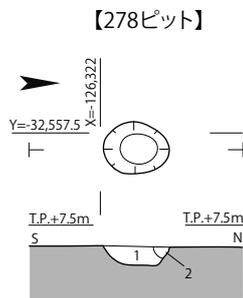
【276ピット】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
5Y6/2 灰オリーブ色 粘土ブロック5%程度入る  
炭化物入る 鉄斑沈着  
やや軟質 ややしまる



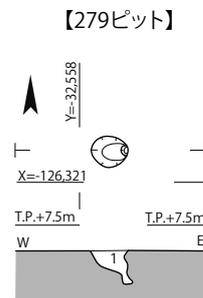
【277ピット】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
5Y6/2 灰オリーブ色 粘土ブロック5%程度入る  
炭化物入る 鉄斑沈着  
やや軟質 ややしまる



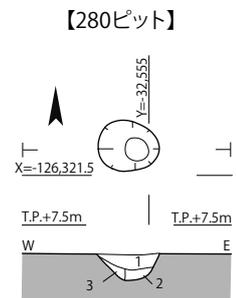
【278ピット】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
ややしまる 炭化物入る  
鉄斑沈着 やや軟質
- 2) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
5Y6/2 灰オリーブ色 粘土ブロック  
20%程度入る



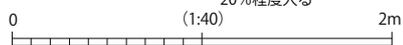
【279ピット】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
5Y6/2 灰オリーブ色 粘土ブロック5%入る  
炭化物入る 鉄斑沈着  
やや軟質 ややしまる

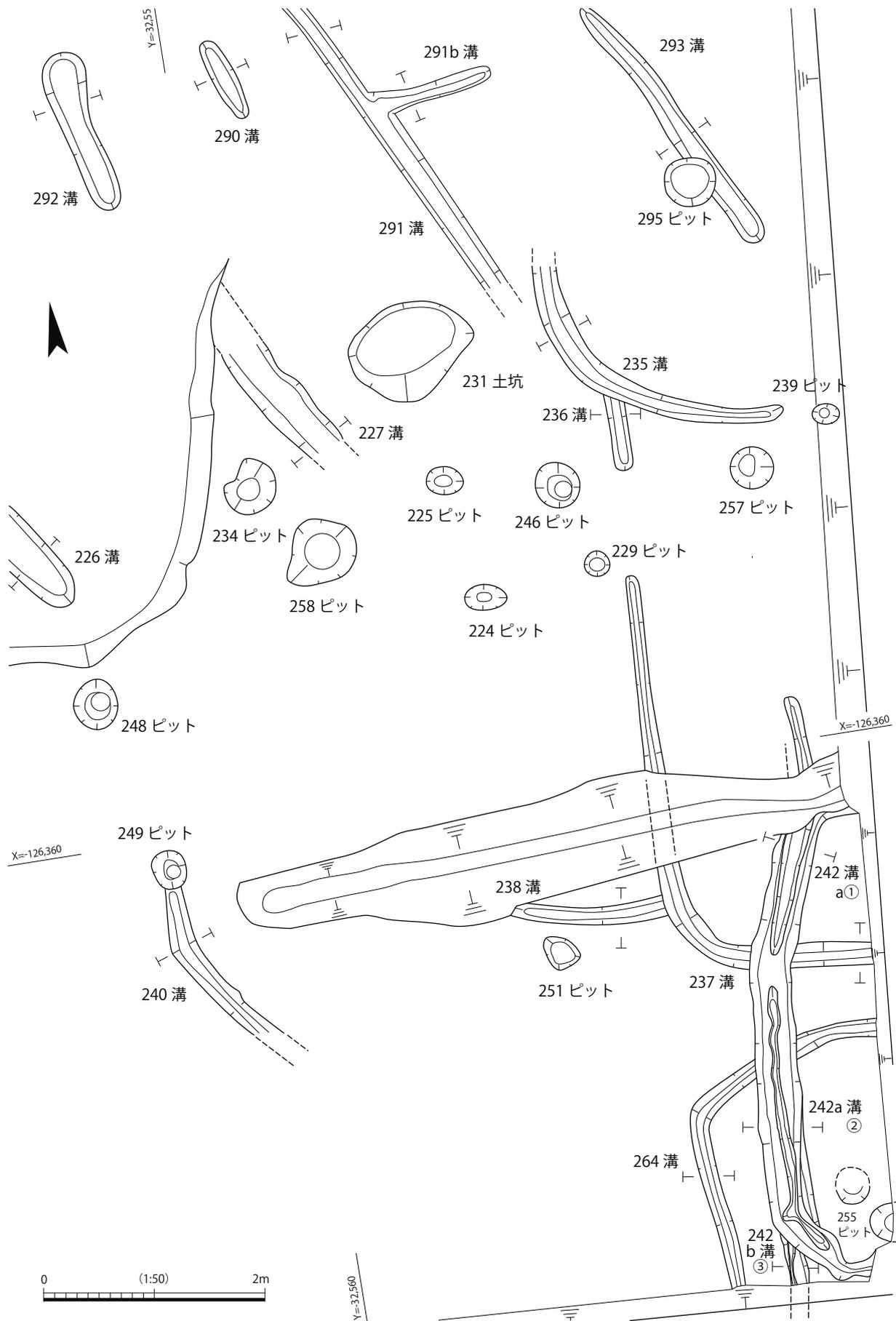


【280ピット】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
炭化物入る 鉄斑沈着 やや軟質
- 2) 5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり粘土質シルト  
5Y6/2 灰オリーブ色 粘土ブロック  
20%程度入る しまり悪い
- 3) 5Y6/2 灰オリーブ色 粘土質シルト  
5Y3/1 オリーブ黒色 微砂混じり  
粘土ブロック20%程度入る やや軟質

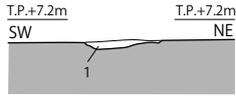


第 51 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 遺構平面断面図 (1)



第 52 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 竪穴建物下層遺構平面図

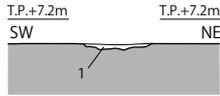
【226溝】



【226溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
やや軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

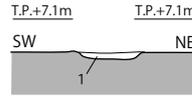
【227溝】



【227溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
やや軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

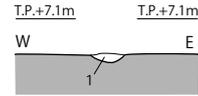
【235溝】



【235溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 10%程度入る  
非常に軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

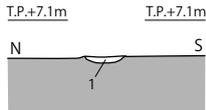
【236溝】



【236溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 10%程度入る  
軟質 しまり悪い

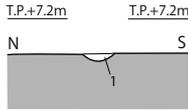
【237溝】



【237溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 10%程度入る  
軟質 しまり悪い

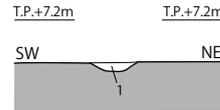
【238溝】



【238溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 10%程度入る  
非常に軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

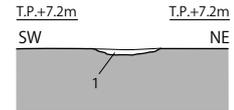
【240溝】



【240溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

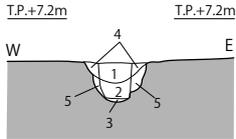
【292溝】



【292溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
やや軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

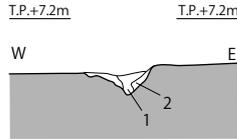
【242a溝①】



【242a溝①】

- 1) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック 30%程度入る  
5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 炭化物入る 鉄斑沈着
- 2) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質
- 3) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック 60%程度入る 軟質
- 4) 5Y4/1 灰色 粗砂混じり粘土 炭化物入る 軟質  
しまり悪い
- 5) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土  
5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック 5%程度入る 軟質

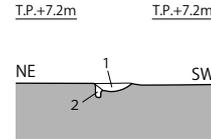
【242a溝②】



【242a溝②】

- 1) 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土ブロック 10%程度入る  
鉄分沈着  
しまりやや悪い やや軟質
- 2) 2.5Y4/1 灰色 粘土  
5Y2/2 オリーブ黒色  
粘土ブロック 20%程度入る  
鉄分沈着 しまりやや悪い  
やや軟質

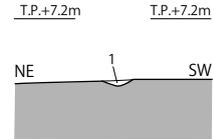
【242b溝】



【242b溝③】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック  
5%程度入る  
鉄斑沈着 しまり良い
- 2) 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土  
5Y4/1 灰色粘土ブロック  
20%程度入る  
鉄斑沈着 しまり良い

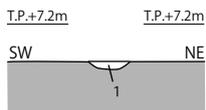
【264溝】



【264溝】

- 1) 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘土  
5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土ブロック 10%程度入る  
鉄分沈着  
しまりやや悪い やや軟質

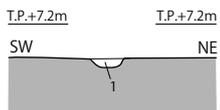
【290溝】



【290溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

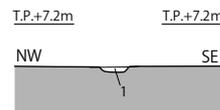
【291溝】



【291溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

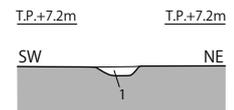
【291b溝】



【292溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着

【293溝】



【293溝】

- 1) 5Y3/1 オリーブ黒色  
粘土質シルト～粘土  
5Y4/1 灰色  
粘土ブロック 30%程度入る  
軟質 しまり悪い  
炭化物入る 鉄斑沈着



する周溝1、周溝2、202溝の屈曲部、216溝の方向性とほぼ重なる。一方、調査区南半部に位置する掘立柱建物や検出溝群とは重ならない。このため、北半部遺構群との同時性を認めることができる。遺構の性格は不明であるが、調査区北半部に集中する遺構群のうち、もっとも南に位置することから、南限を区切る区画溝である可能性が考えられる。

**212 溝** 11-1-2区北半部において検出した遺構である(第43図・第45図)。検出長1.9m、最大幅0.9m、最大深度は0.15mを測る。底面レベルはT.P.+7.24m～+7.03m、西から東へ角度をもって下がる。遺構の東端は202溝に切られており、西端は削平を受けて消滅する。埋土は褐灰色粘土質シルト混じり極細砂～細砂を主体とする。すぐ北側には同規模の遺構(213溝)が存在しており、関連するか。埋土から遺物の出土はなかった。

**213 溝** 212溝のすぐ北側で検出した遺構である(第43図・第45図)。検出長1.9m、最大幅1.1m、最大深度0.18mを測る。底面レベルはT.P.+7.19m～+7.27m、西から東へ向かい緩やかに下がる。埋土は、212溝に近似する。埋土から遺物の出土はなかった。

**214 溝** 206溝の南側において検出した溝状遺構である(第45図・第46図)。検出長3.9m、最大幅0.19mを測る。最大深度は0.09m、断面形状はU字形を呈する。ほぼ東西方向にのびることから、同方向に主軸をもつ205溝、206溝、203溝との同時期性が窺える。埋土から、土師器甕の小片が出土した。

**215 ピット** 11-1-2区中央部の西辺において検出した遺構である(第51図)。207溝のすぐ南側にあたる。ここより南側ではピットの検出が多い。平面形状はやや東西に長い楕円形で、長径0.32m、短径0.25mを測る。最大深度は0.07m、断面形状は浅い皿形を呈する。埋土から遺物の出土はなかった。

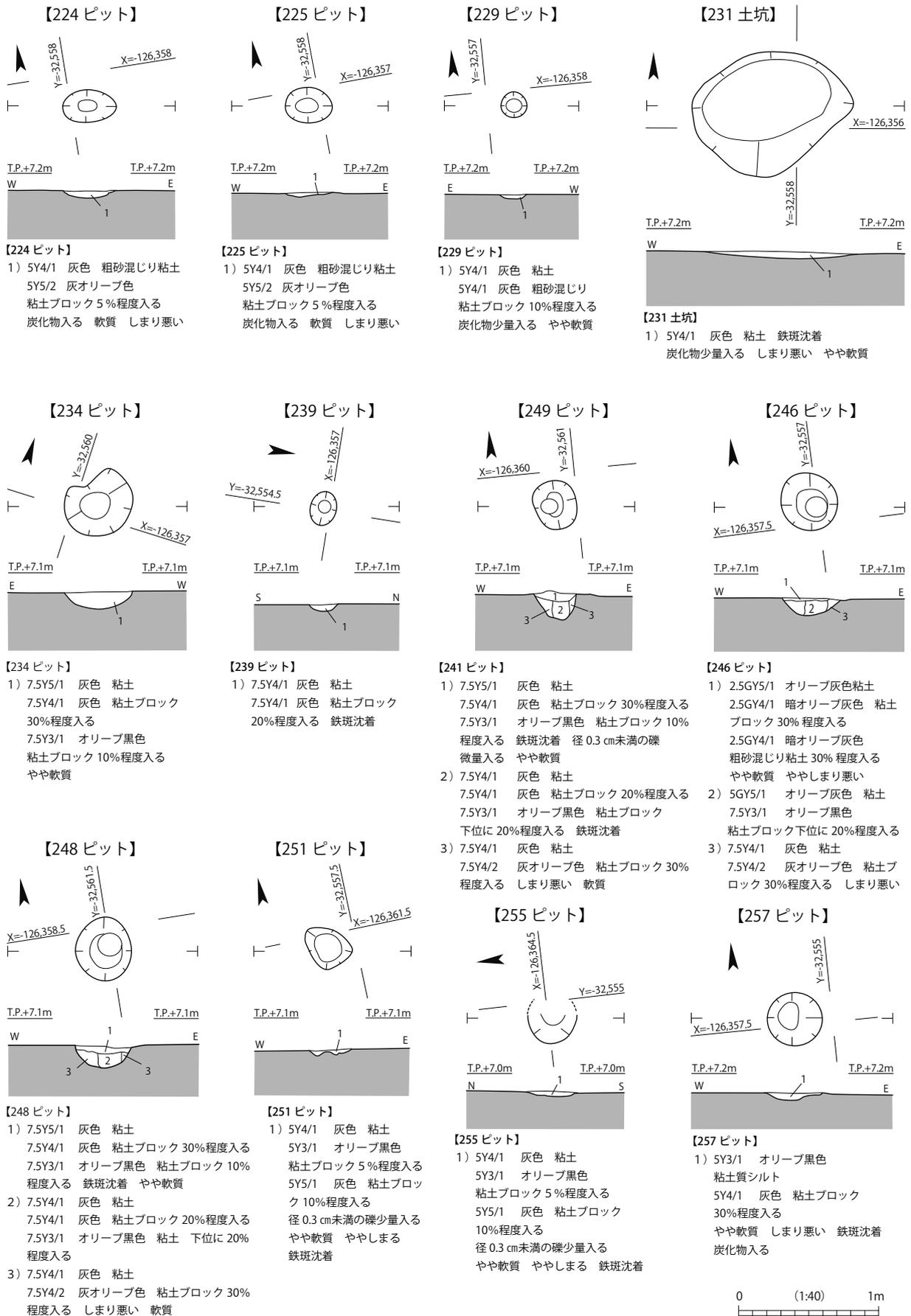
**217 溝** 11-1-2区北半部東辺において検出した遺構である(第43図)。検出長5.7m、最大幅1.9mを測る。北東-南西方向に直線的にのびており、東端は調査区外へ続いている。西端は202溝に切られる。最大深度は0.16m、底面に凹凸があるため、断面形状は不定形である。埋土はにぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルトで、径2cm未満の礫が多量に入る。

217溝は、この調査区では他遺構と同一レベルで検出したが、11-1-3区の類例(325溝)を見る限り、第5遺構面に属する遺構である可能性が高い。217溝と325溝は、ほぼ同方向にのびており、同時期性をより強く感じさせる。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

**218 溝** 217溝の南側において検出した遺構である(第43図)。検出長1.5m、最大幅0.45m、東北東-西南西方向に直線的にのびる。西端部は202溝に切られている。最大深度は0.16m、底面に顕著な傾斜は認められない。埋土は灰黄褐色細砂混じり粘土質シルトを主体とする。埋土から遺物の出土は確認できていない。217溝同様、第5遺構面に属する遺構である可能性が高い。すぐ東側に同じ方向性をもつ219溝が存在する。

**219 溝** 218溝の東側、調査区の東辺において検出した遺構である。検出長1.1m、最大幅0.7mを測る(第43図)。直線を描いて調査区外へのびる。最大深度は0.22m、断面形状は逆台形を呈する。底面の傾斜は認められない。埋土は218溝に近似する。217溝・218溝同様、第5遺構面に属する遺構である可能性が高い。遺物の出土は確認できていない。

**276 ピット・277 ピット・278 ピット・279 ピット・280 ピット** 11-1-2区中央部において検出したピット群である(第51図)。埋土はすべて包含層である第4層を主体とする。もっとも地山面の盛り上がりが高い箇所にあたるため、相当の削平を受けていると見られる。276ピットの平面形状は、直径0.24mを計る円形、最大深度0.08m、断面形状は皿形を呈する。277ピットの平面形状は直径0.25



第54図 11-1-2区 第2遺構面 竪穴建物下層遺構平面断面図

mを計る円形、最大深度は0.13 m、断面形状は楕形を呈する。278ピットの平面形状は、長径0.35 m、短径0.26 mを計る楕円形、最大深度0.08 m、断面形状は皿形を呈する。279ピットの平面形状は、径0.18～0.20 mを測る崩れた円形、最大深度0.18 m、断面形状は一部が地中に深く抉り込む不定形である。280ピットの平面形状は、長径0.30 m、短径0.28 mを計る楕円形、最大深度0.12 m、断面形状はやや浅い楕形を呈する。いずれのピットからも、遺物の出土は確認できていない。

**236 溝・237 溝** 11-1-2区南半部の東辺で検出した遺構群である(第52図・第53図)。削平及び攪乱により別遺構として付番したが、本来は連続する遺構と見られる。236溝の検出長は0.65 m、237溝は5.0 m程度を測る。236溝は北端部で上層遺構である235溝に切られている。237溝は南端部で東へ湾曲し、調査区外へ続く。236溝の最大幅は0.18 m、237溝は0.25 mである。最大深度は0.04～0.05 mと浅い。埋土は軟質のオリブ黒色粘土質シルトを主体とする。遺物出土はなかった。

**239 ピット** 11-1-2区南半部東辺において検出したピットである(第52図・第54図)。側溝際に位置するため、上位面を大きく損なう。検出できた平面形状は長径0.24 m、短径0.18 mを測る楕円形、残存深度は0.04 mである。埋土は灰色粘土を主体とする。239ピットの西側に位置する246ピット、258ピット、248ピット等とあわせて柱列となる可能性がある。遺物の出土はなかった。

**242 溝** 11-1-2区東南隅において検出した溝状遺構である(第52図・第53図)。やや左右に膨らみながら南北にのびる242溝b・242溝cと、途中から東へ屈曲する242溝aがある。断面観察では、242b溝よりも242a溝の方が新しく掘られたと見られる。242溝aの検出長は5.5 m程度、最大幅は0.4 mを測る。最大深度は0.22 m、二段掘り状に掘り込む箇所があるため、断面形状は楕形ないし逆凸形を呈する。埋土は、包含層である第4層に近似する黒褐色粘土を主体とする。遺構の北半部(断面①付近)の埋土には、炭化物が多く混じる。遺物の出土は確認できていない

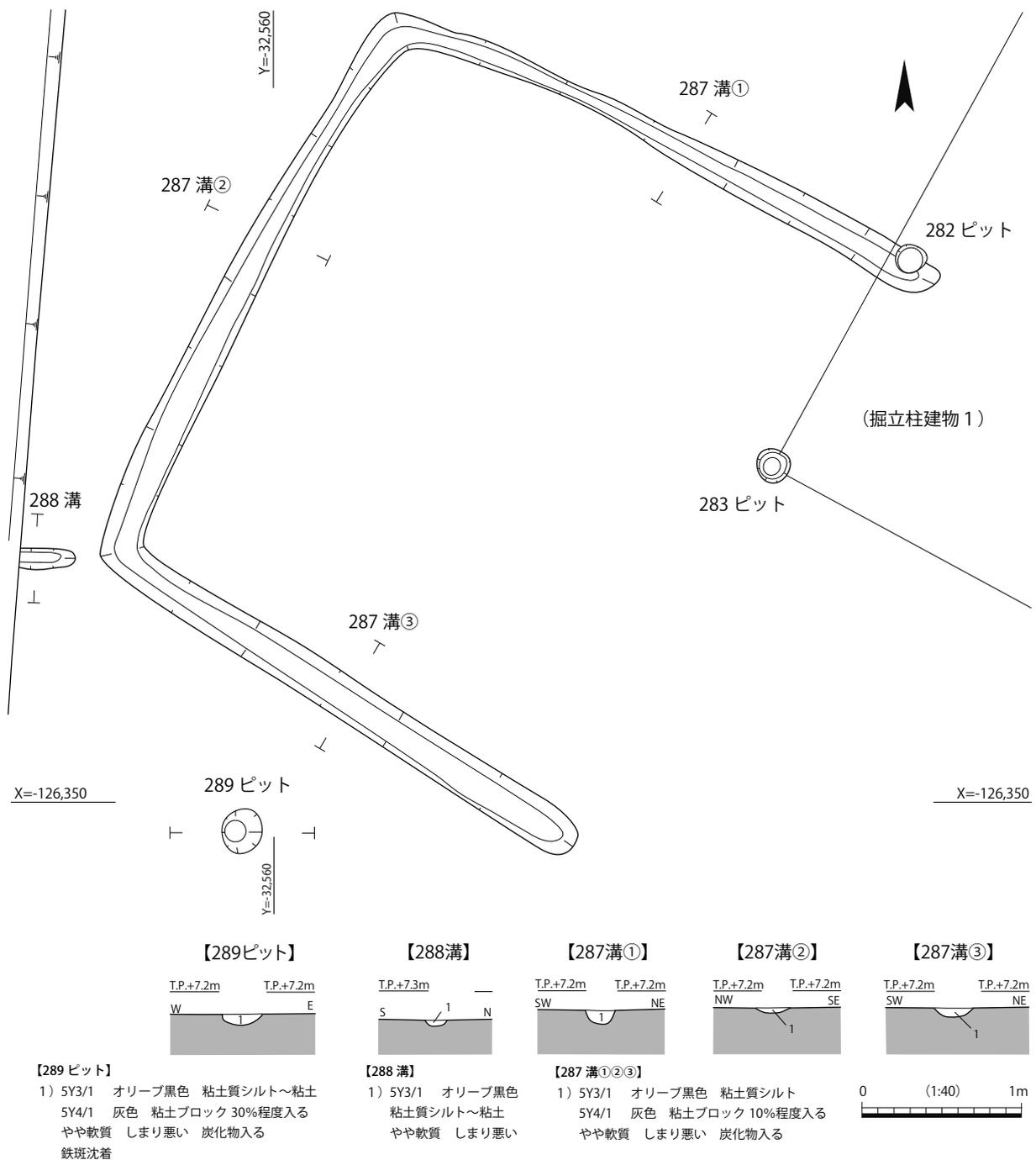
**246ピット** 11-1-2区南半部において検出した遺構である(第52図・第54図)。平面形状は、径0.40～0.42 mを測るやや歪な円形、最大深度は0.1 m、断面形状は浅い楕形を呈する。断面観察からは、径0.15 mを測る柱痕跡を確認することができる。埋土はオリブ灰色粘土を主体とする。東西に位置する遺構とあわせて、柱列となる可能性がある。遺物の出土は確認できていない。

**248ピット・249ピット** 11-1-2区南半部西辺において検出した遺構群である(第52図・第54図)。248ピットの平面形状は楕円形、長径0.48 m、短径0.45 mを測る。最大深度は0.15 mを測る。断面形状は浅い楕形を呈する。断面観察から、径0.15 mを測る柱痕跡が確認できる。249ピットの平面形状は同じく楕円形で、長径0.35 m、短径0.30 mを測る。最大深度は0.18 m、断面形状は歪んだ楕形を呈する。径0.12 mを測る柱痕跡が確認できる。248ピットと249ピットの柱間隔は、1.75 mを隔てる。埋土は、ともに灰色粘土を主体とする。遺物の出土は確認できていない。249ピットは竪穴建物の周溝である221溝と切り合い関係にあり、249ピットのほうが古い。

**287 溝** 11-1-2区南半部において検出した遺構である(第55図)一辺3.5 m～4.0 mを測るコ字形を呈する溝状遺構である。検出最大幅は0.25 m、最大深度は0.08 mを測る。掘立柱建物1のピットとは切り合い関係にあり、287溝のほうが古い。主軸は、掘立柱建物と同方位を示す。遺構内から遺物の出土は確認できていない。

**290 溝・291 溝・292 溝・293 溝** 11-1-2-2区南半部から北半部において検出した遺構である(第52図・第53図)。北西-南東方向を主軸としてのびる小溝群である。遺物の出土は認められないが、竪穴建物の周溝やピットに切られることから、比較的早い段階に設けられた遺構群と見られる。290

溝の検出長は 0.8 m、最大幅は 0.21 m、最大深度は 0.05 m、断面形状は皿形を呈する。埋土は軟質で、オリーブ黒色粘土質シルト～粘土を主体とする。細かい炭化物片が混じる。291 溝の検出長は 3.2 m、最大幅 0.25 m、最大深度は 0.05 m、断面形状は皿形を呈する。埋土は 290 溝に近似する。途中、北東方向に枝分かれしてのびる箇所がある (291b 溝)。292 溝は、調査区西辺で検出した。最大長 1.5 m、最大幅 0.4 m を測る。最大深度は 0.05 m、断面形状は皿形を呈する。埋土は 290 溝に近似する。南端部は削平を受けるため浅くなるが、南に位置する 227 溝に連続する可能性がある。293 溝は調査区東辺で検出した。検出長は 2.7 m、最大幅 0.25 m を測る。最大深度は 0.06 m、断面形状は皿形を呈する。埋土は 290 溝に近似する。途中、295 ピットと切り合い関係にある。



第 55 図 11-1-2 区 第 2 遺構面 遺構平面断面図 (2)

## 第4節 11-1-3区・11-1-4区の遺構と遺物

11-1-3区と11-1-4区は、微高地とその北側に広がる後背湿地に設定した調査区である。地山レベルが最も高いのは11-1-3区南端部で、それより以北では徐々に標高が下がる。11-1-2区に比べて包含層は良好に残存する。

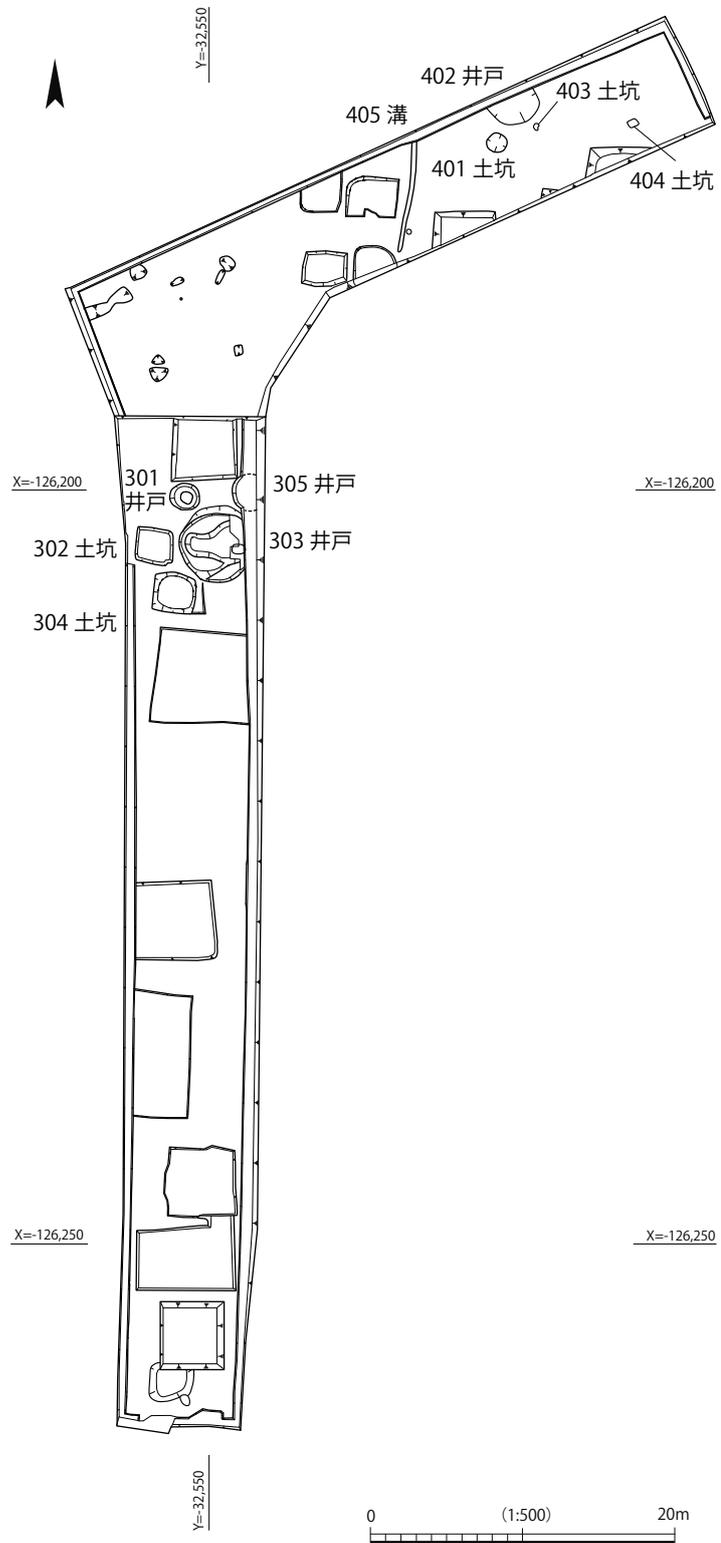
現地調査では、それぞれの包含層に対応する遺構面を計6枚検出した。このうち明確な遺構を確認したのは、計5枚の遺構面である。

**第1遺構面** 中世末～近世の耕作土及び洪水砂を除去して検出した遺構面である(第56図)。遺構面はほぼ平坦で、検出レベルはT.P.+7.7m前後を測る。

11-1-3区の南半部では、上層から掘り込まれた方形土坑が多数存在するため、大きく攪乱を受ける。11-1-3区北辺と11-1-4区では、井戸及び土坑を検出した。井戸は大規模な掘り方をもつものが多い。周辺土壌が耕作土と見られることから、灌漑用に設けられた物であると推測される。

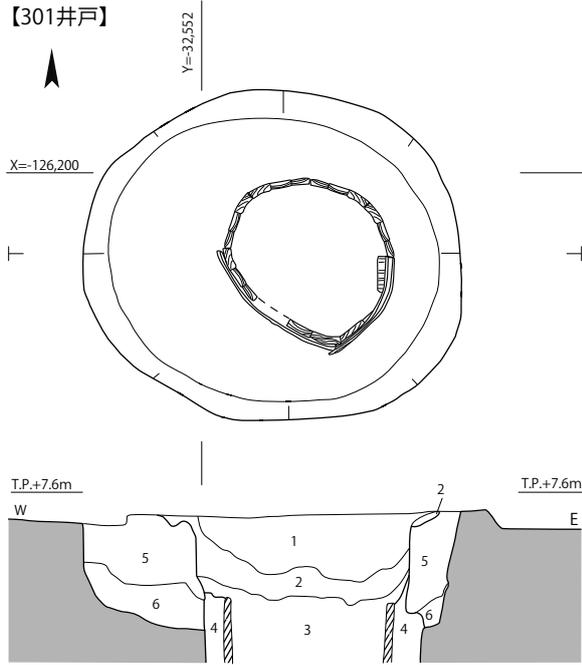
遺構面を覆う第1層からは、土師器壺・皿、須恵器杯身・壺、染付碗・湯呑、瀬戸焼急須蓋、軒平瓦、備前焼甕等が出土した。遺構面の時期は中世以後と考えられる。

**301井戸** 11-1-3区北辺部において検出した遺構である(第57図)。平面形状、長径2.0m、短径1.8m、東西に長い楕円形を呈する。断面形状は逆凸形、地表面付近では広く、深度を増すにつれて細くなる。井戸枠は中央よりやや東寄りにあり、桶の側板を利用する。井戸枠の規模は、径0.9m程度である。井戸枠の設置は、円筒状に地中を掘り込んでから側板を据える手法をとる。井戸底



第56図 11-1-3区・11-1-4区 第1遺構面 全体図

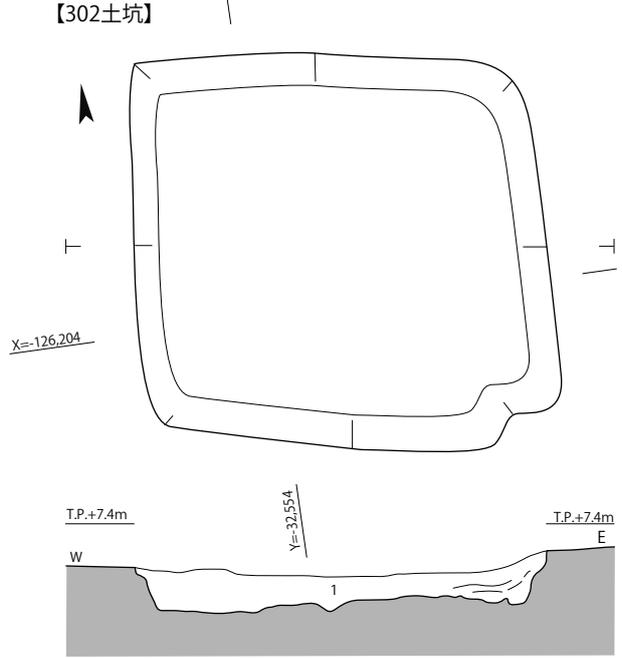
【301井戸】



【301井戸】

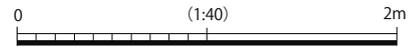
- 1) 7.5Y4/1 灰色 粗砂 しまり悪い ラミナあり 下位に向かってシルト化
- 2) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗砂混じりシルト
- 7.5Y5/2 灰オリーブ色 粘土ブロック 30%程度入る 鉄分沈着
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 5%程度入る 軟質 しまり悪い
- 3) 7.5Y4/1 灰色 粗砂混じりシルト
- 7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質 しまり悪い やや軟質
- 4) 10YR5/6 黄褐色 粗砂混じりシルトと 10YR4/1 褐灰色シルトの互層
- 10YR3/1 黒褐色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質 しまり悪い
- 5) 2.5GY5/1 オリーブ灰色 粗砂混じり粘土 鉄斑沈着 マンガン粒入る やや軟質 しまり良い
- 6) 2.5Y4/2 暗灰黄色 微砂混じり粘土 上層ブロック 10%程度入る 径 0.5 cm未満の礫少量入る やや軟質 ややしまる

【302土坑】

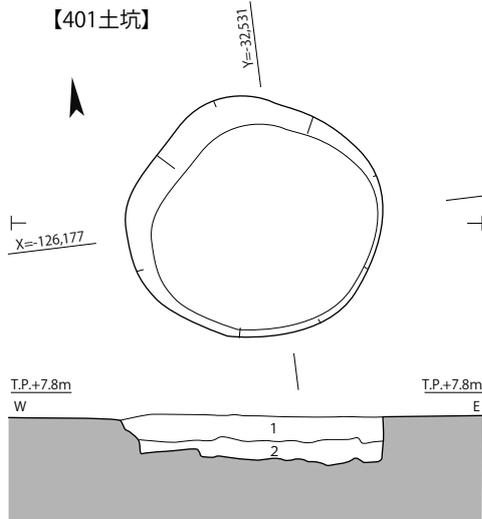


【302土坑】

- 1) 7.5Y4/2 灰オリーブ色 細砂 径 0.5 cm未満の礫少量入る
- 7.5Y5/1 灰色 粘土ブロック 20%程度入る
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 5%程度入る 軟質 しまり悪い 鉄分沈着 下位に向かい粘土ブロック増加



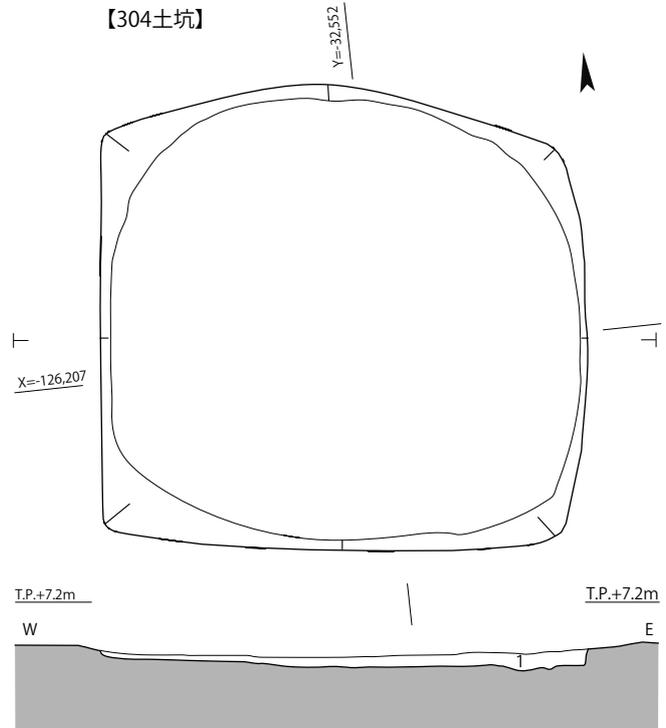
【401土坑】



【401土坑】

- 1) 10YR4/1 褐灰色 粘質土混じり細砂
- 10YR8/6 黄橙色 粘土質シルトブロック 40%程度入る
- 2) 7.5YR6/8 橙色 極粗砂～粗砂混じりシルト 径 0.5 cm未満の礫少量入る

【304土坑】



【304土坑】

- 1) 7.5Y4/2 灰オリーブ色 細砂 径 0.5 cm未満の礫少量入る
- 7.5Y5/1 灰色 粘土ブロック 20%程度入る
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック 5%程度入る 軟質 しまり悪い 鉄分沈着 下位に向かい粘土ブロック増加

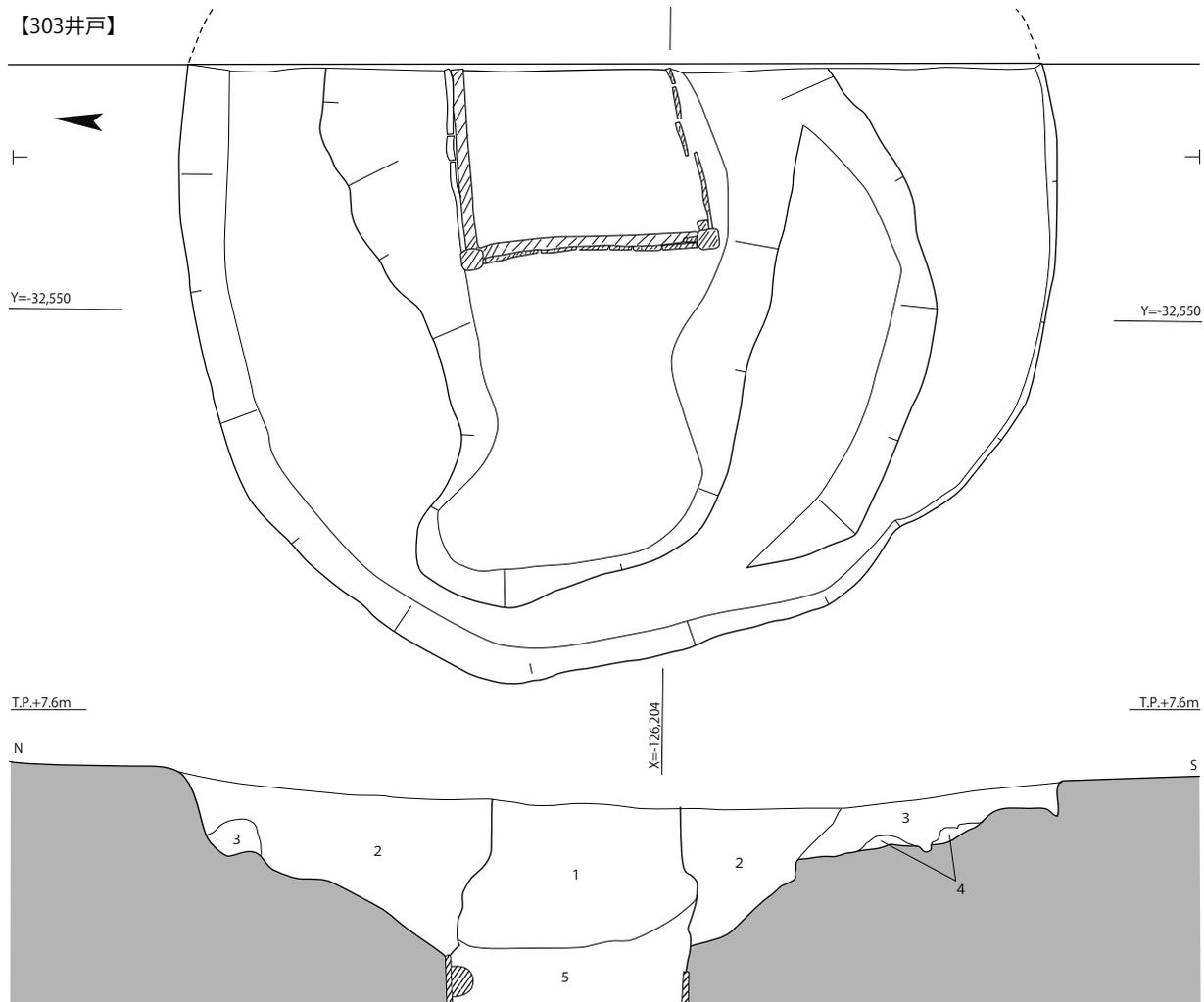
第 57 図 11-1-3区・11-1-4区 第1遺構面 遺構平面断面図(1)

面は、地山面である第6層を貫いて、湧水層である灰色細砂層（第9層）に達する。遺構内からの遺物の出土は確認できていない。

**302 土坑** 11-1-3区北半部西辺において検出した遺構である（第57図）。301井戸の南西に位置する。平面形状は隅丸方形に近く、東南角を一部欠く。南北長2.10m、東西長2.18mを測る。断面形状は逆台形に似るが、底面には凹凸があり、平坦ではない。最大深度は0.24mを測る。

埋土は灰オリーブ色細砂に灰色粘土やオリーブ黒色粘土など、周辺に堆積する包含層及び地山層に由来するブロック土を含む。埋土の一部には、細砂の流れ込みが認められる。遺構の性格は不明であるが、井戸の周辺に位置することから、水場に関連するものか。遺構内からは、軒平瓦、平瓦、丸瓦が出土した（第61図）。

第61図3は、軒平瓦の一部である。瓦当面には唐草を配する。表裏面には工具のアタリ痕が残る。



【303井戸】

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗砂混じり粘土<br/>         2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック10%程度入る<br/>         7.5Y4/1 灰色 粘土ブロック10%程度入る<br/>         2.5Y5/3 黄褐色 粗砂～シルト10%程度入る<br/>         軟質 しまり悪い 鉄分沈着</p> <p>2) 10Y4/2 オリーブ灰色 細砂混じり粘土質シルト<br/>         7.5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり粘土ブロック5%程度入る<br/>         5G5/1 緑灰色 粘土ブロック40%程度入る<br/>         径1cm未満の礫少量入る 下位に粗砂の流入あり 軟質 しまり悪い</p> | <p>3) 7.5Y5/1 灰色 粘土 軟質 鉄分沈着<br/>         径0.5cm未満の礫少量入る</p> <p>4) 5Y3/1 オリーブ黒色 粗砂混じり粘土質シルト<br/>         2.5GY5/1 オリーブ灰色 粘土ブロック10%程度入る<br/>         軟質 しまり悪い</p> <p>5) 2.5GY5/1 オリーブ灰色 粘土<br/>         5Y3/1 オリーブ黒色 粘土ブロック30%程度入る<br/>         5Y5/3 灰オリーブ色 粘土ブロック30%程度入る<br/>         軟質 しまり悪い</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



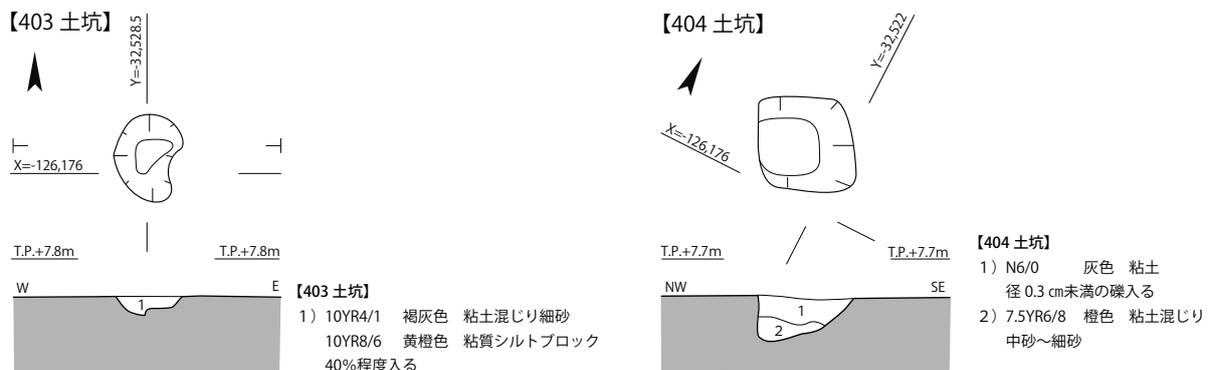
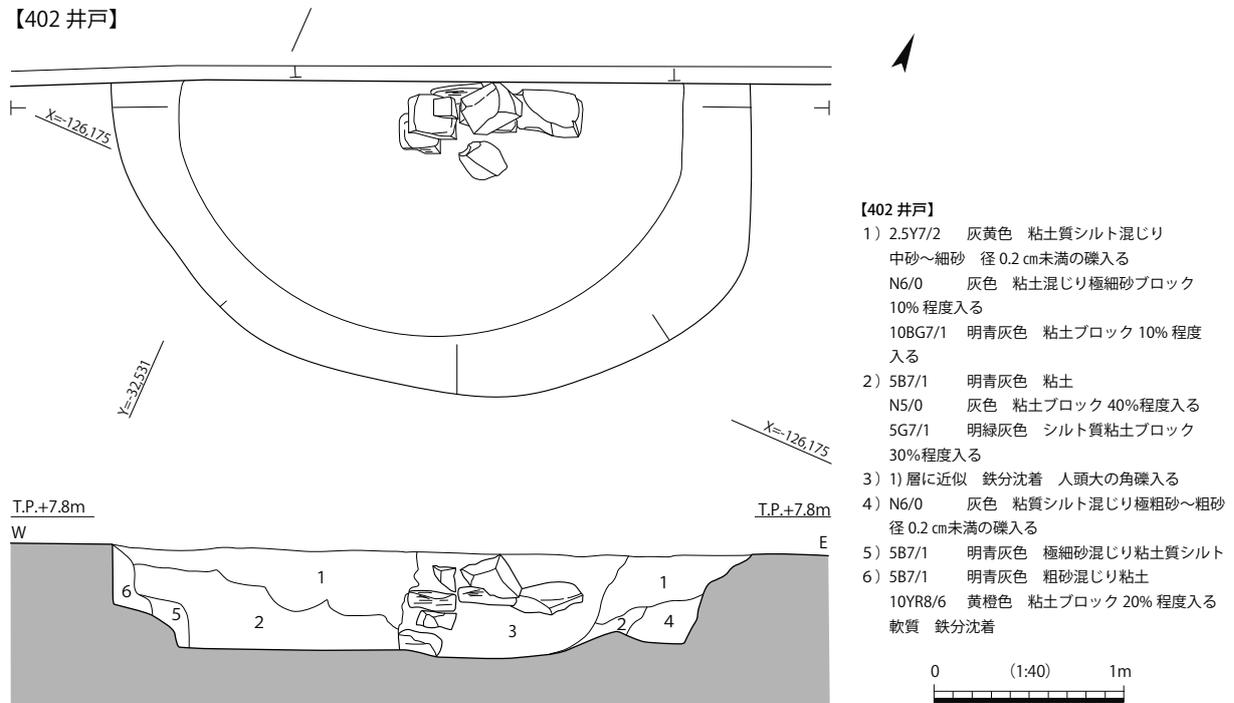
第58図 11-1-3区・11-1-4区 第1遺構面 遺構平面断面図(2)

中世以降の製品である。第 61 図 4 も同じく軒平瓦で、3 と同様の瓦当文を有する。裏面の一部に布目圧痕が残る。

**303 井戸** 11-1-3 区北半部東辺において検出した遺構である（第 58 図）。掘り方は大きく、一部は調査区外へ続く。最大径は南北方向にあり、4.7 m を測る。掘り方の壁面は段を作りながら中央へ下がり、井戸枠付近では斜めに落ちる。井戸枠は、掘り方中央よりやや東に寄る。井戸枠は縦板組で、隅柱と横棧、縦板を組み合わせて作る。掘り方の埋土は、オリブ灰色細砂混じりシルトを主体とするが、周辺に堆積する包含層や地山ブロックが大量に混じる。井戸枠内の埋土はオリブ褐色粗砂混じり粘土を主体とする軟質層である。井戸枠内からは、井戸枠の一部と思われる木片（第 67 図 1）と、施釉陶器皿（第 61 図 1）が出土した。

第 61 図 1 は、唐津焼皿の底部である。底部外面は露胎、上位より流れ落ちた釉溜まりが一部に付着する。内面は施釉、4 箇所胎土目が残る。釉薬の色調は薄い灰色である。外面調整はケズリ。工具の刃先によるキズが一部に認められる。窪ませた西部内面には墨痕が認められる。中世末期の製品である。

**304 土坑** 11-1-3 区北半部中央において検出した遺構である（第 57 図）。平面形状はやや膨れた



第 59 図 11-1-3 区・11-1-4 区 第 1 遺構面 遺構平面断面図 (3)

方形を呈する。南北長 2.45 m、東西幅 2.55 mを測る。断面形状は浅い方形、最大深度は 0.08 mを測る。但し、304 土坑の上位層は攪乱によって損なわれているため、検出レベルが他の遺構と同程度ならば、相当の深度を有していたと推定される。埋土は灰オリーブ色細砂を主体とする。水場に関連する遺構か。埋土から遺物の出土は確認できていない。

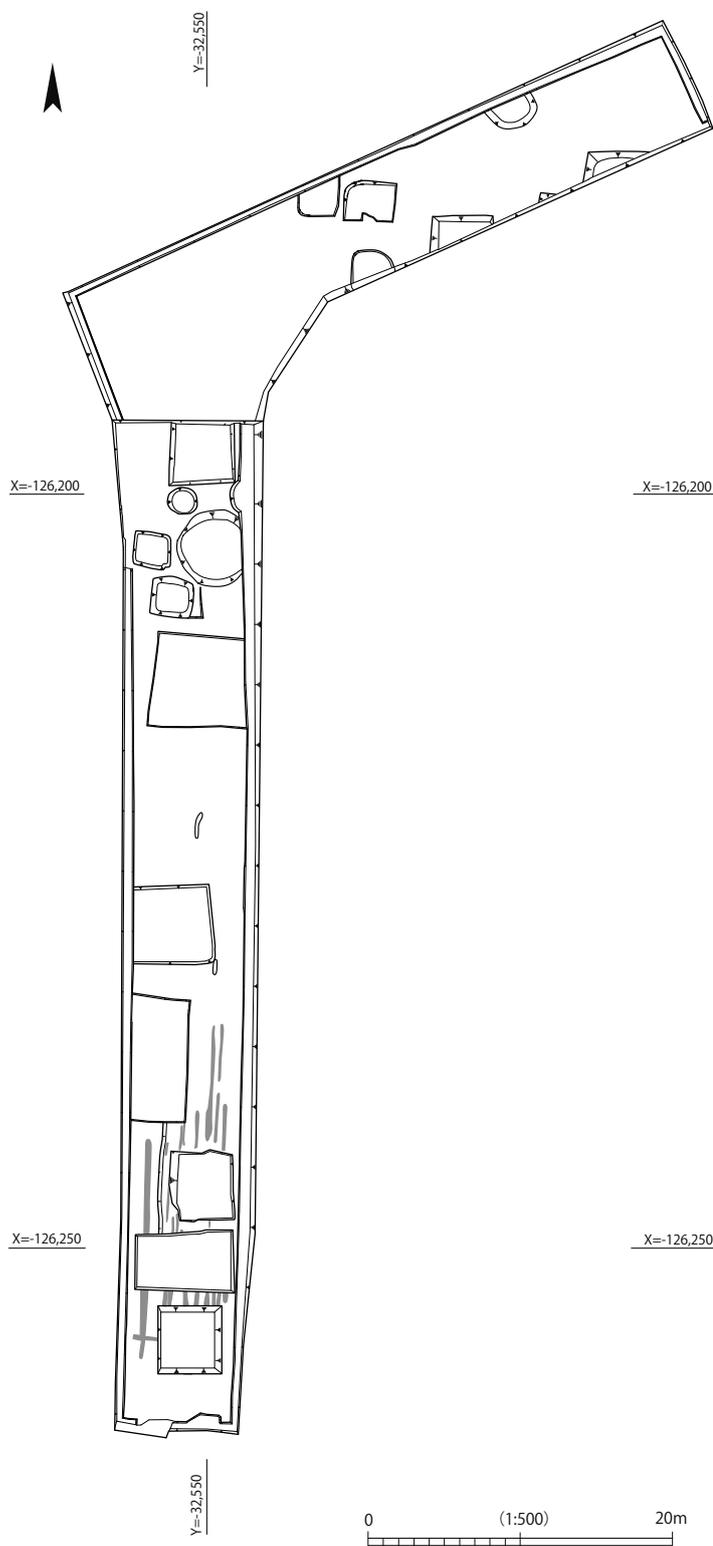
**401 土坑** 11-1-4 区東半部より検出した遺構である(第 57 図)。平面形状は歪んだ円形で、最大径は 1.36 mを測る。断面形状は逆台形に似るが、底面には凹凸が目立つ。最大深度は 0.24 mを測る。埋土は褐灰色粘土混じり細砂を主体とする。遺構内から遺物の出土は確認できなかった。遺構の性格は不明である。

**402 井戸** 11-1-4 区北辺において検出した遺構である(第 59 図)。調査区外へ続くため、検出したのは南半部のみである。平面形状は 3.35 mを測る円形、最大深度は 0.54 mを測る。断面形状は壁面に段をもつ扁平な逆凸形を呈する。素掘りの井戸で、井戸枠等は確認できていない。

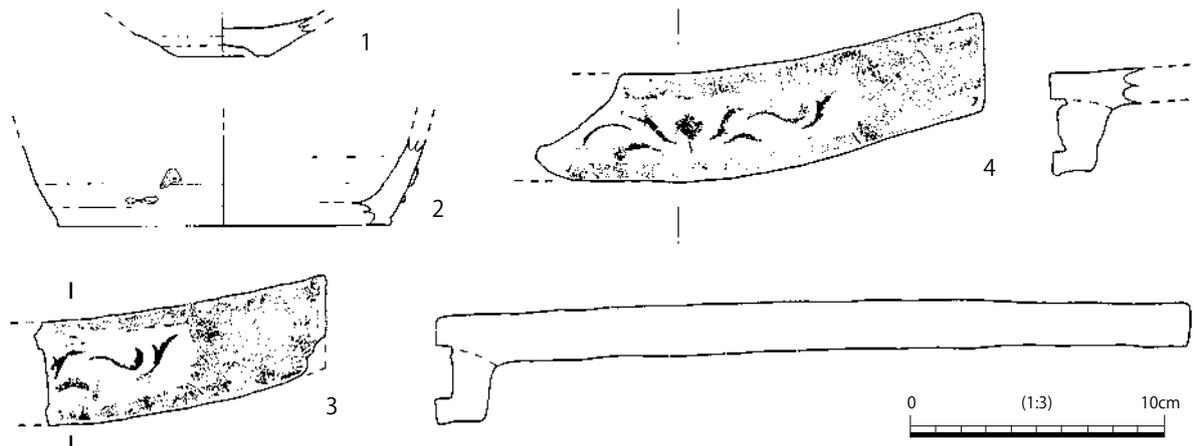
井戸枠に相当する掘り込みは、掘り方中央よりやや北東寄りに設けられている。掘り方埋土は明青灰色粘土を主体とし、その上位に後世の洪水砂である灰黄色粘土質シルト混じり砂層が堆積する。井戸中央部の埋土は後述の洪水砂に似るが、人頭大の角礫を多く含む。遺構内から遺物の出土は確認できていない。

**403 土坑** 11-1-4 区東半部において検出した遺構である(第 59 図)。平面形状は不定形で、ソラマメ形に似る。最大長 0.45 m、最大幅 0.35 mを測る。最大深度は 0.1 mを測る。埋土は褐灰色粘土混じり細砂を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

**404 土坑** 同じく 11-1-4 区東半部において検出した遺構である(第 59 図)。



第 60 図 11-1-3 区・11-1-4 区 第 2 遺構面 全体図



第 61 図 11-1-3 区 第 1 遺構面 302 井戸・303 井戸・第 2 層 出土遺物実測図

平面形状は歪んだ隅丸方形を呈する。一辺は 0.5 m 程度を測る。最大深度は 0.22 m、遺構の南西隅が深く掘り込まれている。埋土は、灰色粘土を主体とする。埋土から遺物の出土は確認できなかった。

**第 2 遺構面** 中世後期包含層を除去した段階で検出した遺構面である（第 60 図）。遺構面の検出レベルは、T.P.+7.3 m～+7.5 m を測る。11-1-3 区南端部が最も高く、北東へ向かって緩やかに下がる。微高地にあたる 11-1-3 区南半部では、南北方向にそろそろ鋤溝が複数残る。やや低地である 1-1-3 区北半部と 11-1-4 区では、明確な遺構を確認できていない。

11-1-3 区では、第 2 遺構面を覆う第 2 層から、弥生土器甕・壺、土師器甕・壺・皿・土製品（図版 21-2-4）、須恵器杯身・壺底部・杯蓋・甕・鉢（図版 21-2-2）、瓦器椀、瓦、木製品（第 67 図 2）が出土した。また 11-1-4 区からは、須恵器杯身・鉢の小片が出土した（第 61 図 2）。遺構・遺物ともに 11-1-3 区南半部に集中することから、当遺構面ではこの周辺が利用に適した土地であったことが窺える。第 2 層から出土した遺物のうち、層の下限年代をあらわすのは瓦器椀である。13 世紀に製作時期をもつ楠葉型が多い。第 2 遺構面の形成時期は、中世前期である。

第 61 図 2 は、須恵器壺または鉢の底部である。外面調整は工具によるナデで、アタリ痕と粘土塊が残存する。底部外面には他製品の胎土が融着する。内面調整はナデである。8～9 世紀の製品である。

第 67 図 2 は、付木である。先端の一部に焦痕が認められる。11-1-3 区第 2 層より出土した。

図版 21-2-2 は、須恵器鉢の口縁部である。内湾して立ち上がる鉄鉢状の器形をもつ。口縁端部はナデで端面を作る。調整は、内外面ともにヨコナデである。8 世紀の製品である。11-1-4 区第 2 層より出土した。

図版 21-2-4 は、土師質の土製品である。球状品の約 5 分の 2 程度が残存する。摩滅を受けるものの、表面はナデにより滑らかに整形されていたと見られる。胎土は良好だが、一部胎土に空隙が認められる。11-1-3 区の第 2 層より出土した。

**第 3 遺構面** 古代末期～中世初頭包含層である第 3 層を除去した段階で検出した遺構面である（第 62 図）。遺構面の検出レベルは、T.P.+7.2 m～7.4 m を測る。上位面同様、11-1-3 区南端部が最も高く、北東へ向かって徐々に下がる。このため、微高地である 11-1-3 区南端部では、残存する包含層が薄く、上層を除去した段階で当該遺構面が露出する箇所も見受けられた。

標高が低い 11-1-3 区北半部及び 11-1-4 区は、やや軟質土壌となる。一方、微高地にあたる 11-1-3 区南半部には安定した地盤が広がっており、この部分において、溝、ピット、井戸等の遺構を検出した。

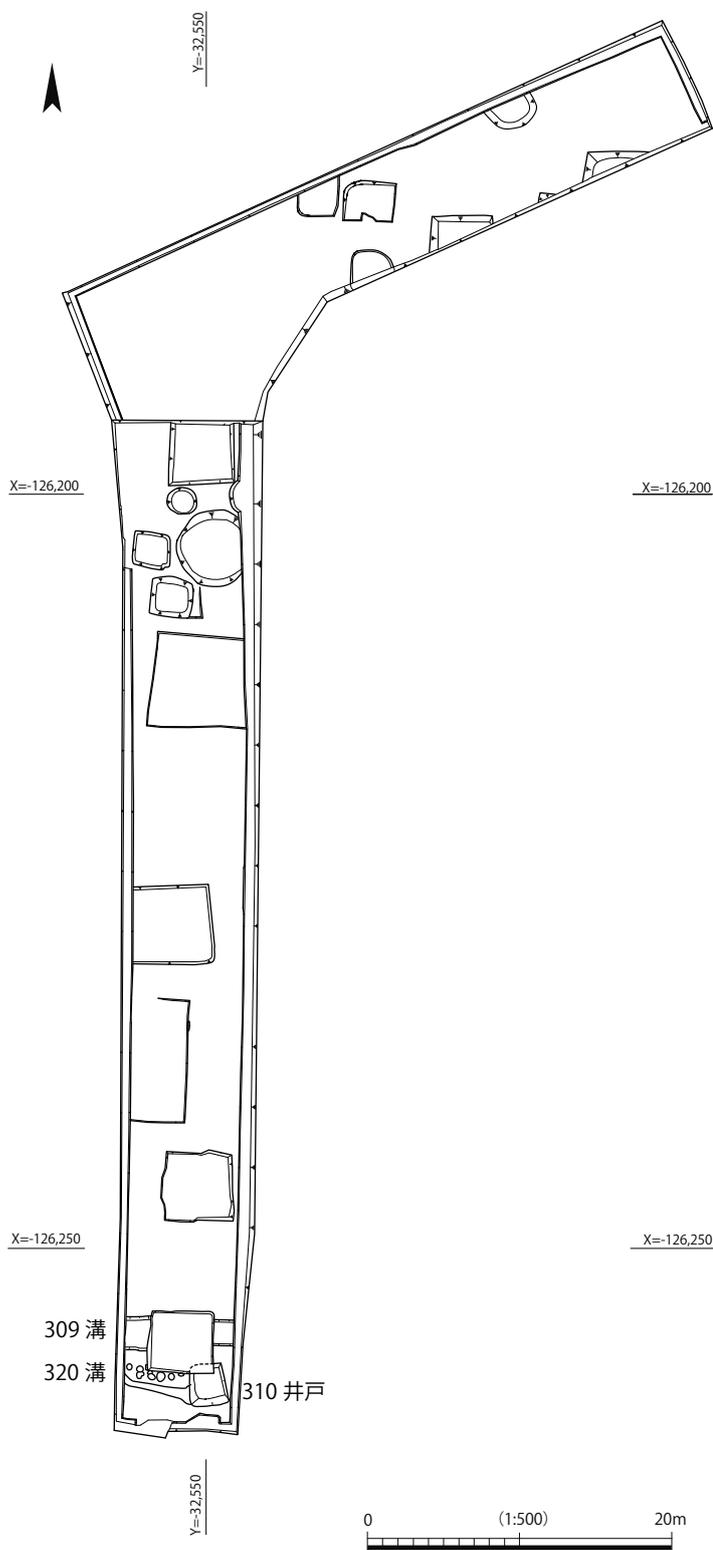
11-1-3 区南半部では、第 3 遺構面精査時に、土師器甕、須恵器杯身・杯蓋・甕、瓦器椀、青磁碗等の遺物が出土した。また遺構内からは、瓦器椀（12 世紀）が出土した。このため、当該遺構面の下限時期は 12 世紀頃と考えられる。ただし、出土遺物には奈良時代（8 世紀）のものも多く含まれていることから、第 3 遺構面の形成時期は、古代～中世初頭と推測される。

**309 溝** 11-1-3 区南半部において検出した遺構である（第 63 図）。中央に確認調査時の攪乱を挟むが、連続して調査区を東西に横断し、調査区外へ続くと見られる。検出長は、それぞれ 1.6 m と 1.3 m を測るが、連続すると 7.2 m に及ぶ。最大幅は 1.9 m である。最大深度は 0.3 m、断面形状は皿形である。底面レベルは、T.P.+7.13 m～7.17 m で、西に高く、東へ向かって傾斜する。遺物の出土は確認できていない。

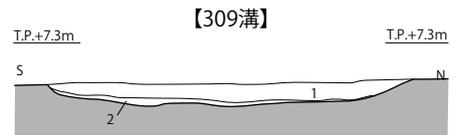
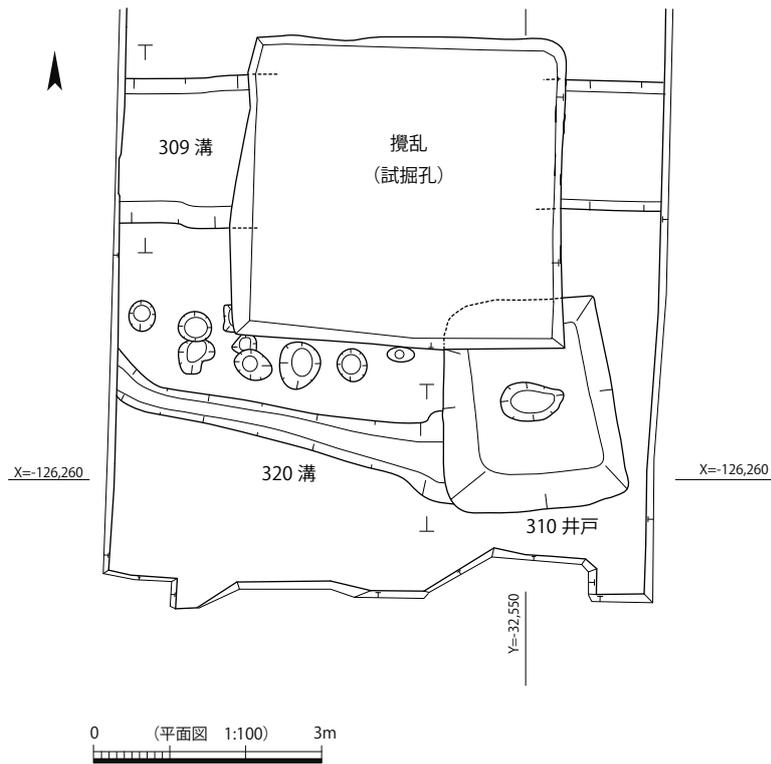
**310 井戸** 11-1-3 区南端部東辺において検出した。確認調査時に、すでにその北西隅の一角が発見されていた遺構である（第 63 図）。

平面形状は、やや台形に近い隅丸方形で、南北にやや長い。南北復元長は 2.8 m、東西幅は 2.0～2.4 m を測る。素掘りの井戸で、特に井戸枠等は設けられていない。遺構の壁面は、段状に掘り込まれており、断面形状は逆凸形に近い。ほぼ中央に、東西に長い崩れた楕円形を呈する掘り込みがあり、約 0.3 m 下がる。この中央の掘り込み部分は第 9 層（灰色砂層）まで達しており、微量の湧水が確認できる。

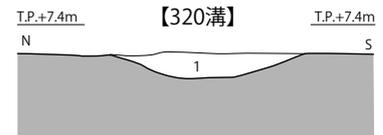
埋土は、ブロック土を多く含むことか



第 62 図 11-1-3 区・11-1-4 区 第 3 遺構面 全体図

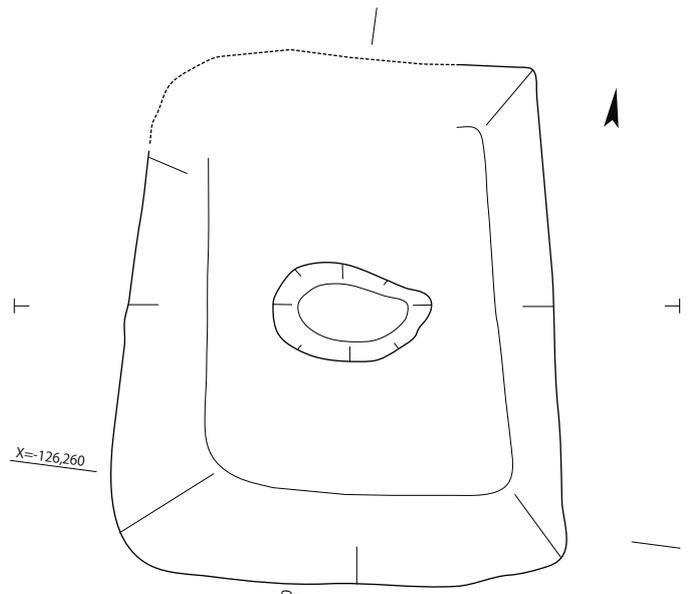


- 【309溝】**
- 1) 5Y4/1 灰色 粗砂混じりシルト  
7.5Y7/1 灰白色 粘土ブロック 10%程度入る 軟質
  - 2) 7.5YR4/6 褐色 粘土質シルト混じり細砂  
10YR7/1 灰白色 粘土ブロック 20%程度入る 軟質

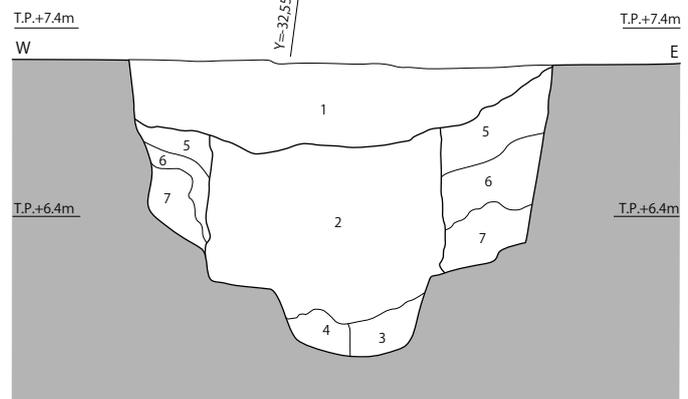


- 【320溝】**
- 1) 2.5Y5/2 暗灰黄色 細砂混じり粘土質シルト  
2.5Y5/1 黄灰色 細砂混じり粘土ブロック 10%程度入る 鉄斑沈着  
径 0.5 cm未満の礫少量入る 軟質 しまり悪い

**【310井戸】**



- 【310井戸】**
- 1) 5Y5/1 灰色 細砂混じり粘土質シルトブロック 60%程度と  
2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック 10%程度と  
2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粗砂混じり粘土ブロック 20%程度と  
2.5Y6/6 明黄褐色 細砂混じり粘土ブロック 5%程度の混合層  
しまり悪い 軟質  
径 0.5 cm未満の礫少量入る
  - 2) 5Y2/1 黒色 粘土ブロック 40%程度と  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 50%程度と  
5Y5/3 灰オリーブ色 粗砂混じり粘土ブロック 5%程度と  
5Y5/3 灰オリーブ色 粗砂ブロック 5%程度の混合層  
しまり悪い 軟質
  - 3) 2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック 35%程度と  
2.5Y4/1 黄灰色 粘土ブロック 65%程度の混合層 しまり悪い  
軟質 植物遺体入る
  - 4) 2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック 30%程度と  
2.5Y4/1 黄灰色 細砂混じり粘土ブロック 70%程度の混合層  
粘性強い しまり悪い 軟質 植物遺体入る
  - 5) 5Y5/1 灰色 細砂混じり粘土質シルトブロック 50%程度と  
2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック 10%程度と  
2.5Y3/3 暗オリーブ褐色 粗砂混じり粘土質シルトブロック 40%  
程度の混合層  
しまり悪い 軟質 径 0.5 cm未満の礫少量入る
  - 6) 5Y2/1 黒色 粘土ブロック 20%程度と  
5Y4/1 灰色 粘土ブロック 70%程度と  
5Y5/3 灰オリーブ色 粗砂混じり粘土ブロック 10%程度の混合層  
しまり悪い 軟質 径 0.5 cm未満の礫少量入る
  - 7) 2.5Y3/1 黒褐色 粘土ブロック 50%程度と  
2.5Y5/1 黄灰色 粘土ブロック 30%程度と  
2.5Y2/1 黒色 粘土ブロック 20%程度の混合層 しまり悪い 軟質



第 63 図 11-1-3 区 第 3 遺構面 遺構平面断面図

ら、人為的に埋め戻された可能性が高い。中世前期に行われた水田形成時の整地によるものか。井戸中央の埋土からは、瓦器椀（12世紀楠葉型）、付木（第67図3）が出土した。また、掘り方からは、土師器甕（古代）が出土した。古代～中世初頭の遺構である。

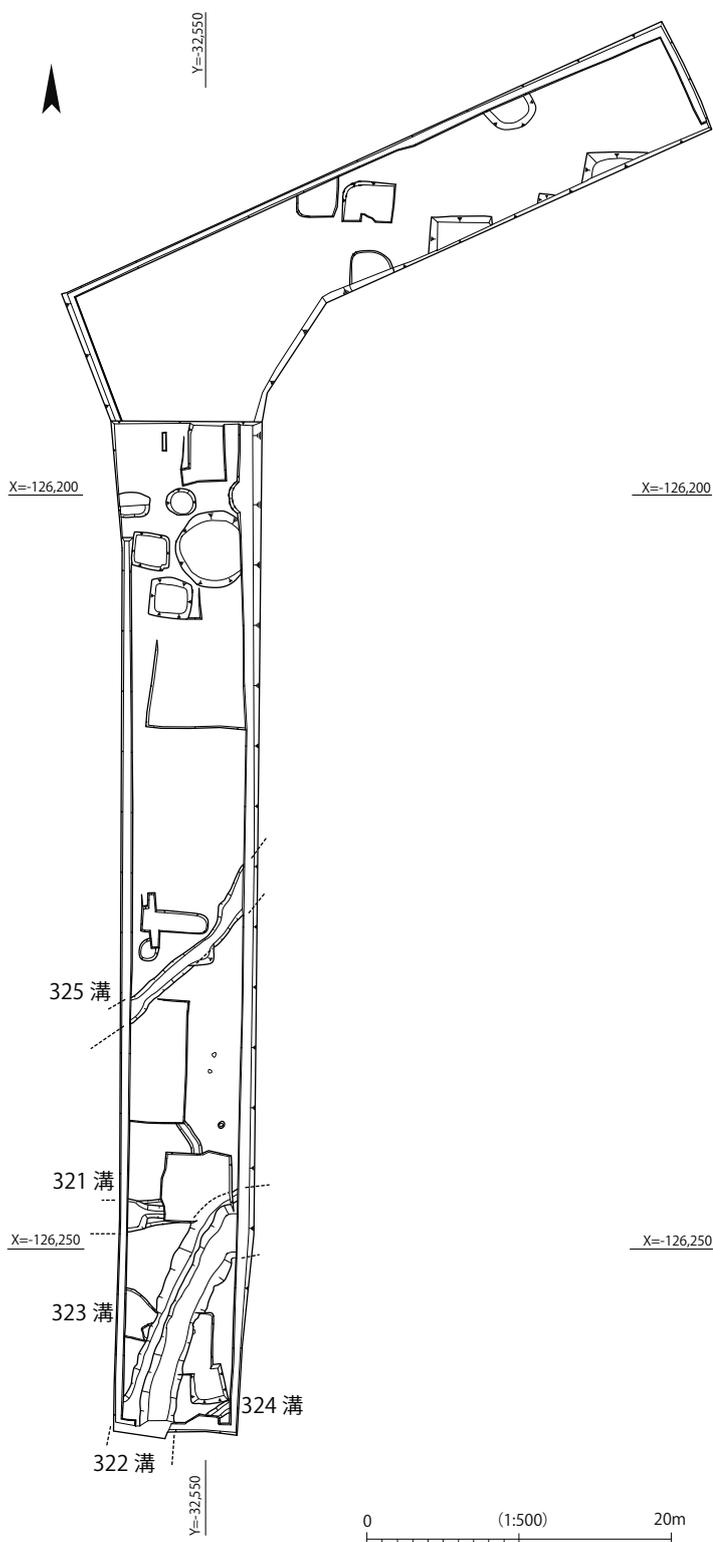
**320 溝** 同じく11-1-3区南端部において検出した遺構である。調査区をほぼ東西に横断し、東端は310井戸に切られる。西端は、北西に進路を変えて調査区外へ続く。310井戸付近が最も幅広で、1.2mを測る。最大深度は0.14m、断面形状は皿形を呈する。底面レベルは、T.P.+7.14m～7.16m、僅かであるが西から東へ下がる。遺物の出土は確認できなかった。

なお、320溝の北側には連続するピット群を検出したが、これは小規模な溝が削平されたため、底面の凹凸のみが残存するものと見られる。309溝とあわせて、この付近に東西方向へのびる溝が数条設けられていたと考えられる。

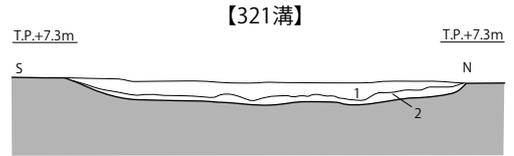
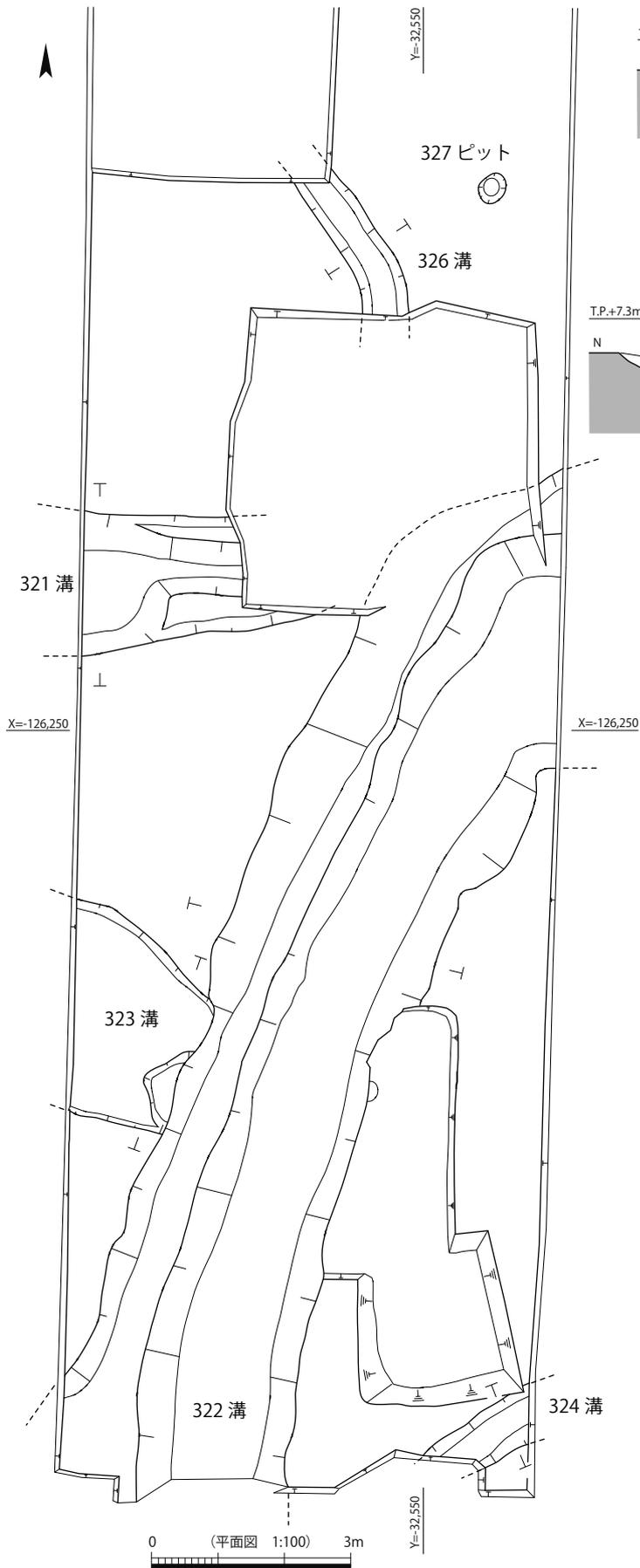
**第4遺構面** 弥生時代後期～古墳時代初頭の包含層である第4層を除去して検出した遺構面である（第64図）。ただし第4層は薄層で、11-1-3区南端部西辺のみに残存する（第13図参照）。このため、11-1-3区中央部以北では、遺構面の直上に古代～中世初頭包含層である第3層が堆積する。ここでは、第4層に由来する埋土をもつ遺構を、この遺構面に属するものとして判断し、第64図～第66図に示した。

遺構面の標高は、T.P.+7.3m～+7.0mを測る。上位面と同じく南が高く、北へ向かって徐々に下がるが、この遺構面では特に北東への傾斜が顕著となる。このため、11-1-4区東端部が最も低い。

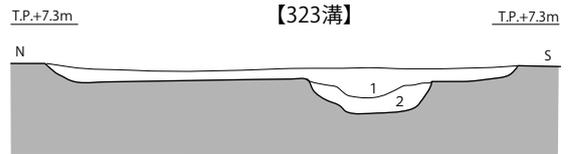
第4遺構面では、11-1-3区南半部において、溝、ピットを検出した。このうち、大型溝である322溝は、11-



第64図 11-1-3区・11-1-4区 第4遺構面 全体図



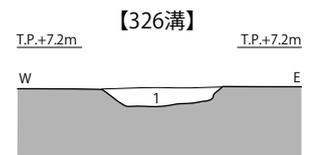
- 【321溝】**
- 1) 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質シルト混じり極細砂  
7.5Y7/1 灰白色 粘土ブロック10%程度入る やや軟質  
径0.5cm未満の礫少量入る しまり悪い
  - 2) 7.5YR4/6 褐色 細砂混じり粘土質シルト  
10YR7/1 灰白色 粘土ブロック20%程度入る 軟質



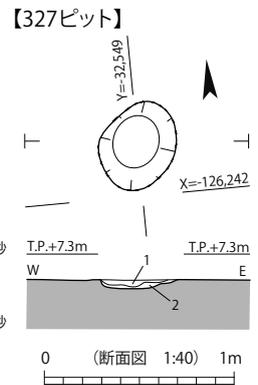
- 【323溝】**
- 1) 10YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土質シルト  
10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルトブロック10%程度入る  
やや軟質 ややしり悪い マンガン粒入る 鉄斑沈着
  - 2) 2.5Y3/1 黒褐色 微砂混じり粘土  
7.5YR3/3 暗褐色 シルトブロック40%程度入る  
マンガン粒入る 鉄斑沈着 やや軟質 ややしる



- 【324溝】**
- 1) 7.5YR4/6 褐色 粘土質シルト  
10YR5/1 褐灰色 粘土ブロック30%程度入る  
しり悪い
  - 2) 10YR5/6 明黄褐色 粘土質シルト混じり細砂
  - 3) 7.5YR6/6 褐色 粘土質シルトブロック60%程度と  
10YR7/1 灰白色 粘土ブロック40%程度の混合層  
軟質 しり悪い



- 【326溝】**
- 1) 7.5YR4/6 褐色 細砂混じり粘土質シルト  
10YR7/1 明褐灰色 粘土ブロック20%程度入る  
やや軟質



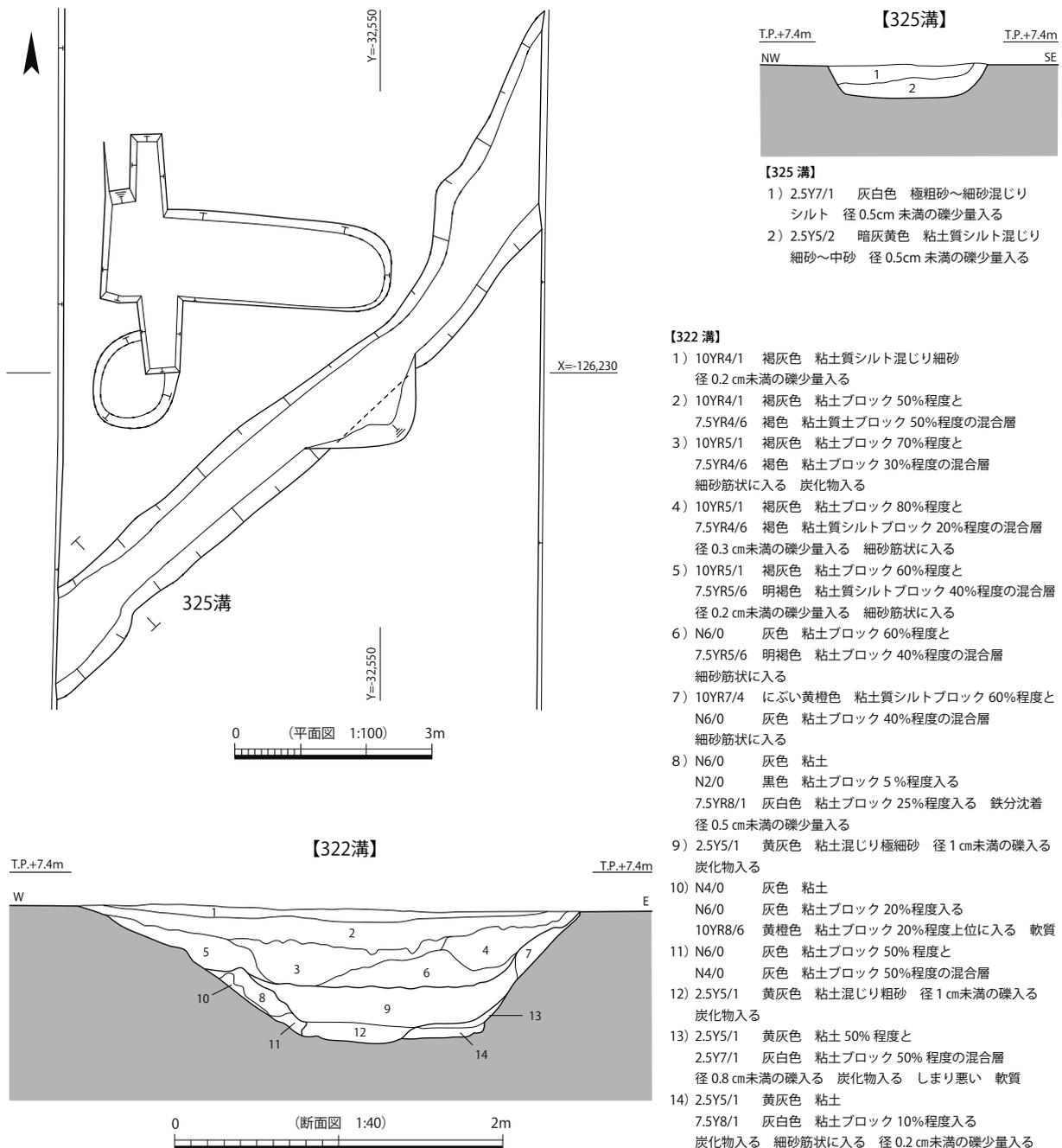
- 【327ピット】**
- 1) 7.5Y7/1 灰白色  
粘土質シルト混じり中砂  
マンガン粒入る
  - 2) 10YR5/6 黄褐色  
粘土質シルト混じり細砂

第 65 図 11-1-3 区 第 4 遺構面 遺構平面断面図 (1)

1-2区において検出した202溝に連続すると考えられる遺構である。第4層からは、弥生土器甕、土師器甕の小片が出土した。遺構面の形成時期は、弥生時代後期～古墳時代初頭である。

**321 溝** 11-1-3区南半部において検出した遺構である（第65図）。検出長3.5m、最大幅2.2mを測る。東西方向に主軸をもつ溝で、東端部は攪乱によって損失、西端部は直線的に調査区外へ続く。断面形状は、西端部では皿形、東端では縁辺を浅く中央を深く掘り込む。最大深度はともに0.12mを測り、底面の傾斜はほとんど認められない。埋土は暗褐色粘土質シルトを主体とする。埋土から、土師器甕の小片が出土した。また、この付近では、遺構埋土の直上に古代～中世包含層が堆積する。このため、遺構埋土上面に食い込む形で、須恵器甕・杯蓋（8世紀）の小片が出土した。遺構の性格は不明である。

**322 溝** 11-1-3区南半部において検出した遺構である（第65図・第66図）。調査区南端部より



第66図 11-1-3区 第4遺構面 遺構平面断面図(2)

北へのび、東方向に湾曲して調査区東辺に至り、そのまま調査区外へと続く。323 溝とは切り合い関係にある。

11-1-3 区での検出長は 15.0 m 程度であるが、前節に記したとおり、連続する遺構（202 溝）と合わせた総検出長は 40 m 程度になる。最大幅は 3.5 m、調査区東辺付近の湾曲部で最大となる。最大深度は 0.8 m を測る。断面形状は 11-1-2 区検出部と違い、東壁面が斜めに落ち込むのに対して、西壁面は緩い傾斜または段をもって下がる。

埋土は、上・中・下層に大別できる。上層及び中層は、ブロック土が多く混じる混合層で、上面検出の井戸と同様、人為的に埋め戻された土であると考えられる。下層は軟質で、細砂が筋状に入ることから、一定の流水があったものと推測される。このうち、上層からは須恵器甕、中層からは土師器甕の小片が出土した。また底面付近からは、弥生土器壺の口縁部、木片が出土した（第 67 図 4）。

溝の底面レベルは、調査区北東端で T.P.+6.34 m、東辺で T.P.+6.40 m、11-1-3 区検出部では、ほとんど傾斜が認められない。11-1-2 区検出部では、排水のためと考えられる再掘削が溝底面に認められたが、11-1-3 区では確認できなかった。

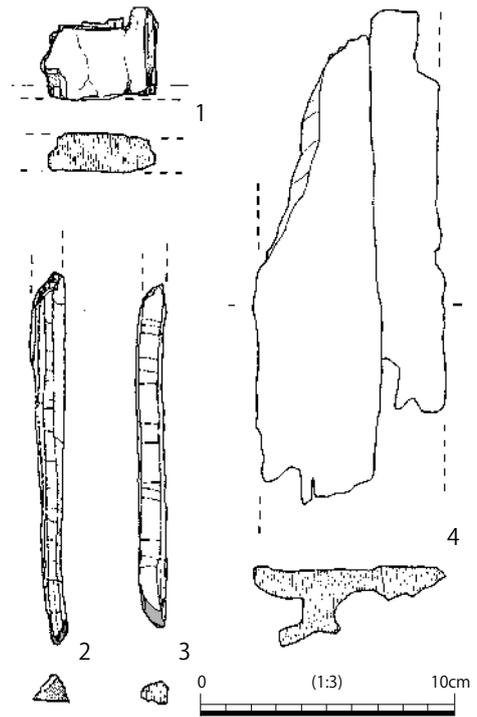
**323 溝** 11-1-3 区南半部において検出した遺構である（第 65 図）。検出長 2.2 m、最大幅 3.0 m を測る幅広の溝で、広く浅い。東端部は 322 溝に切られており、その付近が一部深く落ち込む。最大深度は 0.25 m を測る。検出範囲が限られており、底面に傾斜は見出せない。埋土は第 4 層を主体とする。遺物の出土は確認できていない。

**324 溝** 11-1-3 区南東隅において検出した遺構である（第 65 図）。検出長 1.5 m、最大幅 0.7 m を測る。北東-南西方向に直線を描いてのび、調査区外へ続く。その主軸は、方位北に対して 58～60 度東に振る。最大深度は 0.15 m、断面形状は不定形である。底面レベルは、T.P.+7.09 m～7.11 m、北東方向から南西方向に向かって傾斜する。埋土は、褐灰色粘土質シルトを主体とする。やや角度は異なるものの、202 溝の下層にあって、北西-南西方向にのびる 218 溝・219 溝と共通した性格をもつか。埋土から遺物の出土は確認できていない。

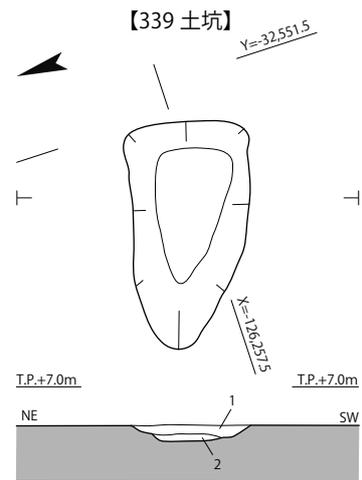
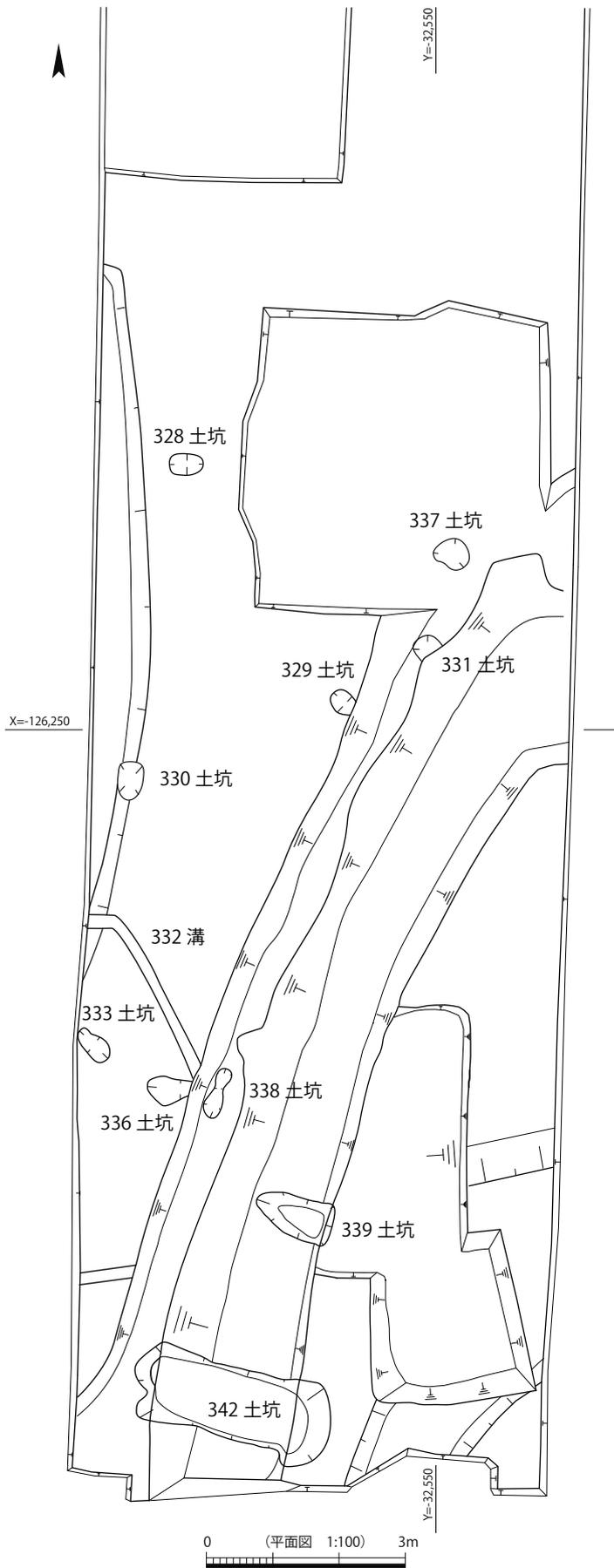
**325 溝** 11-1-3 区の中央部において検出した遺構である（第 66 図）。第 4 遺構面の遺構として図示したが、本来の掘り方は、遺構面の基盤層である第 5 層中にある。このため、他に先行する遺構である。

検出長は 11.0 m、最大幅 1.5 m を測る。北東-南西方向に直線を描いてのび、調査区東端部でやや広がりを見せる。主軸は、方位北に対して 45～49 度東に振る。最大深度は 0.18 m、断面形状は深い皿形を呈する。底面レベルは、T.P.+7.00 m～7.04 m、ほとんど傾斜は認められない。埋土には、礫や砂が多く混じる。方向軸、埋土ともに類似した遺構が、11-1-2 区でも確認されている（217 溝）。遺物の出土は確認できていない。

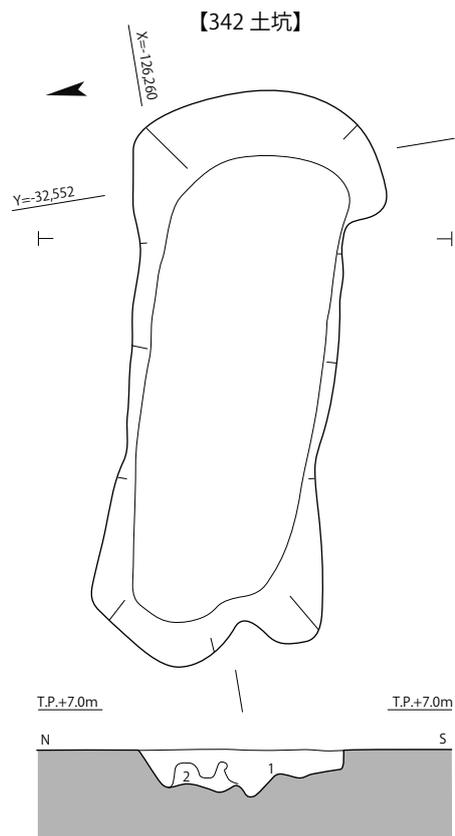
**326 溝** 11-1-3 区南半部において検出した遺構である（第 65 図）。検出長 2.5 m、最大幅 0.65 m を測る。湾曲しながら北西～南方向へのびており、両端ともに攪乱によって損なう。最大深度は 0.1



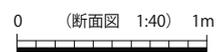
第 67 図 11-1-3 区 第 2 層・第 1～4 遺構面遺構内出土遺物実測図



- 【339 土坑】
- 1) 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土質シルト混じり 細砂～極細砂  
N4/0 灰色 粘土質シルト 15%程度入る
  - 2) 2.5Y7/4 浅黄色 粘土質シルト混じり極細砂  
N4/0 灰色 粘土質シルト 10%程度入る



- 【342 土坑】
- 1) 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土質シルト混じり粗砂  
N4/0 灰色 粘土質シルト 50%程度入る  
径 0.5 cm未満の礫少量入る
  - 2) N5/0 灰色 粘土混じり細砂 粘性やや強い
  - 3) 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘土質シルト混じり粗砂  
N4/0 灰色 粘土質シルトブロック 30%程度入る

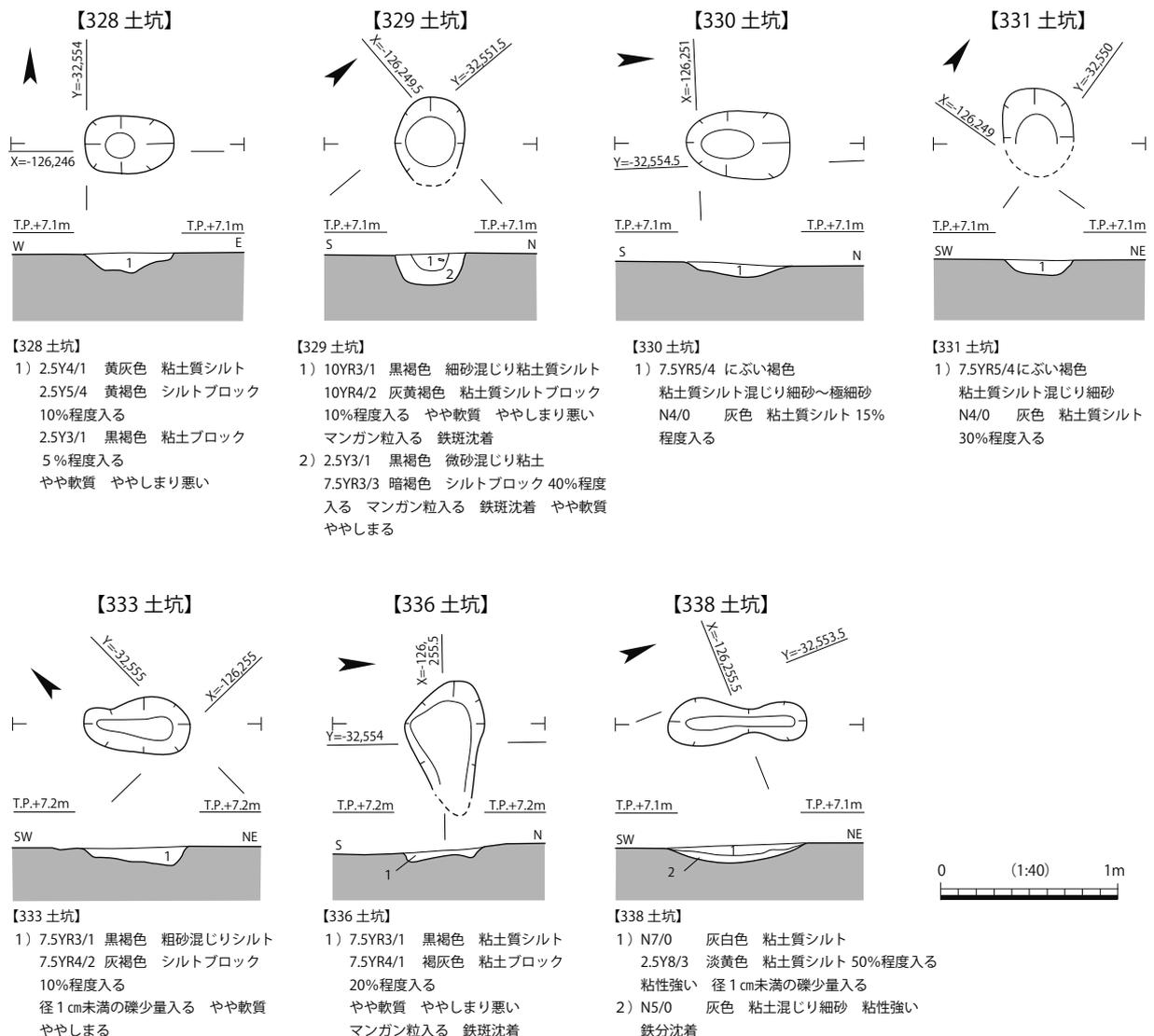


第 68 図 11-1-3 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図

m、断面形状は逆台形を呈する。底面のレベルは T.P.+7.07 m で、顕著な傾斜は認められない。埋土は褐色細砂混じり粘土質シルトを主体とし、321 溝のそれと近似する。このため、連続する可能性がある。埋土から遺物の出土は確認できていない。

**327 ピット** 11-1-3 区南半部において検出した遺構である（第 65 図）。平面形状は、径 0.4 ~ 0.5 m を測るやや歪な楕円形、最大深度は 0.04 m、断面形状は底面に凹凸をもつ皿形である。埋土は灰白色粘土質シルト混じり中砂を主体とする。周辺に連続する遺構は確認できていない。埋土から遺物の出土はなかった。

**第 5 遺構面** 弥生時代後期包含層である第 5 層を除去して検出した遺構面である（第 68 図）。第 5 層は、主に 11-1-3 区以北に堆積する包含層であるが、11-1-2 区の北東壁でも、僅かに確認することはできる。遺物及び遺構の検出は、11-1-3 区南半部に集中する。遺構面のレベルは、T.P.+6.9 ~ +7.0 m、地形の高低は上面までとは逆転し、北が高く、南へ向かって緩やかに下がる。この遺構面では、ピット、土坑、溝を検出した。第 5 層からは、僅かではあるが弥生土器壺・甕の破片が出土した。遺構面の形成時期は弥生時代後期と推測される。なお、検出遺構の埋土には、黒褐色シルト、褐色シルト



第 69 図 11-1-3 区 第 6 遺構面 遺構平面断面図

ト、黄灰色～灰色粘土質シルトを主体とするものに大別できる。前者は第5層に、後者は第6層に由来する土壌であることから、同一遺構面の検出遺構の中にも時期差があると考えられる。

**328 土坑** 11-1-3区南半部において検出した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は、長径0.5 m、短径0.3 mを測る楕円形、最大深度は0.12 m、断面形状は不定形である。黄灰色粘土質シルトに黄褐色シルトや黒褐色粘土ブロックが混在する。遺物の出土は確認できていない。

**329 土坑** 322溝の西岸において検出した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は、径0.4 m前後を測るやや歪な円形、最大深度は0.18 m、断面形状は浅い椀形を呈する。埋土は、黒褐色細砂混じり粘土を主体とする。埋土から、弥生土器甕の破片が1点出土した。

**330 土坑** 11-1-3区南半部において検出した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は、南北に長い楕円形で、長径0.56 m、短径0.40 mを測る。最大深度は0.05 m、断面形状はレンズ形である。埋土は、にぶい褐色粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

**331 土坑** 322溝の壁面精査時に発見した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は、径0.4 m前後程を測る楕円形で、最大深度は0.08 m、断面形状は皿形を呈する。一部を322溝に切られて失う。断面観察からは、径0.15 mを測る柱痕跡を確認することができる。埋土は、にぶい褐色粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

**332 溝** 11-1-3区南半部西辺において検出した遺構である(第68図)。調査区西端で鍵形に屈曲し、南東方向に直線的にのびる。東南端は322溝に切られる。検出長は、約3.0 m、最大幅は0.15 m程度である。断面形状は浅い椀形、埋土は褐色粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。遺構の南にも類似した小溝が検出されている。

**333 土坑** 11-1-3区南半部西辺において検出した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は、長径0.6 m、短径0.3 mを測るビーンズ形、北西-南東方向に主軸をもつ。最大深度は0.1 m、断面形状は一方が深い皿形である。埋土は黒褐色粗砂混じりシルトを主体とする。遺物の出土はなかった。

**336 土坑** 322溝の西岸において検出した遺構である(第68図・第69図)。平面形状は不定形で、東西に長い。検出長は0.62 m、最大幅は0.4 mを測る。東端部は322溝に切られる。最大深度は0.05 m、断面形状は浅い皿形を呈する。埋土は黒褐色粘土質シルトを主体とする。遺物出土は確認できていない。

**338 土坑** 322溝の壁面において検出した遺構である。336土坑のすぐ東側にあたる(第68図・第69図)南北に長い不定形土坑で、最大長0.8 m、最大幅0.25 mを測る。最大深度は0.1 m、断面形状はレンズ形を呈する。埋土は灰色粘土質シルトを主体とする。遺物の出土は確認できていない。

**339 土坑** 322溝の掘削後、その東壁面において検出した遺構である(第68図)。平面形状は歪な隅丸三角形で、最大長1.2 m、最大幅0.65 mを測る。その長軸は、322溝の主軸に直交する。断面観察部位では僅かな深度を残すのみだが、その掘り方は322溝の底面付近に達するため、南に位置する342土坑同様、相当の深度を持っていたと考えられる。埋土は、浅黄色粘土質シルトの上ににぶい褐色粘土質シルト混じり細砂～極細砂が堆積する。埋土からは、弥生土器の小片が出土した。

**342 土坑** 322溝を掘削した後に検出した遺構である(第68図)。322溝の主軸に直交する方向軸をもつ。平面形状は不定形、最大長3.0 m、最大幅は1.3 mを測る。底面は凹凸が顕著で、大きく波打つ。最大深度は0.25 mを測る。ただし、掘り方の一部は322溝底面より下がるため、本来の掘り方は相当の深度を有していたと推測される。埋土は、にぶい褐色粘土質シルトを主体とする。北側には、近似する遺構(339土坑)が存在する。遺構底面付近からは、弥生土器甕の破片がまとまって出土した。

## 第5章 総括

以上、第3章、第4章において、調査地周辺の環境と調査成果について記述した。今回の調査では、弥生時代後期～中世末期までの遺構面を検出し、これに伴う出土遺物を確認した。このうち、特に弥生時代後期～古墳時代初頭遺構面において検出した遺構群は、この地域では初見のものであり、地域史を理解する上で必須の要素といえる。以下、弥生時代・古墳時代の遺構群に重点を置きながら、遺構の変遷を総括する。

**弥生時代後期以前** 萩之庄南遺跡では、まだ人々の居住が確認できない時期である。調査地の西にあたる檜尾川対岸に位置する安満遺跡では、弥生時代前期中葉に集落の萌芽が認められ、やがて環濠や水田を備えた大規模な拠点集落へと発展する。

一方、調査区付近は、檜尾川の作用により湿地化が進んでいたと考えられる。今回の調査では、摩滅した弥生時代中期の土器や石器が、上位包含層に混じって出土した。また今回の調査に先駆けて行われた確認調査では、調査地北の丘陵地裾部に設けたトレンチの湿地堆積層から、弥生土器の小片が出土している。これらのことから、弥生時代中期の集落が、調査地の北に存在していた可能性がある。

**弥生時代後期～古墳時代初頭** (第70図) 湿地帯の上に礫混じりシルトが堆積したことにより、周辺地盤が徐々に乾燥し、安定が進む時期である。萩之庄南遺跡では、初めて人の関与が認められる。検出遺構面は、11-1-1区で検出した第6遺構面、11-1-2区で検出した第2遺構面のうち下層遺構、11-1-3区・11-1-4区で検出した第4遺構面のうち下層遺構が相当する。

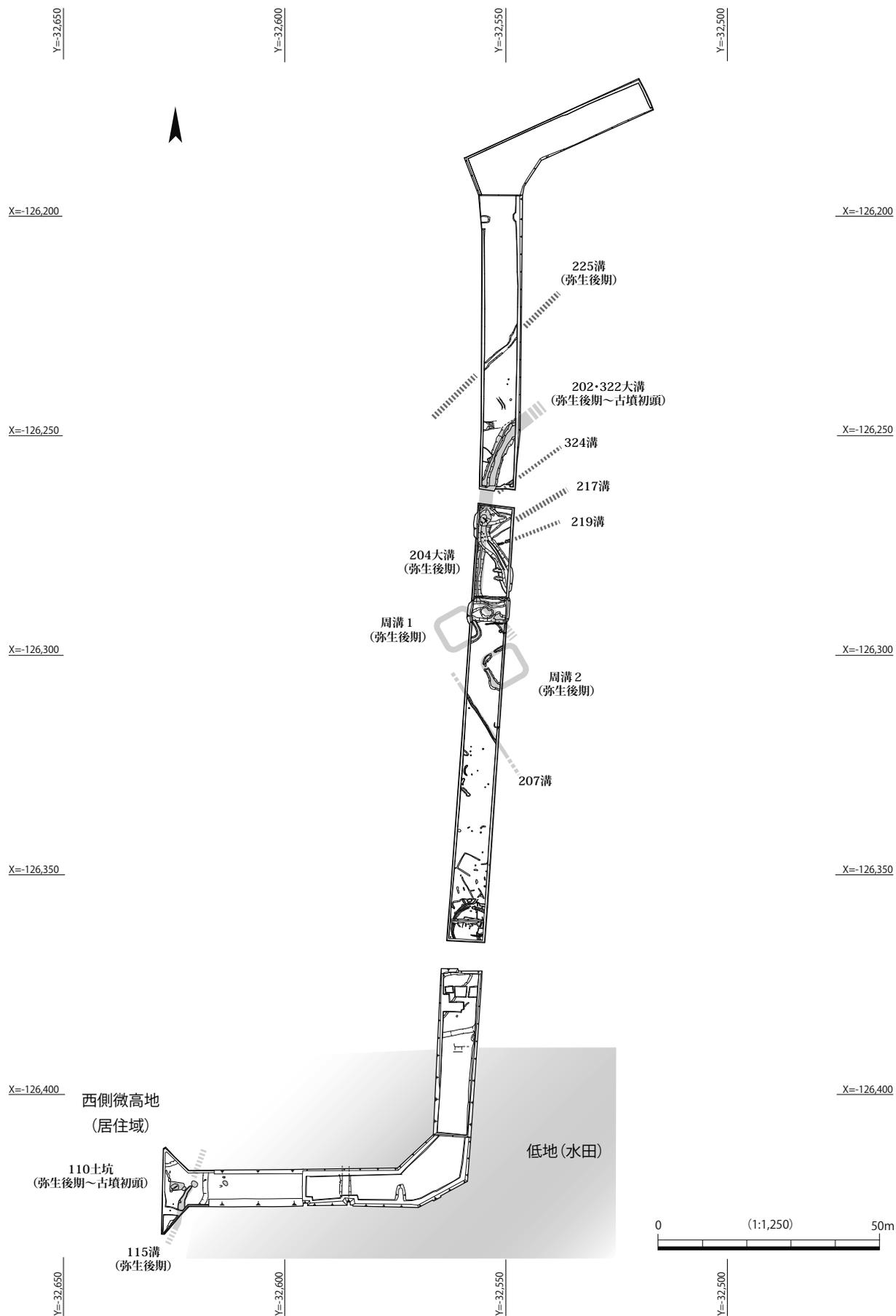
調査区のうち、もっとも早く設けられたのは、11-1-3区南半部から11-1-2区北端部に掘られた北東-南西方向にのびる溝(225溝・324溝・217溝・218溝・219溝)である。遺構の性格は明らかではないが、微高地上に設けられていること、またすべてが等高線に沿ってのびていることは、人為的な造作であることを物語っている。

弥生時代後期後半になると、本格的な集落が形成されるようになる。11-1-2区北半部、11-1-3区南半部、11-1-1区西側の微高地上には、周溝や溝(322大溝・204大溝・115溝)、土坑(110土坑)が設けられた。また古墳時代初頭には、202大溝を掘削する大規模な工事が行われた(202大溝)。人々の居住を直接示す遺構は見つかっていないが、110土坑に木器製作の材料となる分割材が存置されていたこと、どの遺構からも一定量の遺物が出土すること、大規模な土木工事が行われていたことは、集落内に手工業や労働を行う一定数の人々が起居したことを想像させる。

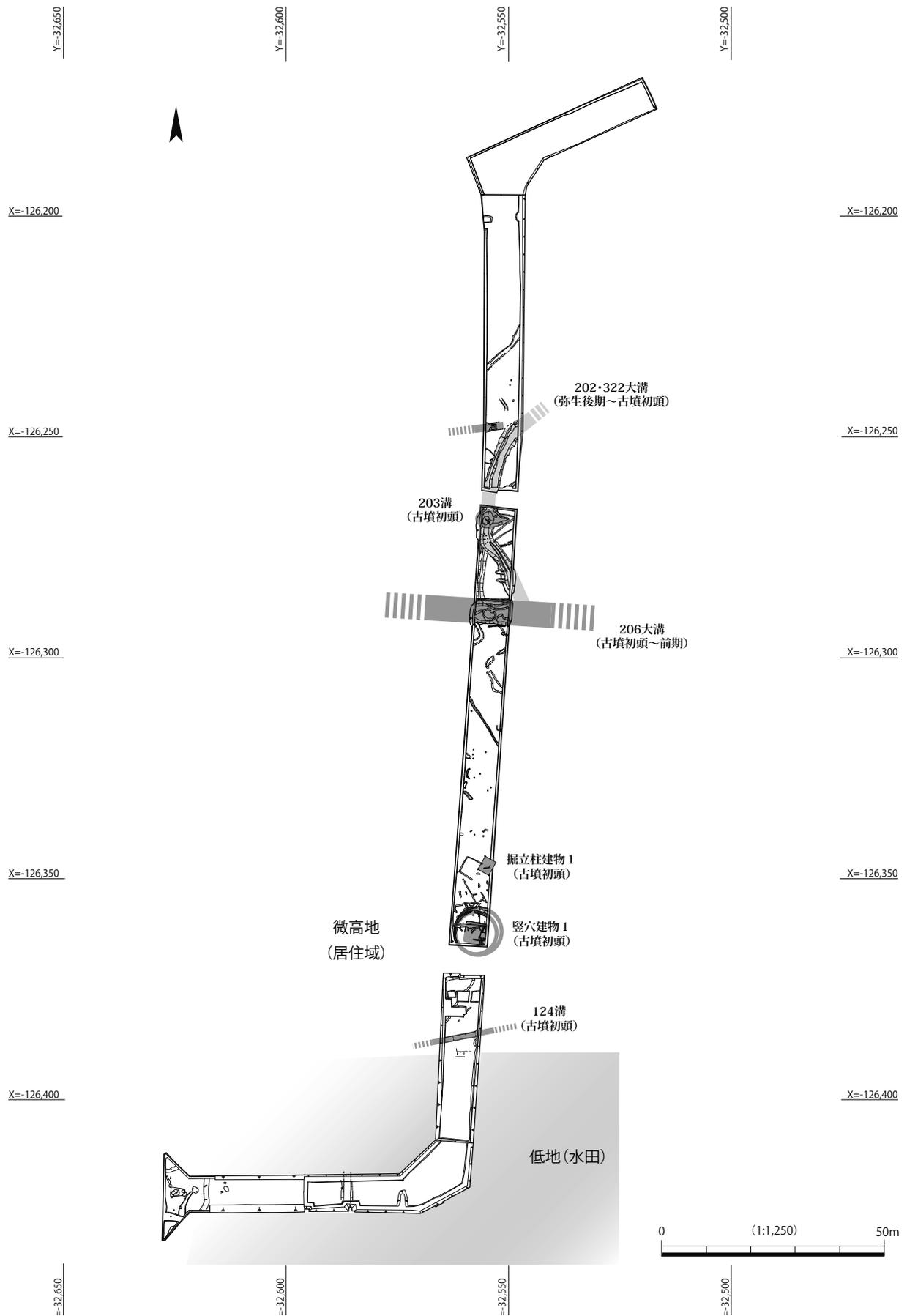
202大溝は、周溝2と接触する方向軸をもつ204溝を東側へ移設するために掘削されたと考えられる。周溝2が周溝墓である可能性を考えると、墓域の拡大を目的としたものか。なお、204溝から出土した鉄鍬は戦闘用と目される大型品であることは、萩之庄南遺跡集落がある程度自立した集落であったことを窺わせる。

**古墳時代初頭～前期** (第71図) 集落が発展し、調査区内にも居住域が認められる時期である。検出遺構面は、11-1-1区の第6遺構面、11-1-2区第2遺構面のうち上層遺構、11-1-3区・11-1-4区第4遺構面のうち上層遺構が相当する。

11-1-1区の低地では、部分的にはあるが水田が営まれていたと考えられる。今回の調査では、



第 70 図 弥生時代後期～古墳時代初頭 遺構面合成図



第 71 図 古墳時代初頭～前期 遺構面合成図

下層確認トレンチによる部分的な検出に留まるが、杭列や畦状の高まりを検出した。その北側にあたる微高地斜面（11-1-2区南半部）では、竪穴建物や掘立柱建物を検出した。微高地に居住し、低地で生産を行う自給可能な集落が営まれていたと推測される。なお竪穴建物は数度の建て替えを経ること、またその後に掘立柱建物が設けられることから、集落は一定期間、存続したと考えられる。

11-1-2区北半部では、前代掘削された202大溝が埋没し、その窪地に加工材を保管する土坑が設けられる（203溝下層）。また周溝を切るように最大幅6.0mを測る大規模な溝が設けられた（206大溝）。206大溝の性格は不明であるが、地形に反して東西にのびる大溝は、それまでの土地利用の方向性を一変させるものである。

**古墳時代後期・古代** 古墳時代後期になると、11-1-1区に設けられた水田はさらに拡大する様相を見せるが、近隣に明確な居住域は確認できない（11-1-1区第5遺構面）。古代になると、その水田も放棄され、やがて旧檜尾川の支流に飲み込まれる（11-1-1区第4遺構面）。このとき供給された大量の土砂により、11-1-1区付近は地盤は上昇する。

**古代～中世初頭** 檜尾川が進路を変えたことにより、調査地周辺の地盤が安定する時期である。地盤の比高差は、前代に比べて緩やかとなる。11-1-1区第3遺構面、11-1-2区で第1遺構面のうち一部の遺構、11-1-3区・11-1-4区で検出した第3遺構面が相当する。

11-1-3区では井戸と溝を、11-1-1区では水田跡を検出した。調査区内には地形の変化点に段や溝が設けられる。ただし、居住域は確認できていない。

**中世** 調査区全域の耕地化が進む時期である。文献史料に見える安満ノ庄や萩ノ庄が成立する時期にあたる。検出遺構面は、11-1-1区第2遺構面、11-1-2区で第1遺構面、11-1-3区・11-1-4区の第3遺構面が相当する。水田では、溝や段、杭列を確認した。その基軸が東西方向にのびることから、条里地割に基づく整地が行われたと推測される。

## 【引用文献・URL】

第1図 大阪府茨木土木事務所新名神関連事業ホームページを参考として作成

<http://www.pref.osaka.jp/ibarakidoboku/gaiyo/sinmeisin.html>（2012年11月23日現在）

## 【参考文献】

- |              |      |                                                       |
|--------------|------|-------------------------------------------------------|
| 大阪府教育委員会     | 2002 | 『紅苺山南遺跡発掘調査概要』                                        |
| 京都大学安満遺跡調査団  | 1973 | 『高槻市安満遺跡の条里遺構』                                        |
| 高槻市史編さん委員会   | 1973 | 『高槻市史 第6巻 考古編』                                        |
| 高槻市教育委員会     | 1974 | 『高槻市文化財調査報告書第5冊 安満遺跡発掘調査報告書－中世集落跡の調査－』                |
| 高槻市教育委員会     | 1977 | 『高槻市文化財調査報告書第10冊 安満遺跡発掘調査報告書－9地区の調査－』                 |
| 高槻市教育委員会     | 1989 | 『高槻市文化財調査概要Ⅷ 嶋上郡衙他関連遺跡発掘調査概要・13』                      |
| 高槻市教育委員会     | 2000 | 『高槻市文化財調査報告書第21冊 安満宮山古墳－発掘調査・復元整備事業報告書』               |
| 名神高速道路内遺跡調査会 | 1997 | 『名神高速道路内遺跡調査会調査報告書第3輯 中央自動車道西宮線拡幅工事に伴う 梶原瓦窯跡 発掘調査報告書』 |
| 名神高速道路内遺跡調査会 | 1998 | 『名神高速道路内遺跡調査会調査報告書第4輯 中央自動車道西宮線拡幅工事に伴う 梶原古墳群 発掘調査報告書』 |

# 遺物觀察表



表1 遺物観察表(土器)

※法量の単位はすべてcm

挿図 番号	写真 図版 番号	調査区 遺構面・層 遺構名	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	時期	残存率	調整・形態の特徴など
17-1	16-1-4	11-1-1-2区 第1層	染付 碗	- (1.9) - 4.0	- - 0.8	釉) 10Y8/1 灰白色 地) 7.5Y8/1 灰白色 内) 10Y8/1 灰白色	良好 良好	近世後期	10%	見込み部に蛇ノ目釉剥あり。
17-2	16-1-5	11-1-1-2区 第1層	染付 碗	- (2.8) - 3.8	- - 0.9	釉) 7.5GY8/1 明緑灰色 地) 2.5GY8/1 灰白色 内) 7.5GY8/1 明緑灰色 断) 7.5Y8/1 灰白色	良好 良好	近世後期	10%	見込み部に蛇ノ目釉剥あり。
17-3	16-1-2	11-1-1-3区 第1層	青磁 皿	(14.0) (1.3) - -	- - 0.7	外) 7.5GY6/1 緑灰色 内) - 断) N8/0 灰白色	良好 良好	近世以降	15%	口縁端部に刻目あり。 内面に蓮弁状の線刻あり。
17-4	16-1-3	11-1-1-2区 東側側溝 (第1層)	土師器 皿	(14.4) (2.9) - -	- - 0.5	外) 2.5Y6/1 黄灰色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) -	やや粗 やや甘	中世後半	25%	口縁部に強い一段ナデ。 内面には縦横方向のハケ目が残る。
17-5	16-1-7	11-1-1-1区 第1遺構面 103井戸	須恵器 長頸壺	- (7.4) - -	- - 0.9	外) 2.5Y4/3 オリーブ褐色 2.5Y8/1 灰白色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	古代	100%	頸部に2条の沈線あり。自然釉付着。
17-6	16-1-6	11-1-1-2区 第1～2層 南側側溝	須恵器 杯身	(1.0) - -	- - 0.7	外) N7/0 灰白色 内) N8/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 やや甘	古代	10%	底部内面は円を描くようにユビナデを 施す。外面はケズリ。 内面に墨痕あり。
17-7	16-1-9	11-1-1-3区 第1層	須恵器 杯 or 碗	- (2.5) - (10.0)	- - 1.1	外) 7.5Y7/1 灰白色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	古代	25%	底部外面はヘラケズリ。内面はヨコナ デ後縦方向のユビナデ。
17-8	16-1-8	11-1-1-1区 第2層	須恵器 鉢 or 甕	- (4.5) - (10.2)	- - 1.1	外) 10Y6/1 灰色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	古代	5% 未満	平底。器壁の立ち上がりは丸みを帯び る。体部外面はケズリ、内面は斜め方 向のユビナデ。
22-1	16-2-6	11-1-1-1区 第3～2層	須恵器 杯蓋	- (3.0) - -	- - 0.6	外) N6/0 灰色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	やや悪い 良好	7世紀前半	10%	外面、ケズリ。 内面、同心円状タキ後、ユビナデ。
22-2	16-2-2	11-1-1-2区 第3～1層 北側側溝	須恵器 杯身	(12.4) 3.6 - (8.6)	- - 0.5	外) N7/0 灰白色 内) 5Y6/1 灰色 断) N6/0 灰色 5YR7/3 にぶい橙色	やや粗 やや甘	8C	25%	口径に比して器高が低い。 外面、横ナデ。 内面、横ナデ後縦方向のナデ。
22-3	16-2-4	11-1-1-1区 第3～1層 西端部	土師器 杯	(1.8) - 10.4	- - 0.4	外) 10YR8/4 浅黄褐色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 10YR8/4 浅黄褐色	やや粗 良好	9C	15%	摩滅のため調整不明。 底部外面に貼り付け高台あり。
22-4	16-2-1	11-1-1-1区 第3～2層	須恵器 短頸壺	(6.1) - -	- - 0.7	外) 5Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	8C	8%	外面、摩滅のため調整不明。 内面、横ナデ
22-5	16-2-3	11-1-1-2区 第3～2層	施釉陶器? 碗?	(1.8) - 7.8	- - 0.7	外) N5/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) 2.5Y7/2 灰黄色	良好 良好	?	50%	底部外面ヘラ切り。 内面ミガキ。
22-6	16-2-7	11-1-1-3区 第3～1層	瓦 平瓦	- - -	7.8 12.2 2.4	外) 10YR8/3 浅黄褐色 内) 5YR7/6 橙色 断) 5YR7/8 橙色	良好 甘	?	10%	外面に格子状押し型文あり。
22-7	17-1-1	11-1-1-3区 第3～1層	土師器 羽釜	- - -	5.4 7.8 1.3	外) 10YR5/2 灰黄褐色 内) 10YR8/3 浅黄褐色 断) 10YR3/1 黒褐色	やや粗 やや甘	10～11C	10%	摂津C類。鐳は厚く断面方形。 外面調整は縦方向のハケ。 内面の一部が黒色化。
22-8	17-1-2 17-1-3	11-1-1-2区 第3～2遺構面	土師器 羽釜	- - -	3.0 9.8 0.8	外) 2.5Y4/2 暗灰黄色 内) 2.5Y4/2 暗灰黄色 断) 2.5Y7/3 浅黄色	やや粗 やや甘	10～11C	10%	摂津C類。鐳端部を尖らせる。 摩滅のため調整不明。
22-9	17-1-4 17-1-5 17-1-6	11-1-1-3区 第3～1層	土師器 羽釜	- - -	8.0 8.0 1.2	外) 7.5YR8/6 浅黄褐色 内) 10YR8/4 浅黄褐色 断) 10YR8/3 浅黄褐色	やや粗 やや甘	10C?	10%	摂津C類。鐳、下方のにびる。 内面に煤付着。
27-1	17-2-1	11-1-1-1区 第4～1層	弥生土器 脚部	(6.2) - 5.4	- - 0.9	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/3 淡黄色 断) 5Y6/1 灰色	やや粗 甘	弥生時代後期 後半?	10%	台付甕または台付鉢の脚部か。 上部内面、ヘラナデ。
27-2	17-2-5	11-1-1-1区 第4～1層	弥生土器 鉢?蓋?	(5.0) - (4.8)	- - 0.9	外) 10YR6/4 にぶい黄褐色 内) 10YR8/2 灰白色 断) 10YR8/2 灰白色	やや粗 やや甘	弥生時代後期 後半	40%	外面、右上がりタタキ。 焼成前穿孔あり。 胎土に絞り目を残す。

挿図 番号	写真 図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	時期	残存率	調整・形態の特徴など
27-3	17-2-6	11-1-1-1 区 第4 - 1 層	弥生土器 甕	- (2.3) - (4.8)	- - 0.7	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y3/1 黒褐色 断) 2.5Y8/2 灰白色	粗 甘	弥生後期後半 ～ 古墳時代初頭	5%	外面、右上がりタタキ。 底部外面に木葉圧痕あり。
27-4	17-2-8	11-1-1-1 区 第4 - 2 層	弥生土器 甕	- (2.6) - (6.0)	- - 1.1	外) 10YR8/3 浅黄褐色 内) 2.5Y2/1 黒色 断) 2.5Y2/1 黒色	やや粗 やや甘	弥生時代後期 後半	50%	全体的に摩滅顕著。 底部外面、中央部が僅かに窪む。
27-5	17-2-7	11-1-1-1 区 第4 - 1 層	弥生土器 甕	(3.2) - 3.8	- - 0.9	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y8/3 淡黄色 断) 2.5Y8/3 淡黄色	やや粗 良好	弥生時代後期 後半	10%	底部外面、中央部が僅かに窪む。 外面、細かい右上がりタタキ。
27-6	17-2-4	11-1-1-1 区 第4 - 1 層	土師器 甕	(14.8) (3.2) - -	- - 0.6	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 10YR8/3 浅黄褐色 断) 10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗 やや甘	弥生時代後期 後半	12%	全体的に摩滅顕著。 口縁端部を僅かに上方へ摘み上げる。
27-7	17-2-2	11-1-1-1 区 第4 - 1 層	土師器 甕	(25.6) (3.4) - -	- - 0.7	外) 10YR8/3 浅黄褐色 内) 10YR8/4 浅黄褐色 断) 10YR7/3 にぶい黄褐色	良好 良好	古墳時代前期	15%	布留式甕。 口縁端部を内側へ折り曲げ、玉縁状に 作る。
27-8	17-2-3	11-1-1-2 区 第4 - 1 層	土師器 甕	(11.8) (6.7) - -	- - 0.4	外) 10YR8/3 浅黄褐色 内) 10YR7/2 にぶい黄褐色 断) 5YR6/4 にぶい橙色	やや粗 やや甘	古墳時代前期	30%	布留式甕。外面全体に煤付着。 体部外面、横方向のハケ。 体部内面、ナデ。
33-1	18-1-1	11-1-1-1 区 第6 遺構面 110 土坑上層	土師器 甕	(10.4) (4.8) - -	- - 0.3	外) 5YR7/6 橙色 内) 5YR7/4 にぶい橙色 断) 5YR8/4 淡褐色	やや粗 やや甘	古墳時代前期	15%	全体的に摩滅。小型品。 口縁端部を内側へ折り曲げる。
33-2	18-1-6	11-1-1-1 区 第6 遺構面 110 土坑上層	弥生土器 甕	- (3.0) - 4.6	- - 0.9	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 2.5Y6/2 灰黄色 断) 2.5Y6/2 灰黄色	やや粗 甘	弥生時代後期	10%	外面に黒斑あり。 外面、右上がりタタキ。 内面、摩滅のため調整不明。
33-3	18-1-2	11-1-1-1 区 第6 遺構面 110 土坑下層	弥生土器 甕	(3.3) - 3.2	- - 0.6	外) 10YR7/4 にぶい黄褐色 内) 10YR8/4 浅黄褐色 断) 10YR8/4 浅黄褐色	やや粗 甘	弥生時代後期	10%	小型品。 内外面ともに摩滅のため調整不明。
33-4	18-1-5	11-1-1-1 区 第6 遺構面 113 土坑	弥生土器 甕	(3.3) - (4.8)	- - 0.8	外) 2.5Y7/3 浅黄色 2.5YR6/8 橙色 内) 7.5Y3/1 オリーブ黒色 断) 7.5Y7/1 灰白色	やや粗 やや甘	弥生時代後期 後半	20%	外面、右上がりタタキ。 内面、摩滅のため調整不明。 胎土に灰白色礫の混和が目立つ。
33-5	18-1-7	11-1-1-1 区 第6 遺構面 110 土坑上層	弥生土器 壺	(2.4) - (5.7)	- - 0.6	外) 5YR7/6 橙色 内) 5Y5/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	やや粗 やや甘	弥生時代後期	5%	底部外面、指頭圧痕。 内面、摩滅のため調整不明。
33-6	18-1-3・ 8	11-1-1-1 区 第6 遺構面 110 土坑下層	弥生土器 壺	(6.1) - (7.0)	- - 1.1	外) 10YR8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y8/2 灰白色	やや粗 やや甘	弥生時代後期	20%	外面に黒斑あり。 外面、ヘラナデ後へラミガキ。
33-7	18-1-4	11-1-1-1 区 第6 遺構面 115 溝	弥生土器 甕	(2.0) - 4.6	- - 1.0	外) 2.5Y6/2 灰黄色 内) 5Y4/1 灰色 断) 2.5Y6/1 黄灰色	やや粗 やや甘	弥生後期後半 ～ 古墳時代初頭	5%	底部外面、ドーナツ状。 外面、右上がりタタキ。 内面、摩滅。僅かに工具の痕跡あり。
35-1	18-2-1	11-1-2-1 区 第2 層	須恵器 杯蓋	(15.6) (1.6) - -	- - 0.8	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) N7/0 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	8 C 前半	15%	杯 B 蓋。縁部のみ残存。 内外面ともにロクロナデ。 外面の一部に自然釉付着。
35-2	18-2-4	11-1-2-1 区 第2～3 層	須恵器 杯身	(9.8) (2.5) - -	- - 0.7	外) N6/0 灰色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	7 C 前半	10%	杯 H 身。縁部のみ残存。 内面、ロクロナデ。 外面、ロクロナデ後ケズリ。 底部外面に釉着痕跡あり。
35-3	18-2-5	11-1-2-1 区 第3 層	須恵器 壺	(3.5) - (9.6)	- - 1.1	外) 2.5GY4/1 オリーブ褐灰色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 良好	8 C 中～後半	10%	壺 L 底部。調整はロクロナデ。 自然釉、内面と高台上位に付着。 高台内に粉圧痕が筋状に残る。
35-4	18-2-2	11-1-2-1 区 第2 層	須恵器 杯身	(2.7) - (10.2)	- - 0.7	外) 10Y7/1 灰白色 内) 5Y7/1 灰白色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	8 C	16%	調整はない外面ともにロクロナデ。 高台と底部の接着部にへら状工具の痕 跡あり。
35-5	18-2-8	11-1-2-1 区 第2 層 西側側溝	弥生土器 壺	(20.2) (1.7) - -	- - 1.0	外) 7.5YR5/4 にぶい褐色 内) 10YR8/2 灰白色 断) 10YR8/2 灰白色	やや粗 甘	弥生時代後期	10%	口縁端部を垂下させる。 口縁端面に凹線2条と円形浮文を付 す。摩滅著しい。
35-6	18-2-7	11-1-2-1 区 第2 層	弥生土器 壺	(10.2) (3.9) - -	- - 0.5	外) 2.5Y7/1 灰白色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y7/1 灰白色	やや粗 甘	弥生時代後期	12%	口縁部外面に波状文と列点文あり。 摩滅著しい。

挿図 番号	写真 図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	時期	残存率	調整・形態の特徴など
35-7	18-2-9	11-1-2-1 区 第3層 西側側溝	弥生土器 壺	- (2.7) - (12.0)	- - 1.0	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR8/2 灰白色 断) 2.5Y8/1 灰白色	やや粗 甘	弥生時代後期	5% 未満	内外面に指頭圧痕あり。 全体的に摩滅顕著。
42-1	19-1-2	11-1-2-2 区 第2遺構面 222 土坑 (竪穴建物1)	弥生土器 高杯	- (8.3) - (16.7)	- - 1.2	外) 10YR6/6 明黄褐色 内) 10YR8/4 浅黄褐色 断) 10YR5/1 褐灰色	やや粗 甘	弥生時代後期 後半	15%	脚部、中実。内面に絞目あり。 裾部に4方向からの穿孔あり。 外面、摩滅顕著。
42-2	21-1-8 21-1-9	11-1-2-1 区 第2遺構面 208 溝 (周溝1)	弥生土器 甕 or 壺	- (5.5) - (6.8)	- - 0.9	外) 10YR7/3 にぶい黄褐色 内) 10YR8/3 浅黄褐色 断) 10YR8/3 浅黄褐色	良好 良好	弥生時代	5% 未満	全体的に摩滅顕著。 底部内面、一部黒色化。
47-1	19-2-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 203 溝中層	土師器 壺	16.4 (6.9) - -	- - 0.9	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 5Y7/2 灰白色 断) 5Y4/1 灰色	やや粗 甘	弥生時代後期 後半	10%	広口直口壺。 内外面、縦方向のハケ後ナデ。 口縁部端面に凹線1条を施す。
47-2	21-1-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 203 溝中層	土師器 壺	- - - -	4.0 - - 0.5	外) 2.5Y8/3 淡黄色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y5/1 黄灰色	やや粗 軟	古墳時代前期	5% 未満	二重口縁壺。 口縁部外面に列点文あり。 口縁部段に突帯2条を付す。
47-3	21-1-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 202 溝	弥生土器 鉢 or 壺	- (2.5) - 3.6	- - 0.8	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 7.5Y8/4 浅黄褐色	やや粗 良好	弥生時代後期	5% 未満	小型品。 内外面ともにナデ。
47-4	19-2-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 202 溝	土師器 高杯	- (13.2) - -	- - 0.7	外) 10YR8/4 浅黄褐色 内) 10YR8/2 灰白色 断) 10YR8/3 浅黄褐色	良好 やや甘	古墳時代前期	30%	脚部、中空。 外面、縦方向のミガキ。 内面、工具による粘土掻き取り。 脚と裾の変化点に焼成後穿孔2点。
49-1	21-1-4 21-1-7	11-1-2-1 区 第2遺構面 204 溝	弥生土器 壺	(28.4) (3.1) - -	- - 0.7	外) 10YR7/6 明黄褐色 10YR8/4 浅黄褐色 内) 5Y3/1 オリーブ黒色 断) 2.5Y8/2 灰白色	やや粗 良好	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	15%	広口壺。口縁部、肥厚して垂下。 端面に竹管文付円形浮文を2個一対で 4箇所配す。 内面、一部黒色化。
49-2	21-1-5	11-1-2-1 区 第2遺構面 204 溝	土師器 壺	- - - -	2.7 3.6 - 0.9	外) 7.5Y7/4 にぶい橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄褐色 断) 10YR4/1 褐灰色	良好 甘	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	5% 未満	二重口縁壺。 内外面ともにナデ。 外面に竹管文を施す。
49-3	19-3-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 204 溝	土師器 高杯	- (7.3) - -	- - 1.5	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y8/2 灰白色 断) 2.5Y7/1 灰白色	良好 甘	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	80%	脚部、中空。 内面に絞目あり。 外面、縦方向ミガキ。
50-1	20-1-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝 (最下層)	弥生土器 壺	16.0 (3.3) - -	- - 2.3	外) 2.5Y7/2 灰黄色 内) 2.5Y7/2 灰黄色 断) 2.5Y8/2 灰白色	やや粗 良好	弥生時代後期	10%	口縁部、肥厚垂下。 端面にハケ状工具による沈線5条、 竹管文付円形浮文を3個一対で付す。 外面、縦方向のハケ後ナデ。 内面、横方向の密なミガキ。
50-2	21-1-3	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝 (西半部)	弥生土器 壺	- - - -	5.3 3.6 - 0.6	外) 5YR7/6 橙色 内) 7.5YR8/4 浅黄褐色 断) 7.5YR8/3 浅黄褐色	やや粗 良好	弥生時代中期	5% 未満	外面、斜め方向のハケ後ナデ。 内面、ナデ。 肩部外面に柳描直線文、 列点文を施す。
50-3	20-1-3	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝	弥生土器 壺	- (16.8) 25.0 5.4	- - 0.9	外) 2.5Y8/2 灰白色 内) 2.5Y6/1 黄灰色 断) 2.5Y8/1 灰白色	やや粗 やや甘	弥生時代後期	20%	平底から大きく膨らむ胴部を持つ。 外面、タタキ後縦方向のミガキ。 内面、斜め方向のハケ。
50-4	21-1-6	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝	弥生土器 壺	- - - -	7.4 4.6 - 0.7	外) 10YR8/2 灰白色 内) N5/0 灰色 断) 5Y2/1 黒色 10YR8/3 浅黄褐色	粗 軟	弥生時代後期	5% 未満	内外面、摩滅顕著。 外面肩部に横方向に竹管文を施す。
50-5	20-2-4	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝	弥生土器 甕	- (2.7) - 5.2	- - 1.2	外) 5Y4/1 灰色 内) 5Y6/1 灰色 断) 5Y6/1 灰色	やや粗 良好	弥生時代後期	5% 未満	底部外面中央、深く窪む。 (ドーナツ状)。 外面、右上がりタタキ。 内面、摩滅のため調整不明。
50-6	20-2-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝	弥生土器 甕	- (2.7) - 5.6	- - 0.9	外) 10YR7/2 にぶい黄褐色 内) 10YR2/1 黒色 断) 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR2/1 黒色	やや粗 軟	弥生時代後期	10%	内外面ともに摩滅顕著。 内面、ナデの痕跡あり。
50-7	20-2-3	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝 (西半部)	弥生土器 甕	- (2.7) - 4.8	- - 0.8	外) 10YR6/2 灰黄褐色 内) 10YR8/1 灰白色 断) 10YR8/1 灰白色	良好 良好	弥生時代後期	5% 未満	底部外面中央、僅かに窪む。 外面、右上がりタタキ。 内面、工具のアタリ痕あり。
50-8	20-2-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 206 溝	弥生土器 甕	- (2.0) - 4.5	- - 0.7	外) 10YR8/3 浅黄褐色 内) 10YR2/1 黒色 断) 10YR8/2 灰白色	やや粗 良好	弥生時代後期	5% 未満	内外面ともに摩滅顕著。 底部内面に焦げ付着。

挿図 番号	写真 図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	胎土 焼成	時期	残存率	調整・形態の特徴など
50-9	20-1-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 206溝 (中層)	土師器 小型壺	- (10.1) 14.2 -	- - 0.4	外) 7.5YR7/6 橙色 内) 10YR7/4 にぶい黄橙色 断) 10YR7/4 にぶい黄橙色	良好 良好	古墳時代前期	50%	直口壺 or 細頸壺。 丸底、胴部広く張り出す。 外面、横方向の細かいミガキ。 内面、横方向ナデ後指頭圧痕。
61-1	21-2-1	11-1-3 区 第1遺構面 303井戸	施釉陶器 皿	(1.5) - 3.6	- - 0.9	外) 10YR6/3 にぶい黄橙色 内) 7.5Y6/1 灰色 断) 5Y7/1 灰白色	良好 良好	中世末期以後	60%	唐津焼。底部外面は無釉。 内面施釉、4箇所に胎土目あり。 底部外面中央に墨痕あり。
61-2	21-2-3	11-1-3 区 第2層	須恵器 壺 or 鉢	(3.5) - (13.0)	- - 1.0	外) N6/0 灰色 内) N7/0 灰白色 断) N6/0 灰色	良好 良好	8～9 C	10%	外面調整、工具ナデ。粘土塊付着。 底部外面に融着あり。 内面調整、ナデ。
61-3	21-2-6	11-1-3 区 第1遺構面 302井戸	瓦 軒平瓦	- 4.3 -	4.1 17.7 1.7	外) 5Y4/1 灰色 内) 7.5Y5/1 灰色 断) 10Y8/1 灰白色	良好 良好	中世以後	60%	唐草文。 表裏面に工具のアタリ痕あり。
61-4	-	11-1-3 区 第1遺構面 302井戸	瓦 軒平瓦	- 4.9 -	29.7 12.9 2.1	外) 10YR6/8 明黄褐色 5Y4/1 灰色 内) 5Y7/1 灰白色 7.5Y5/1 灰色 断) 5Y8/1 灰白色	良好 やや甘	中世以後	50%	唐草文。 表裏面に工具のアタリ痕あり。 裏面に布目圧痕あり。
-	18-2-3	11-1-2-1 区 第2層 西側溝	須恵器 杯	- -	4.0 2.9 0.8	外) N5/0 灰色 内) N6/0 灰色 断) N6/0 灰色	良好 良好	7 C	5% 未満	外面調整、ケズリ。 内面調整、ナデ。 外面底部に線刻「一」あり。
-	18-2-6	11-1-2-1 区 第1層	瓦 平瓦	- -	5.0 5.3 2.0	外) N6/0 灰色 内) N5/0 灰色 断) N5/0 灰色 5YR5/1 褐灰色	やや粗 やや甘	中世	5% 未満	上面に縄目、下面に布目の圧痕あり。
-	21-2-2	11-1-3 区 第2層	須恵器 鉢	(4.8) -	- - 0.7	外) N7/0 灰白色 内) N7/0 灰白色 断) N7/0 灰白色	良好 良好	8 C	5% 未満	鉄鉢。口縁部、内湾して立ち上る。 口縁端部、ナデで端面を作る。 内外面ともにヨコナデ調整。
-	21-2-4	11-1-3 区 第2層	土師質土器 土製品	- -	4.7 3.2	外) 2.5Y5/2 暗灰黄色 内) 2.5Y7/4 浅黄色 断) 2.5Y7/4 浅黄色	良好 やや甘	?	40%	球状品の約5分の2が残存。 外面、摩滅。ナデ整形か。 胎土の一部に空隙あり。
-	21-2-5	11-1-3 区 第1層	瓦質土器 鉢	(4.6) -	- - 1.9	外) 2.5Y5/1 黄灰色 内) 2.5Y4/1 黄灰色 断) 2.5Y8/3 淡黄色	良好 良好	15 C		口縁部、内湾して立ち上る。 口縁端部、工具ナデにより幅広い端面 を作る。 内外面ともにナデ調整。

表2 遺物観察表 (金属製品・銭貨)

※法量の単位はすべてcm

挿図 番号	写真 図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種 器形	最大長 最大幅 最大厚	色調	材質	時期	残存率	形態の特徴など
17-9	16-1-1	11-1-1-2 区 方形土坑 側溝掘削	銅銭 寛永通宝	- 2.4 0.2	錆)	銅	近世 17世紀前半以後	100%	古寛永の一類。 書体は高田銭・吉田銭に似る。 全面に青錆付着。
49-4	19-3-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 204溝 (202溝付近)	鉄鏃	9.1 2.5 0.6	錆) 10YR7/6 明黄褐色	鉄	弥生時代後期 ～ 古墳初頭	99%	平面形状は木の葉形を呈する。 錆化が顕著。

表3 遺物観察表(木製品)

※法量の単位はすべてcm

挿図 番号	図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	用材	時期	残存率	調整・形態の特徴など
25-1	23-2-1	11-1-1-1区 第4遺構面 104土坑	杭	- - -	34.0 3.5 -	マツ科	古代末期 ～ 中世初頭	-	上端部、欠損。 杭先、4方向から削り込み。
25-2	23-2-2	11-1-1-1区 第4遺構面 104土坑	杭	- - -	40.0 4.0 -	マツ科	古代末期 ～ 中世初頭	-	上端部、欠損。 杭先、6方向から削り込み。
-	23-2-3	11-1-1-1区 第4遺構面 104土坑	杭	- - -	47.1 4.0 -	マツ科	古代末期 ～ 中世初頭	-	上端部、欠損。 杭先、欠損。
25-3	23-2-4	11-1-1-1区 第4遺構面 104土坑	杭	- - -	51.0 4.0 -	マツ科	古代末期 ～ 中世初頭	-	上端部、欠損。 杭先、4方向から削り込み。
28-1	22-2-2	11-1-1-1区 第4-1層	付木	- - -	19.8 1.7 1.1	ヒノキ	弥生時代後期 ～ 古墳時代初頭	-	曲物底板を転用か。 先端部に焦痕跡あり。
28-2	22-1-1	11-1-1-2区 第4-1層 下層確認 トレンチ①	下駄 (左足)	- - -	19.1 6.8 2.4	スギ	古墳時代後期	60%	連歯下駄。 後眼を後歯の前方に穿つ。 前方側面中央部、摩滅。
28-3	-	11-1-1-3区 第4-2層 東壁	加工材	- - -	45.0 3.8 4.1	イヌガヤ	弥生時代後期 ～ 古墳時代初頭	-	枝葉・樹皮を除去、一端を切断。
28-4	22-3-1	11-1-1-2区 第4-2層 下層確認 トレンチ①	杭	- - -	49.3 5.0 -	スギ	弥生時代後期 ～ 古墳時代初頭	-	上端部、劣化および折損。
28-5	23-1-1	11-1-1-2区 第4-2層 北側側溝	角材	- - -	120.0 11.5 6.0	スギ	弥生時代後期 ～ 古墳時代初頭	-	上面側面ともに加工痕あり。 一部炭化。
48-1	24-1-1	11-1-2-1区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -	21.8 5.5 3.2	ヒノキ	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	-	一部炭化。
-	24-1-2	11-1-2-1区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -	21.8 5.5 3.2	ヒノキ	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	-	一部切断。
48-2	24-1-3	11-1-2-1区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -	36.6 4.0 2.5	スギ	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	-	一部切断。
48-3	24-1-4	11-1-2-1区 第2遺構面 203溝 (下層)	加工材 (未成品)	- - -	57.8 12.5 6.2	ミズキ	弥生時代後期 後半～ 古墳時代初頭	-	表裏面、側面、加工あり。 節部分に刃痕跡顕著に残る。
67-1	22-2-4	11-1-3区 第1遺構面 303井戸	分割材	- - -	3.5 4.0 1.5	マツ科	中近世	-	井戸枠?
67-2	22-2-1	11-1-3区 第2層	付木	- - -	4.7 1.3 1.0	サカキ	中世	-	一部炭化。
67-3	22-2-3	11-1-3区 第3遺構面 310井戸	付木	- - -	13.6 1.1 0.8	スギ	古墳時代末期 ～ 中世初頭	-	一部炭化。
67-4	22-2-5	11-1-3区 第4遺構面 322溝	分割材	- - -	18.5 7.5 2.5	ケヤキ	弥生時代後期 ～ 古墳時代初頭	-	

挿図 番号	図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	用材	時期	残存率	調整・形態の特徴など
-	16-2-5	11-1-1-1 区 第3層	種子	- - -	3.3 1.8 0.2	モモ	中世	50%	
-	23-3-1	11-1-2-1 区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材 (削りかけ)	- - -		ヒノキ	弥生時代 後期	-	
-	23-3-2	11-1-2-1 区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -		ヒノキ	弥生時代 後期	-	
-	23-3-3	11-1-2-1 区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -		ヒノキ	弥生時代 後期	-	
-	23-3-4	11-1-2-1 区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -		ヒノキ	弥生時代 後期	-	
-	23-3-5	11-1-2-1 区 第2遺構面 203溝 (下層)	分割材	- - -		ヒノキ	弥生時代 後期	-	

表4 遺物観察表(石器・石製品)

※法量の単位はすべてcm

挿図 番号	図版 番号	調査区 面・層 遺構名	器種 器形	口径 器高 胴径 底径	最大長 最大幅 最大厚	色調	材質	時期	残存率	調整・形態の特徴など
27-9	20-3-1	11-1-1-1 区 第4層	扁平片刃 石斧	- - -	6.3 4.1 1.4	外) 10Y8/1 灰白色 断)	砂岩	弥生時代	90%	表裏面ともに丁寧に研磨。 側面と刃の一部を欠損。
42-3	19-1-1	11-1-2-2 区 第4面 竪穴建物 1 222土坑	砥石	- - -	13.7 4.5 3.1	外) 断)	粘板岩	弥生時代 後期	100%	角柱状。短側面の一部欠損。 表裏面、側面に細かい擦痕あり。 刃傷状の線刻複数あり。 仕上げ用 or 研ぎ直し用か。

# 写真図版





1. 11-1-1-1区 第1遺構面全景（東から）



2. 11-1-1-1区 第4遺構面全景（西から）

図版2 遺構



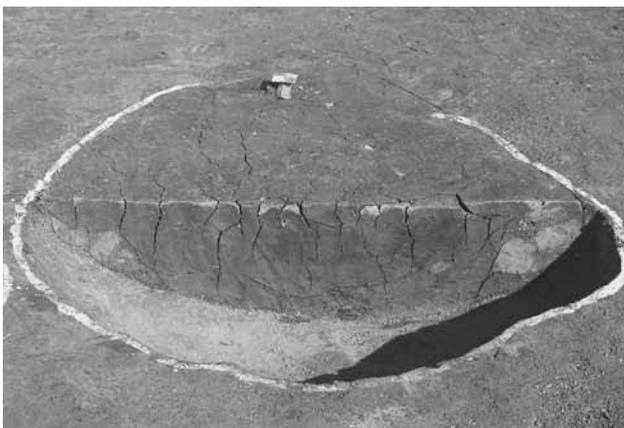
1. 11-1-1-1区 第6遺構面全景（東から）



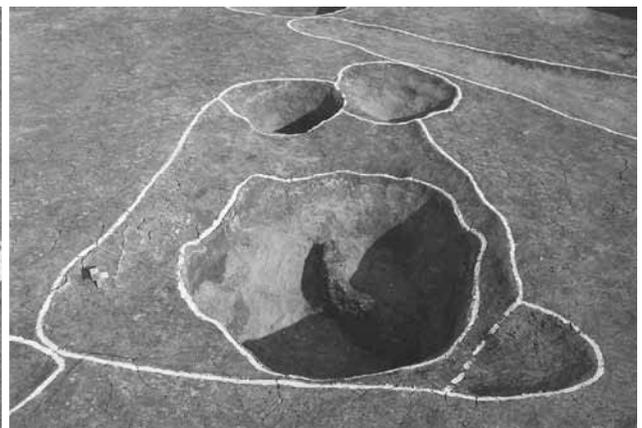
2. 11-1-1-1区 第4遺構面104土坑（西から）



3. 11-1-1-1区 第6遺構面115溝（西から）



4. 11-1-1-1区 第6遺構面113土坑（北から）



5. 11-1-1-1区 第6遺構面110土坑（西から）



1. 11-1-1-2区 第2遺構面全景（西から）



2. 11-1-1-2区 第4遺構面全景（西から）

図版4 遺構



1. 11-1-1-2区 第3遺構面鋤溝(東から)



2. 11-1-1-2区 第5遺構面水田(南西から)



3. 11-1-1-2区 第5遺構面水田(南東から)



4. 11-1-1-2区 下層確認トレンチ①179畦(南西から)



5. 11-1-1-2区 第5遺構面全景(南西から)



1. 11-1-1-3区 第1遺構面全景（南から）



2. 11-1-1-3区 第3遺構面全景（北から）

図版6 遺構



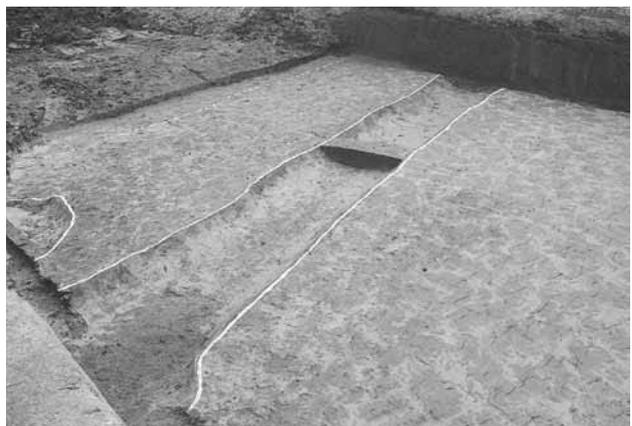
1. 11-1-1-3区 第3-2遺構面全景(南から)



2. 11-1-1-3区 第4遺構面全景(南から)



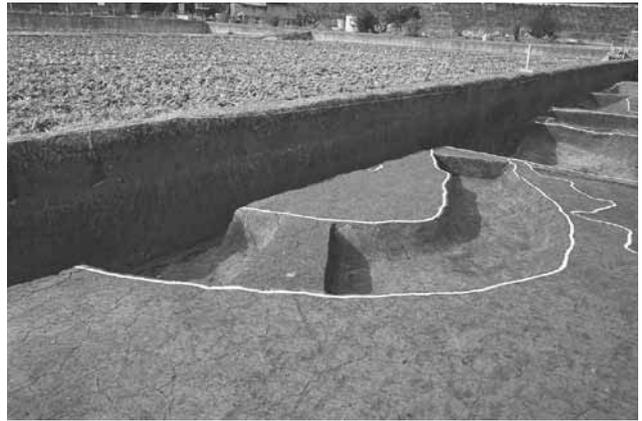
3. 11-1-1-3区 第6遺構面全景(北から)



4. 11-1-1-3区 第6遺構面124溝(北東から)



1. 11-1-2-1区 第2遺構面全景（北から）



2. 11-1-2-1区 第2遺構面周溝1（南東から）



3. 11-1-2-1区 第2遺構面周溝2（北東から）



4. 11-1-2-1区 第2遺構面207溝（北西から）



5. 11-1-2-1区 第2遺構面204溝（北西から）



6. 11-1-2-1区 第2遺構面203溝 木器出土状況



7. 11-1-2-1区 第2遺構面204溝 鉄鏃出土状況



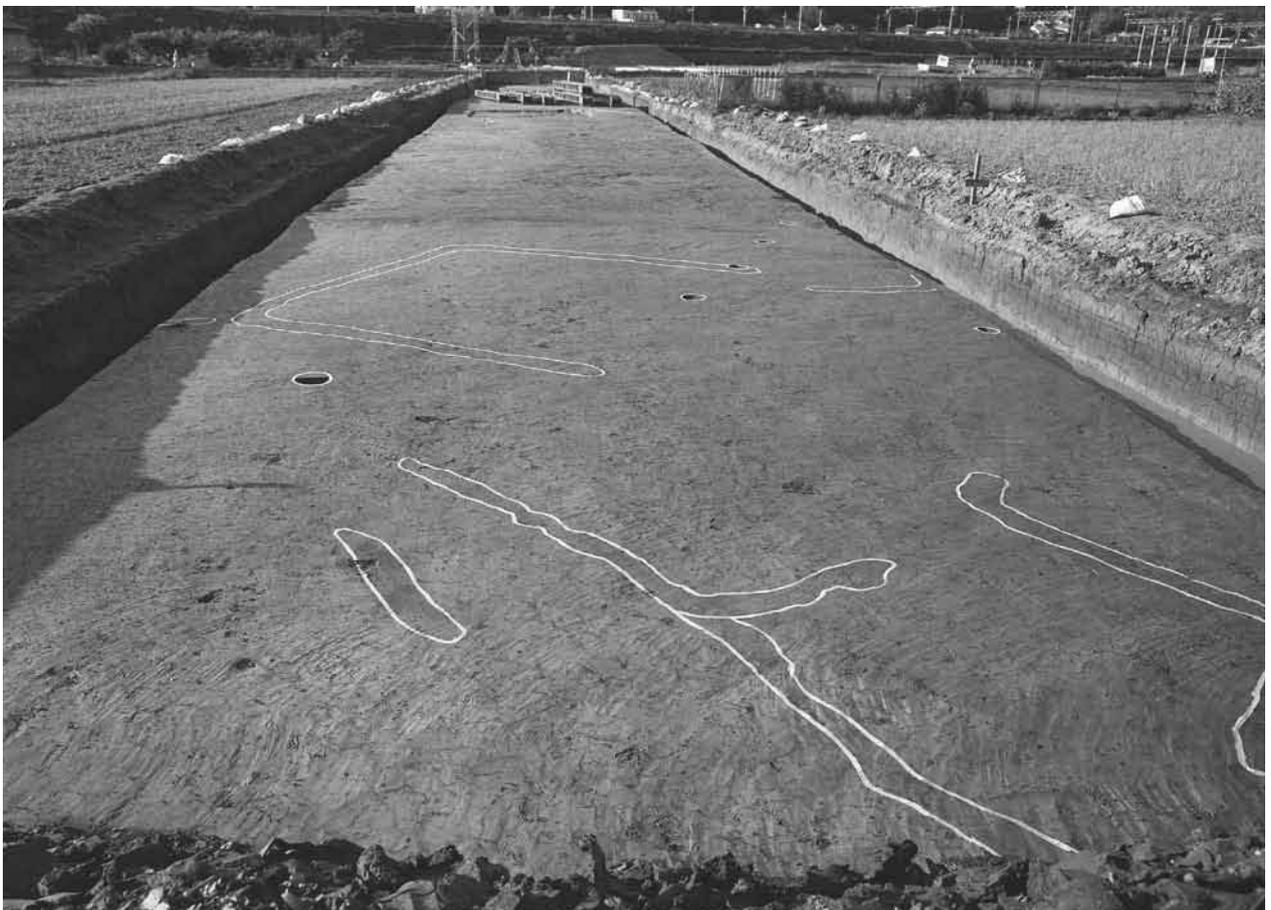
1. 11-1-2-1区 第2遺構面206溝 (北東から)



2. 11-1-2-1区 第2-2遺構面全景 (北から)



1. 11-1-2-2区北半部 第1遺構面全景（南から）



2. 11-1-2-2区北半部 第2遺構面全景（南から）



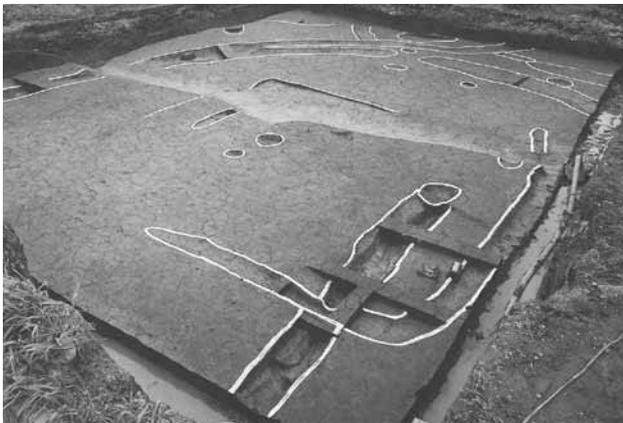
1. 11-1-2-2区北半部 第2遺構面下層遺構全景（南から）



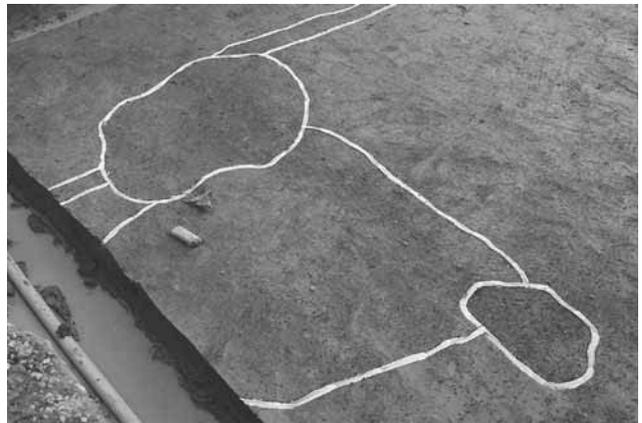
2. 11-1-2-2区南半部 第1遺構面全景（南東から）



1. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面竪穴建物1 (北から)



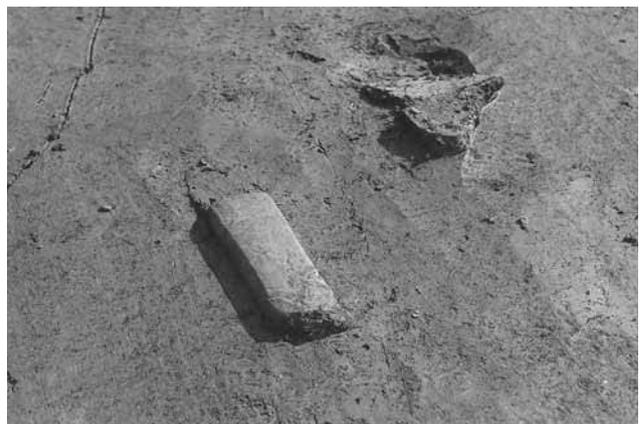
2. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面竪穴建物1 (南東から)



3. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面222土坑 (北西から)



4. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面下層遺構 (北から)



5. 11-1-2-2区南半部 第2遺構面222土坑 砥石出土状況



1. 11-1-3区 第1遺構面 全景 (北から)



2. 11-1-3区 第2遺構面 全景 (北から)



1. 11-1-3区 第3遺構面 全景（北から）



2. 11-1-3区南端部 第3遺構面 全景（南西から）



1. 11-1-3区南端部 第4遺構面 全景（南西から）



2. 11-1-3区南端部 第6遺構面 全景（南西から）



1. 11-1-4区 第1遺構面全景（東から）



2. 11-1-4区 第2遺構面全景（東から）



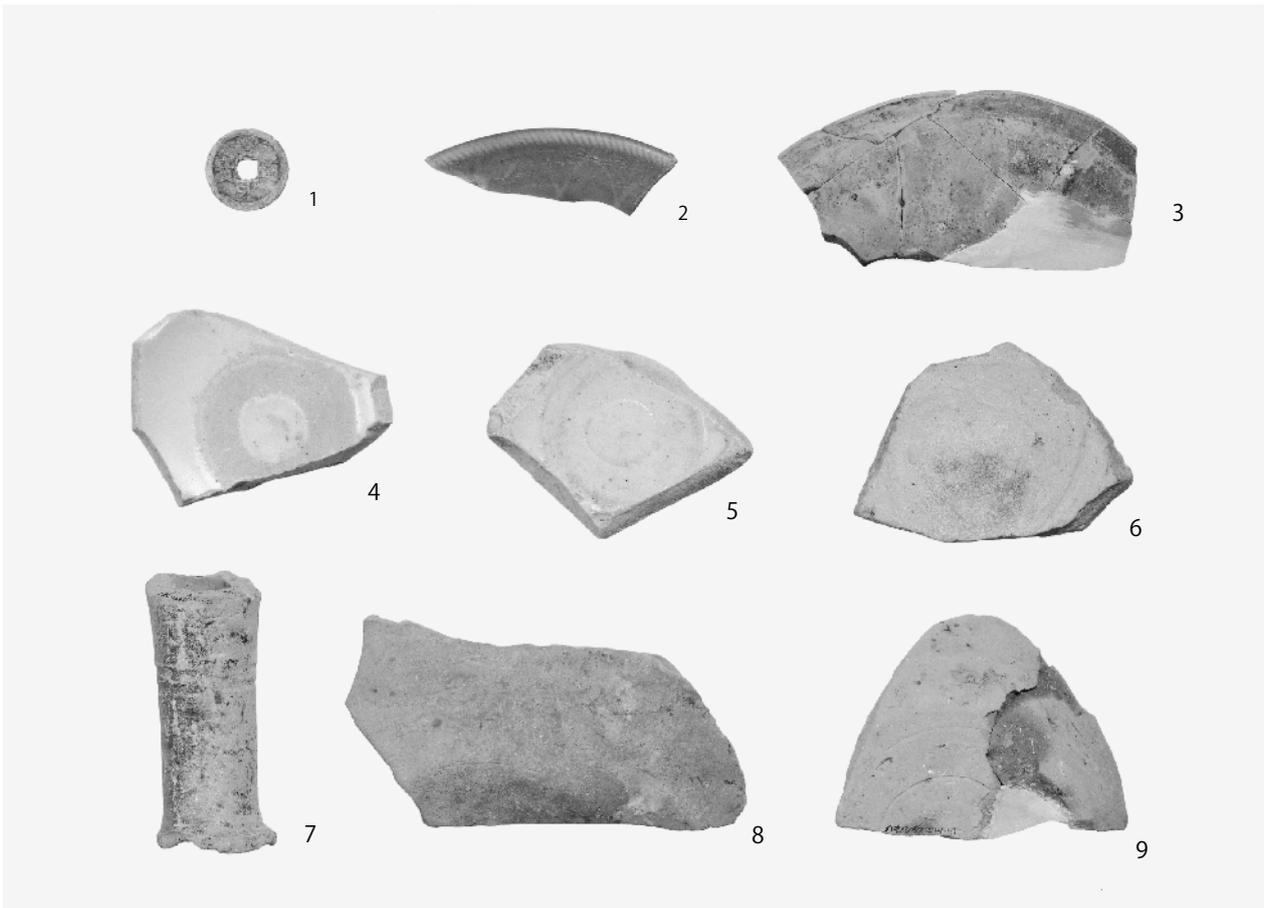
3. 11-1-4区 第2遺構面足跡検出状況（西から）



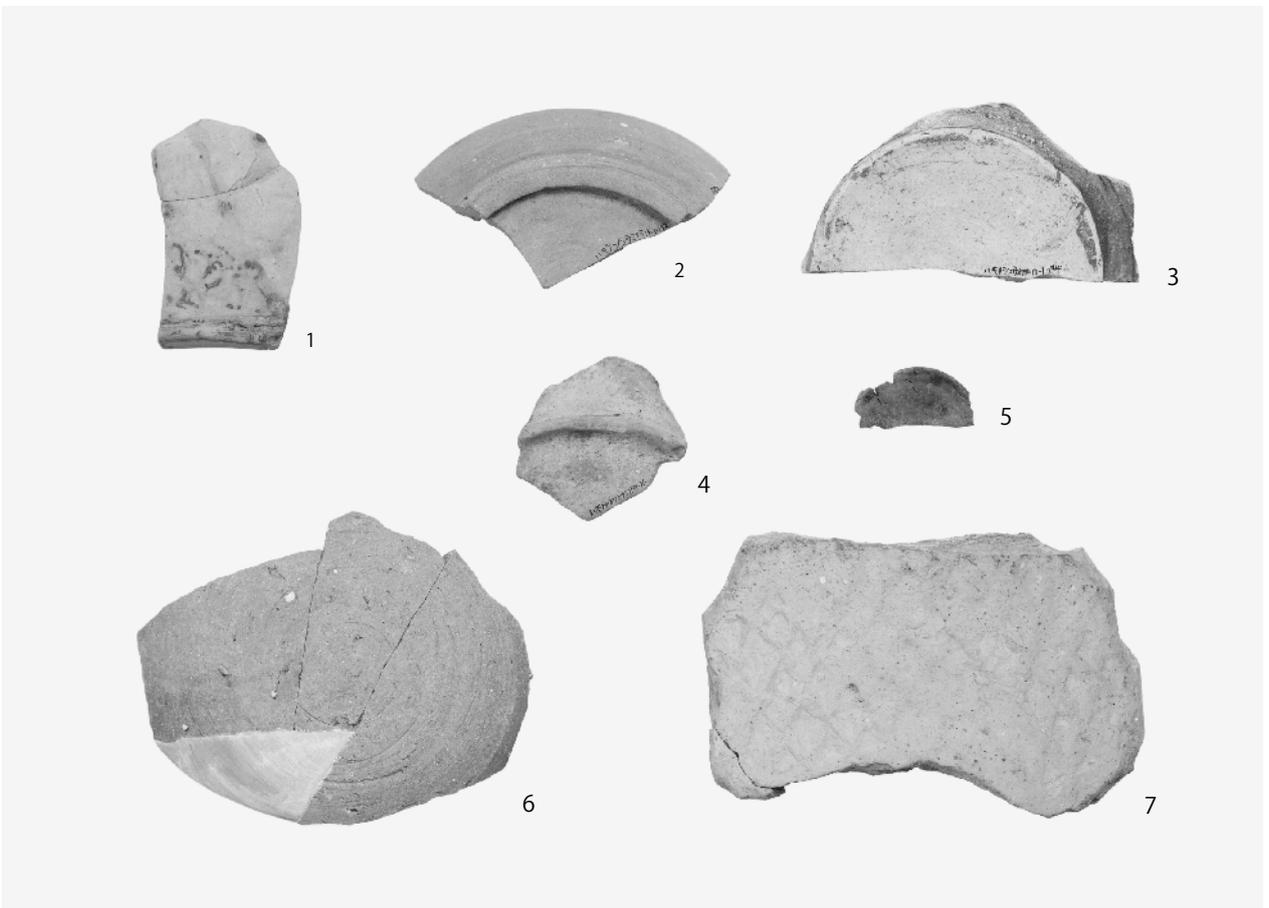
4. 11-1-4区 第3遺構面全景（北西から）



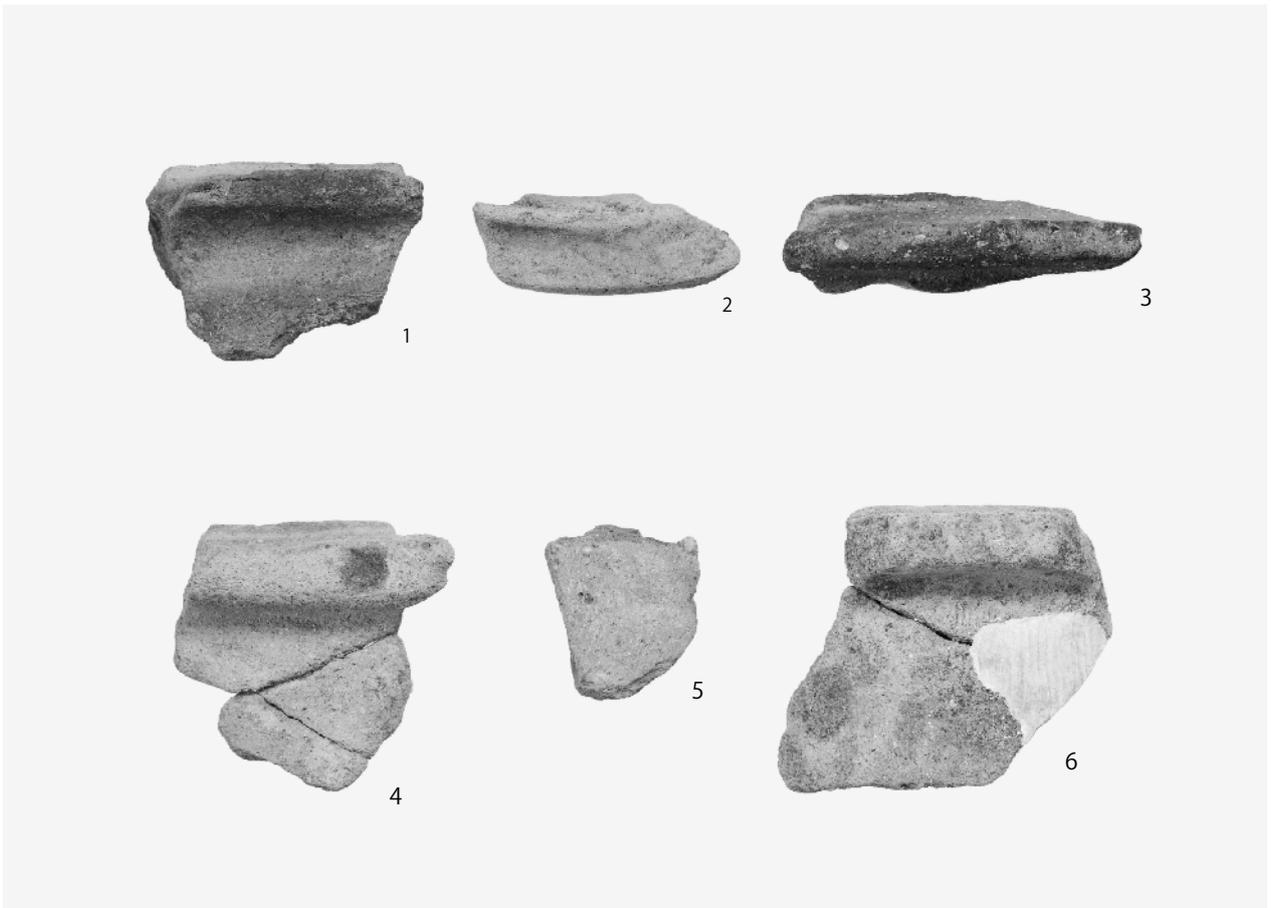
5. 11-1-4区 第4遺構面全景（北東から）



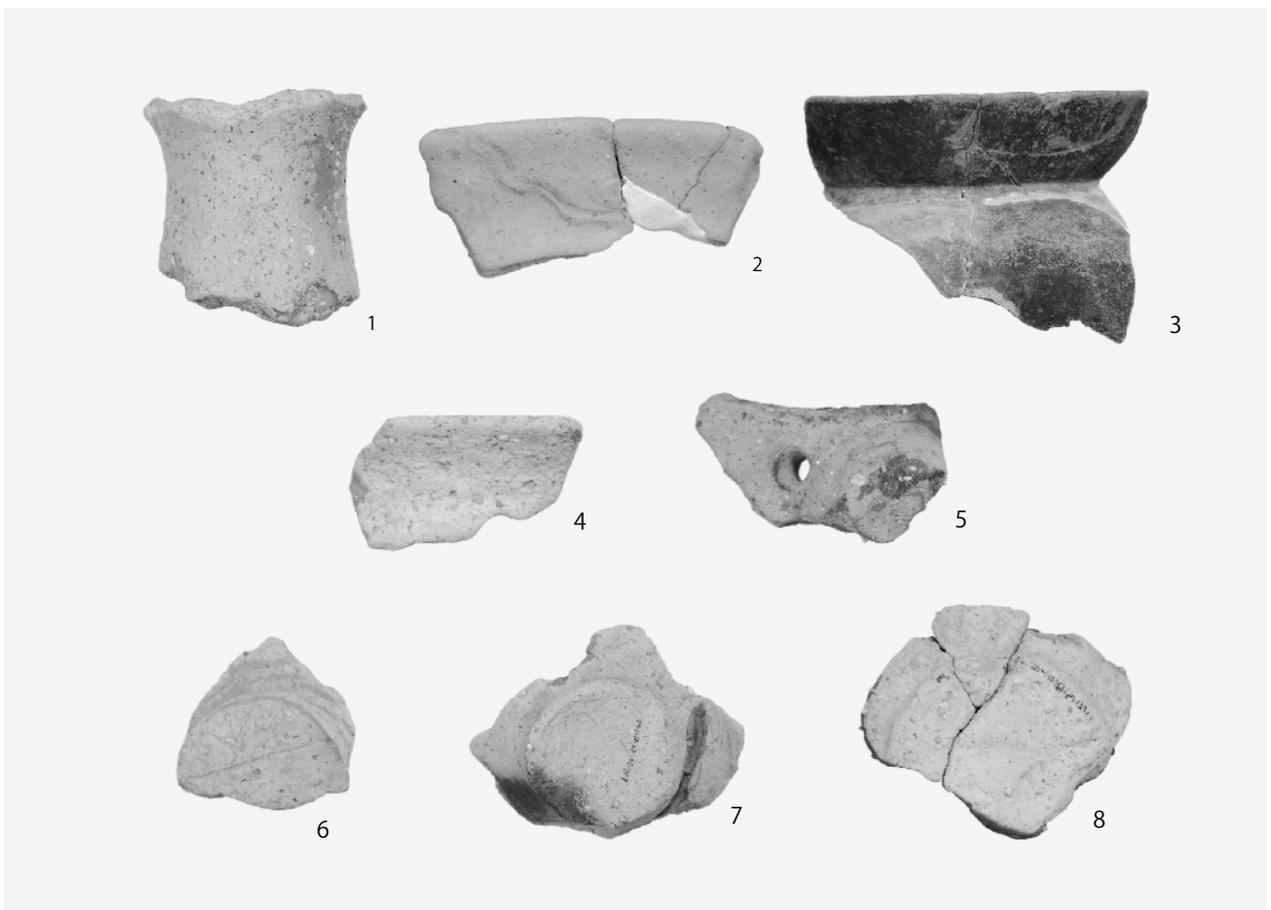
1. 11-1-1区 第1層・第2層出土



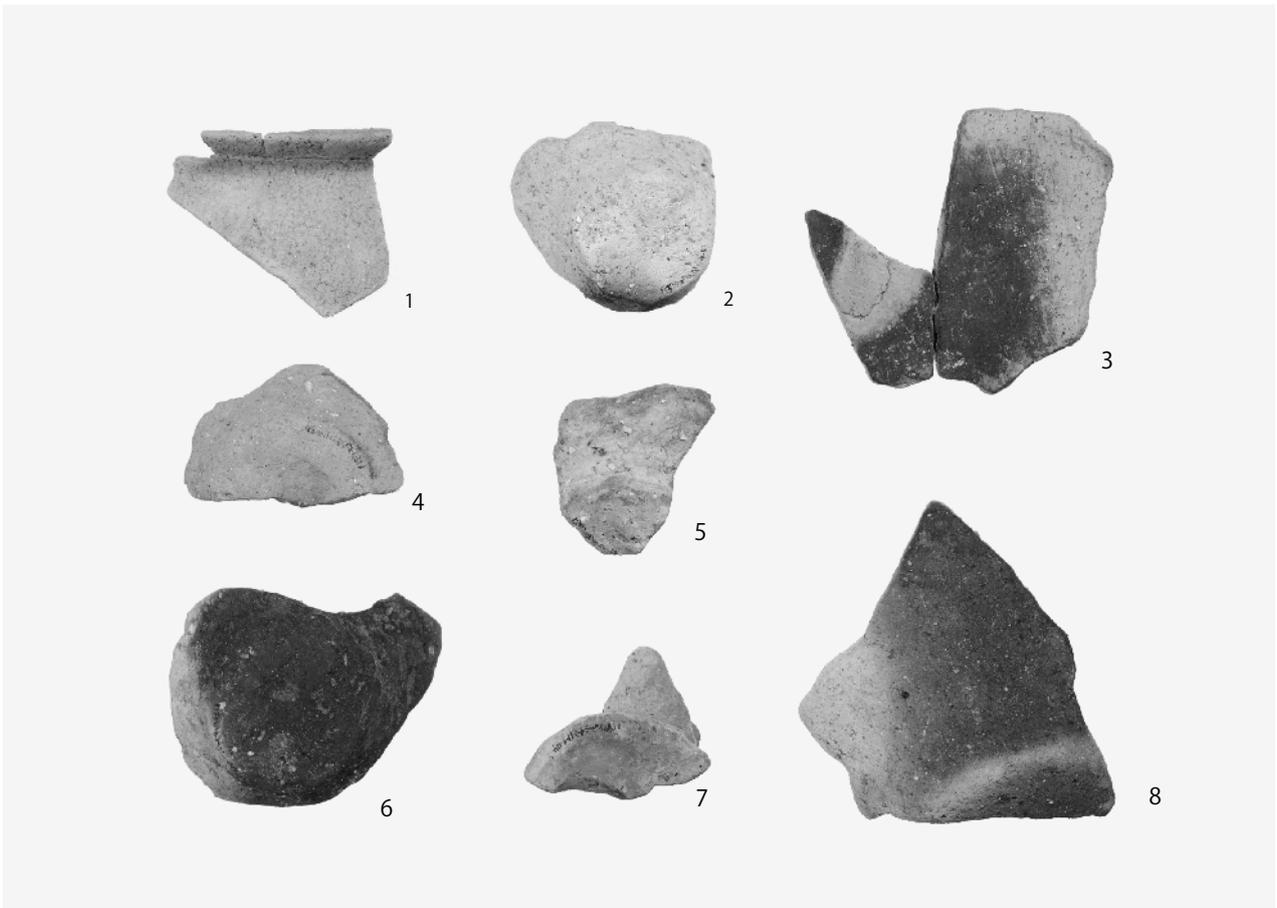
2. 11-1-1区 第3層出土



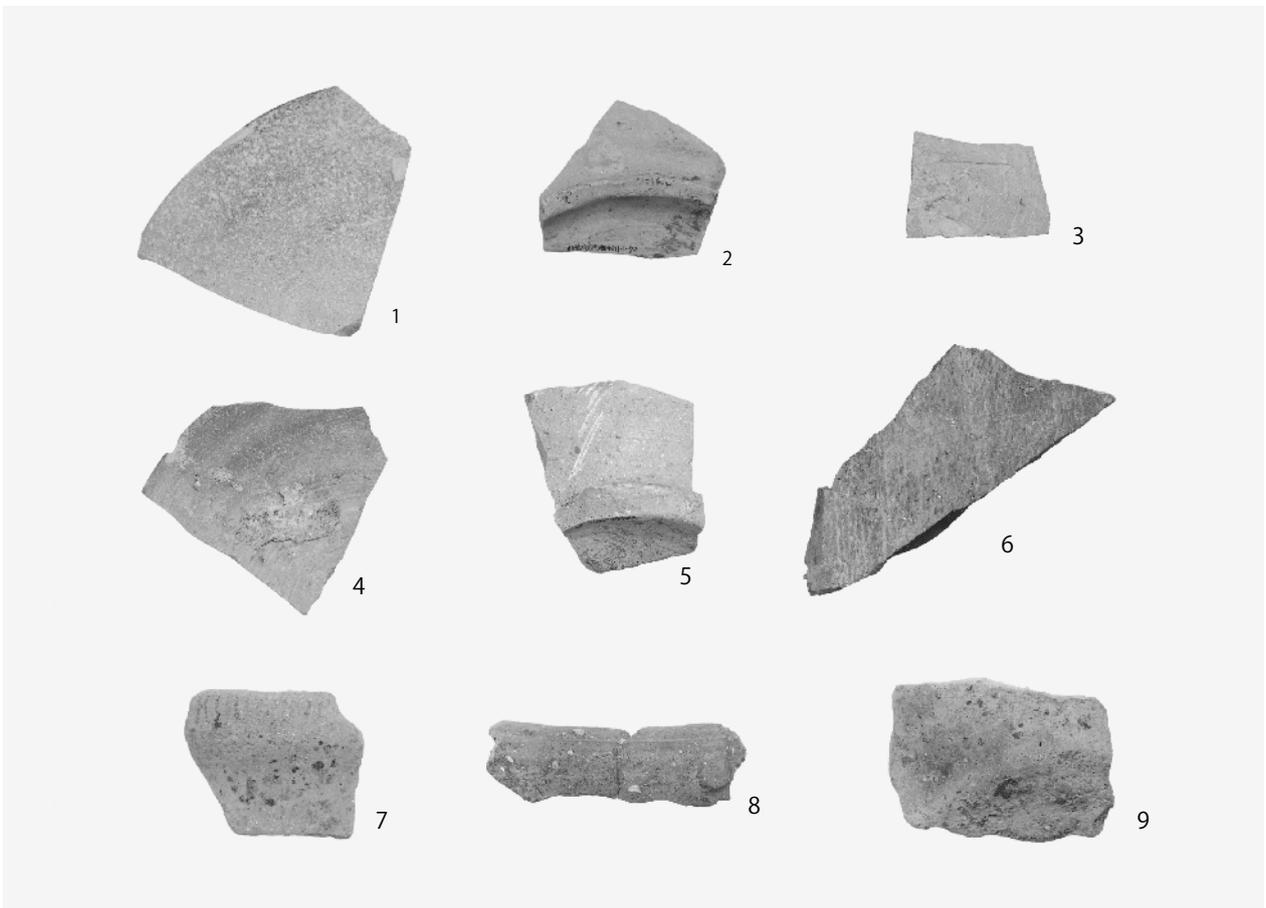
1. 11-1-1区 第3層出土



2. 11-1-1区 第4-1層・第4-2層出土



1. 11-1-1区 第6遺構面遺構内出土



2. 11-1-2区 第1層~第4層出土



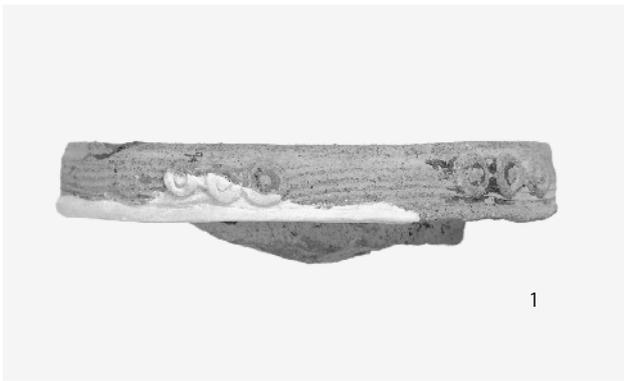
1. 11-1-2-2区 第2遺構面 222 土坑出土



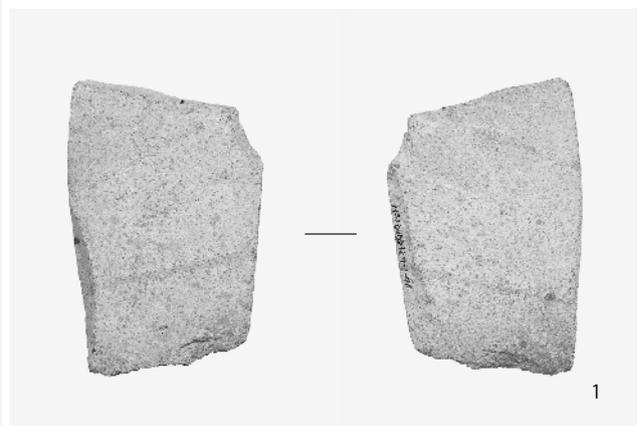
2. 11-1-2-1区 第2遺構面 202 溝・203 溝出土



3. 11-1-2-1区 第2遺構面 204 溝出土

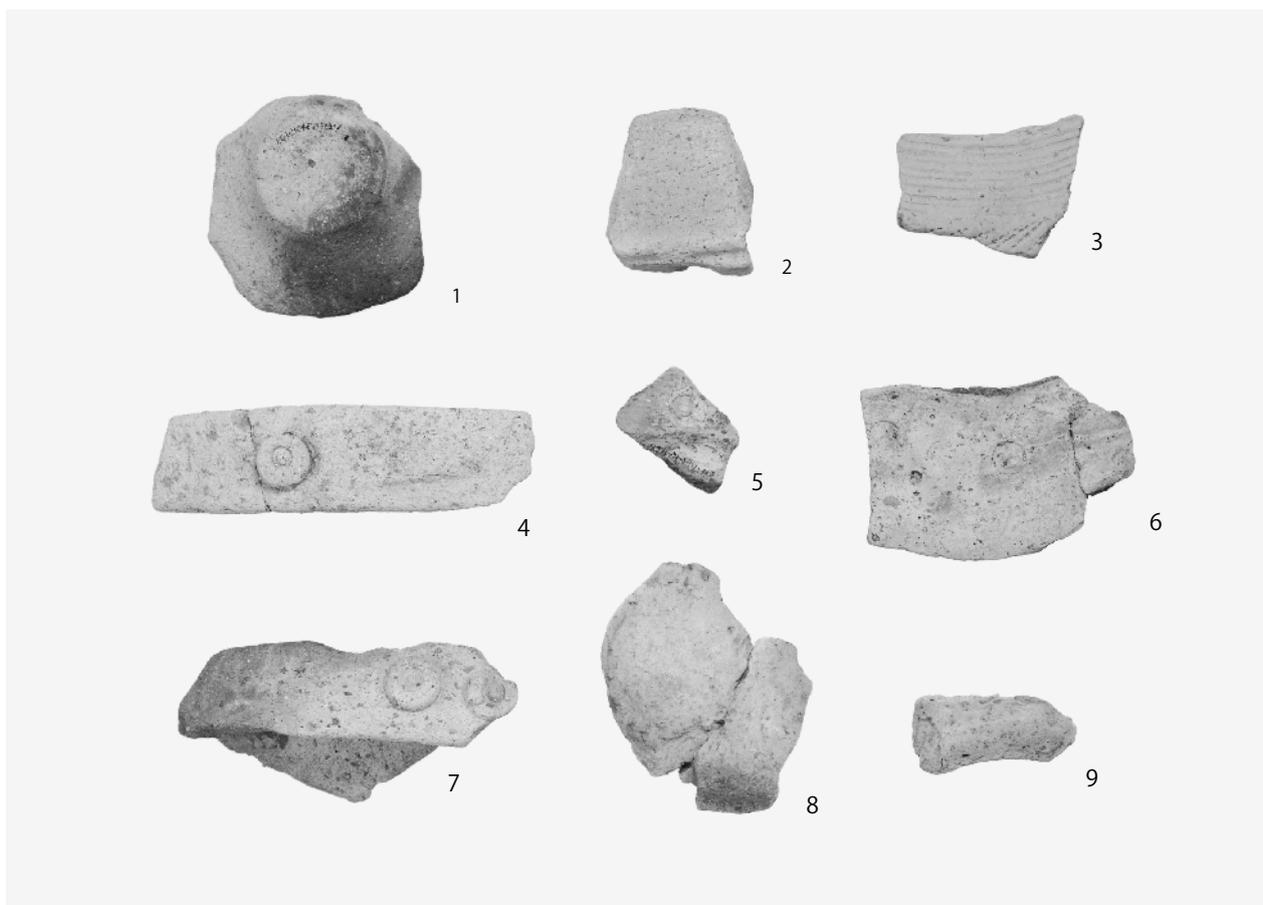


2. 11-1-2-1区 第2遺構面206溝出土

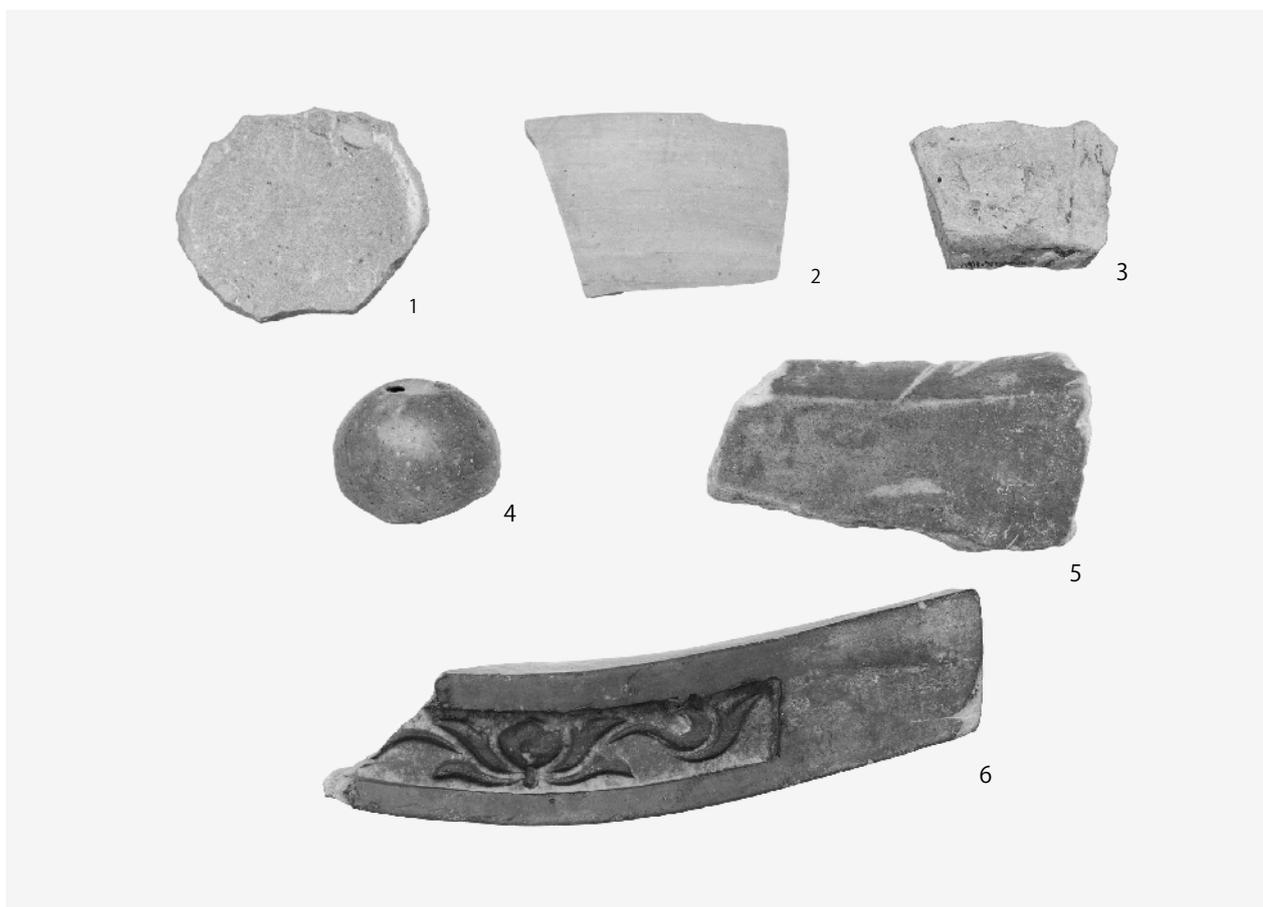


1. 11-1-2-1区 第2遺構面206溝出土

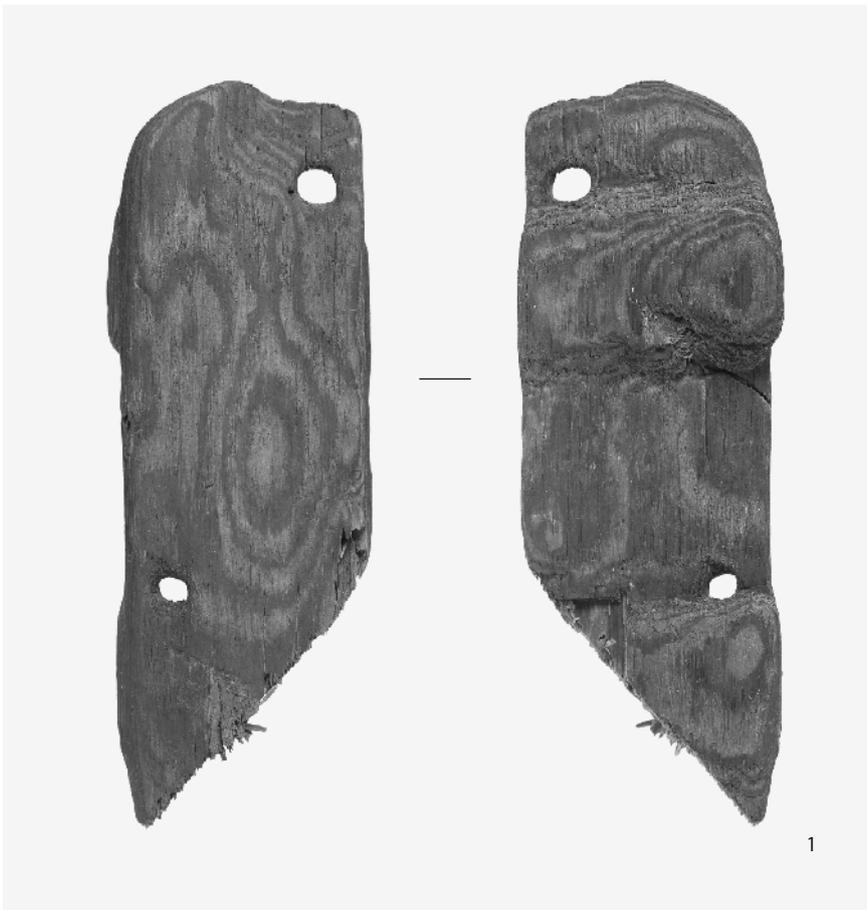
3. 11-1-1-1区 第4層出土



1. 11-1-2-1区 第2遺構面遺構内出土



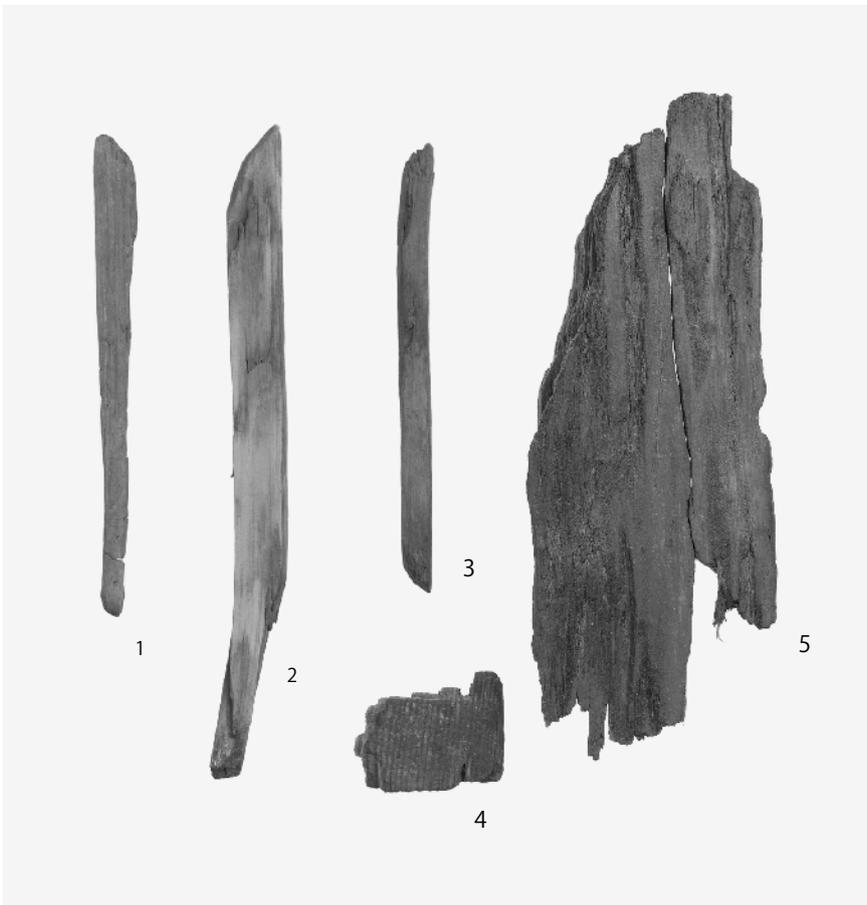
2. 11-1-3区 第1層・第2層出土



1. 11-1-1-2区 第4-1層出土



3. 11-1-1-2区  
第4-2層出土



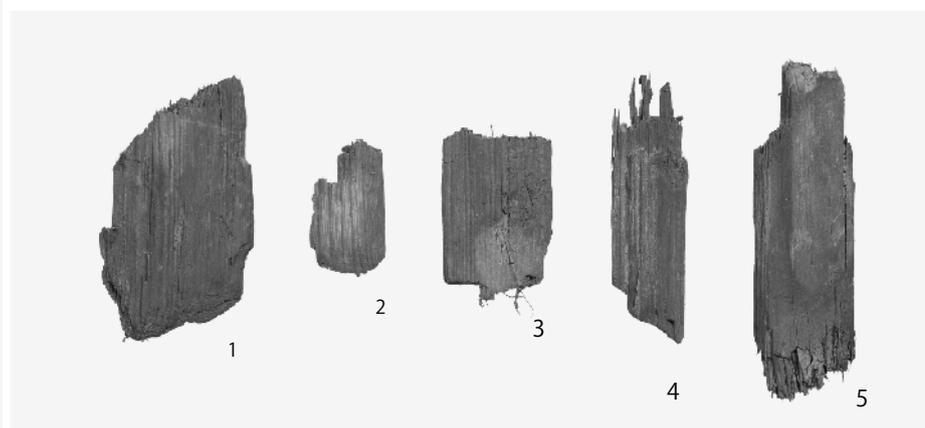
2. 11-1-1区 第4-1層・11-1-3区 第2層・  
11-1-3区 第1遺構面～第4遺構面遺構内出土



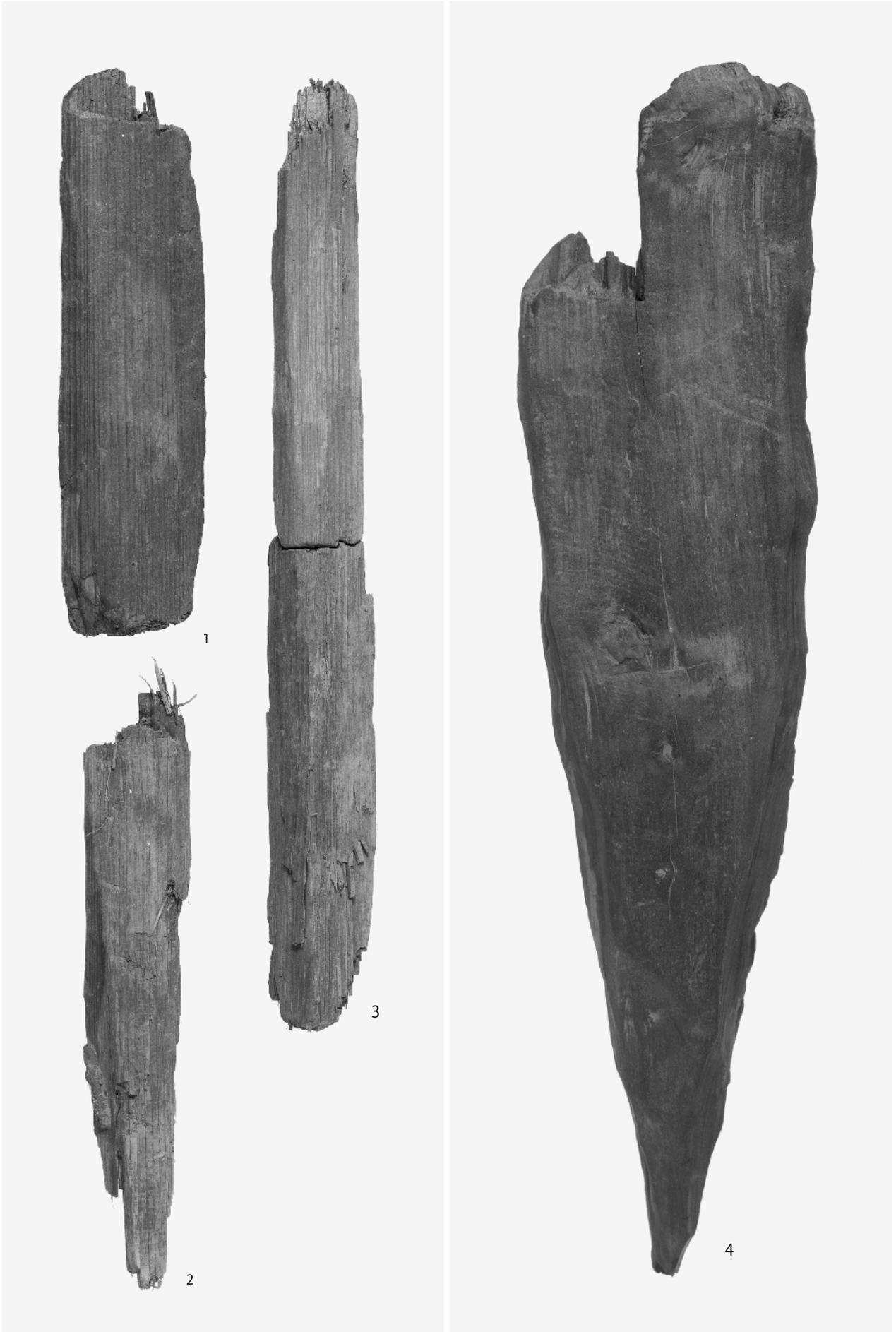
1. 11-1-1-2区  
第4-2層出土



2. 11-1-1-1区 第4遺構面 104 土坑出土



3. 11-1-2-1区 第2遺構面 203 溝出土



1. 11-1-2-1区 第4遺構面203溝出土

# 報告書抄録

ふりがな	はぎのしょうみなみいせき						
書名	萩之庄南遺跡						
副書名	主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工食用進入路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次数							
シリーズ名	公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第 237 集						
編著者名	黒須亜希子						
編集機関	公益財団法人 大阪府文化財センター						
所在地	〒 590 - 0105 大阪府堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号 TEL / 072 - 299 - 8791						
発行年月日	2013 年 3 月 25 日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		緯度・経度	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号				
はぎのしょうみなみいせき 萩之庄南遺跡	おおさかふたかつきし 大阪府高槻市 はぎのしょう2ちようめ 萩之庄 2 丁目 地内	27207	141	北緯 34° 51' 37" 東経 135° 38' 35"	20120105 ～ 20120629	2,688	主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工食用進入路工事に伴う
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
萩之庄南遺跡	集落 生産 墓域	弥生時代後期～ 古墳時代初頭 古代 中世	竪穴建物・掘立柱建物・ 柱穴・井戸・土坑・ 溝・流路・周溝墓・水田・ 落ち込み・杭列	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・ 陶磁器・瓦 木製品（板状・棒状・曲物底板・下駄・付木）・ 石製品（砥石・石斧）・サヌカイト剥片・ 鉄鏃・銭貨 種子		須恵器の一部に墨痕あり	
要約	<p>弥生時代後期～古墳時代初頭遺構面では、集落跡を検出した。集落内には、掘立柱建物と竪穴建物をもつ居住域、大溝、周溝（墓？）が設けられている。溝の中からは、木の葉形を呈する鉄鏃が出土した。</p> <p>古墳時代後期遺構面では、水田跡を検出した。</p> <p>古代遺構面では、檜尾川の支流と見られる河川の流れ込みを確認した。</p> <p>古代末期～中世初頭の遺構面では、井戸や水田跡を検出した。</p>						

(公財) 大阪府文化財センター調査報告書 第237集

## 萩之庄南遺跡

主要地方道伏見柳谷高槻線（高槻東道路 梶原工区）工事用進入路工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日／2013年3月25日

編集・発行／公益財団法人 大阪府文化財センター

大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号

印刷・製本／株式会社 近畿印刷センター

大阪府八尾市志紀町南2丁目131番地



